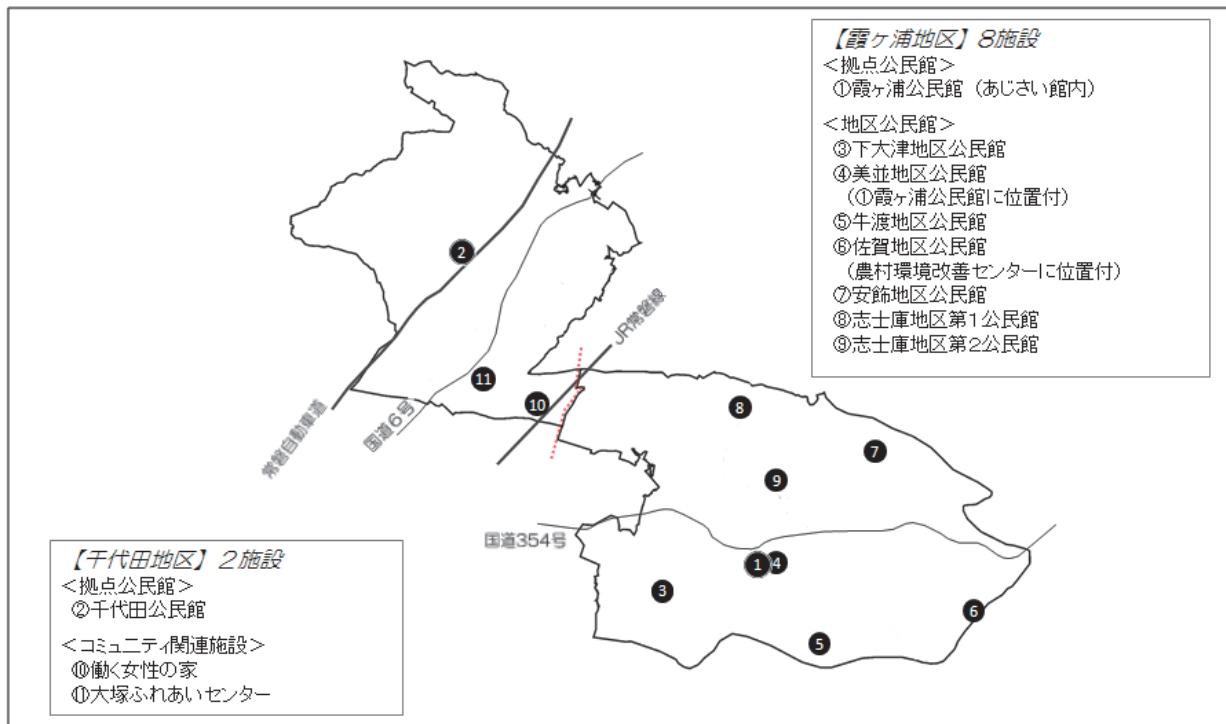


第2章 施設分類別にみた公共施設の現状と課題

第2章 施設分類別にした公共施設の現状と課題

1. 市民文化・社会教育施設

1-1. 公民館



(1) 施設状況

- 公民館2施設、地区公民館5施設、働く女性の家、大塚ふれあいセンターの計11施設があり、総延床面積は7,586㎡ある。
- 千代田公民館が最も広く、志士庫地区第2公民館が最も小規模な施設である。
- 霞ヶ浦公民館、千代田公民館、美並地区公民館、佐賀地区公民館、働く女性の家及び大塚ふれあいセンターは複合施設として整備されている。
- 建物は全て市有であるが、土地は千代田公民館が一部所有、志士庫地区第2公民館は借上げである。

施設名	所在地	開設年	延床面積	敷地面積	所有面積	複合施設区分	建物保有状況	土地保有状況	駐車可能台数
霞ヶ浦公民館	深谷3719番地1	H10	1,471.00			複合	所有		0
千代田公民館	上佐谷991番地5	S53	2,579.39	13,849.52	1,921.52	複合	所有	一部借上	200
下大津地区公民館	加茂4472番地	S54	347.79	2,813.96	2,813.96	単独	所有	所有	30
美並地区公民館	深谷3719番地1	S42	0.00			複合	所有		0
牛渡地区公民館	牛渡2862番地3	S57	527.46	4,464.84	4,464.84	単独	所有	所有	70
佐賀地区公民館	坂934番地1	S59	0.00			複合	所有		0
安飾地区公民館	安食1075番地1	S57	506.12	3,276.59	3,276.59	単独	所有	所有	50
志士庫地区第1公民館	穴倉3622番地4	S58	508.37	3,022.59	3,022.59	単独	所有	所有	30
志士庫地区第2公民館	西成井85番地	S49	255.06	1,269.00	0.00	併設	所有	借上	30
働く女性の家	稲吉三丁目15番67号	S62	1,091.87	3,179.00	3,179.00	複合	所有	所有	48
大塚ふれあいセンター	下稲吉1868番地22（1階）	H8	298.58	0.00	0.00	複合	所有	所有	0
合計			7,585.64	31,875.50	18,678.50				458

※複合施設の土地状況、駐車可能台数については、主たる用途の施設一覧に記載。

【凡例】

複合施設区分

- 単独：単一の建物内に単一の施設のみが存在
- 複合：同一の建物内に複数の施設が同居
- 併設：同一の敷地に複数の施設が複数の建物に分かれて存在

※千代田公民館の取扱いについて

東日本大震災により被災を受けた千代田庁舎（本館）の耐震補強工事に伴い、千代田庁舎本館部分が千代田公民館講堂へ移転。平成 24 年度中の『千代田公民館管理事業』には、千代田公民館講堂での仮庁舎に係る施設経費も含まれており、通常時のコスト状況でないことから、千代田公民館（本館・講堂）の歳出については、庁舎移転前の平成 23 年度分決算のコスト状況で分析する。

○仮移転期間：平成 24 年 3 月 26 日～平成 25 年 8 月 19 日

（平成 25 年 8 月 19 日より千代田庁舎での業務を再開）

千代田庁舎耐震補強工事：平成 25 年 8 月竣工

(2) 建物状況

①建物状況

- 志士庫地区第 2 公民館が最も古く築年数は 109 年であり、最も新しいのは霞ヶ浦公民館（美並地区公民館）で築 15 年である。築 30 年を迎える施設が多く、老朽化への対応が求められる。
- 構造は下大津地区・志士庫地区第 1・志士庫地区第 2 公民館が木造、その他は鉄筋コンクリート造（以下、RC造）である。
- 多くの施設が新耐震基準により整備されているが（「-」で表記）、下大津地区・志士庫地区第 2 公民館は、旧耐震であるにもかかわらず耐震診断が未実施であり、築年数から老朽化・耐震化への対応が必要と考えられる。
- 機能改善（バリアフリー）は霞ヶ浦公民館（美並地区公民館）、千代田公民館、働く女性の家、大塚ふれあいセンターでは対応されているが、他の施設では未実施である。
- 環境対応については、全施設において未実施の状況である。

施設名	建物状況			耐震性		機能改善	機能改善(バリアフリー)					環境負荷低減		
	建築年	築年数	構造	耐震診断	耐震補強	機能改善 (アスベスト対策)	車いす用 エレベーター	身障者用 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	自然採光 ・太陽	環境対応 設備
霞ヶ浦公民館	H10	15	RC造	-	-	●	-	●	●	●	●	×	×	×
千代田公民館	S53	35	RC造	実施済	不要	●	×	●	●	●	×	×	×	×
下大津地区公民館	S53	35	W造	未実施	未実施	●	-	×	×	×	×	×	×	×
美並地区公民館	H10	15	RC造	-	-	●	-	●	●	●	●	×	×	×
牛渡地区公民館	S61	27	RC造	-	-	●	-	×	×	×	×	×	×	×
佐賀地区公民館	S59	29	RC造	-	-	●	×	×	×	×	×	×	×	×
安飾地区公民館	S60	28	RC造	-	-	●	-	×	×	×	×	×	×	×
志士庫地区第1公民館	S58	30	W造	-	-	●	-	×	×	×	×	×	×	×
志士庫地区第2公民館	M37	109	W造	未実施	未実施	●	-	×	×	×	×	×	×	×
働く女性の家	S62	26	RC造	-	-	●	×	●	●	●	●	×	×	×
大塚ふれあいセンター	H8	17	RC造	-	-	●	-	●	-	-	-	-	×	×

【凡例】

○耐震診断

- : 新耐震基準であるため耐震診断が対象外の建物
- 不要: 旧耐震基準であるが新耐震基準で建てられているため、耐震診断が不要の建物
- 実施済: 旧耐震基準であり耐震診断が実施済みの建物
- 未実施: 旧耐震基準であり耐震診断が未実施の建物
- 対象外: 文化財等のため、耐震化計画の対象から外れる建物

○耐震補強

- : 新耐震基準であるため耐震補強が対象外の建物
- 不要: 旧耐震基準であるが耐震補強が不要の建物
- 実施済: 耐震補強が実施済みの建物
- 未実施: 耐震診断が未実施又は耐震補強が必要であるが未実施の建物

○機能改善(アスベスト対策)

- : アスベスト無し又は対策済(封じ込め対策を含む。)
- ▲: アスベスト除去又は封じ込めの対策中
- ×
- ×: アスベスト対策が未対応

○機能改善(バリアフリー)

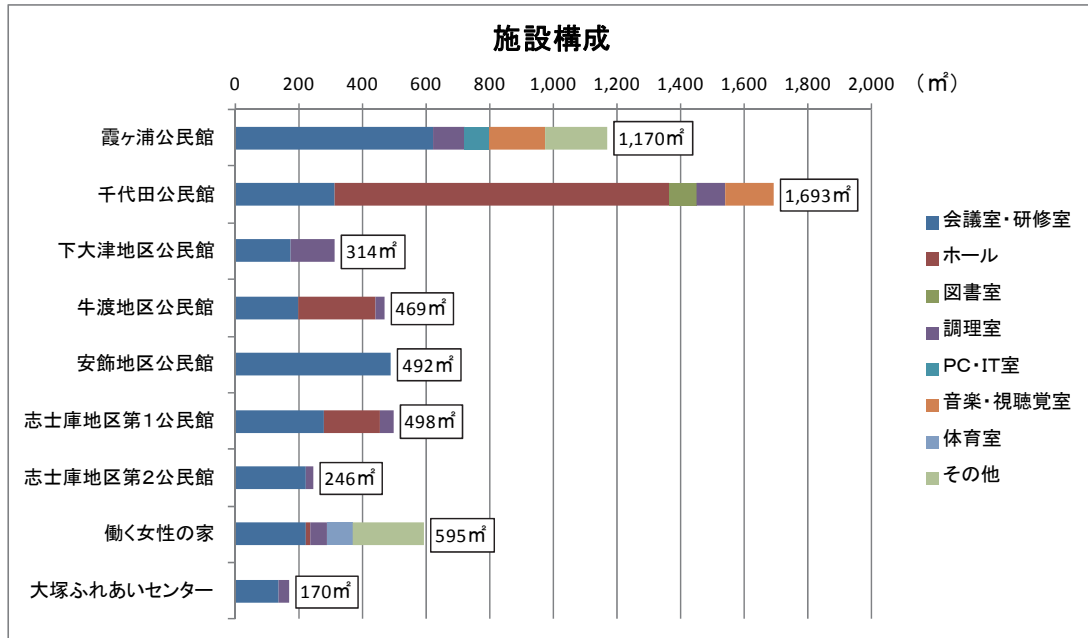
- : バリアフリー対策済
- : 対策不要
- ×
- ×: 対策が必要であるが、未対応

○環境負荷低減

- : 導入済の場合
- ▲: 対策中の場合
- ×
- ×: 未導入の場合

②施設構成

- 大分部の施設で会議室・研修室が最も大きい面積を占めているが、千代田公民館は講堂(ホール)の割合が大きい。
- 諸室の種類では、霞ヶ浦公民館・千代田公民館が最も多く設置している。働く女性の家では軽運動室・トレーニング室(その他)を有している。

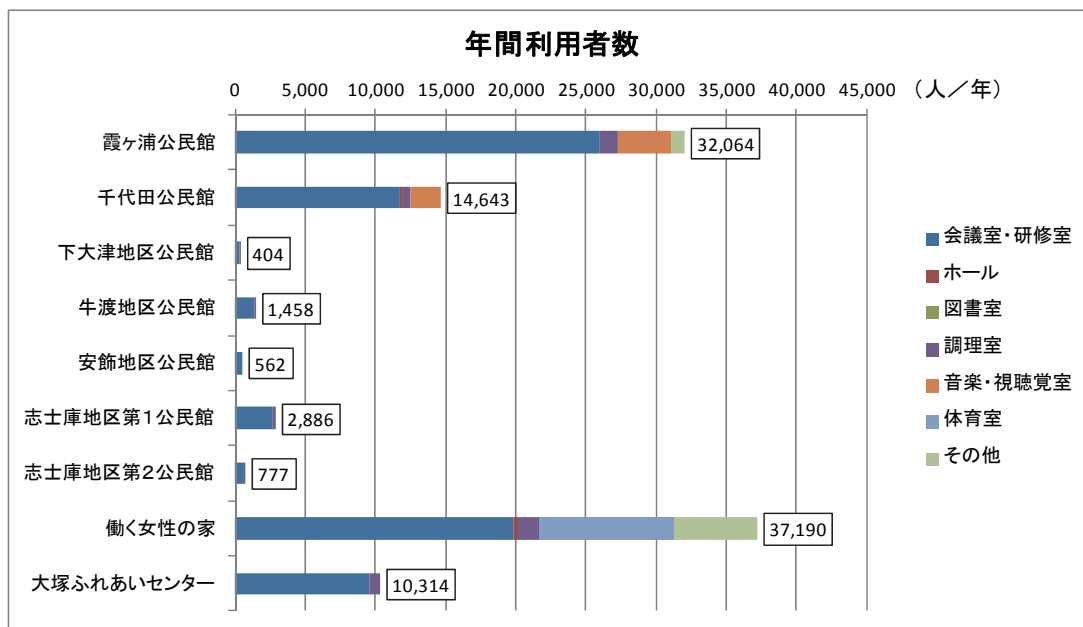


※美並地区公民館は、あじさい館内(霞ヶ浦公民館)にあるため、以下のデータは『霞ヶ浦公民館』に含んでいる。
 ※佐賀地区公民館は、農村環境改善センター内にあるため、以下のデータは『農村環境改善センター』観光施設に含んでいる。

(3) 利用状況

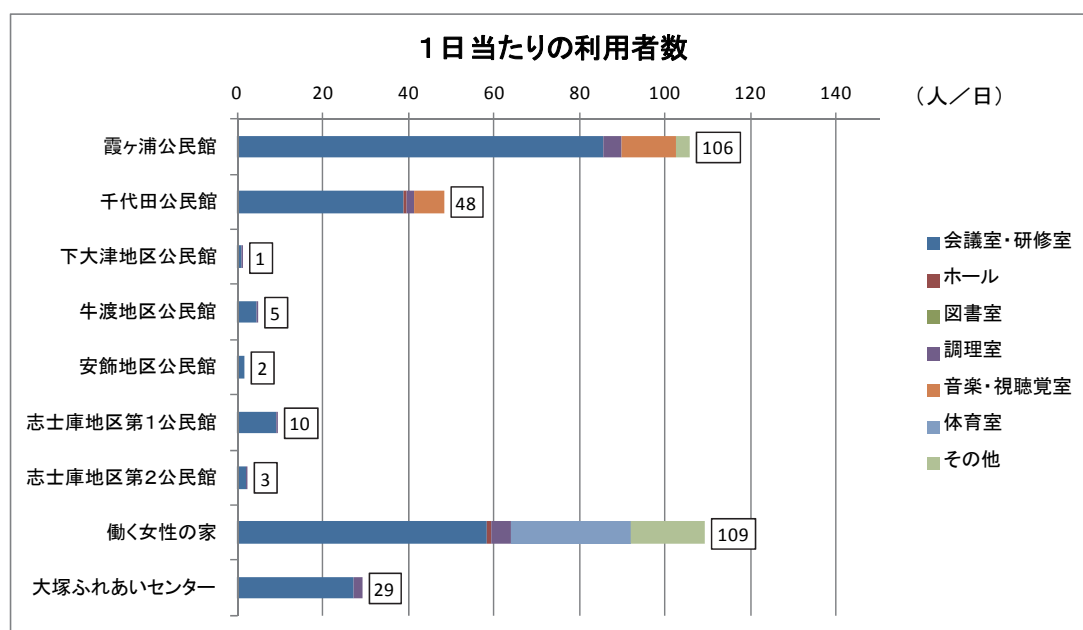
①年間利用者数

- 働く女性の家の利用が最も多く年間 37,190 人であり、次いで霞ヶ浦公民館 32,064 人となっている。最も利用が少ないのは、下大津地区公民館で年間 404 人である。
- 千代田公民館のホール（講堂）は規模は大きいですが、平成 24 年度は千代田庁舎の仮庁舎となっていたため、一般利用はされていない。



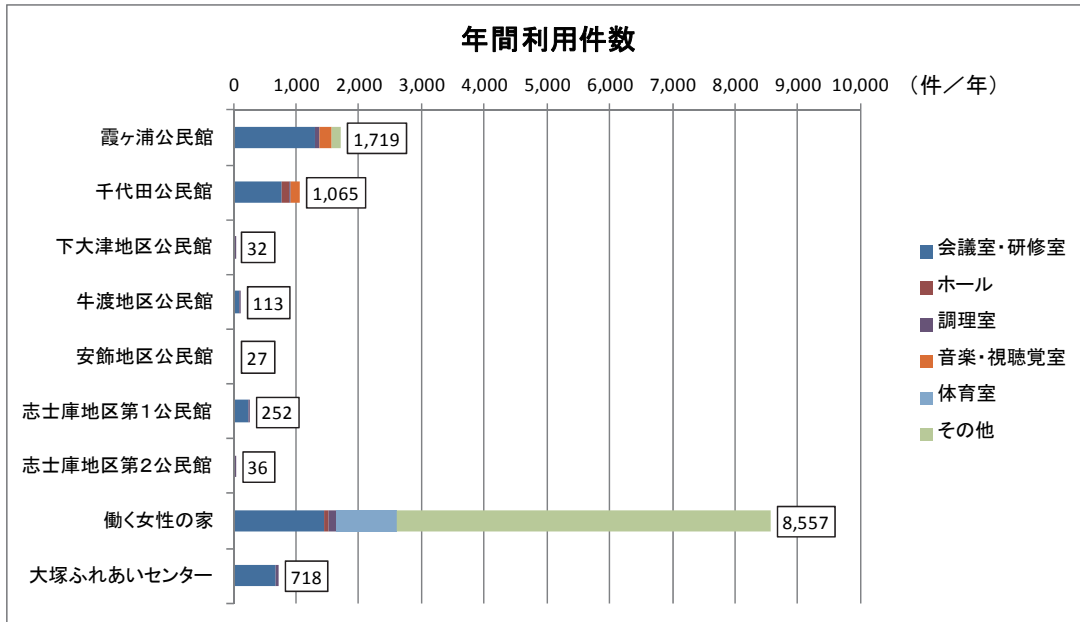
②1日当たりの利用者数

- 働く女性の家、霞ヶ浦公民館は、1日当たり約 100 名の利用があるが、地区公民館では1日当たりの利用は1桁の施設が多い。



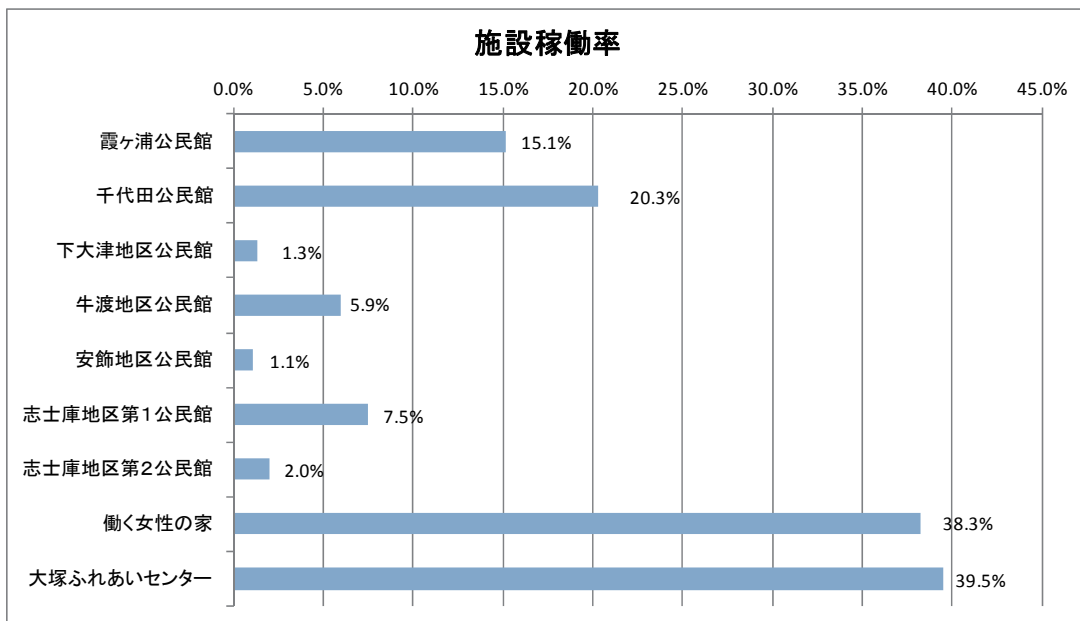
③年間利用件数

- 働く女性の家（トレーニング室）の利用が多く、全体で8,557件と最も多くなっており、次いで霞ヶ浦公民館が1,719件である。
- 地区公民館では、志士庫地区第1公民館が最も多く252件、次いで牛渡地区公民館が113件、その他は約30件程度である。



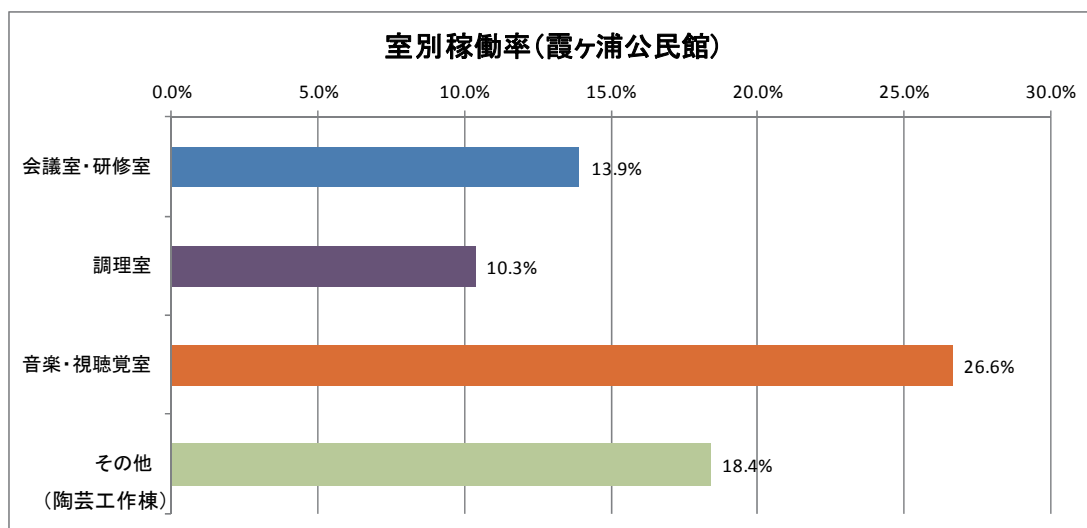
④施設稼働率

- 最も稼働率が高いのは、大塚ふれあいセンターの39.5%であり、次いで働く女性の家が38.3%である。
- いずれも地区公民館は10%未満である。



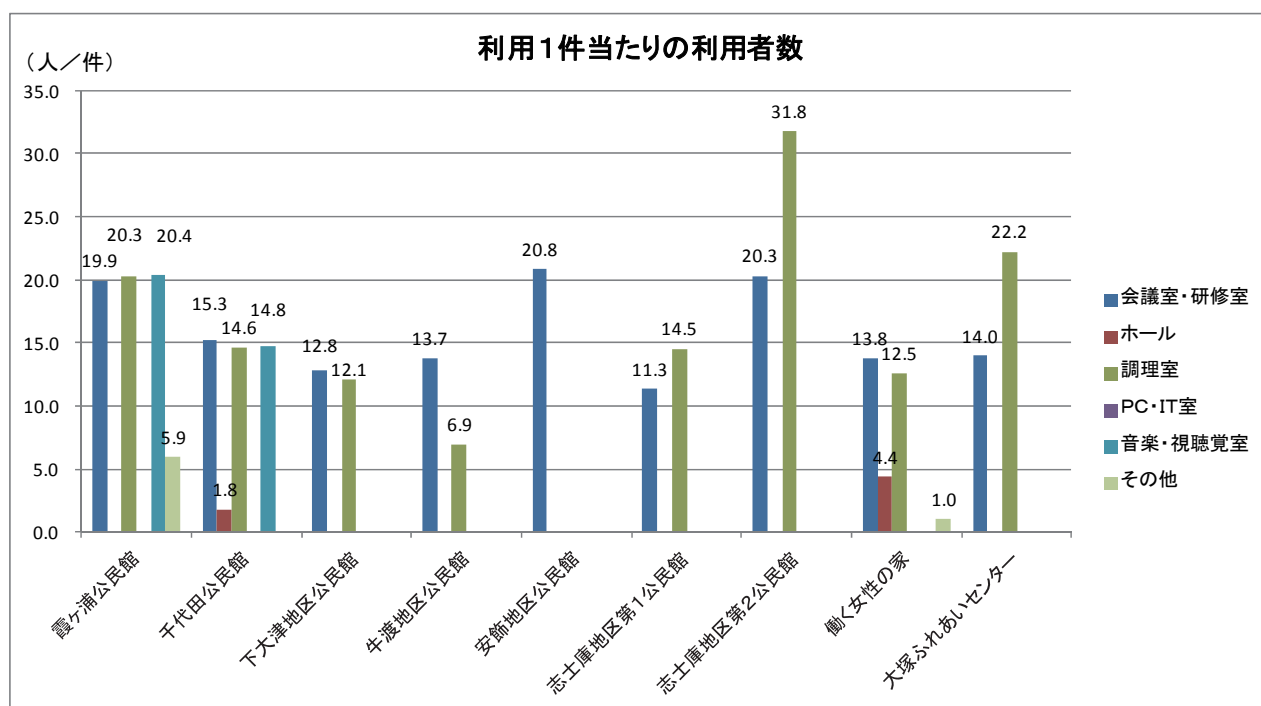
⑤室別稼働率（霞ヶ浦公民館）

- 一定数の利用が確認された霞ヶ浦公民館において室別の稼働率を分析したところ、音楽・視聴覚室の稼働率が最も高く 26.6%である。
- 次いで陶芸工作棟の利用が多く、稼働率は 18.4%である。
- 最も稼働率が低いのは、調理室の 10.3%である。



⑥利用 1 件当たりの利用者数

- 1 件当たりの利用者数が最も多かったのは、志士庫地区第 2 公民館の調理室で 31.8 人／件である。
- 霞ヶ浦公民館は、その他（陶芸工作棟）を除き、1 件当たり約 20 人と比較的多い人数で利用されている。



(4) 運営状況

①運営状況

- 公民館の運営は全館で統一されており、運営方法は直営、月曜定休、開館時間は9:00~22:00である。
- 働く女性の家も直営で開館時間も公民館同様であるが、定休日はない。
- 大塚ふれあいセンターも直営であるが、開館時間は8:30~22:00であり、定休日はない。

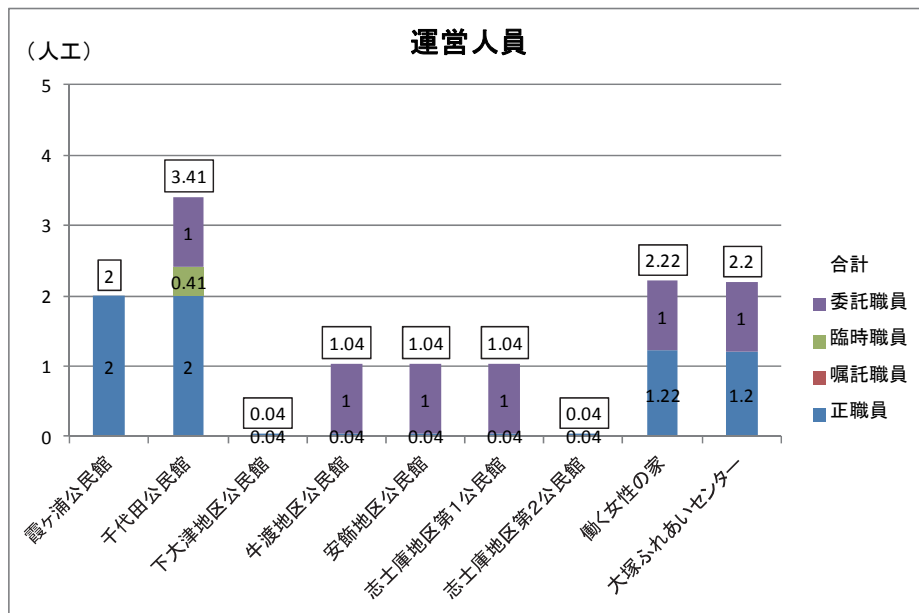
施設名	運営方法	年間運営日数	定休日	開始時間	終了時間
			月曜日		
霞ヶ浦公民館	直営	303日	●	9:00	22:00
千代田公民館	直営	303日	●	9:00	22:00
下大津地区公民館	直営	303日	●	9:00	22:00
牛渡地区公民館	直営	303日	●	9:00	22:00
安飾地区公民館	直営	303日	●	9:00	22:00
志土庫地区第1公民館	直営	303日	●	9:00	22:00
志土庫地区第2公民館	直営	303日	●	9:00	22:00
働く女性の家	直営	340日		9:00	22:00
大塚ふれあいセンター	直営	353日		8:30	22:00

【凡例】
○定休日
●:毎週定休
▲:隔週で定休
■:その他

※年末年始・祝日等の休館日は除く。
※開館時間等は曜日によって異なる施設もあり、表中の記載は最も開館時間が長い日の時間である。
(以降の全施設で共通)

②運営人員

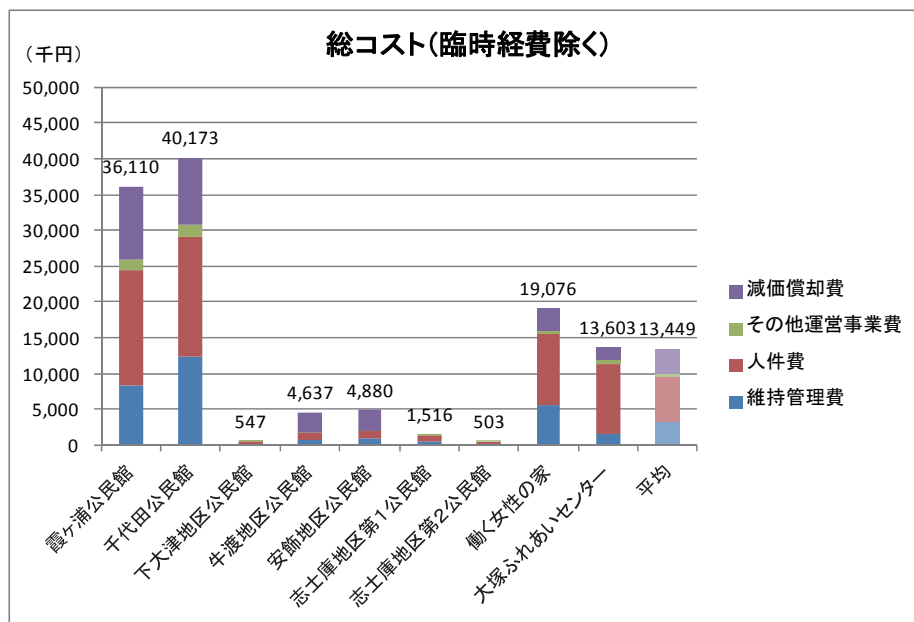
- 運営人員は千代田公民館が最も多く3.41人工である。
- 次いで多いのは、働く女性の家であり、2.22人工である。



(5) コスト状況

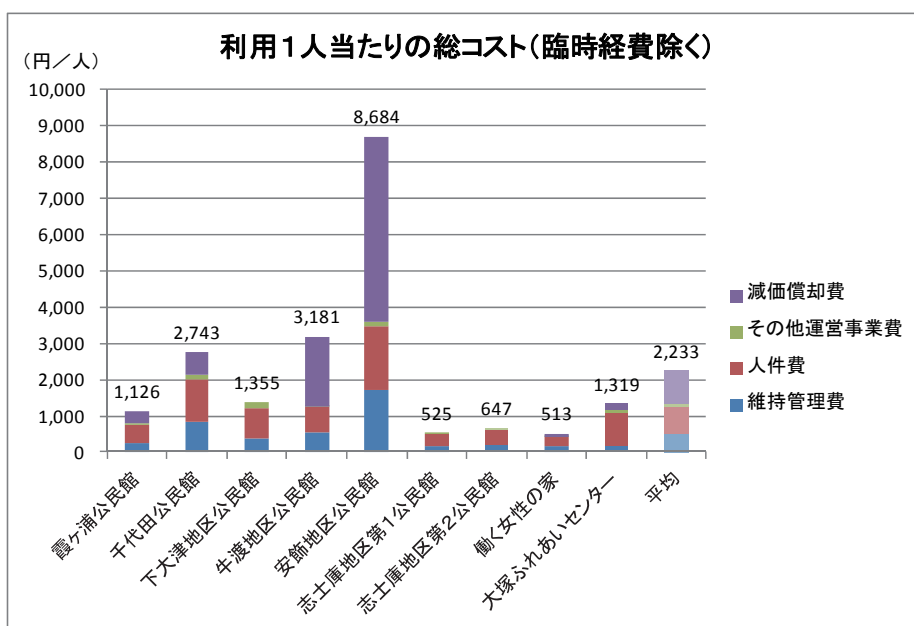
①総コスト（臨時経費除く）

- 公民館全体の総コストは 121 百万円である。
- 公民館の平均総コストは、13,449 千円で、人件費の割合が大きい
- 千代田公民館が最もコストが高く 40,173 千円であり、最も低いのは志士庫地区第 2 公民館で、503 千円である。



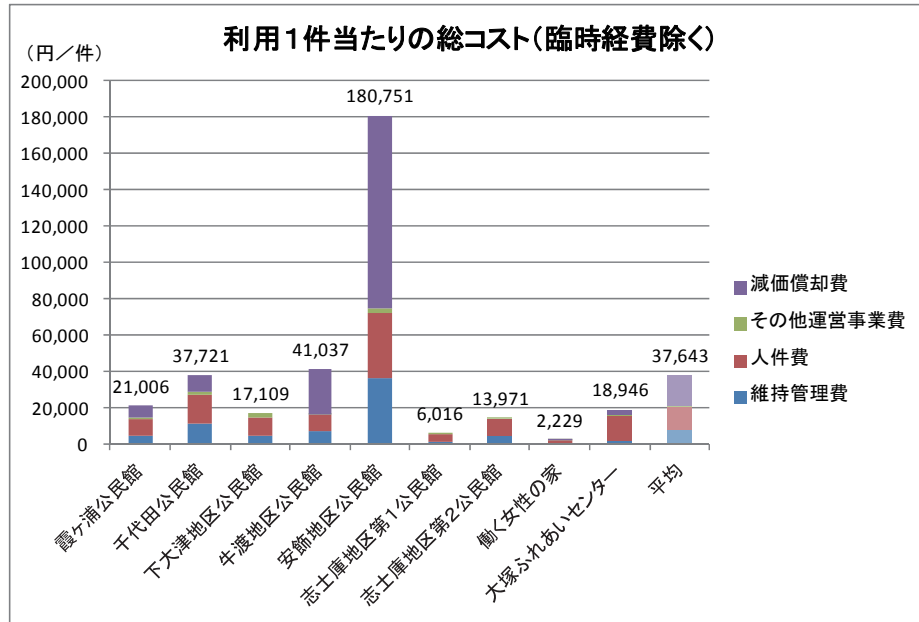
②利用 1 人当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 利用 1 人当たりの総コスト平均額は 2.2 千円／人である。
- 最もコストが高いのは安飾地区公民館の 8.7 千円／人であり、最も低いのは働く女性の家の 0.5 千円／人である。



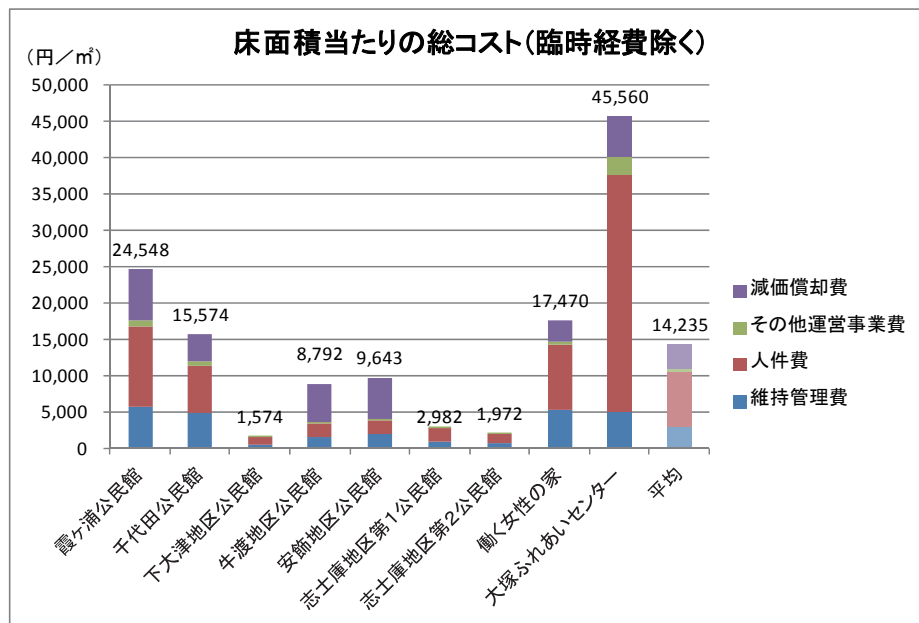
③利用1件当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 利用1件当たりの総コスト平均額は、37.6千円/件である。
- 利用1件当たりの総コストが高いのは安飾地区公民館であり、180.8千円/件である。
- 最も低いのは、働く女性の家であり、2.2千円/件である。



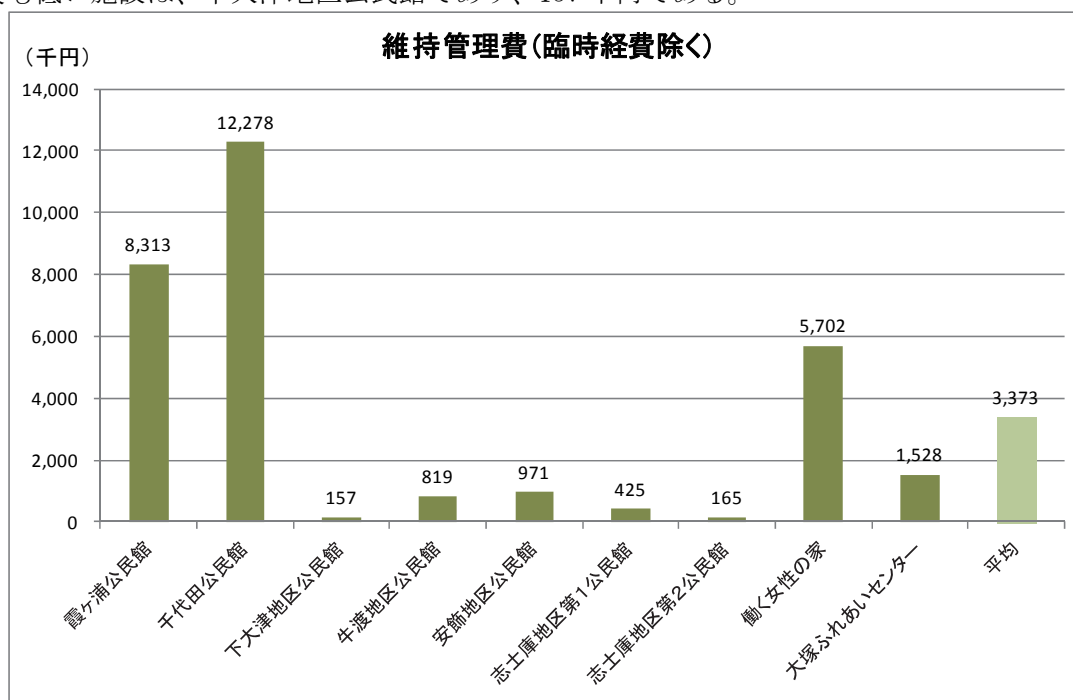
④床面積当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 床面積当たりの総コスト平均額は14.2千円/㎡である。
- 最も高いのは大塚ふれあいセンターであり、45.6千円/㎡、次いで霞ヶ浦公民館が高く24.5千円/㎡である。
- 地区公民館は比較的安く、最も低いのは、下大津地区公民館であり、1.6千円/㎡である。



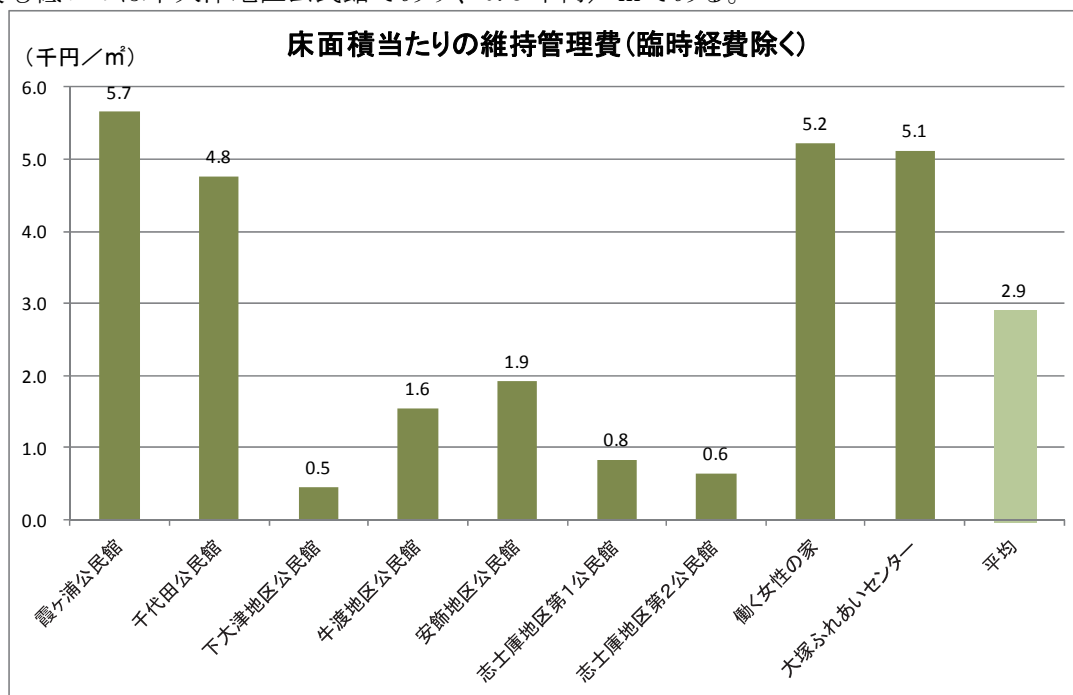
⑤維持管理費（臨時経費除く）

- 維持管理費の平均額は、3,373 千円である。
- 千代田公民館が最も高く 12,278 千円、次いで霞ヶ浦公民館が高く 8,313 千円である。
- 最も低い施設は、下大津地区公民館であり、157 千円である。



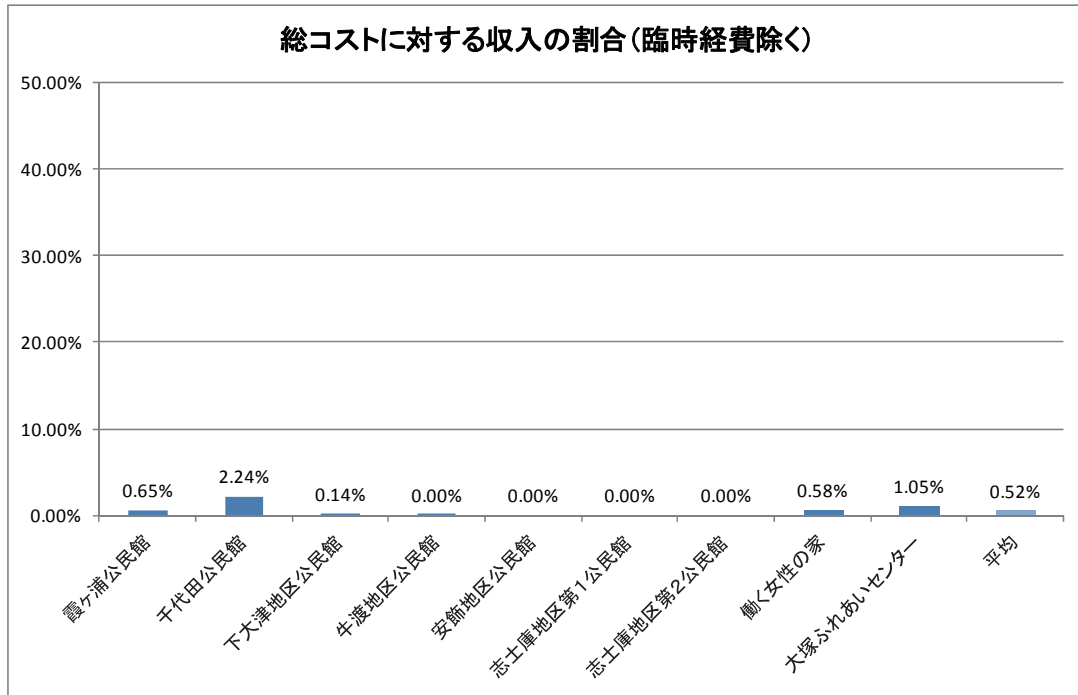
⑥床面積当たりの維持管理費（臨時経費除く）

- 床面積当たりの維持管理費の平均は、2.9 千円/m²である。
- 床面積当たりでは最も高いのは霞ヶ浦公民館で 5.7 千円/m²、次いで働く女性の家が高く 5.2 千円/m²である。
- 最も低いのは下大津地区公民館であり、0.5 千円/m²である。



⑦総コストに対する収入の割合（臨時経費除く）

- 総コストに対する収入の割合は、平均で0.52%である。
- 最も収入の割合が高いのは千代田公民館であり2.24%である。
- 社会教育団体としての登録団体は使用料が免除となるため、総コストに対する収入の割合は低い。



霞ヶ浦公民館

部屋名	料金(円)		
	9:00～ 12:00	13:00～ 17:00	18:00～ 22:00
会議室1号	2,900	3,700	3,700
会議室2号	3,500	4,500	4,500
会議室3号	1,000	1,300	1,300
会議室4号	1,000	1,300	1,300
会議室5号	1,000	1,300	1,300
講座室1号	1,900	2,400	2,400
講座室2号	1,900	2,400	2,400
研修室1号	2,200	2,800	2,800
研修室2号	2,200	2,800	2,800
茶室	700	900	900
視聴覚室	4,700	6,200	6,200
調理実習室	4,100	5,300	5,300
陶芸工作棟	1,200	1,500	1,500

地区公民館

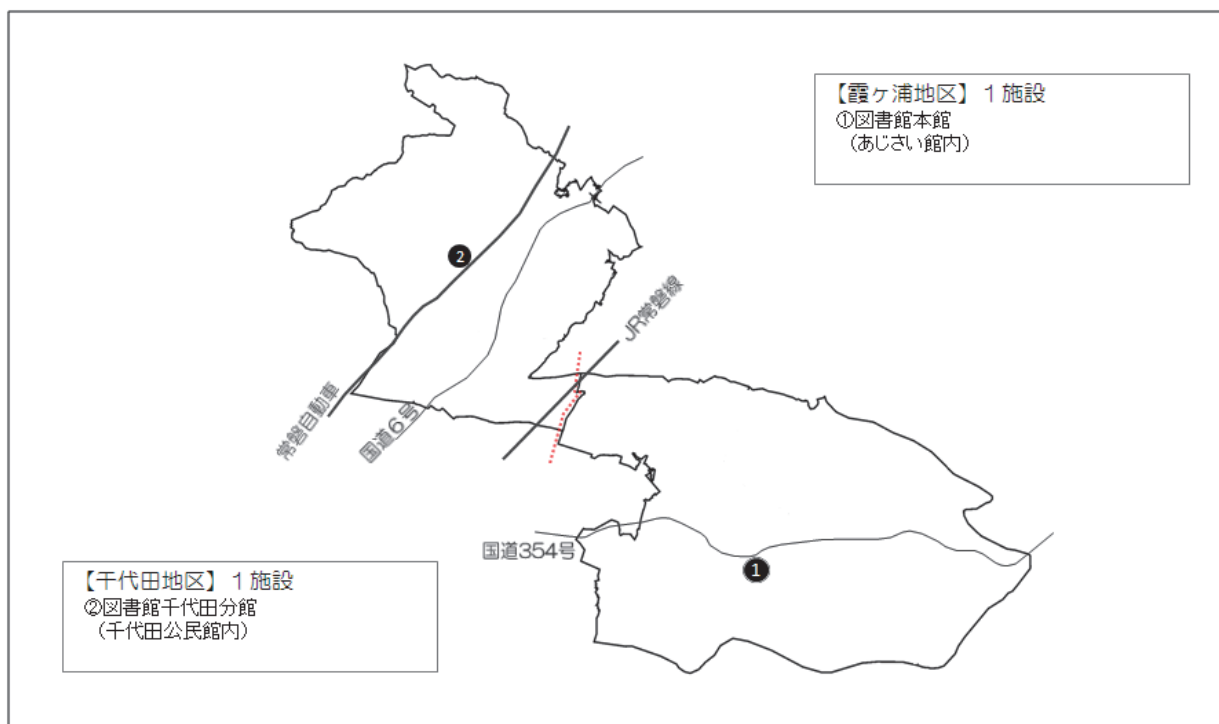
部屋名	料金(円)		
	9:00～ 12:00	13:00～ 17:00	18:00～ 22:00
会議室1号	1,050	1,050	1,570
和室	730	730	1,050
調理室	730	730	1,050

出所: かすみがうら市HP 霞ヶ浦公民館利用案内
(平成 25. 3. 31 現在)

(6) 現状と課題

- 霞ヶ浦地区は合併前の村単位（6村）に地区公民館を設置しそれぞれに事業を行っており、合併後の状況を反映していくことが必要である。
- 築30年を超える施設、築30年近い施設が多く、老朽化への対応が必要である。
- 利用者数が少なく、稼働率も低い状況にある。特に地区公民館では顕著であり、ほとんど利用されていない諸室もある。
- 利用当たりコストが高くなっており、施設により差が出ている。収入はほとんどない状況にある。

1-2. 図書館



(1) 施設状況

- 図書館本館、図書館千代田分館があり、総延床面積は1,811.04㎡である。
- 施設規模は図書館本館が1,726㎡であるのに対し、図書館千代田分館は85.04㎡である。
- いずれも複合施設として整備されている。
- 建物は全て市有である。
- 図書館本館はあじさい館内に、図書館千代田分館は千代田公民館内に設置されている。

施設名	所在地	開設年	延床面積	敷地面積	所有面積	複合施設区分	建物保有状況	土地保有状況	駐車可能台数
図書館本館	深谷3719番地1	S38	1,726.00	0.00	0.00	複合	所有		0
図書館千代田分館	上佐谷991番地5	S53	85.04	0.00	0.00	複合	所有		0
合計			1,811.04	0.00	0.00				0

(2) 建物状況

①建物状況

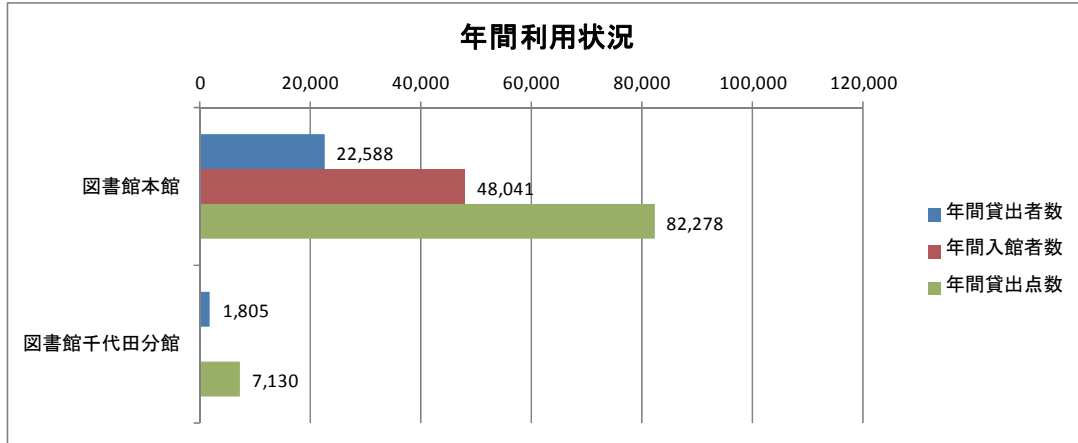
- 図書館本館は築15年であるが、図書館千代田分館は築35年が経過しており、老朽化への対策が必要である。
- 両施設ともRC造である。
- 両施設において機能改善はバリアフリー・点字ブロックのみ未実施である。
- 環境負荷低減は両施設において未実施である。

施設名	建物状況			耐震性		機能改善	機能改善(バリアフリー)					環境負荷低減		
	建築年	築年数	構造	耐震診断	耐震補強	機能改善(72%以上対策)	車いす用エレベーター	身障者用トイレ	車いす用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	自然エネルギー・太陽設備	環境対応設備
図書館本館	H10	15	RC造	-	-	●	-	●	●	●	●	×	×	×
図書館千代田分館	S53	35	RC造	実施済	不要	●	-	●	●	●	●	×	×	×

(3) 利用状況

①年間利用状況

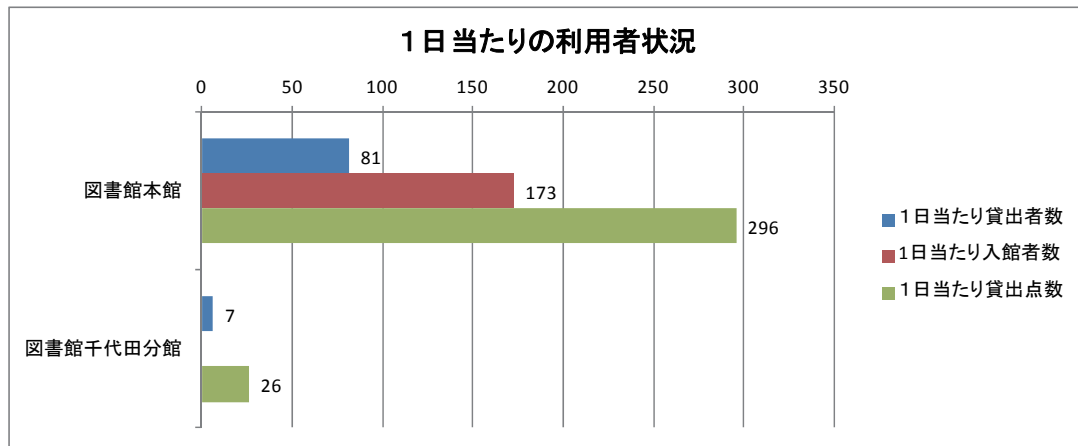
- 年間貸出者数は、図書館本館が22,588人、図書館千代田分館は1,805人であり、図書館本館は図書館千代田分館の12.5倍である。
- 年間貸出点数は、図書館本館が82,278冊、図書館千代田分館は7,130冊であり、図書館本館は図書館千代田分館の11.5倍である。



※図書館千代田分館の年間入館者数データなし

②1日当たりの利用状況

- 1日当たりの貸出者数は、図書館本館は81人、図書館千代田分館は7人のみである。
- 1日当たりの貸出点数は、図書館本館は296冊、図書館千代田分館は26冊である。



(4) 運営状況

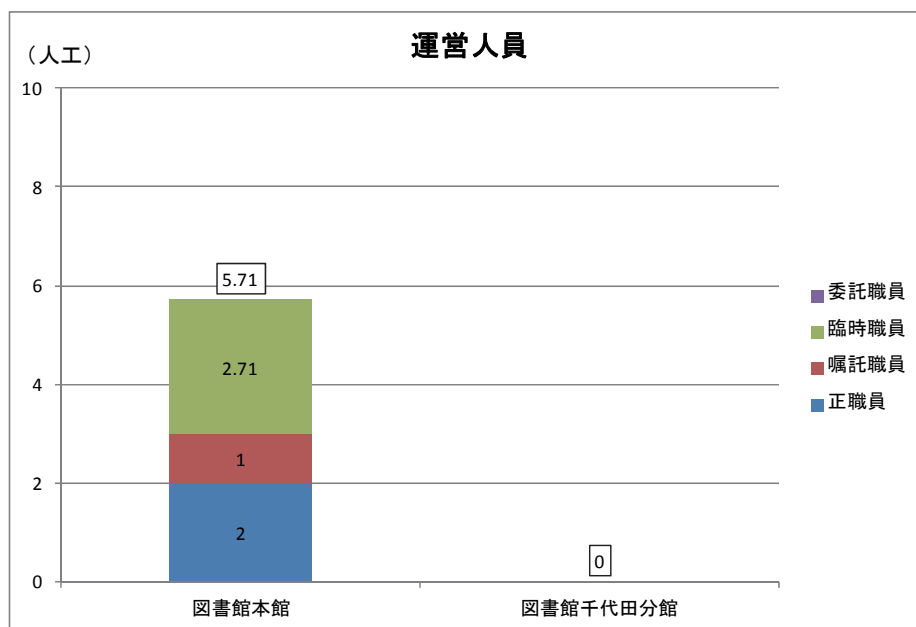
①運営状況

- 図書館の運営状況は、いずれも直営、運営日数278日、月曜定休、開館時間9:00~17:00で統一されている。

施設名	運営方法	年間運営日数	定休日	開始時間	終了時間
			月曜日		
図書館本館	直営	278日	●	9:00	17:00
図書館千代田分館	直営	278日	●	9:00	17:00

②運営人員

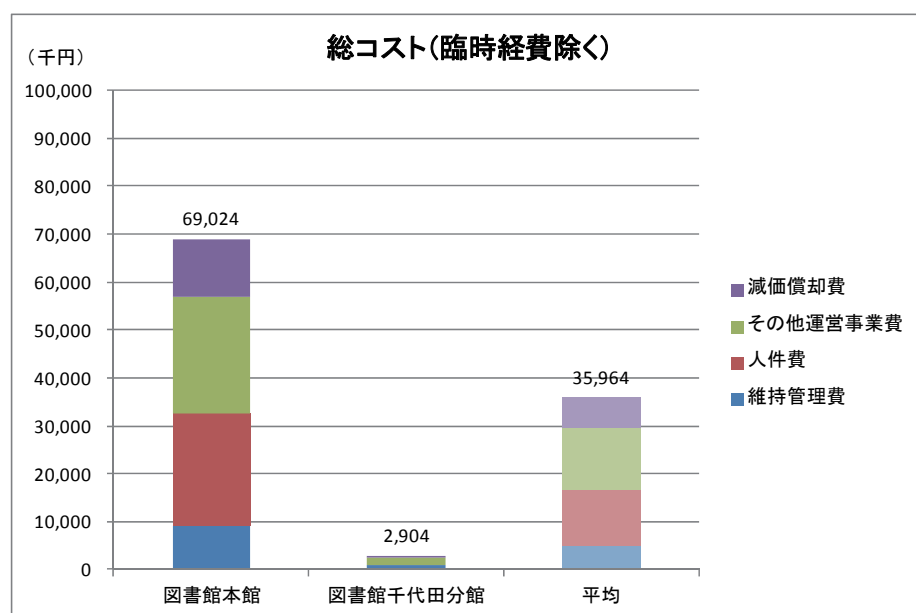
- 図書館本館の運営人員は5.71人工である。
- 図書館本館は正職員2人工、嘱託職員1人工、臨時職員2.71人工により運営されている。
- 図書館千代田分館は千代田公民館内にあり、図書館としての職員は常駐しておらず、千代田公民館の臨時職員が対応している。



(5) コスト状況

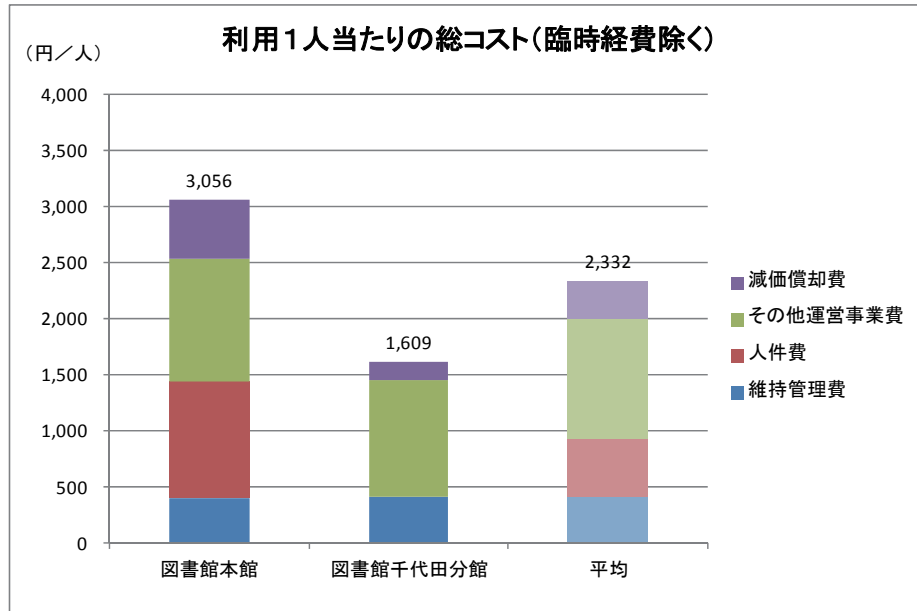
①総コスト (臨時経費除く)

- 図書館全体の総コストは、72百万円である。
- 図書館の平均総コストは、35,964千円であり、人件費とその他運営事業費(図書購入費等)が多い。
- 施設規模が異なるため、総コストの金額差が大きい。



②利用1人当たりの総コスト（臨時経費除く）

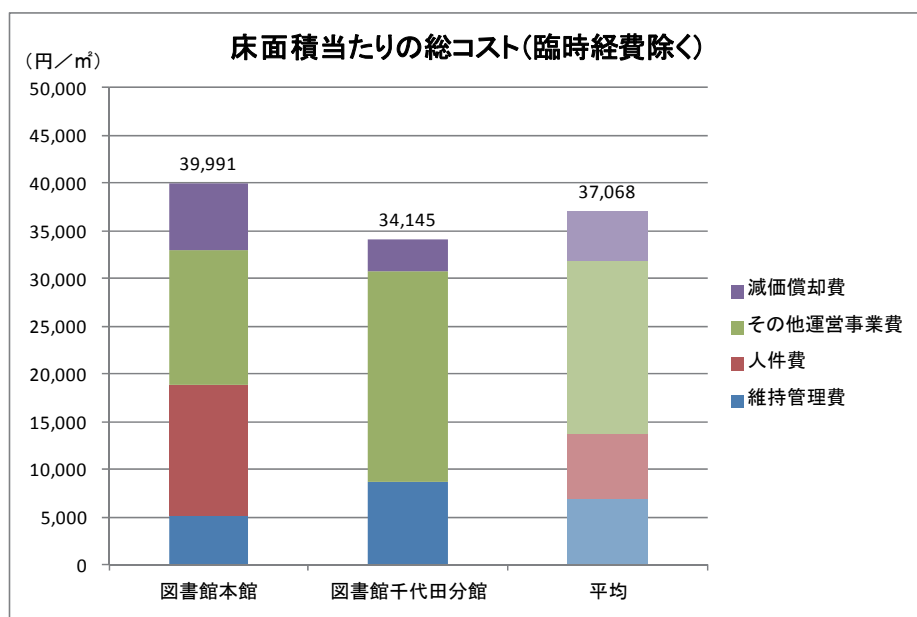
- 利用1人当たりの平均総コストは、2.3千円/人である。
- 施設規模が大きい図書館本館の方が、利用人数も年間で約12.5倍（（3）利用状況参照）多くなっているが、1人当たりの総コストは図書館本館の方が約1.9倍高い。
- 図書館本館では人件費とその他運営事業費、図書館千代田分館ではその他事業費が多くを占める。



※図書館千代田分館の年間入館者数データがないため、年間貸出者数で分析。

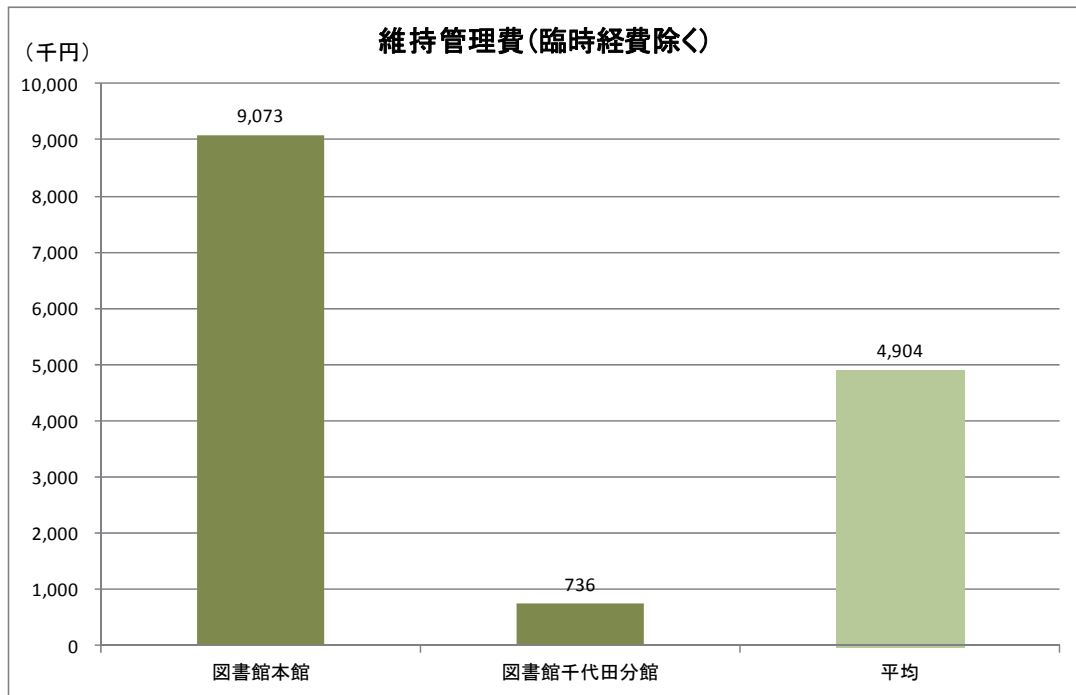
③床面積当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 床面積当たりの平均総コストは、37.1千円/㎡である。
- 床面積当たりで見ると、図書館本館の方が0.5千円/㎡程度高い。
- 図書館本館では人件費とその他運営事業費、図書館千代田分館ではその他事業費が多くを占める。



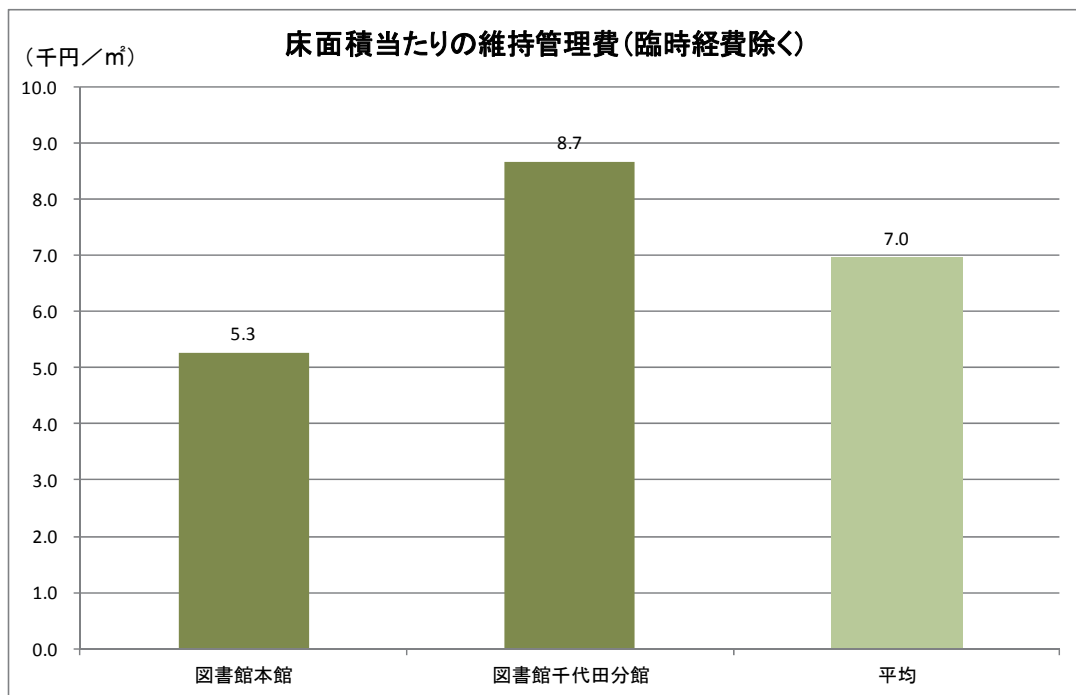
④維持管理費（臨時経費除く）

- 維持管理費の平均総コストは、4,904 千円である。
- 施設規模が異なるため、図書館本館の維持管理費は図書館千代田分館の 12.3 倍である。



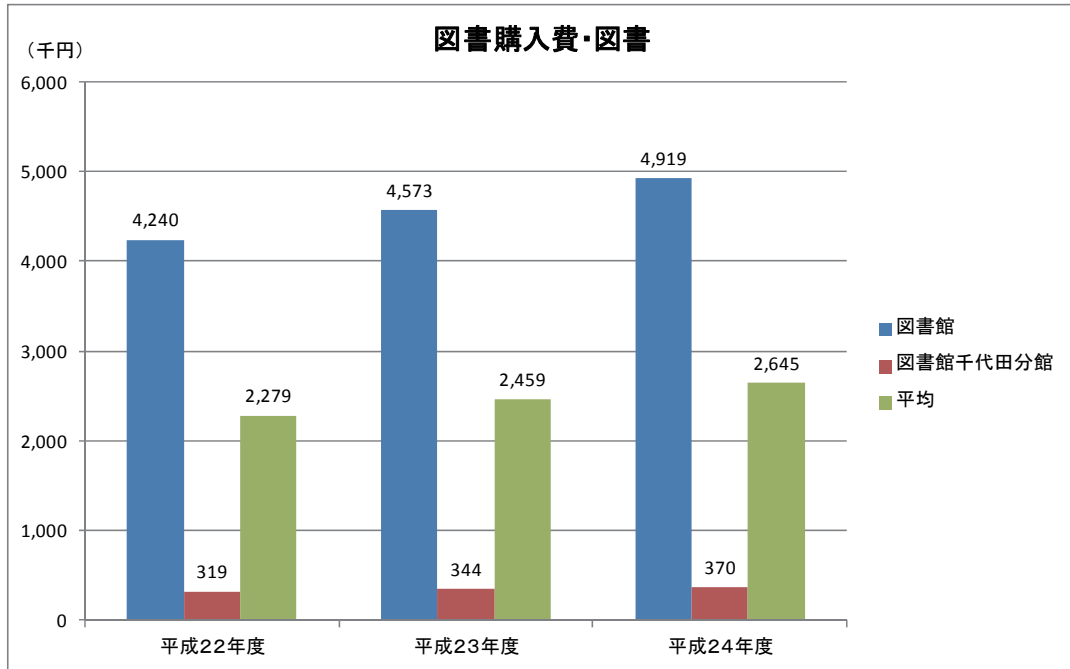
⑤床面積当たりの維持管理費（臨時経費除く）

- 維持管理費の平均総コストは、7.0 千円/m²である。
- 床面積当たりで見ると図書館千代田分館の方が維持管理費が高い。

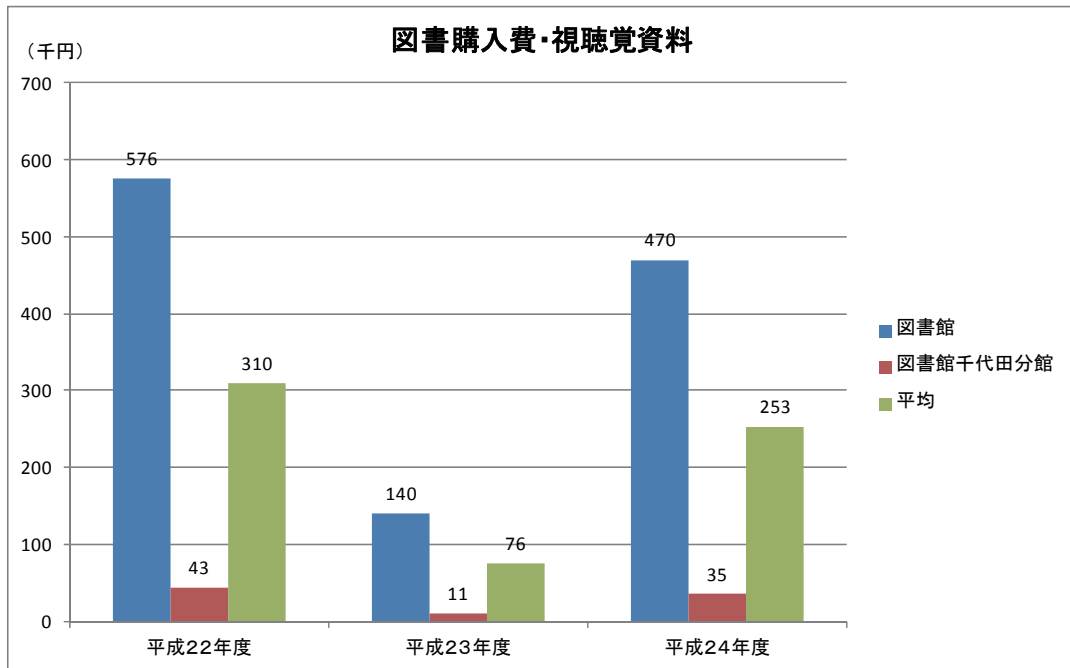


⑥図書購入費

- 図書購入費・図書を見ると両館において金額は増加傾向にあり、平成24年度では合計5,289千円、平均2,645千円である。
- 直近3年間では毎年平均2百万円以上となっており、今後も同額程度の支出が想定される。



- 視聴覚資料は年度により金額の差が大きく、平成22年度は合計619千円であったが、平成23年度は合計151千円、平均76千円である。



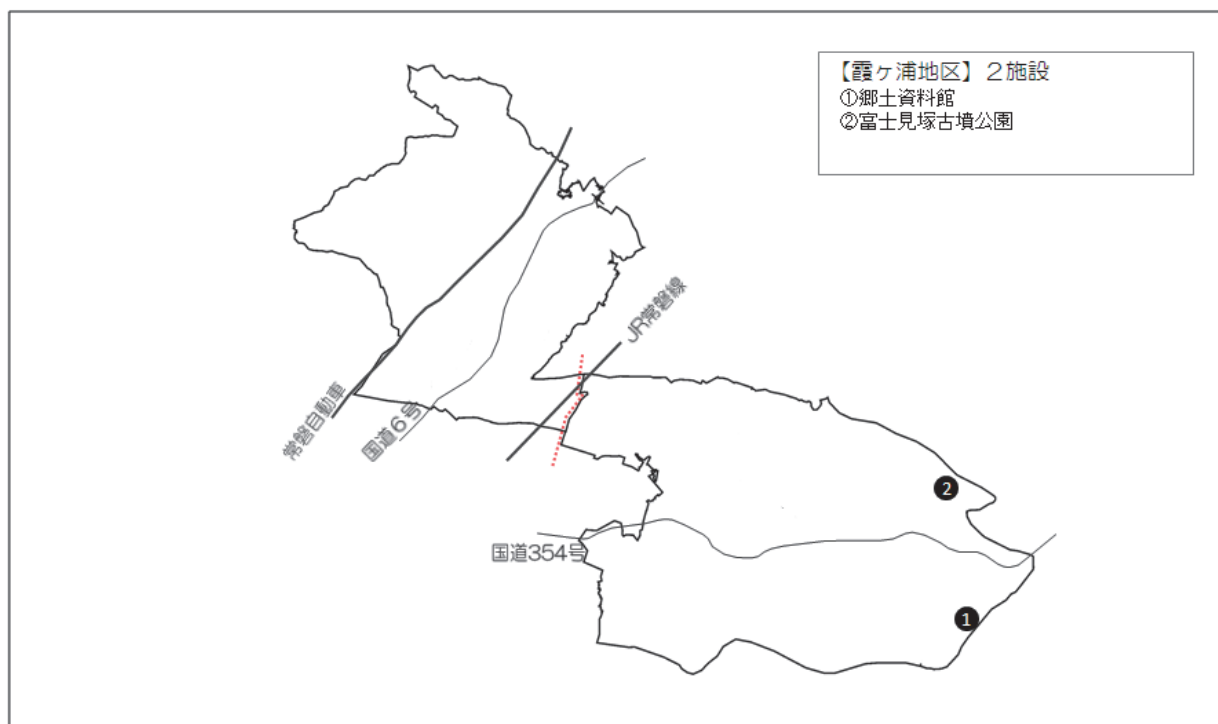
⑦総コストに対する収入の割合

- 両施設において同等であり、0.03%である。

(6) 現状と課題

- 図書館千代田分館は築30年を超えており、老朽化への対応が必要である。
- 図書館千代田分館は利用者数が少なく、1日の利用者が1桁である。
- 図書館のコストを考えていく上では、施設に係る維持管理・更新費用だけではなく、図書購入費にも留意することが必要である。

1-3. 資料館



(1) 施設状況

- 資料館の総延床面積は1,501.65㎡である。
- 両施設とも単独施設として整備されている。
- 建物は全て市有だが、富士見塚古墳公園の土地は一部借上げである。

施設名	所在地	開設年	延床面積	敷地面積	所有面積	複合施設区分	建物保有状況	土地保有状況	駐車可能台数
郷土資料館	坂1029番地1	S62	1,286.34	5,928.00	5,928.00	単独	所有	所有	17
富士見塚古墳公園	柏崎1555番地3	H6	215.31	37,404.00	22,003.00	単独	所有	一部借上	8
合計			1,501.65	43,332.00	27,931.00				25

(2) 建物状況

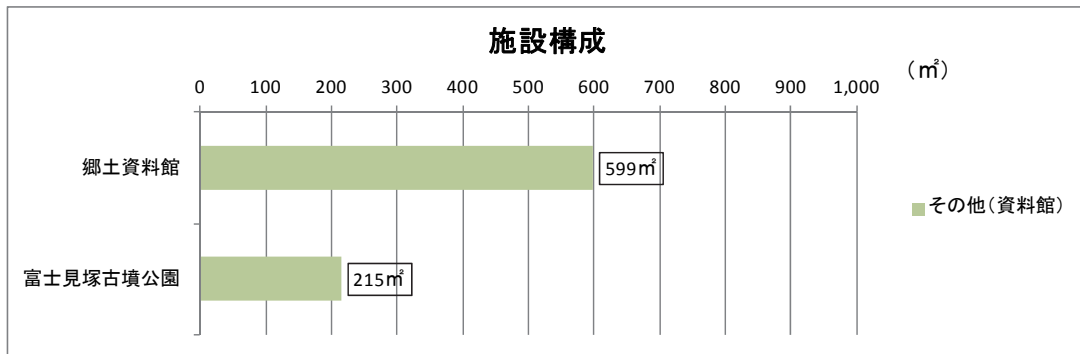
①建物状況

- 築年数は両施設とも30年には達していないが、郷土資料館の築年数は27年となっており、近い将来、老朽化への対応が求められる。
- 構造は郷土資料館がRC造、富士見塚古墳公園（展示館）は木造（W造）である。
- 耐震診断は両施設とも不要である。
- 機能改善（バリアフリー）は、両施設とも実施済である。
- 環境対応については、両施設とも未実施である。

施設名	建物状況			耐震性		機能改善	機能改善(バリアフリー)						環境負荷低減	
	建築年	築年数	構造	耐震診断	耐震補強	機能改善 (7/24対応)	車いす用 エレベーター	身障者用 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	自然エネルギー・太陽	環境対応 設備
郷土資料館	S61	27	RC造	-	-	●	×	×	●	×	×	×	×	×
富士見塚古墳公園	H6	19	W造	-	-	●	×	×	×	×	×	×	×	×

②施設構成

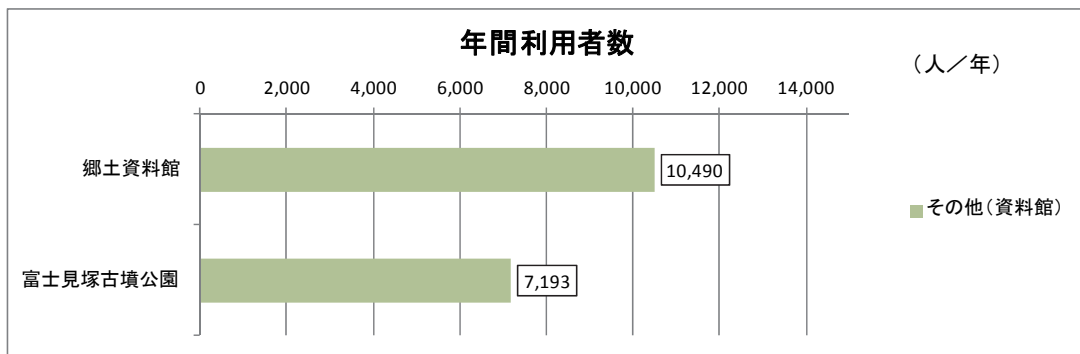
- 両施設とも展示室がメインの施設である。



(3) 利用状況

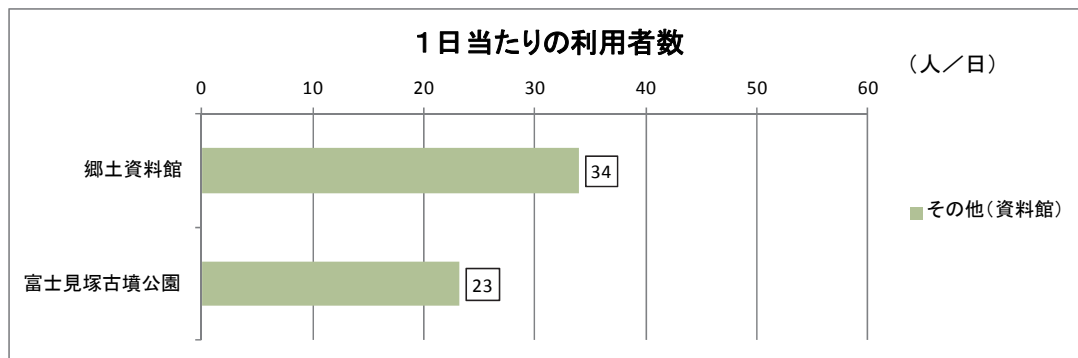
①年間利用者数

- 郷土資料館は年間で10,490人、富士見塚古墳公園は7,193人が利用している。



② 1日当たりの利用者数

- 1日当たりの利用者数は、郷土資料館は34人、富士見塚古墳公園は23人となっている。



(4) 運営状況

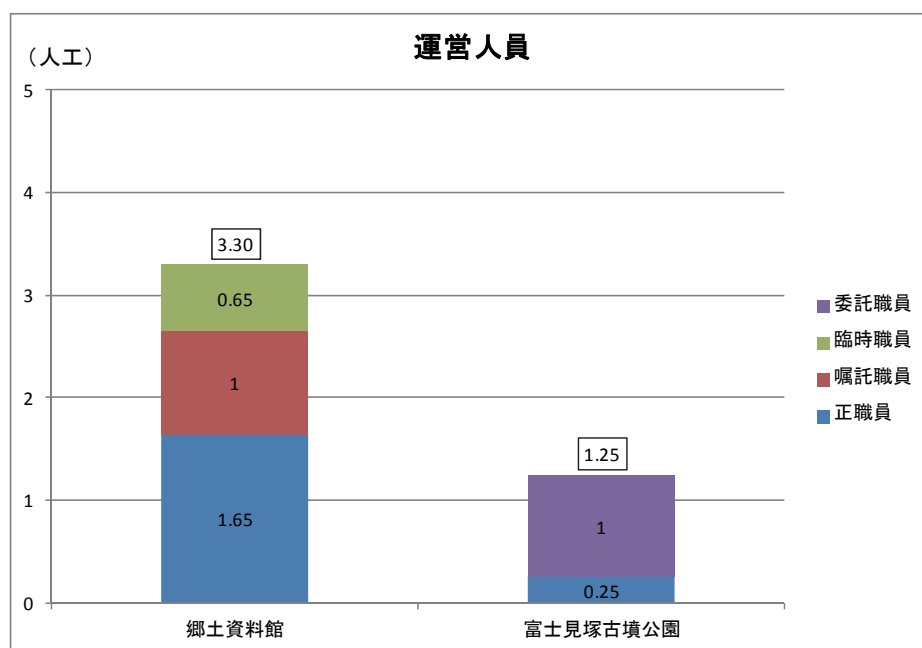
① 運営状況

- 資料館の運営は統一されており、運営方法は直営、月曜定休、開館時間は9:00~16:30である。

施設名	運営方法	年間運営日数	定休日	開始時間	終了時間
			月曜日		
郷土資料館	直営	309日	●	9:00	16:30
富士見塚古墳公園	直営	309日	●	9:00	16:30

② 運営人員

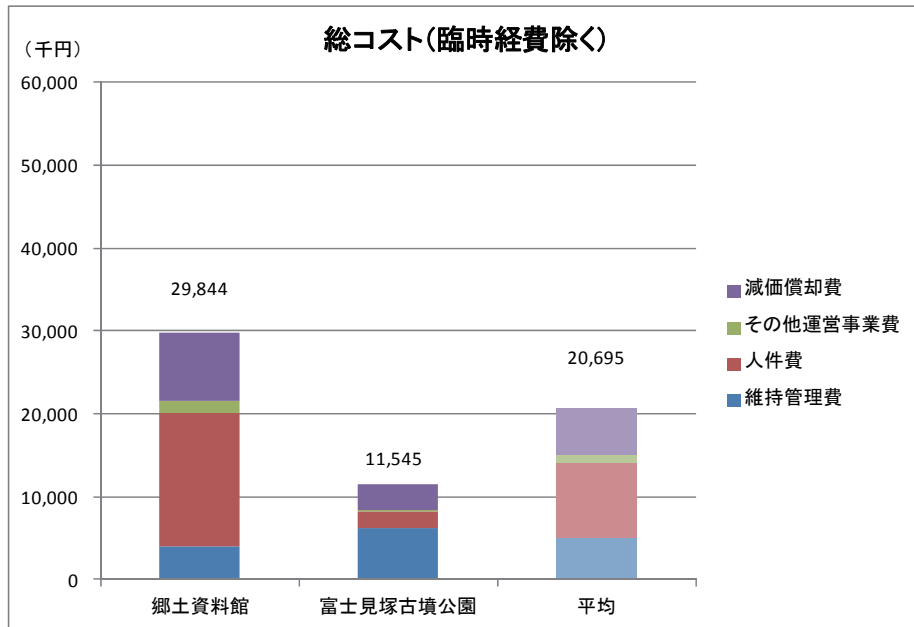
- 運営人員は、郷土資料館は3.30人工、富士見塚古墳公園が1.25人工である。



(5) コスト状況

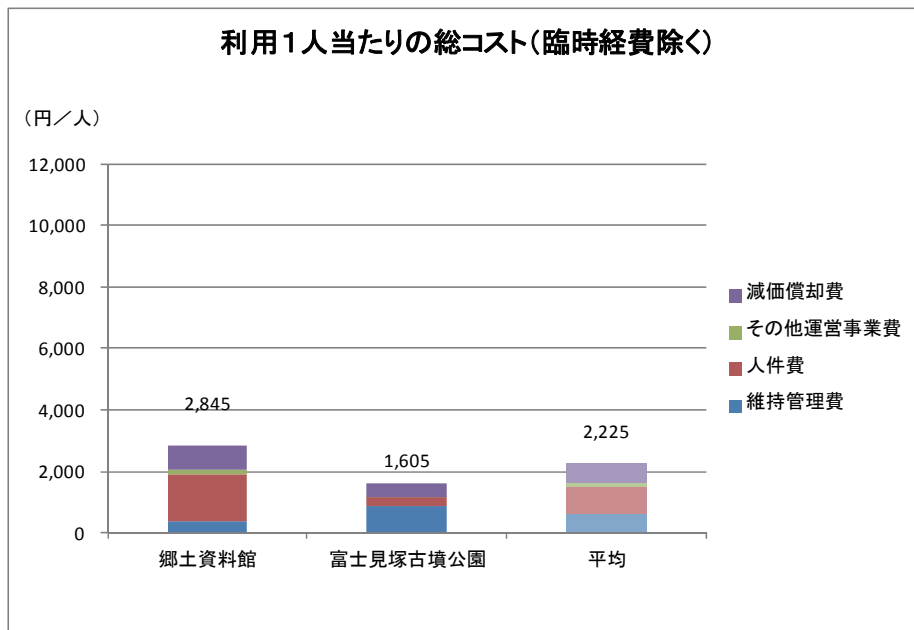
①総コスト（臨時経費除く）

- 資料館の総コストは41百万円である。
- 資料館の平均総コストは20,695千円で、人件費の割合が大きい。
- 富士見塚古墳公園の総コスト11,545千円に対し、郷土資料館は29,844千円と開きがある。



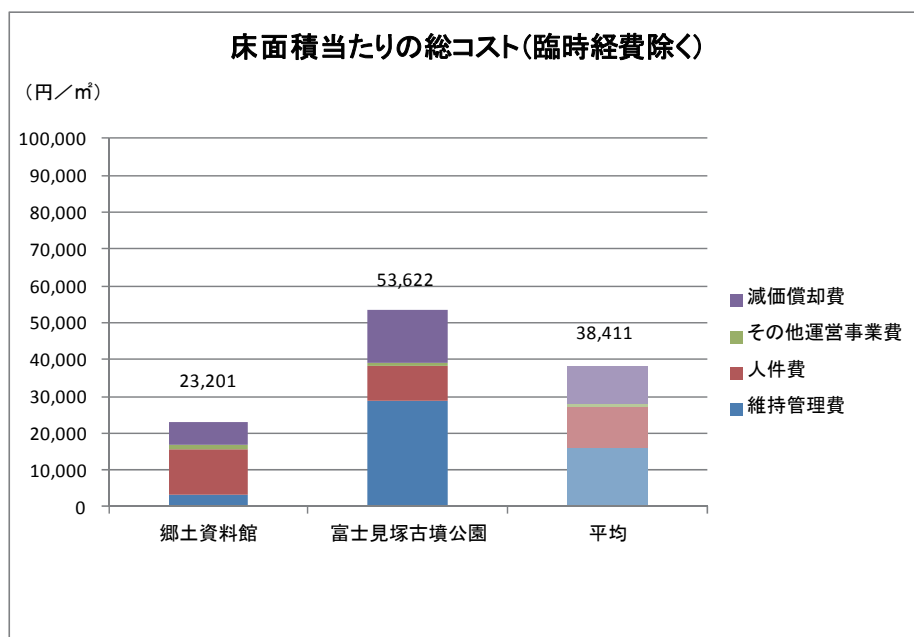
②利用1人当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 資料館の利用1人当たりの総コスト平均額は、2.2千円/人である。
- 郷土資料館の利用1人当たりの総コストは2.8千円/人、富士見塚古墳は1.6千円/人である。



③床面積当たりの総コスト（臨時経費除く）

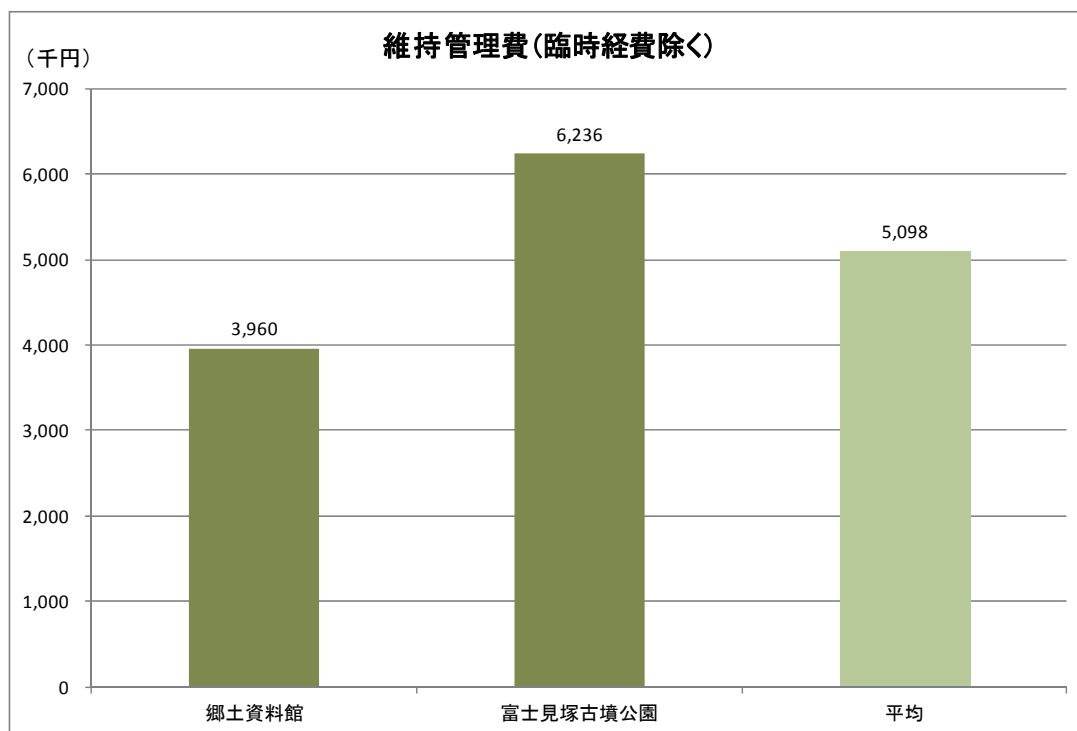
- 床面積当たりの総コスト平均額は 38.4 千円/㎡である。
- 郷土資料館の 23.2 千円/㎡に対し、富士見塚古墳公園は 53.6 千円/㎡と開きがある。



※富士見塚古墳時円

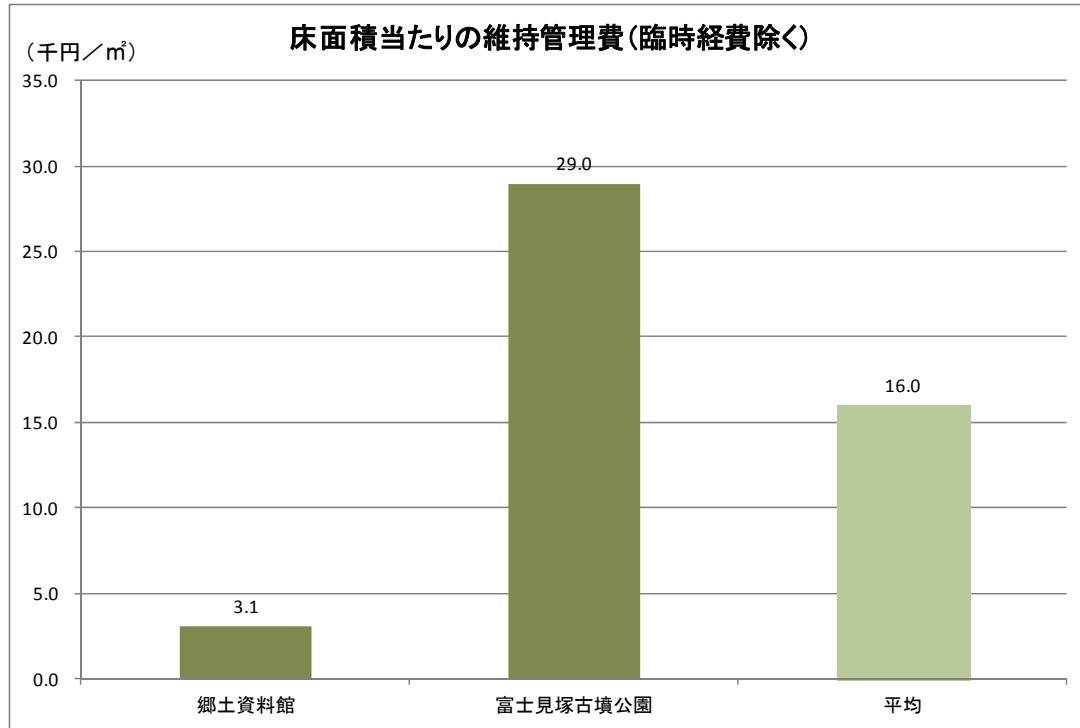
④維持管理費（臨時経費除く）

- 維持管理費の平均額は 5,098 千円である。
- 郷土資料館は 3,960 千円、富士見塚古墳公園は 6,236 千円である。



⑤床面積当たりの維持管理費（臨時経費除く）

- 床面積当たりの維持管理費の平均は、16.0 千円/㎡である。
- 郷土資料館の維持管理費 3.1 千円/㎡に対し、富士見塚古墳公園は展示館以外にも古墳公園部分の維持管理費等も含まれているため、29.0 千円/㎡と 9 倍以上である。



⑥総コストに対する収入の割合（臨時経費除く）

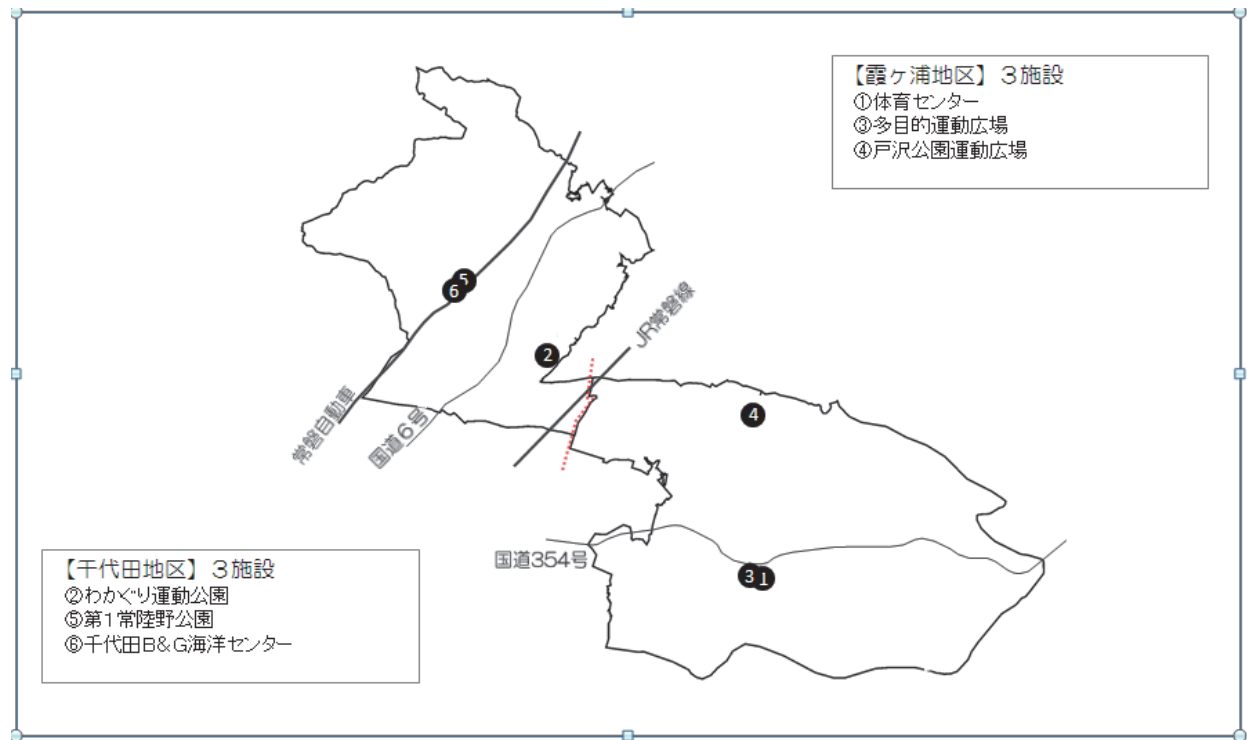
- 総コストに対する収入の割合は、平均で 2.19% である。
- 郷土資料館の総コストに対する収入の割合は 4.38% である。
- 富士見塚古墳公園は収入はない。

(6) 現状と課題

- 郷土資料館は近い将来築 30 年を迎えることから、老朽化への対応が必要である。
- 利用者数は 1 日当たり 20~30 人と少ない状況にある。

2. スポーツ・レクリエーション施設

2-1. 各種スポーツ施設



(1) 施設状況

- スポーツ施設は全部で6施設あり、総延床面積は6,585.50㎡である。(屋外競技場面積は除く。)
- 建物は全て市有であるが、土地は敷地全体を所有している施設はなく、全ての敷地を借上げ又は一部借上げである。
- 全施設において一定数の駐車台数を確保しているが、千代田B&G海洋センターは、第1常陸野公園駐車場を共用している。

施設名	所在地	開設年	延床面積	敷地面積	所有面積	複合施設区分	建物保有状況	土地保有状況	駐車可能台数
体育センター	深谷3682番地1	S60	1,495.34	10,104.76	0	単独	所有	借上	70
わかぐり運動公園	新治1813番地2	H3	1,450.19	61,071.00	0	単独	所有	借上	210
多目的運動広場	深谷3384番地1	S57	376.68	69,380.00	0	単独	所有	借上	150
戸沢公園運動広場	宍倉3604番地1	H9	0.00	28,099.00	9,147.00	単独		一部借上	100
第1常陸野公園	中佐谷1250番地	S55	1,077.77	62,955.35	44,137.63	併設	所有	一部借上	200
千代田B&G海洋センター	中佐谷1252番地8	S58	2,185.52	4,595.00	3,714.00	単独	所有	一部借上	0
合計			6,585.50	236,205.11	56,998.63				730

(2) 建物状況

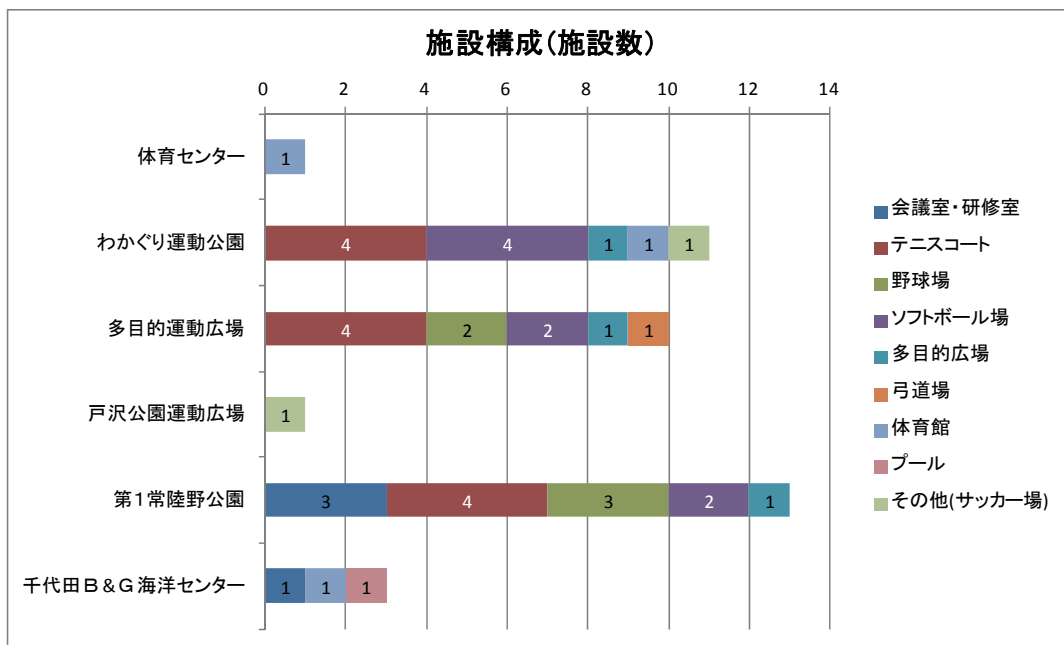
①建物状況

- 多目的運動広場、第1常陸野公園、千代田B&G海洋センターは、築30年を経過しており、今後築30年を迎える施設もあることから、老朽化への対策が必要である。
- 第1常陸野公園はRC造、その他は鉄骨造（S造）である。
- 機能改善は身障者用トイレ、車椅子用スロープについては多くの施設で対応されているが、未対応の事項も多い。
- 環境負荷低減はわかぐり運動公園で導入済み、体育センターは対策中であるが、その他の施設では未実施である。

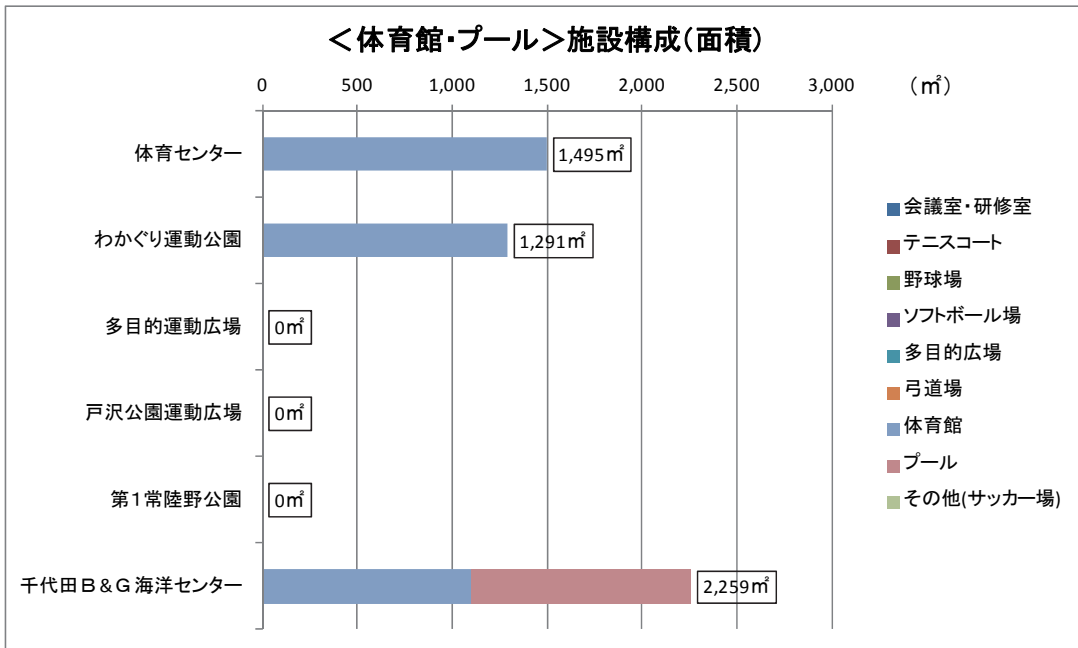
施設名	建物状況			耐震性		機能改善	機能改善(バリアフリー)					環境負荷低減		
	建築年	築年数	構造	耐震診断	耐震補強	機能改善(77ベシ対策)	車いす用エレベータ	身障者用トイレ	車いす用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	自然エネルギー・太陽	環境対応設備
体育センター	S60	28	S造	-	-	●	-	●	●	×	×	×	▲	×
わかぐり運動公園	S63	25	S造	-	-	●	-	●	●	×	×	×	●	×
多目的運動広場	S58	30	S造	-	-	●	-	●	●	×	×	×	×	×
戸沢公園運動広場							-	×	×	×	×	×	×	×
第1常陸野公園	S55	33	RC造	未実施	未実施	●	-	●	●	×	×	×	×	×
千代田B&G海洋センター	S58	30	S造	-	-	●	-	×	●	×	●	×	×	×

②施設構成

- わかぐり運動公園、多目的運動広場、第1常陸野公園は、テニスコート、ソフトボール場、野球場等の多岐に渡る屋外競技場が設置されている。
- 体育館を設置しているのは、体育センター、わかぐり運動公園、千代田B&G海洋センターである。
- 多目的運動広場には市内で唯一の弓道場、千代田B&G海洋センターにはプールが設置されている。
- 体育センターは体育館のみ、戸沢公園運動広場はサッカー場のみが設置されている。



【参考】

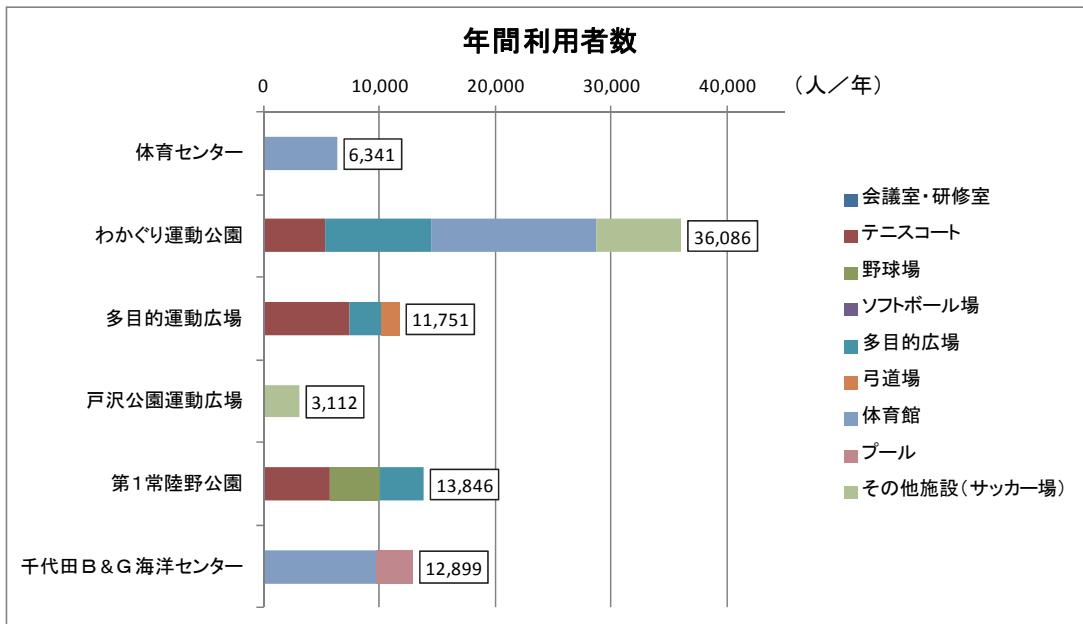


※屋外競技場等の面積データなし

(3) 利用状況

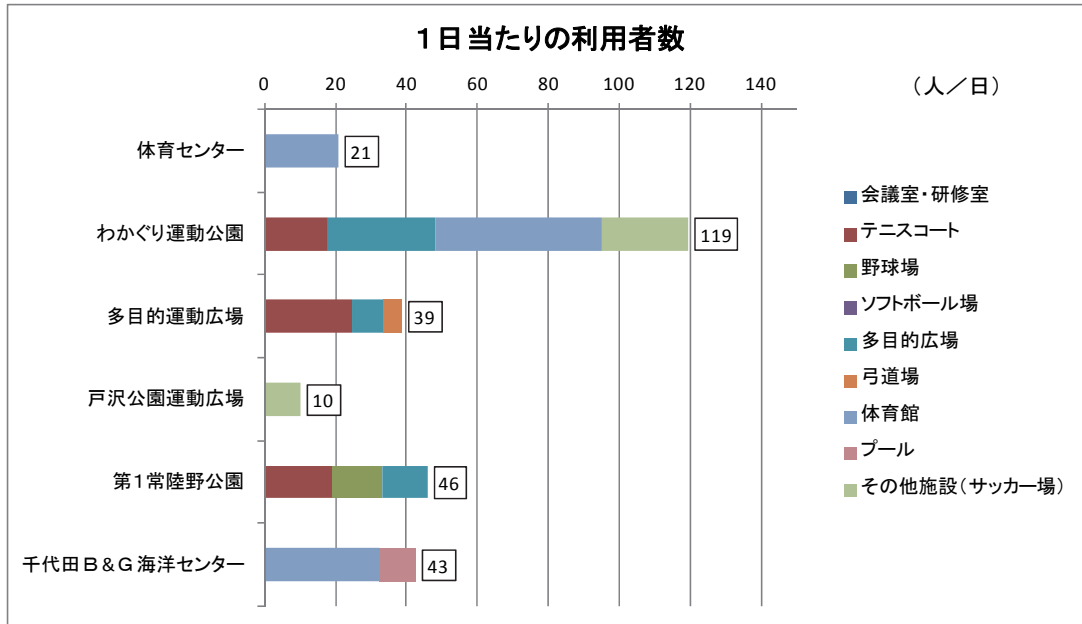
①年間利用者数

- 最も利用が多かったのは、わかぐり運動公園であり年間 36,086 人である。
- 一方、最も利用が少なかったのは、戸沢公園運動広場であり、年間 3,112 人である。
- 同種の競技場でも施設により利用状況が異なっている。



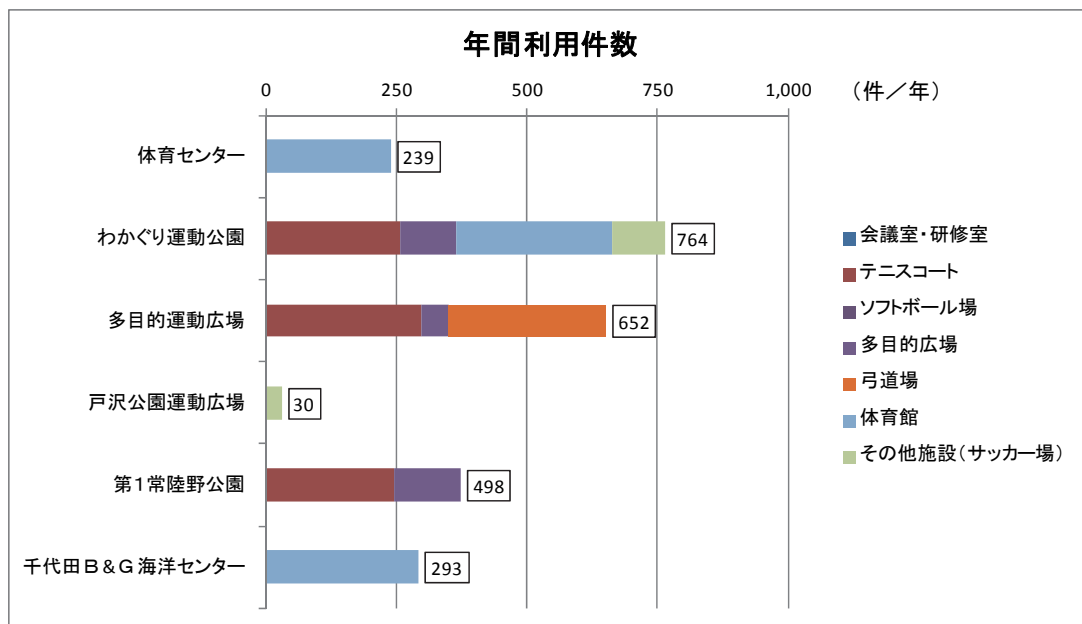
② 1日当たりの利用者数

- 最も1日当たりの利用者数が多かったのは、わかぐり運動公園であり119人/日である。
- 一方、最も利用が少なかったのは、戸沢公園運動広場であり、10人/日である。
- わかぐり運動公園以外の施設では、1日当たりの利用者数は2桁である。



③ 年間利用件数

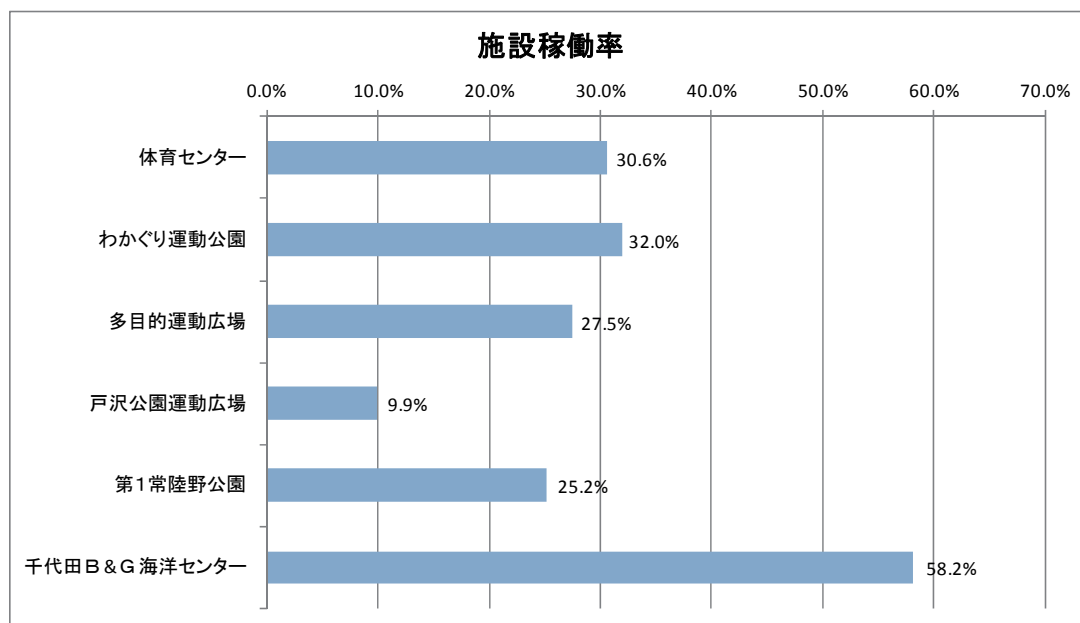
- 最も利用件数が多かったのは、わかぐり運動公園であり、年間764件である。
- 一方、最も利用が少なかったのは、戸沢公園運動広場であり、年間30件である。
- 体育館及びテニスコートが設置されている各施設において一定数の利用があるが、それ以外の競技場は施設によって利用状況に差がある。



※プールは利用者数のみカウントしており、利用件数データはなし。

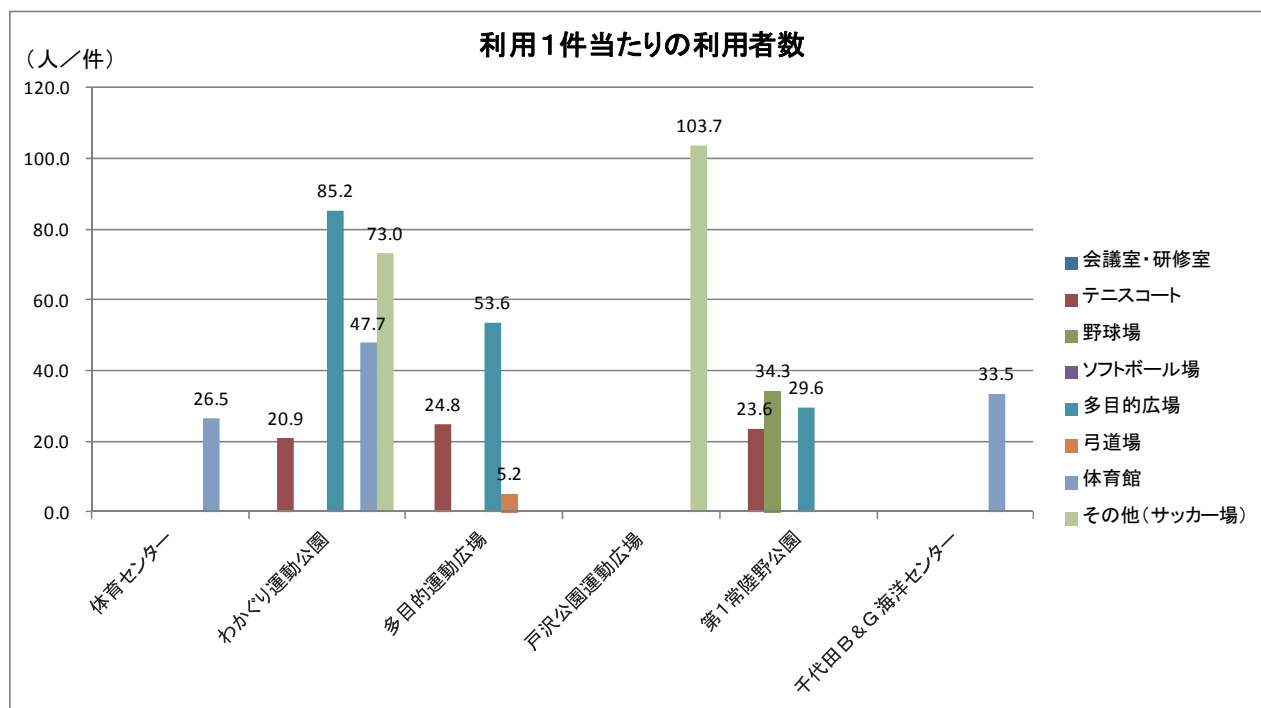
④施設稼働率

- 最も施設稼働率が高いのは千代田B&G海洋センターであり 58.2%、最も低いのは戸沢公園運動広場であり、9.9%である。
- その他の施設の稼働率は約 30.0%程度である。



⑤利用1件当たりの利用者数

- 最も利用1件当たりの利用者数が多かったのは、戸沢公園運動広場のその他（サッカー場）であり、103.7人/件である。
- 最も利用者数が少なかったのは、多目的運動広場・弓道場であり、5.2人/件である。
- テニスコートはいずれの施設においても、利用1件当たり20人台であるが、それ例外の競技場は施設によって異なる。



(4) 運営状況

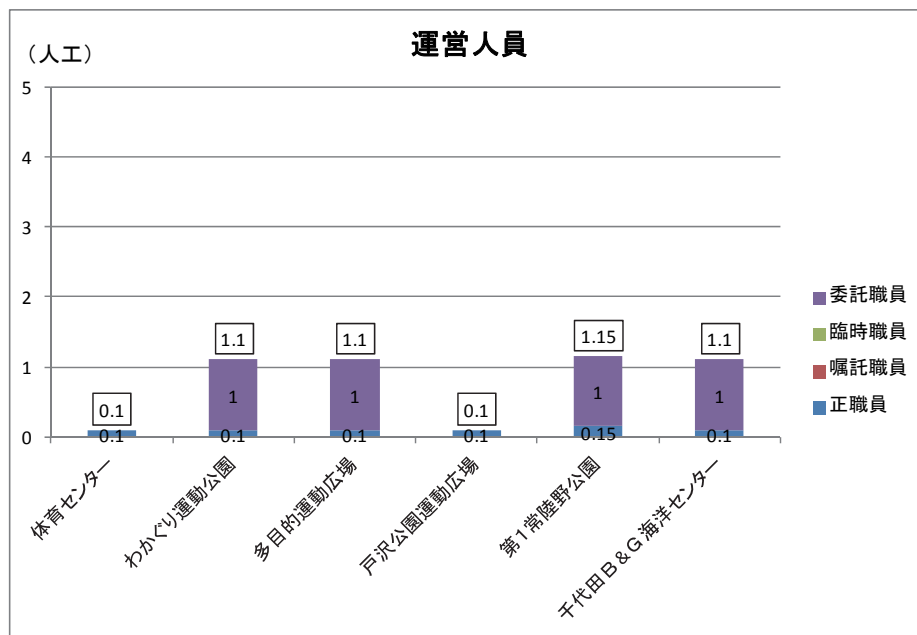
①運営状況

- 体育施設の運営は、開館時間以外は全施設で統一されており、運営方法は包括委託、年間運営日数は302日、月曜定休である。
- 開館時間は、戸沢公園運動広場が9：00～17：00、その他の施設は9：00～22：00である。

施設名	運営方法	年間運営日数	定休日		開始時間	終了時間
			月曜日	曜日		
体育センター	包括委託	302日	●		9:00	22:00
わかぐり運動公園	包括委託	302日	●		9:00	22:00
多目的運動広場	包括委託	302日	●		9:00	22:00
戸沢公園運動広場	包括委託	302日	●		9:00	17:00
第1常陸野公園	包括委託	302日	●		9:00	22:00
千代田B&G海洋センター	包括委託	302日	●		9:00	22:00

②運営人員

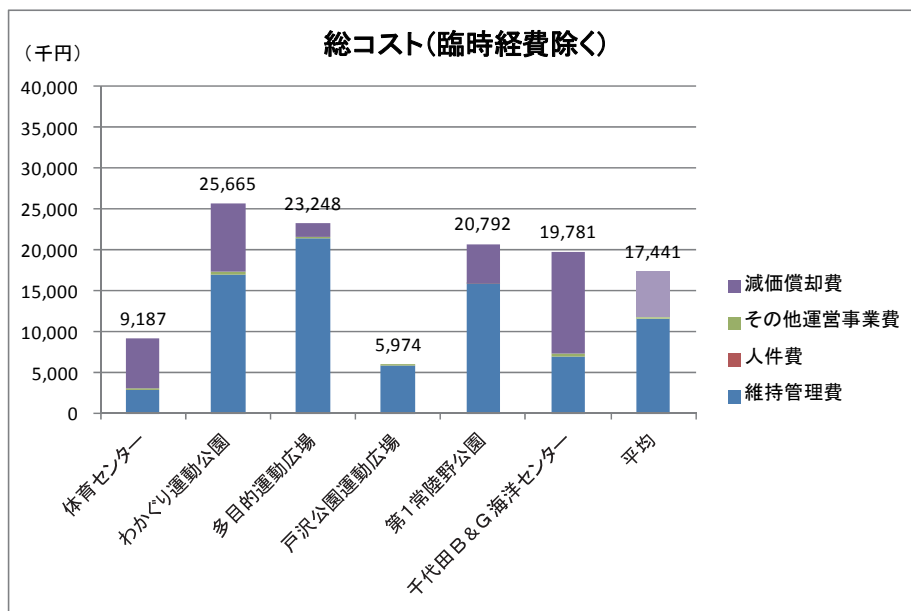
- 運営人員は第1常陸野公園が最も多く1.15人工である。
- 運営人員が最も少ないのは、体育センターと戸沢公園運動広場であり、正職員0.1人工である。
- 体育センターと戸沢公園運動広場は正職員のみ、その他は正職員と委託職員により運営されている。



(5) コスト状況

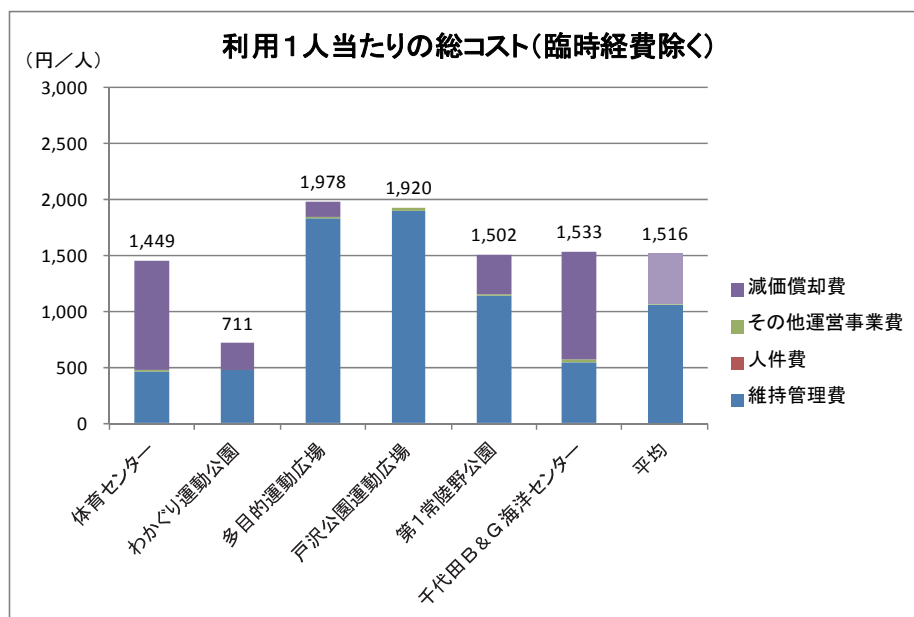
①総コスト（臨時経費除く）

- 体育施設全体のコスト総額は105百万円である。
- 体育施設の平均総コストは17,441千円であり、維持管理費の割合が大きい。
- わかぐり運動公園が最も高く25,665千円、最も低いのは戸沢公園運動広場であり5,974千円である。



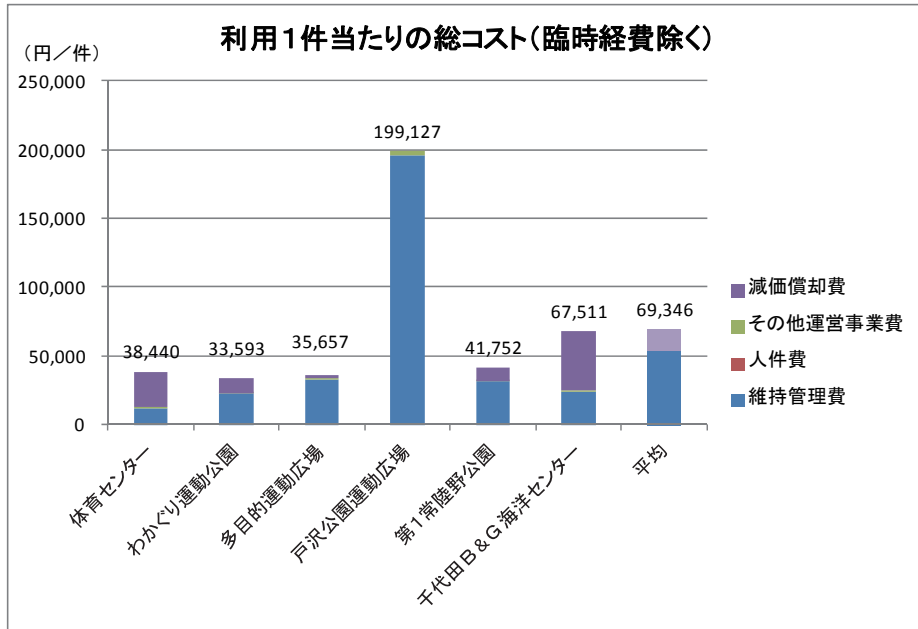
②利用1人当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 利用1人当たりの総コスト平均額は、1.5千円/人である。
- 最も高いのは、多目的運動広場であり、2.0千円/人、最も低いのはわかぐり運動公園であり0.7千円/人である。



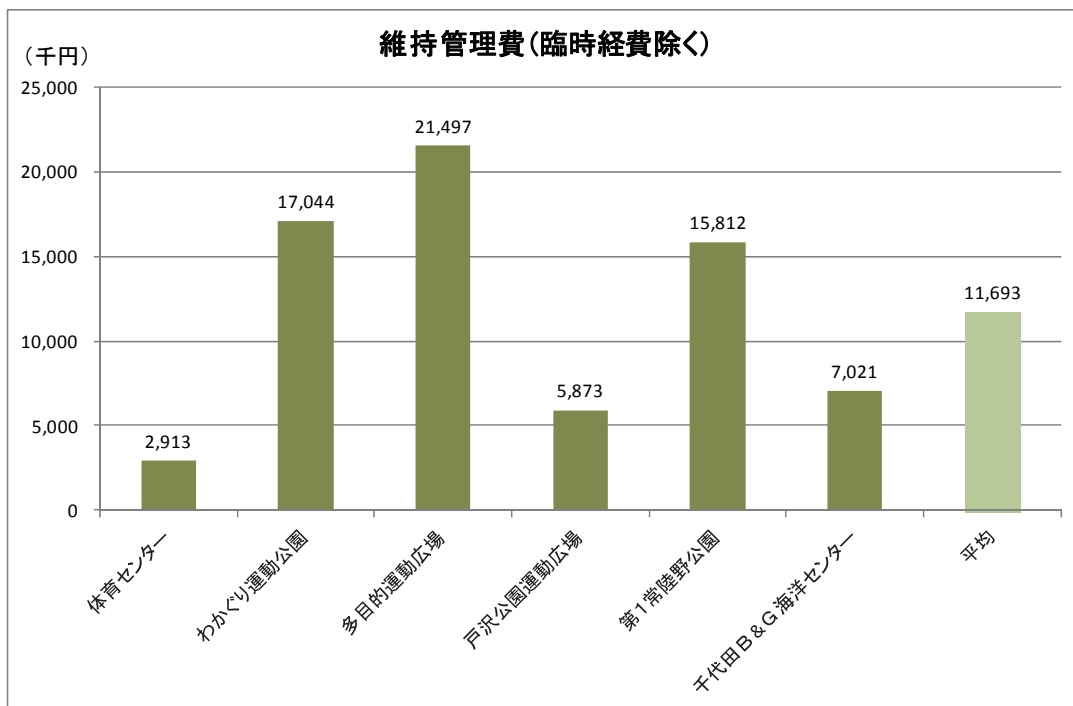
③利用1件当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 利用1件当たりの総コスト平均額は、69.3千円/件である。
- 最も高いのは、戸沢公園運動広場であり、199.1千円/件、最も低いのはわかぐり運動公園であり33.6千円/件である。



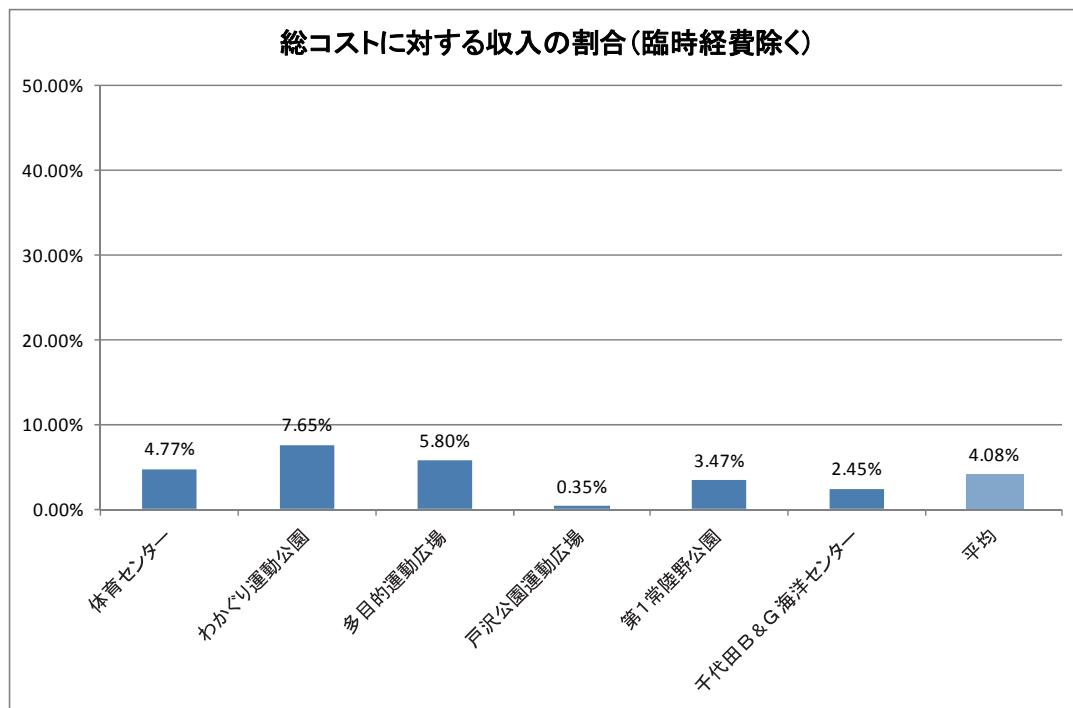
④維持管理費（臨時経費除く）

- 維持管理費の平均額は、11,693千円である。
- 最も高いのは、多目的運動広場であり、21,497千円である。
- 最も低いのは戸沢公園運動広場であり、5,873千円である。



⑤総コストに対する収入の割合（臨時経費除く）

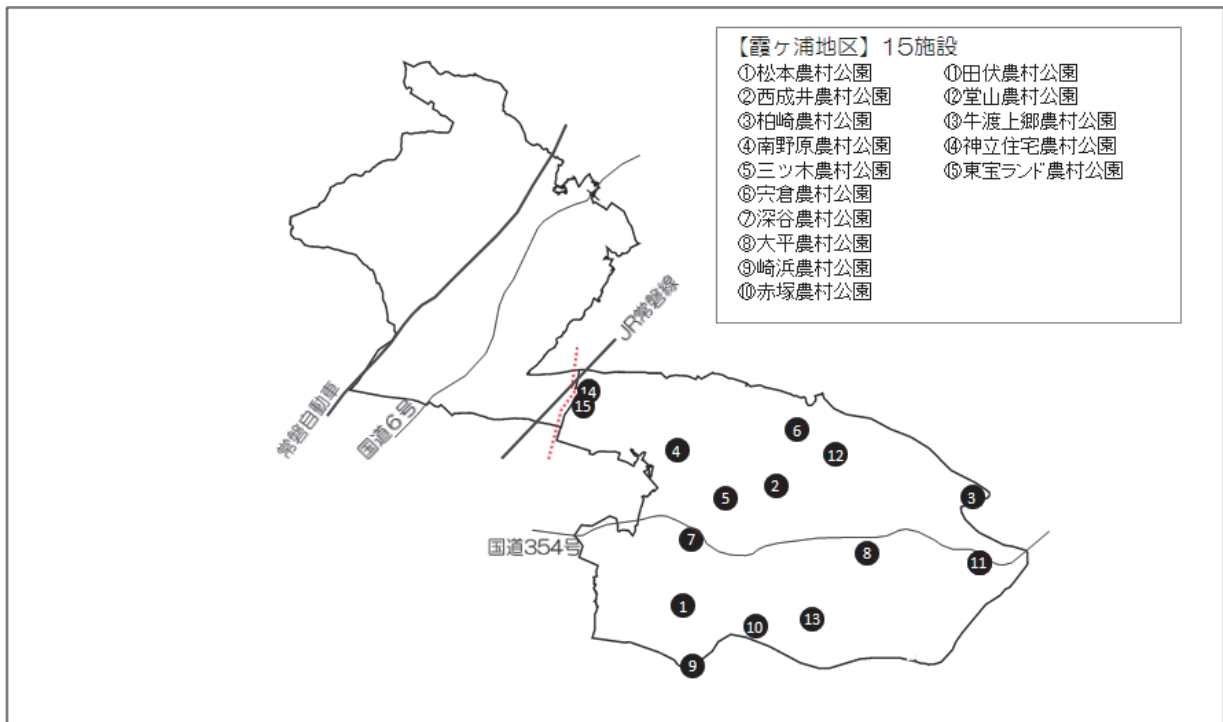
- 総コストに対する収入の割合は、平均で4.08%である。
- 最も収入の割合が高いのは、わかぐり運動公園であり7.65%である。
- 最も低いのは戸沢公園運動広場であり0.35%である。



(6) 現状と課題

- 全施設が築30年超え、あるいは築30年をまもなく迎える施設であるため、老朽化への対応が必要となる。
- 利用状況が把握されていない施設があるが、千代田B&G海洋センターを除き、稼働率は30%程度である。特に、戸沢公園運動広場は低く、9.9%になっている。
- 運動公園では特に維持管理費が高くなっている一方で、総コストに対する収入の割合は平均で1割に満たない状況である。

2-2. 農村公園



(1) 施設状況

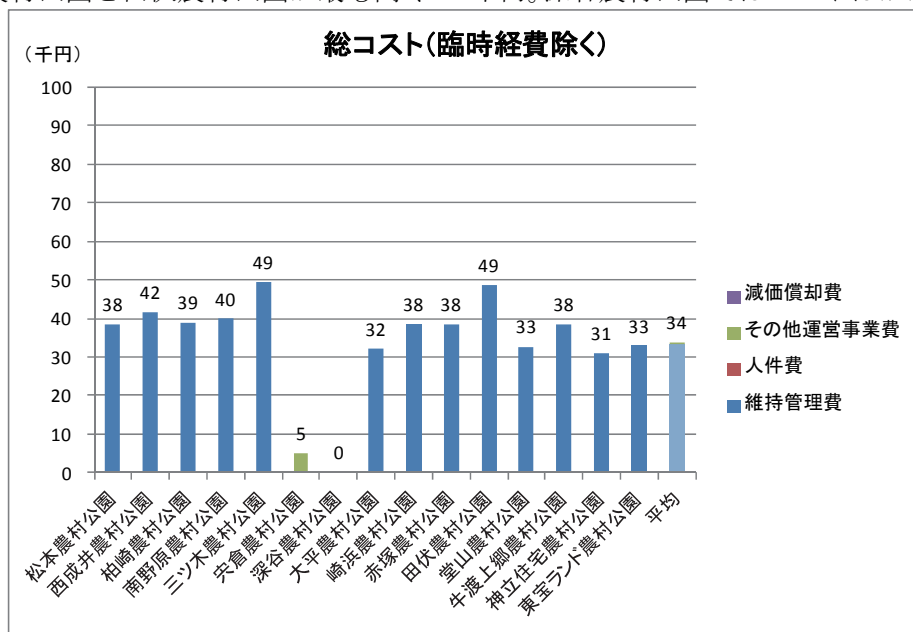
- 農村公園は、計 15 施設あり、総敷地面積は 19,629.00 m²である。
- 宍倉農村公園が最も広く、神立住宅農村公園が最も小さい施設である。
- 土地も含めて施設全てを市が所有しているのは、柏崎農村公園、宍倉農村公園、田伏農村公園、神立住宅農村公園及び東宝ランド農村公園の 5 施設のみである。

施設名	所在地	開設年	延床面積	敷地面積	所有面積	複合施設区分	建物保有状況	土地保有状況	駐車可能台数
松本農村公園	加茂2380番地	S53	0.00	1,000.00	0	単独		その他	0
西成井農村公園	西成井85番地	S53	0.00	1,920.00	1,734.00	単独		その他	0
柏崎農村公園	柏崎936番地1	S53	0.00	1,120.00	1,120.00	単独		所有	0
南野原農村公園	宍倉6199番地17	S53	0.00	1,400.00	0	単独		その他	0
三ツ木農村公園	三ツ木490番地	S54	0.00	2,700.00	0	単独		その他	0
宍倉農村公園	宍倉1647番地2	S54	0.00	3,050.00	3,050.00	単独		所有	0
深谷農村公園	深谷1397番地1	S54	0.00	540.00	0	単独		その他	0
大平農村公園	坂4487番地	S54	0.00	590.00	468.00	単独		その他	0
崎浜農村公園	加茂487番地	S55	0.00	1,000.00	0	単独		その他	0
赤塚農村公園	加茂3590番地1	S55	0.00	1,000.00	0	単独		その他	0
田伏農村公園	田伏3838番地1	S56	0.00	2,500.00	2,500.00	単独		所有	0
堂山農村公園	宍倉223番地	S59	0.00	772.00	0	単独		その他	0
牛渡上郷農村公園	牛渡5264番地1	H3	0.00	1,000.00	0	単独		その他	0
神立住宅農村公園	宍倉6147番地293	H15	0.00	245.00	245.00	単独		所有	0
東宝ランド農村公園	宍倉6147番地88	H15	0.00	792.00	792.00	単独		所有	0
合計			0.00	19,629.00	9,909.00				0

(2) コスト状況

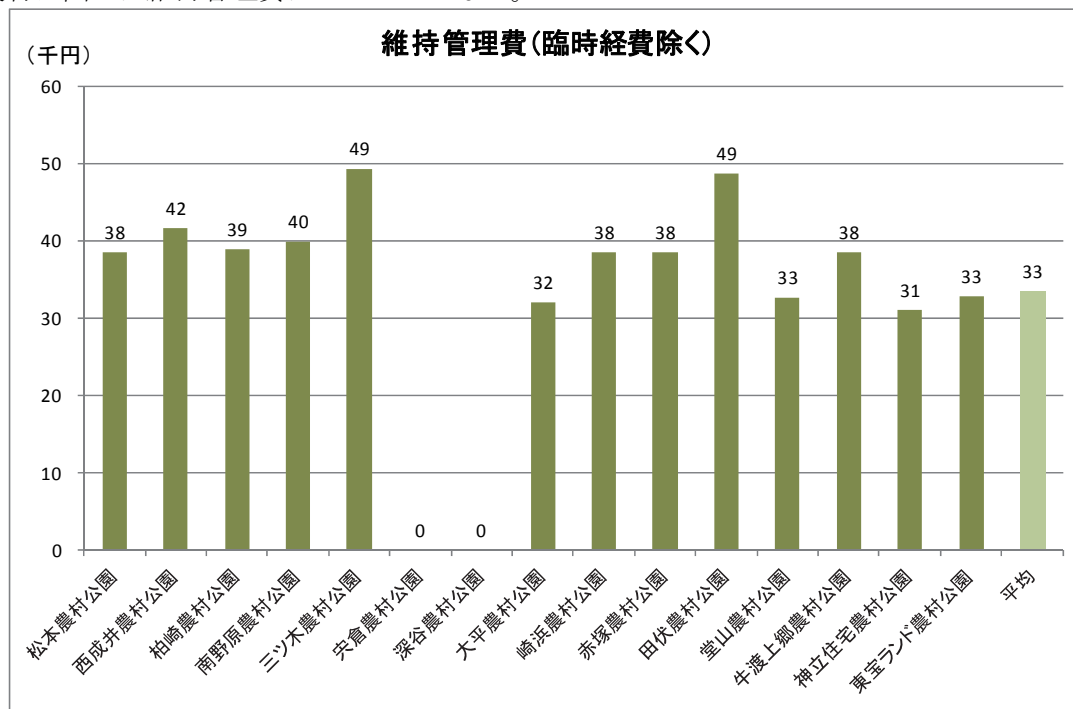
①総コスト（臨時経費除く）

- 農村公園全体の総コストは、505 千円である。
- 農村公園全体の平均総コストは、34 千円で宍倉農村公園以外ではかかっているのは維持管理費のみである。
- 三ツ木農村公園と田伏農村公園が最も高く 49 千円。深谷農村公園ではコストはかかっていない。



②維持管理費（臨時経費除く）

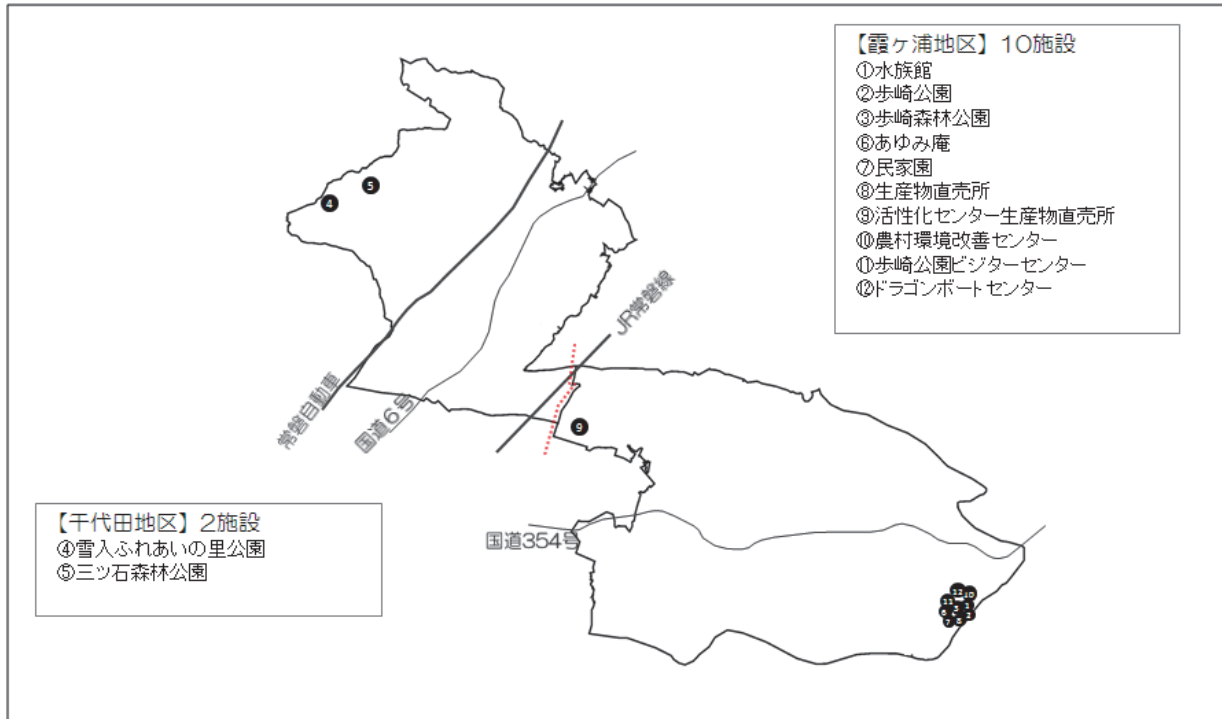
- 維持管理費の平均額は 33 千円である。
- 三ツ木農村公園と田伏農村公園が最も高く、総コストは 49 千円である。宍倉農村公園及び深谷農村公園では維持管理費はかかっていない。



(3) 現状と課題

- ほとんどの農村公園が、設置後 30 年以上経過しており、遊具等の老朽化が進行している。

3. 観光系施設



(1) 施設状況

- 観光系施設は計 12 施設があり、総延床面積は 4,040.85 m²である。
- 農村環境改善センターが 1,190.78 m²、雪入ふれあいの里公園のネイチャーセンターが 668.41 m²であるが、ほとんどの施設は 100 m²前後である。
- 雪入ふれあいの里公園、三ツ石森林公園以外は、霞ヶ浦地区にあり、特に霞ヶ浦近傍にさまざまな施設がある。
- 歩崎公園は同一敷地に複数の施設が建っており、農村環境改善センターは、佐賀地区公民館が併設されている。
- 建物は全て市の所有であるが、土地については水族館、歩崎公園、生産物直売所については、河川敷を占用しており、活性化センター生産物直売所、ドラゴンボートセンターは敷地の全てを借上げ、歩崎森林公園、あゆみ庵、農村環境改善センターは一部借上げである。

施設名	所在地	開設年	延床面積	敷地面積	所有面積	複合施設区分	建物保有状況	土地保有状況	駐車可能台数
水族館	坂910番地1	H2	394.92	869.58	465.00	単独	所有	その他	10
歩崎公園	坂910番地1(代表地番)	S58	153.07	8,807.00	0	併設	所有	その他	130
歩崎森林公園	坂1025番地3	S63	82.80	58,676.00	5,304.00	単独	所有	一部借上	30
雪入ふれあいの里公園	雪入452番地1	H9	668.41	206,102.00	206,102.00	単独	所有	所有	80
三ツ石森林公園	上佐谷307番地2	H3	103.51	53,333.84	53,333.84	単独	所有	所有	30
あゆみ庵	坂888番地2	H3	86.92	21,190.00	1,555.00	単独	所有	一部借上	10
民家園	坂890番地	H4	133.06	1,180.00	1,180.00	単独	所有	所有	10
生産物直売所	坂4784番地	S60	148.20	211.81	0	単独	所有	その他	100
活性化センター生産物直売所	穴倉6343番地2	H12	149.05	2,868.00	0	単独	所有	借上	50
農村環境改善センター	坂934番地1	S59	1,190.78	9,554.84	5,471.84	複合	所有	一部借上	55
歩崎公園ビジターセンター	坂1029番地1	H22	628.51	4,042.44	4,042.44	単独	所有	所有	60
ドラゴンボートセンター	坂2038番地	H9	301.62	1,903.00	0	単独	所有	借上	20
合計			4,040.85	368,738.51	277,454.12				585

(2) 建物状況

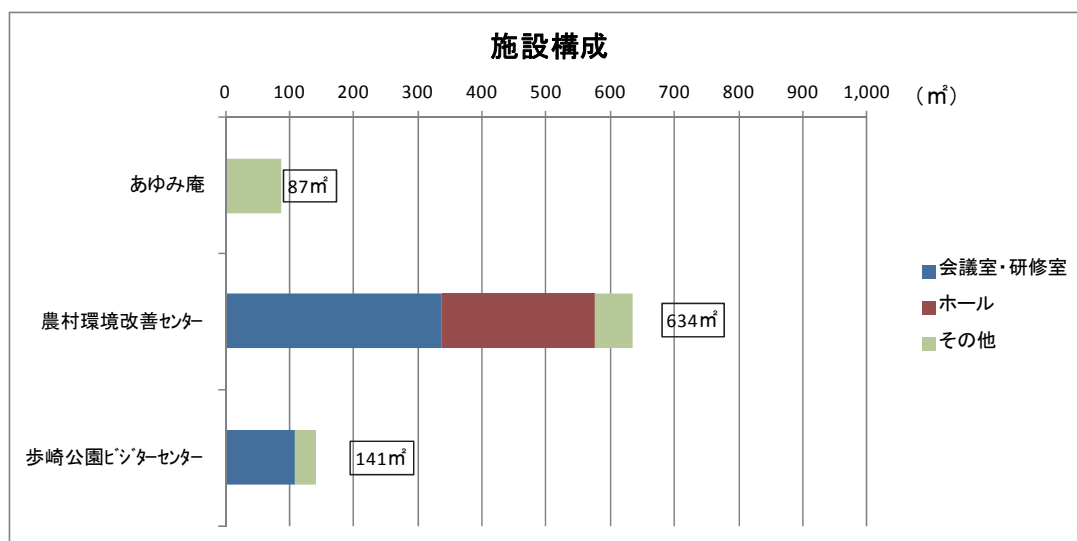
①建物状況

- ・ 築30年を超える施設は1施設のみであるが、20年を超える施設は7施設となっており、木造施設が多い。今後老朽化への対応が求められる。
- ・ 水族館、生産物直売所、ドラゴンポートセンターは鉄骨造、歩崎公園、農村環境改善センター、歩崎公園ビジターセンターはRC造、その他は木造である。
- ・ 機能改善への取組は進んでいない。
- ・ 環境対応については、全施設において未実施の状況である。

施設名	建物状況			耐震性		機能改善	機能改善(バリアフリー)					環境負荷低減		
	建築年	築年数	構造	耐震診断	耐震補強	機能改善(バス対策)	車いす用エレベーター	身障者用トイレ	車いす用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	自然エネルギー・太陽	環境対応設備
水族館	H1	24	S造	-	-	●	-	×	●	×	×	×	×	×
歩崎公園	S58	30	RC造	-	-	●	-	●	-	-	-	×	×	×
歩崎森林公園	S63	25	W造	-	-	●	-	×	×	-	×	×	×	×
雪入ふれあいの里公園	H9	16	W造	-	-	●	-	×	×	●	●	×	×	×
三ツ石森林公園	H9	16	W造	-	-	●	-	×	×	×	●	×	×	×
あゆみ庵	H3	22	W造	-	-	●	-	-	×	-	×	-	×	×
民家園	H4	21	W造	対象外	-	●	-	-	×	-	-	-	×	×
生産物直売所	S60	28	S造	-	-	●	-	×	-	×	×	×	×	×
活性化センター生産物直売所	H12	13	W造	-	-	●	-	×	-	×	×	×	×	×
農村環境改善センター	S59	29	RC造	-	-	●	×	×	×	×	●	×	×	×
歩崎公園ビジターセンター	S60	28	RC造	-	-	●	-	●	●	●	-	×	×	×
ドラゴンポートセンター	H9	16	S造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×

②施設構成

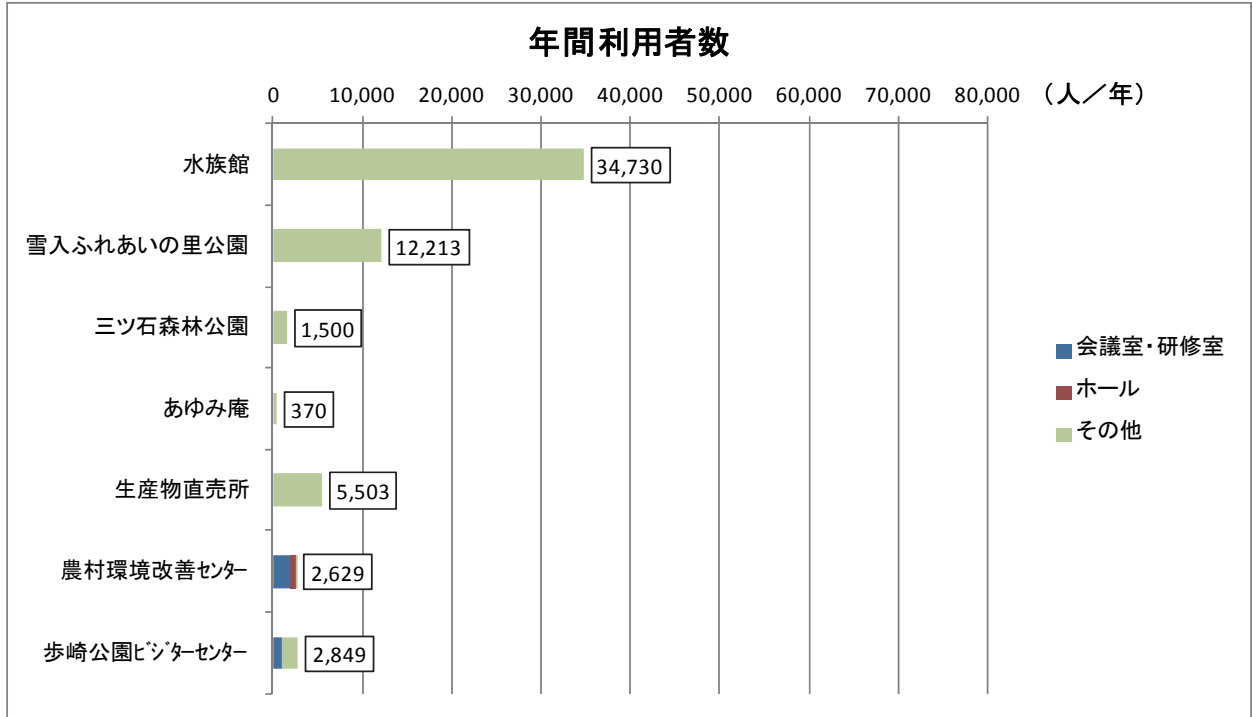
- ・ 貸出施設がある3施設についてみると、農村環境改善センターは会議室とホール(集会室・実習室)、歩崎公園ビジターセンターは会議室と市民活動室(その他)、あゆみ庵はその他となっている。



(3) 利用状況

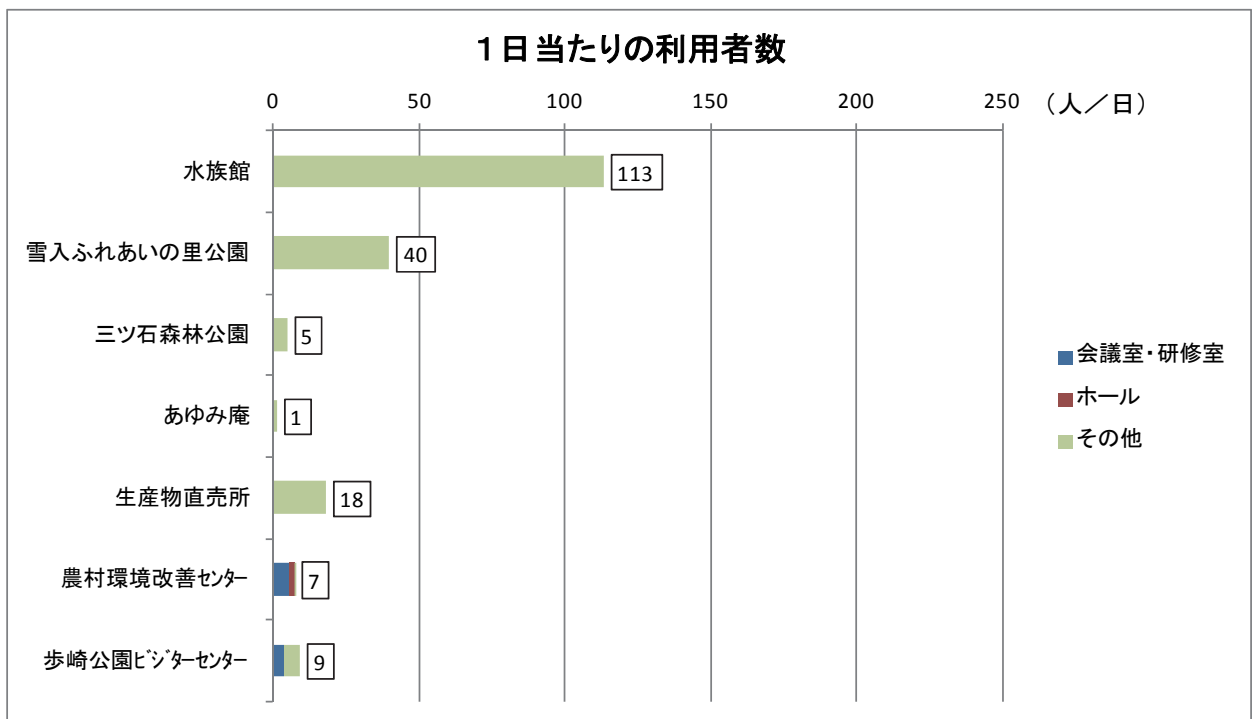
①年間利用者数

- 利用者数が把握されている施設では、水族館が最も多く年間 34,730 人であり、次いで雪入ふれあいの里公園 12,213 人となっている。最も利用が少ないのは、あゆみ庵 370 人である。



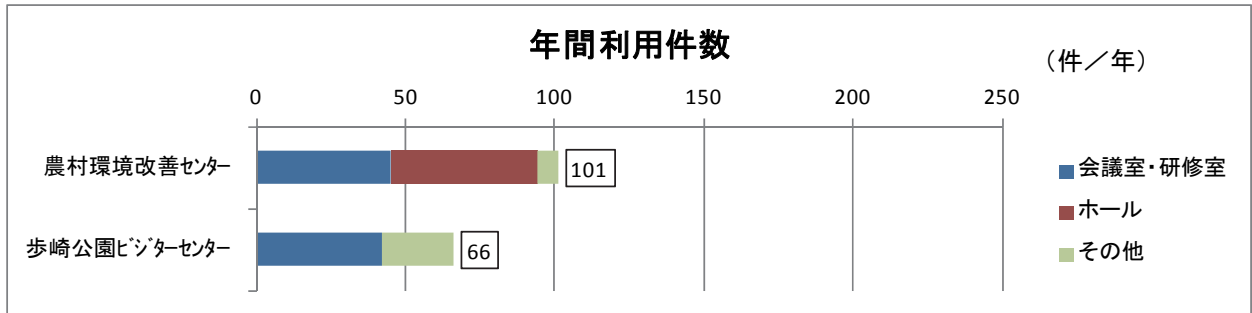
②1日当たりの利用者数

- 水族館、雪入ふれあいの里公園以外は、1日当たりの利用は10人前後である。



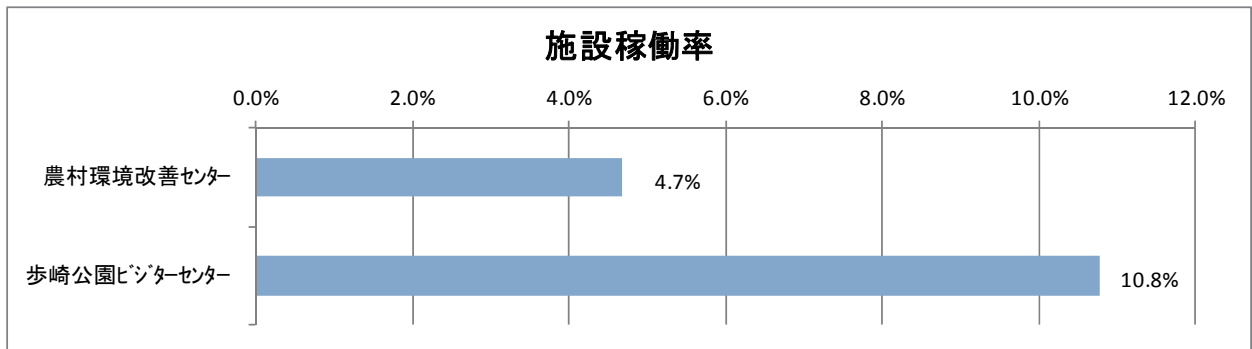
③年間利用件数

- 利用件数が把握されている施設をみると、農村環境改善センターが101件であり、歩崎公園ビジターセンターが66件である。



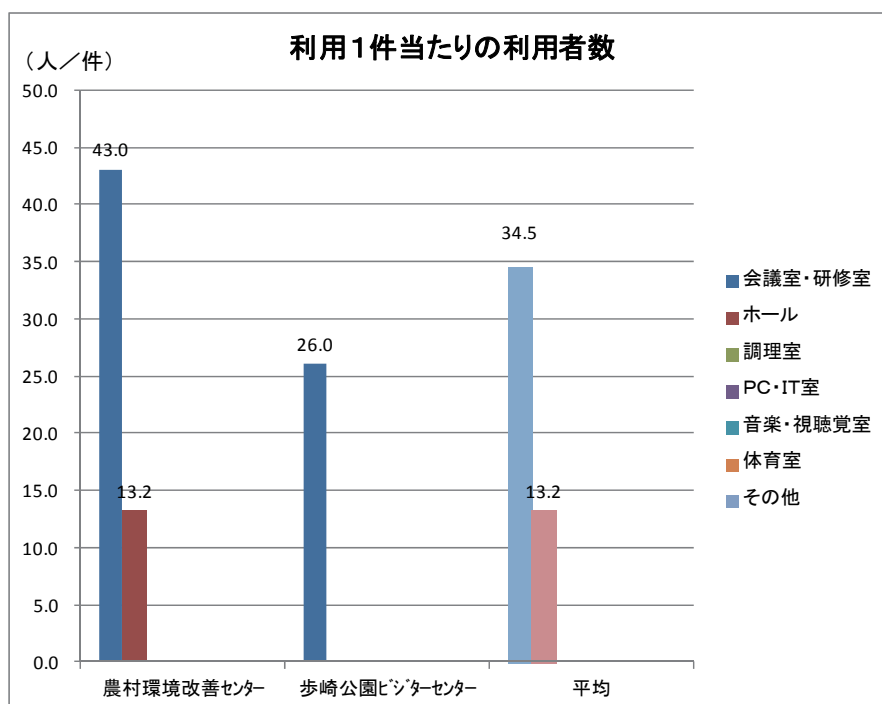
④施設稼働率

- 施設稼働率はいずれも10%程度と低い。



⑤利用1件当たりの利用者数

- 利用1件当たりの利用者数は会議室・研修室では比較的多く、それぞれ43.0人、26.0人である。
- 農村環境改善センターの集会室・実習室では13.2人となっている。



(4) 運営状況

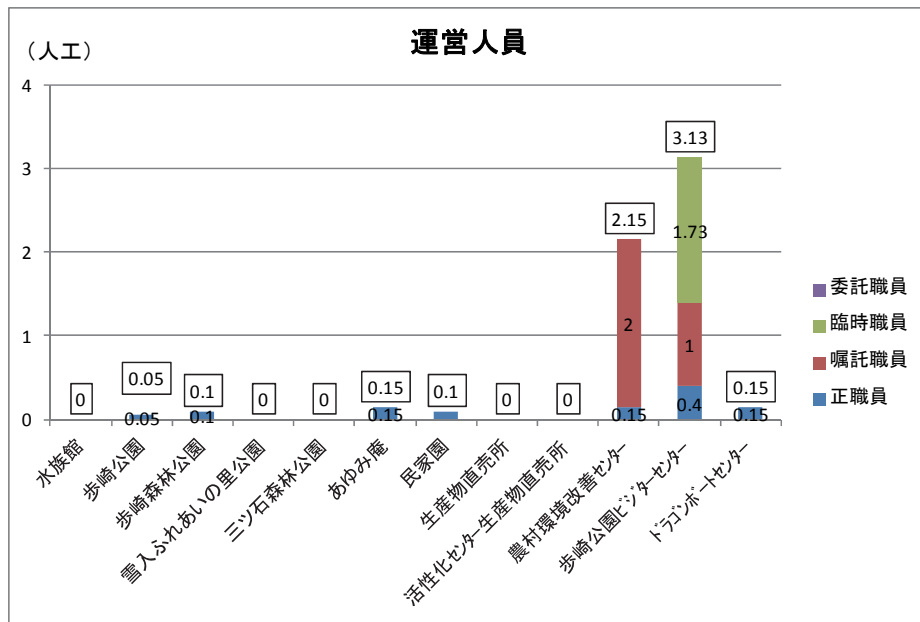
①運営状況

- 指定管理者制度を導入している施設が5施設、直営が6施設、包括委託が1施設ある。
- 運営時間は、9時又は10時～16時又は17時までの施設が多いが農村環境改善センター(22時)、歩崎公園ビジターセンター(21時)は夜間まで運営している。

施設名	運営方法	定休日	開始時間	終了時間
		月曜日		
水族館	指定管理(利用料金)	●	9:00	17:00
歩崎公園	直営			
歩崎森林公園	直営			
雪入ふれあいの里公園	指定管理(利用料金)	●	9:00	16:30
三ツ石森林公園	指定管理(利用料金)	●	9:00	16:30
あゆみ庵	包括委託	●	10:00	16:00
民家園	直営	●	10:00	16:00
生産物直売所	指定管理(使用料)	●	9:00	17:00
活性化センター生産物直売所	指定管理(使用料)	●	9:00	17:00
農村環境改善センター	直営		9:00	22:00
歩崎公園ビジターセンター	直営	●	9:00	21:00
ドラゴンボートセンター	直営		9:00	16:30

②運営人員

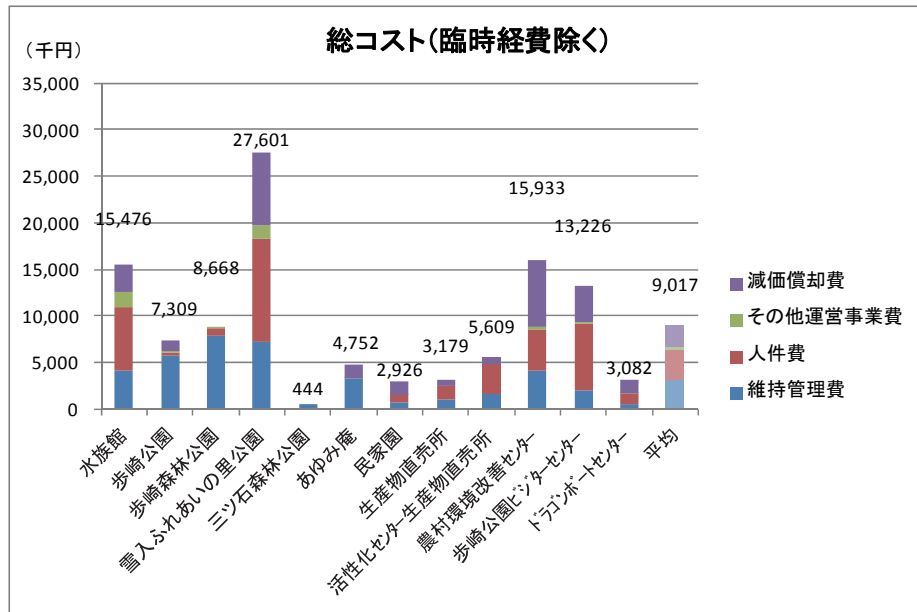
- 運営人員は歩崎公園ビジターセンターが最も多く3.13人で、次いで農村環境改善センターが多い。



(5) コスト状況

①総コスト（臨時経費除く）

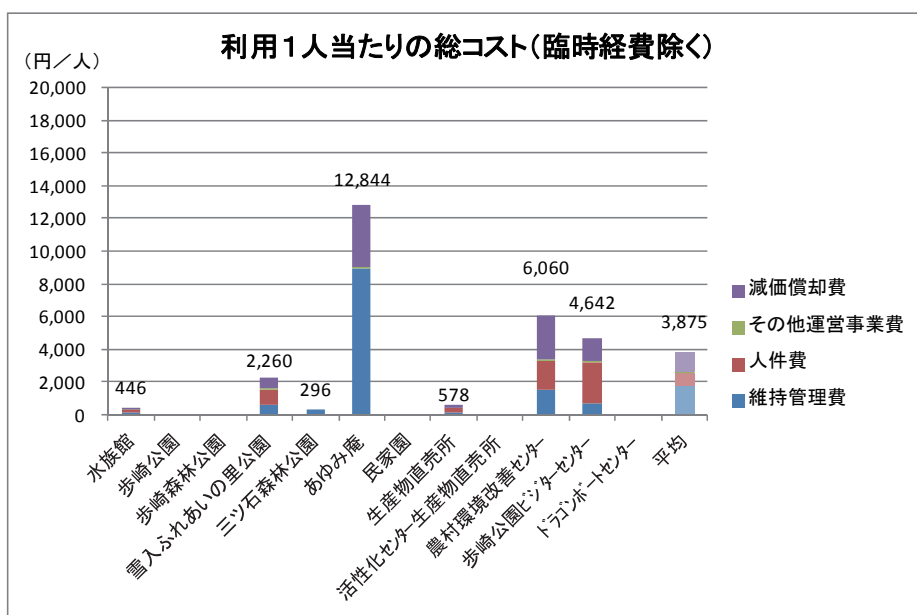
- 観光系施設全体の総コストは 108 百万円である。
- 観光系施設の平均総コストは 9,017 千円で、人件費と維持管理費がほぼ同じ割合である。
- 雪入ふれあいの里公園が最も高く、27,601 千円。最も低いのが、三ツ石森林公園の 444 千円である。



※指定管理者制度を導入している 5 施設は、指定管理者のコスト状況を示す。

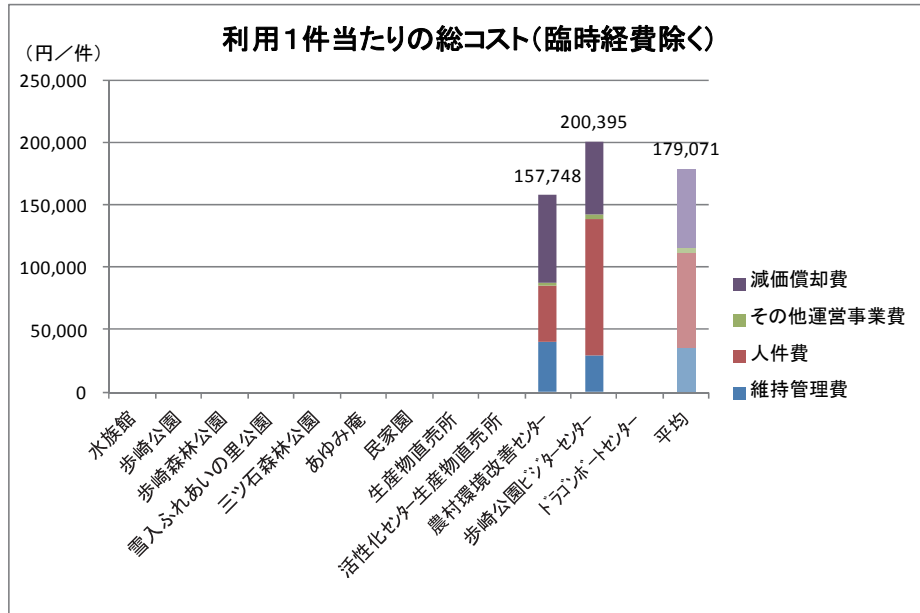
②利用 1 人当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 利用 1 人当たりの総コスト平均額は 3.9 千円／人である。
- 最も高いのは、利用の少ないあゆみ庵で 12.8 千円／人であり、最も低いのは三ツ石森林公園の 296 円／人である。



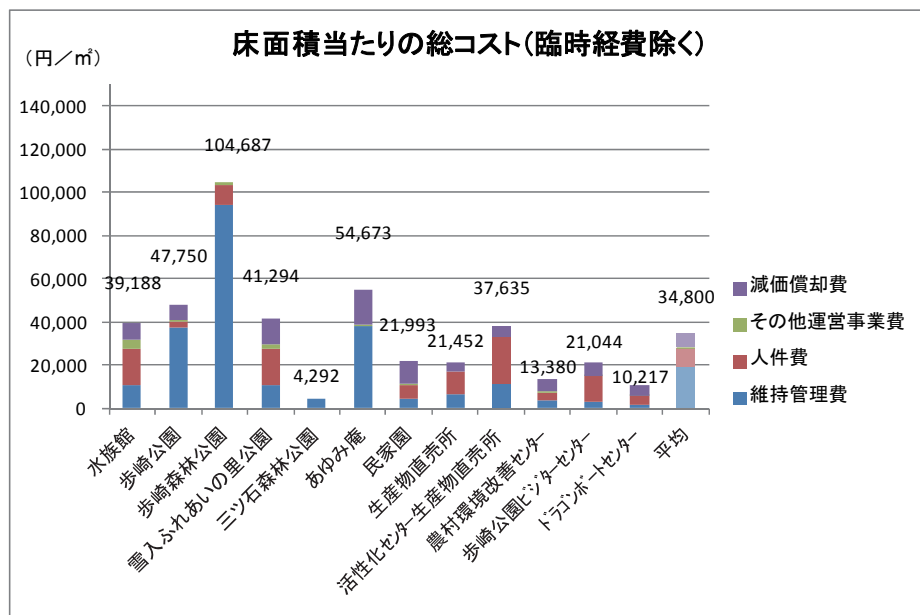
③利用1件当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 利用1件当たりの総コストは歩崎公園ビジターセンターで200.0千円/件、農村環境改善センターで157.7千円/件である。



④床面積当たりの総コスト（臨時経費除く）

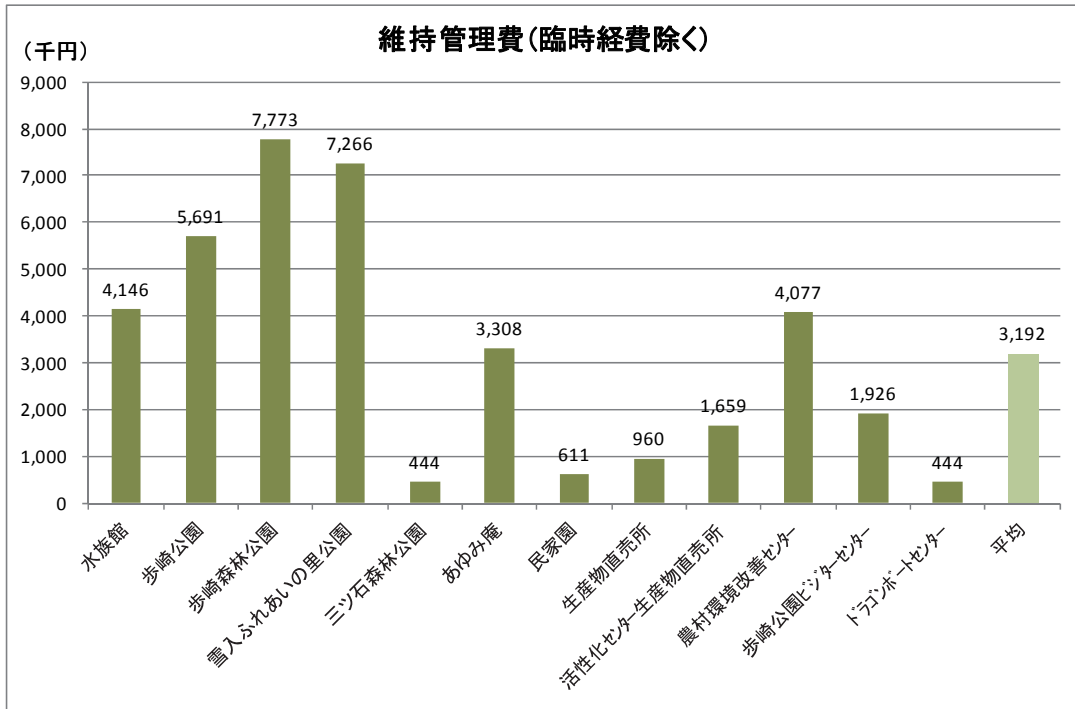
- 床面積当たりの総コスト平均額は34.8千円/m²である。
- 最も高いのは歩崎森林公園の104.7千円/m²、最も低いのは三ツ石森林公園の4.3千円/m²である。



※歩崎森林公園は、建物延床面積が狭小（トイレ等の小規模建物のみ）であるため、床面積当たりの総コストが高くなっている。

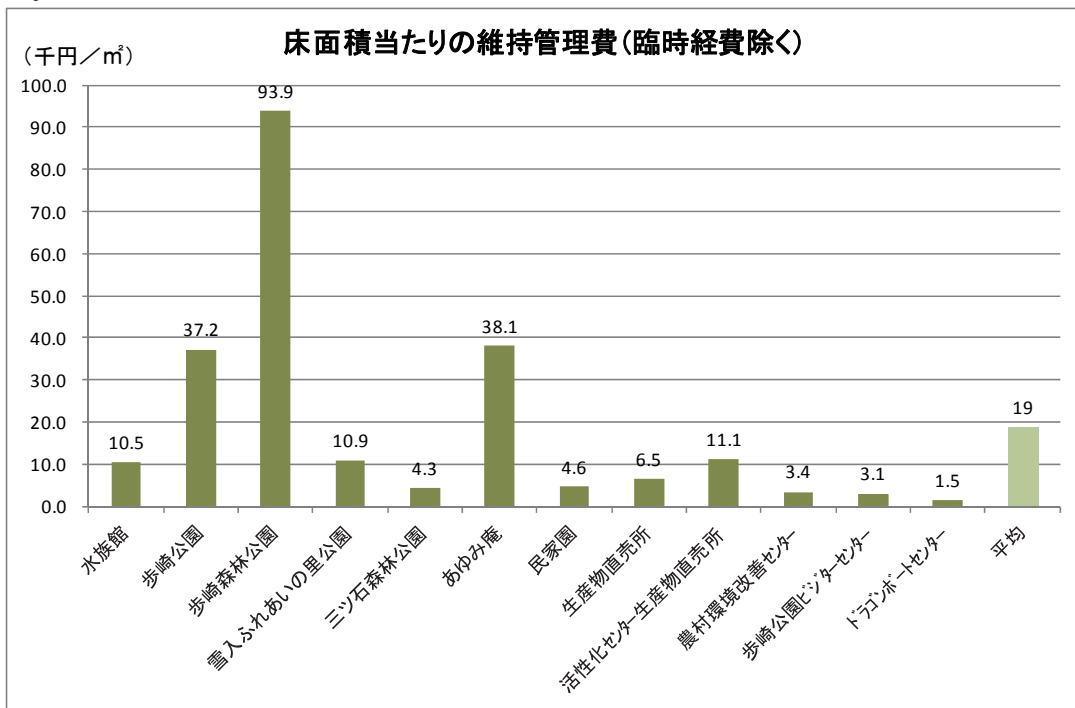
⑤維持管理費（臨時経費除く）

- 維持管理費の平均額は、3,192 千円である。
- 歩崎森林公園が最も高く、7,773 千円、次いで雪入ふれあいの里公園 7,266 千円である。
- 最も低いのは、三ツ石森林公園及びドラゴンポートセンターの 444 千円である。



⑥床面積当たりの維持管理費（臨時経費除く）

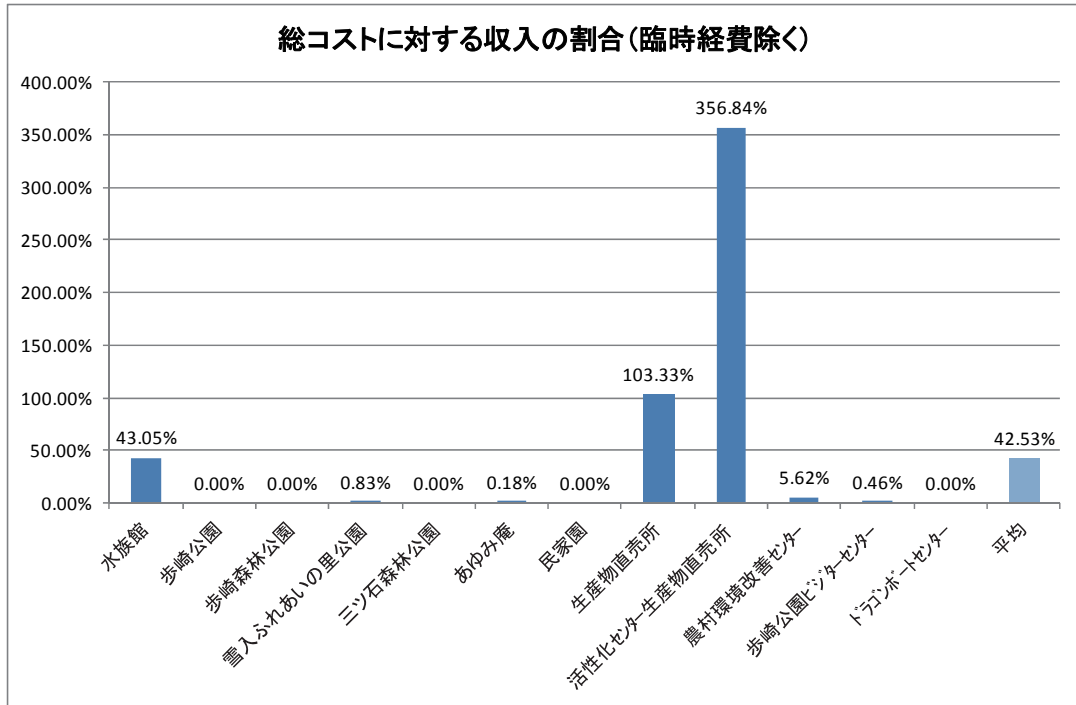
- 床面積当たりの維持管理費の平均は 19.0 千円/m²である。
- 床面積あたりでは最も高いのは、歩崎森林公園で 93.9 千円/m²、次いであゆみ庵、歩崎公園である。



※歩崎森林公園は、建物延床面積が狭小（トイレ等の小規模建物のみ）であるため、床面積当たりの総コストが高くなっている。

⑦総コストに対する収入の割合（臨時経費除く）

- 生産物直売所2施設は収入がコストを上回っている。
- 水族館は入館料や自主事業収入等で総コストの43.05%を賄っているが、その他の施設では収入の割合は低い。

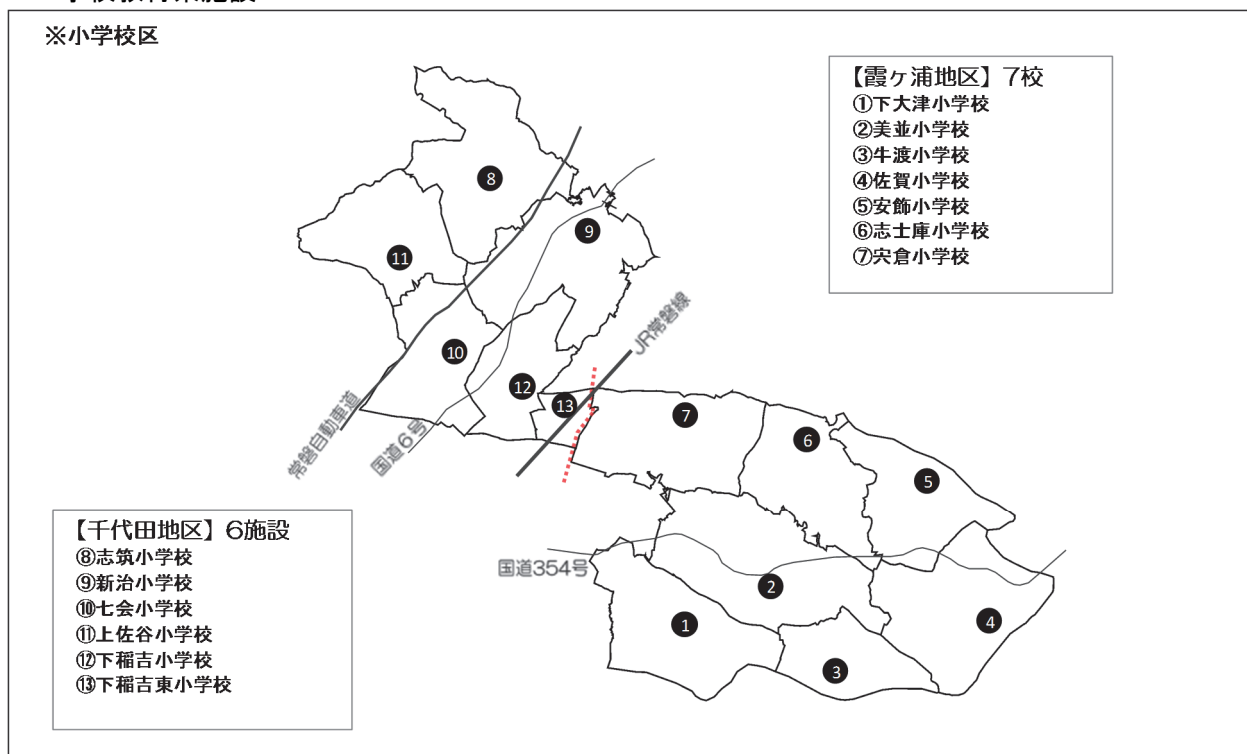


※歩崎公園、歩崎森林公園、三ツ石森林公園、民家園、ドラゴンボートセンターは収入がない。

(6) 現状と課題

- 築30年を超える施設、30年近い施設が多く、老朽化への対応が必要である。
- 水族館を除き、利用者数が少ない状況にあり、三ツ石森林公園、あゆみ庵、農村環境改善センター及び歩崎公園ビジターセンターでは、1日当たりの利用者数が1桁である。
- 指定管理者制度も導入されているが、半数は直営で運営されている。

4. 学校教育系施設



4-1. 小学校

(1) 施設状況

- 合計 13 校の小学校が設置されている。うち 7 校が霞ヶ浦地区、6 校が千代田地区にあり、総延床面積は 49,131.21 m²であり、市の保有する施設で最も多い用途である。
- 霞ヶ浦地区は平成 28 年 4 月に中学校区単位とする統合が計画されており、南中学校区の 4 校(下大津、美並、牛渡、宍倉)を統合し美並小学校校舎を統合校とする予定で、北中学校区の 3 校(佐賀、安飾、志士庫)を統合し北中学校校舎を統合校とする予定である。
- 千代田地区は平成 28 年 4 月に千代田中学校区の 4 校(志筑、新治、七会、上佐谷)を統合する予定で、統合校の校舎については現在検討が進められており、現時点では結論が出ていない。
- 下稲吉小学校、下稲吉東小学校については現行どおり存続予定である。
- 施設の規模は下稲吉小学校、下稲吉東小学校を除き、2,000 m²~4,000 m²程度である。

施設名	所在地	開設年	延床面積	敷地面積	所有面積	複合施設区分	建物保有状況	土地保有状況	駐車可能台数
下大津小学校	加茂4469番地	M36	2,977.00	22,094.00	21,425.00	単独	所有	一部借上	0
美並小学校	深谷3660番地1	S6	4,135.70	21,306.92	21,306.92	単独	所有	所有	0
牛渡小学校	牛渡2873番地	M10	3,265.00	19,412.37	19,412.37	単独	所有	所有	0
佐賀小学校	坂2039番地1	S53	3,477.74	25,365.73	24,646.00	単独	所有	一部借上	0
安飾小学校	安食2235番地	M10	2,721.45	13,055.91	13,055.91	単独	所有	所有	0
志士庫小学校	宍倉1594番地	M22	2,816.00	19,145.49	19,145.49	単独	所有	所有	0
宍倉小学校	宍倉5462番地	M16	3,246.52	14,803.00	14,803.00	単独	所有	所有	0
志筑小学校	中志筑2112番地	M9	3,881.16	20,619.82	20,619.82	単独	所有	所有	0
新治小学校	西野寺736番地	M18	3,443.00	33,868.14	33,868.14	単独	所有	所有	0
七会小学校	上稲吉182番地2	M13	3,792.75	21,749.50	21,749.50	単独	所有	所有	0
上佐谷小学校	上佐谷1837番地	M22	2,175.89	11,753.70	11,753.70	単独	所有	所有	0
下稲吉小学校	下稲吉1623番地5	M8	6,977.00	24,162.03	24,162.03	単独	その他	所有	0
下稲吉東小学校	下稲吉2286番地	S54	6,222.00	25,801.00	25,801.00	単独	所有	所有	0
合計			49,131.21	273,137.61	271,748.88				0

(2) 建物状況

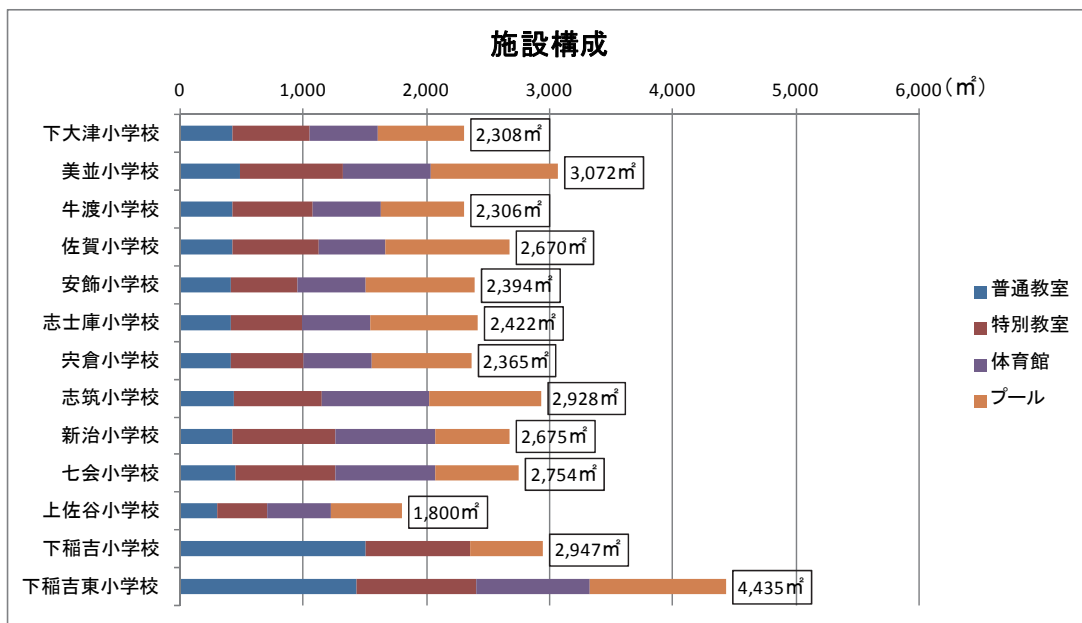
①建物状況

- 志筑小学校を除き、築30年を超えており、老朽化への対応が求められる。
- 施設はいずれもRC造である。
- 耐震対策が必要な施設もあるが、統廃合により存続する施設については、耐震改修が進められているところであり、これにより施設の耐震改修も完了する予定である。
- 機能改善は志筑小学校、下稲吉小学校を除き未実施であり、児童の状況により対応が必要である。
- 環境対応についても、志筑小学校、下稲吉小学校、下稲吉東小学校以外は未実施の状況である。

施設名	建物状況			耐震性		機能改善	機能改善(バリアフリー)					環境負荷低減		
	建築年	築年数	構造	耐震診断	耐震補強	機能改善 (726.5㎡対策)	車いす用 エレベーター	身障者用 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロッカー	自然エネルギー・太陽	環境対応 設備
下大津小学校	S55	33	RC造	実施済	未実施	●	-	×	×	-	×	×	×	×
美並小学校	S53	35	RC造	実施済	未実施	●	-	×	×	-	×	×	×	×
牛渡小学校	S52	36	RC造	実施済	不要	●	-	×	×	-	×	×	×	×
佐賀小学校	S53	35	RC造	実施済	不要	●	-	×	×	-	×	×	×	×
安飾小学校	S47	41	RC造	実施済	未実施	●	-	×	×	-	×	×	×	×
志士庫小学校	S49	39	RC造	実施済	未実施	●	-	×	×	-	×	×	×	×
宍倉小学校	S49	39	RC造	実施済	未実施	●	-	×	×	-	×	×	×	×
志筑小学校	H22	3	RC造	-	-	●	●	●	●	-	×	×	●	●
新治小学校	S44	44	RC造	実施済	未実施	●	-	×	×	-	×	×	×	×
七会小学校	S49	39	RC造	実施済	不要	●	-	×	×	-	×	×	×	×
上佐谷小学校	S56	32	RC造	実施済	未実施	●	-	×	×	-	×	×	×	×
下稲吉小学校	S47	41	RC造	実施済	未実施	●	●	●	●	-	×	×	●	●
下稲吉東小学校	S54	34	RC造	実施済	実施済	●	-	×	×	-	×	×	●	●

②施設構成

- 規模の大きな下稲吉小学校、下稲吉東小学校を除き、若干の差はあるものの、延床面積のうち普通教室、特別教室、体育館、プールの割合はほぼ同様である。
- 下稲吉小学校、下稲吉東小学校は、普通教室が他の学校と比較して3倍程度となっており、その他の施設もやや大きめである。

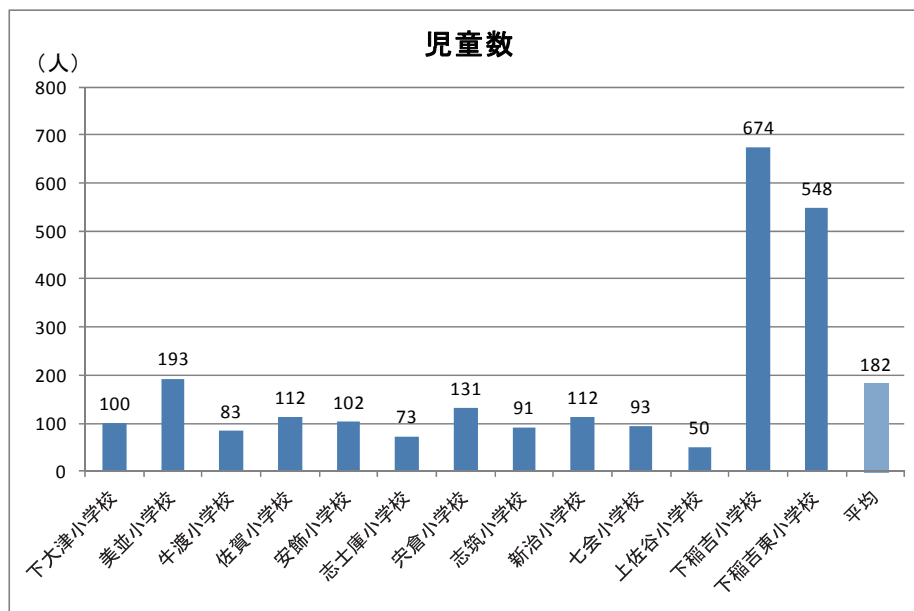


※下稲吉小学校は体育館建替え中。

(3) 利用状況

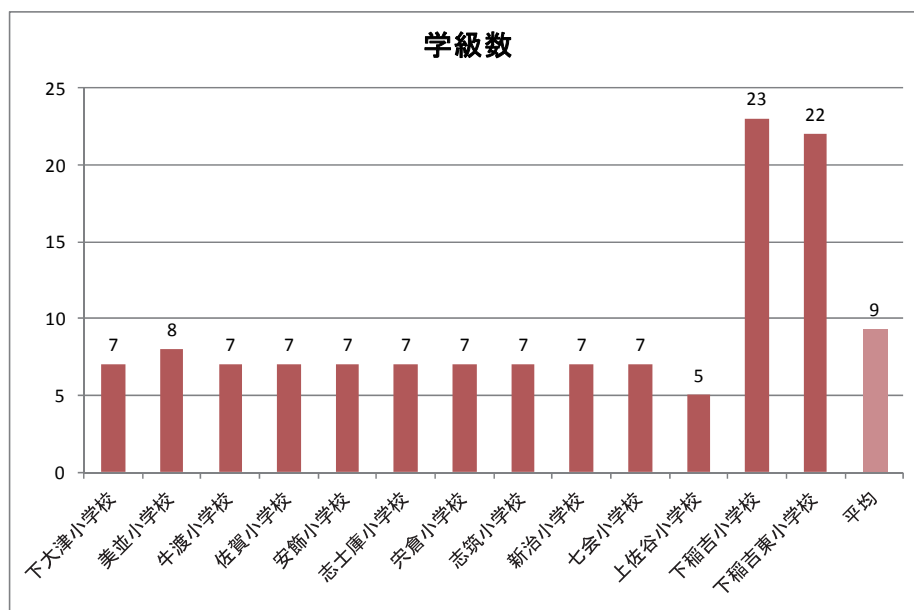
①児童数

- 児童数は平均 182 名であり、下稲吉小学校、下稲吉東小学校を除き、100 名前後である。
- 最も人数が少ないのは上佐谷小学校である。



②学級数

- 学級数は 5 学級から 23 学級と差があり、上佐谷小学校が過小規模校、下稲吉小学校、下稲吉東小学校が大規模校、その他が小規模校となっている。
- 上佐谷小学校は複式学級となっている。



(4) 運営状況

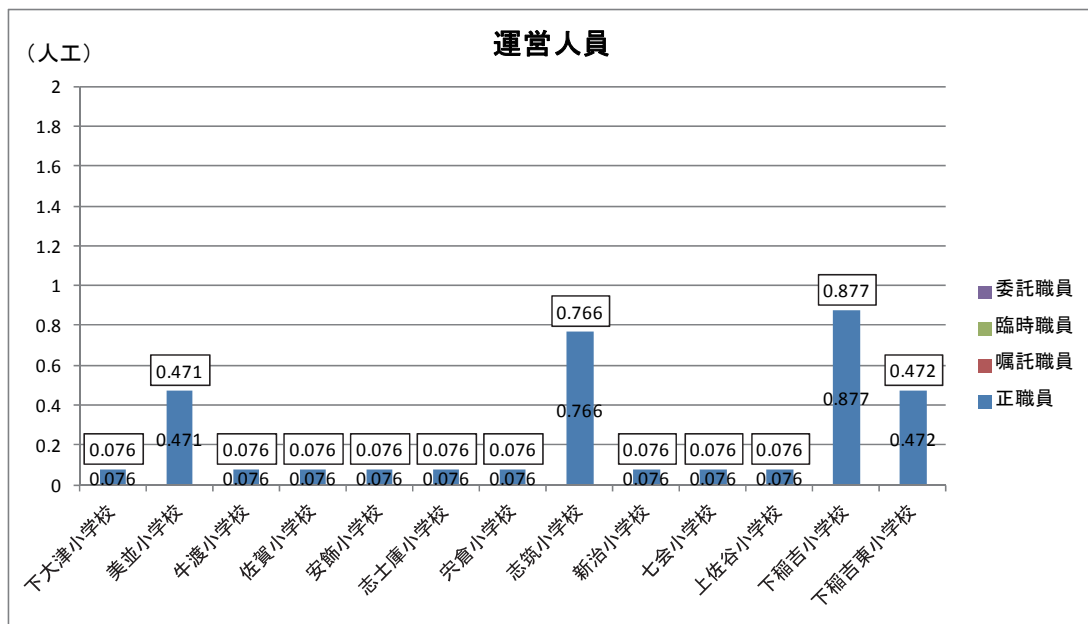
①運営状況

- 学校により運営日数に若干の差があるが、全ての学校で土日が休みで、8:30~17:15 までとなっている。

施設名	運営方法	年間運営日数	定休日		開始時間	終了時間
			土曜日	日曜日		
下大津小学校	直営	197日	●	●	8:30	17:15
美並小学校	直営	197日	●	●	8:30	17:15
牛渡小学校	直営	198日	●	●	8:30	17:15
佐賀小学校	直営	199日	●	●	8:30	17:15
安飾小学校	直営	197日	●	●	8:30	17:15
志土庫小学校	直営	198日	●	●	8:30	17:15
栄倉小学校	直営	198日	●	●	8:30	17:15
志筑小学校	直営	198日	●	●	8:30	17:15
新治小学校	直営	197日	●	●	8:30	17:15
七会小学校	直営	197日	●	●	8:30	17:15
上佐谷小学校	直営	197日	●	●	8:30	17:15
下稲吉小学校	直営	197日	●	●	8:30	17:15
下稲吉東小学校	直営	197日	●	●	8:30	17:15

②運営人員

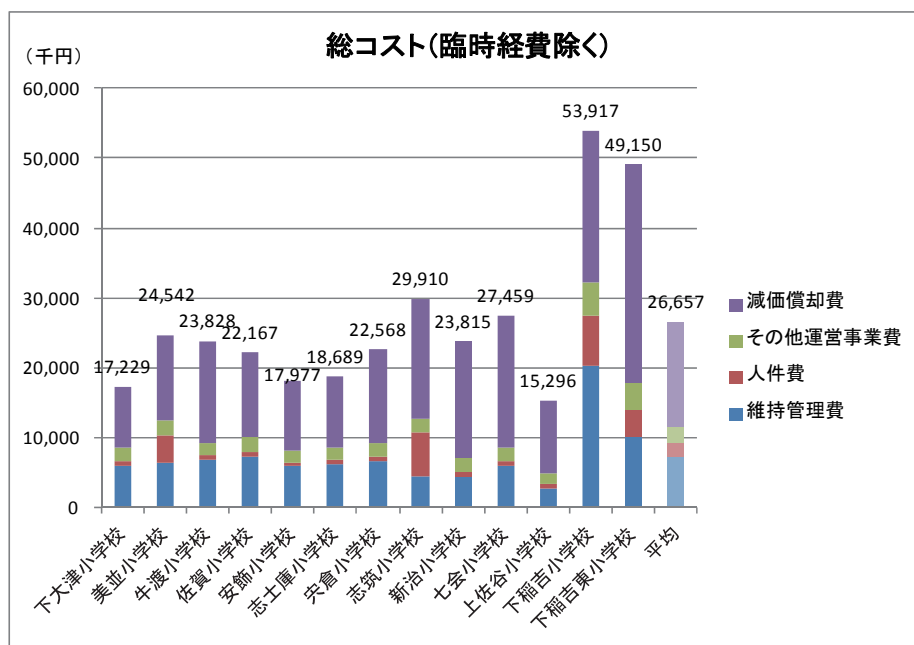
- 小学校施設整備を進めている下稲吉小学校、下稲吉東小学校のほか、美並小学校、志筑小学校に人員が多く携わっているが、他は全て同じ人工が充てられている。(教員は除く)



(5) コスト状況

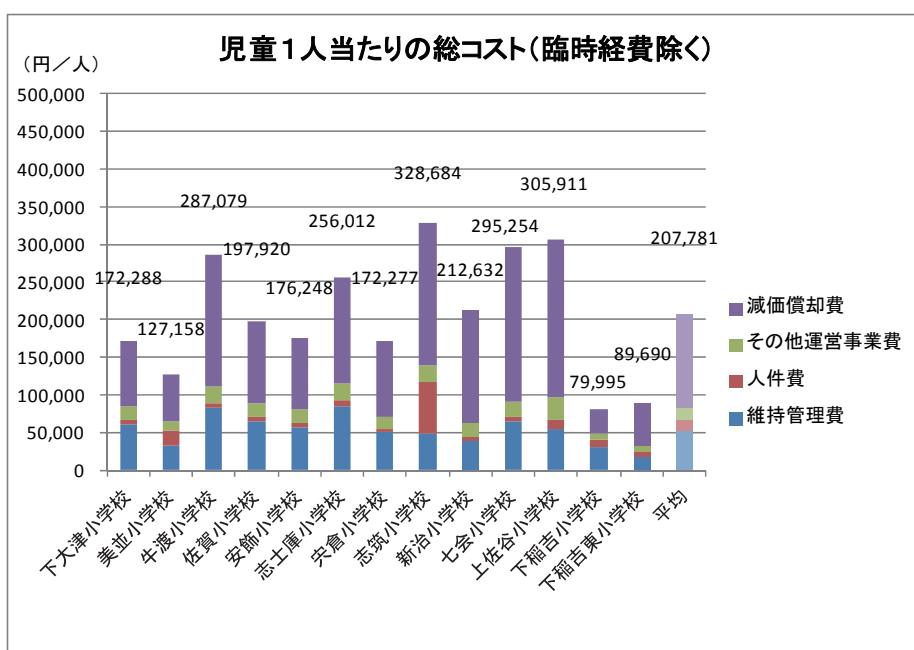
①総コスト（臨時経費除く）

- 小学校全体の総コストは 347 百万円である。
- 平均総コストは 26,657 千円で、減価償却費が大きく、それを除くコストは全体の 43%である。
- 規模の大きな下稲吉小学校、下稲吉東小学校でコストが高い。



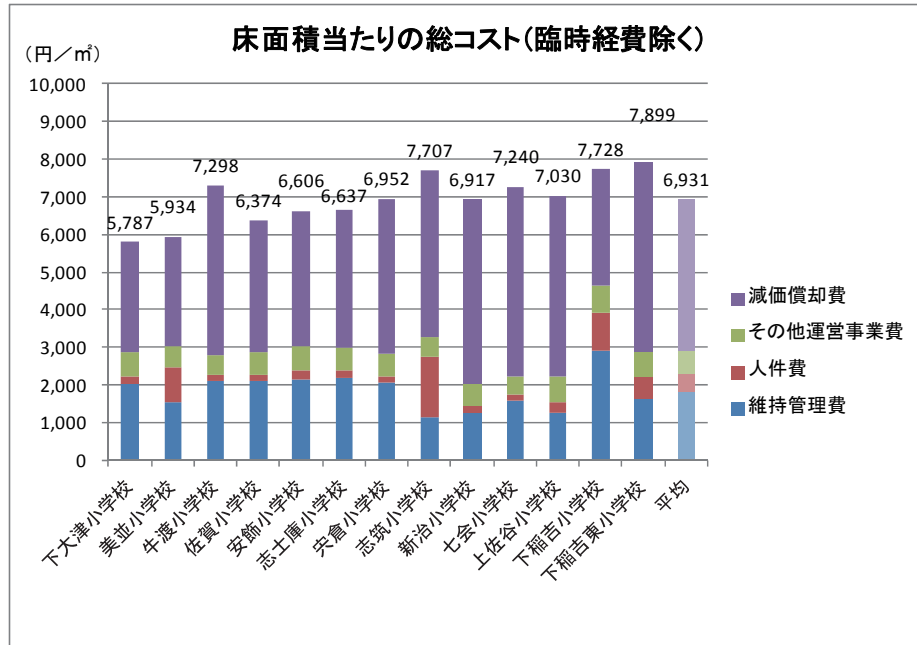
②児童1人当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 児童1人当たりの総コスト平均額は、207.8 千円/人となっている。
- 最もコストが高いのが志筑小学校の 328.7 千円/人、最も低いのが下稲吉小学校の 80.0 千円/人となっており、児童数の多い下稲吉小学校、下稲吉東小学校のコストが低い結果となっている。



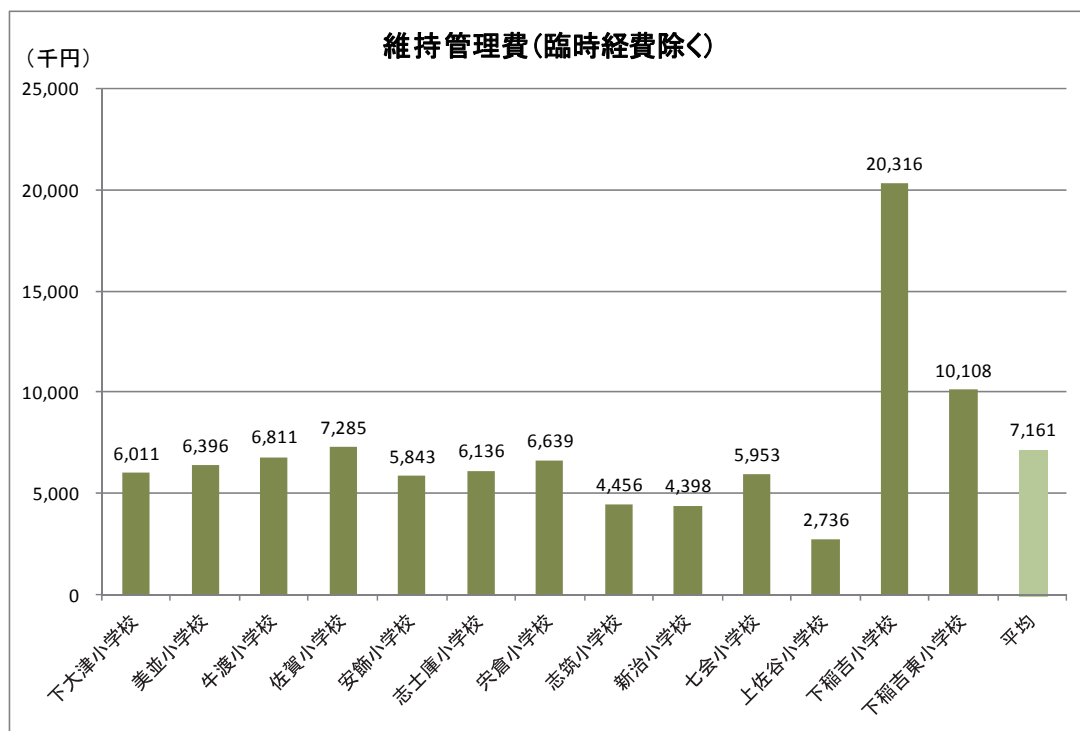
③床面積当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 床面積当たりの総コスト平均額は、6.9千円/m²である。
- 最も高いのは下稲吉東小学校の7.9千円/m²、最も低いのは、下大津小学校の5.8千円/m²である。



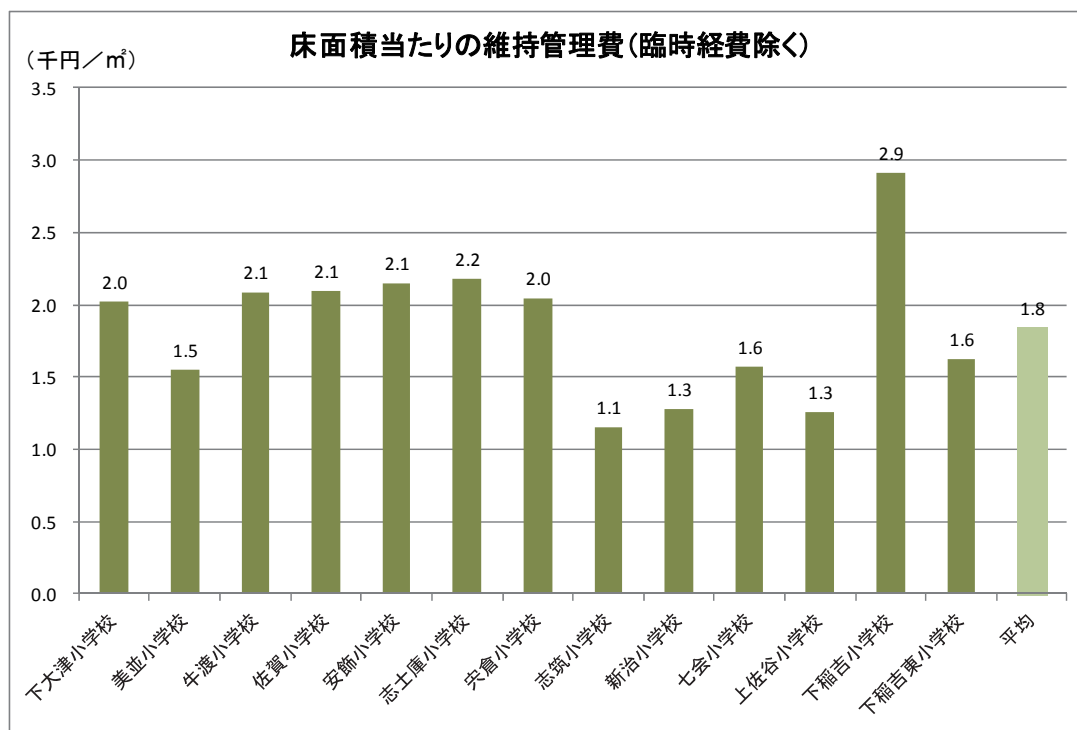
④維持管理費（臨時経費除く）

- 維持管理費は平均7.2百万円であり、最もコストが高いのが下稲吉小学校の20.3百万円、最も低いのが上佐谷小学校の2.7百万円である。
- 下稲吉小学校は校舎借上料を含んでいるためコストが高いが、それを除けば下稲吉東小学校と同程度であり、両校は規模が大きいことから、他校よりコストが高くなっている。



⑤床面積当たりの維持管理費（臨時経費除く）

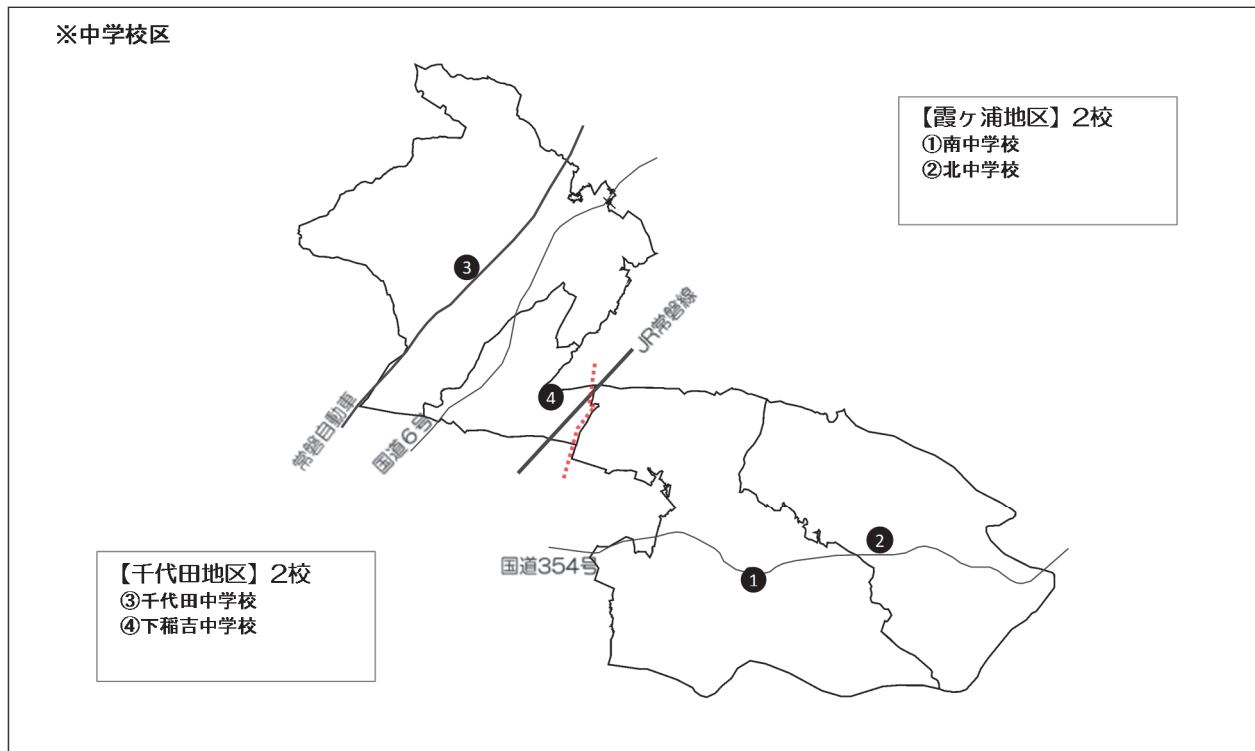
- 床面積当たりの維持管理費の平均は、1.8 千円/m²である。
- 床面積当たりでは、校舎借上料を含む下稲吉小学校を除けば、最も高いのが志士庫小学校の 2.2 千円/m²、最も低いのは志筑小学校の 1.1 千円/m²である。



(6) 現状と課題

- 児童数、規模等が小学校により異なるが、現在、統廃合が進められているところである。
- 築 30 年を超える施設が多いため、統廃合後の校舎として使用する際には、老朽化への対応が必要である。
- 小学校によって維持管理費に差がある。
- 廃校後の施設の対応については未定である。

4-2. 中学校



(1) 施設状況

- 合計4校の中学校が設置されている。震ヶ浦地区と千代田地区にそれぞれ2校あり、総延床面積は28,709.00㎡である。
- 震ヶ浦地区の南中学校、北中学校を統合し、震ヶ浦中学校として平成26年4月に開校予定で、現在の南中学校校舎を統合校とすることになっている。
- 千代田地区の下稲吉中学校、千代田中学校は現行どおり存続の予定である。
- 施設の規模は北中学校の6,157.00㎡から、下稲吉中学校の7,925.00㎡となっている。

施設名	所在地	開設年	延床面積	敷地面積	所有面積	複合施設区分	建物保有状況	土地保有状況	駐車可能台数
南中学校	深谷3398番地2	S36	7,253.00	33,601.49	33,601.49	単独	所有	所有	0
北中学校	下髙部1232番地	S33	6,157.00	36,947.64	36,947.64	単独	所有	所有	0
千代田中学校	上佐谷990番地	S32	7,374.00	44,137.19	44,137.19	単独	所有	所有	0
下稲吉中学校	下稲吉2273番地2	S56	7,925.00	32,745.00	29,770.00	単独	所有	一部借上	0
合計			28,709.00	147,431.32	144,456.32				0

(2) 建物状況

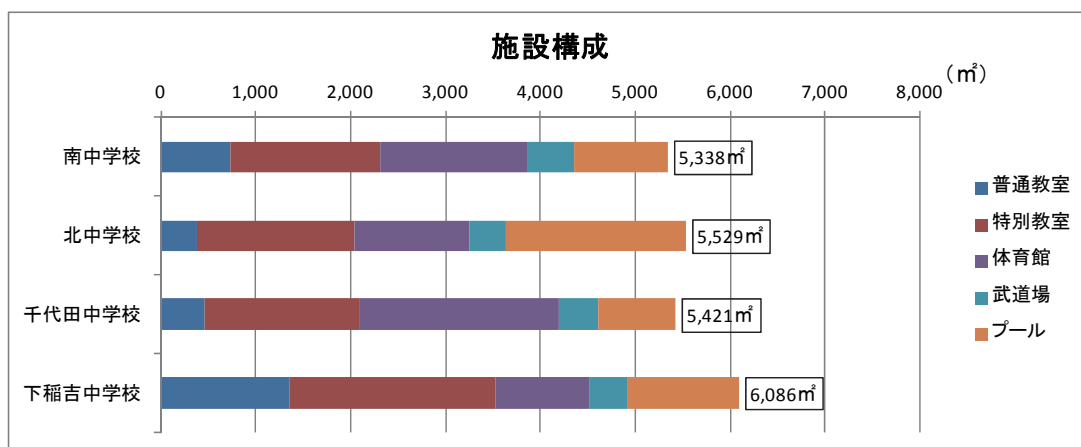
①建物状況

- 南中学校を除き、築30年を超えており、老朽化への対応が求められる。
- 施設はいずれもRC造である。
- 耐震対策は全て実施済みである。統廃合により存続する施設については、耐震改修が進められているところであり、これにより施設の耐震改修も完了する予定である。
- 機能改善は全ての施設で未実施であり、生徒の状況により対応が必要である。
- 環境対応については、対策が進められているところである。

施設名	建物状況			耐震性		機能改善 (75%以上対象)	機能改善(バリアフリー)					環境負荷低減		
	建築年	築年数	構造	耐震診断	耐震補強		車いす用 エレベーター	身障者用 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	自然エネルギー・太陽	環境対応設備
南中学校	S59	29	RC造	-	-	●	-	×	-	×	×	×	▲	▲
北中学校	S56	32	RC造	実施済	不要	●	-	×	-	×	×	×	▲	▲
千代田中学校	S58	30	RC造	-	-	●	-	×	-	×	×	×	●	×
下稲吉中学校	S56	32	RC造	実施済	実施済	●	-	×	-	×	×	×	▲	×

②施設構成

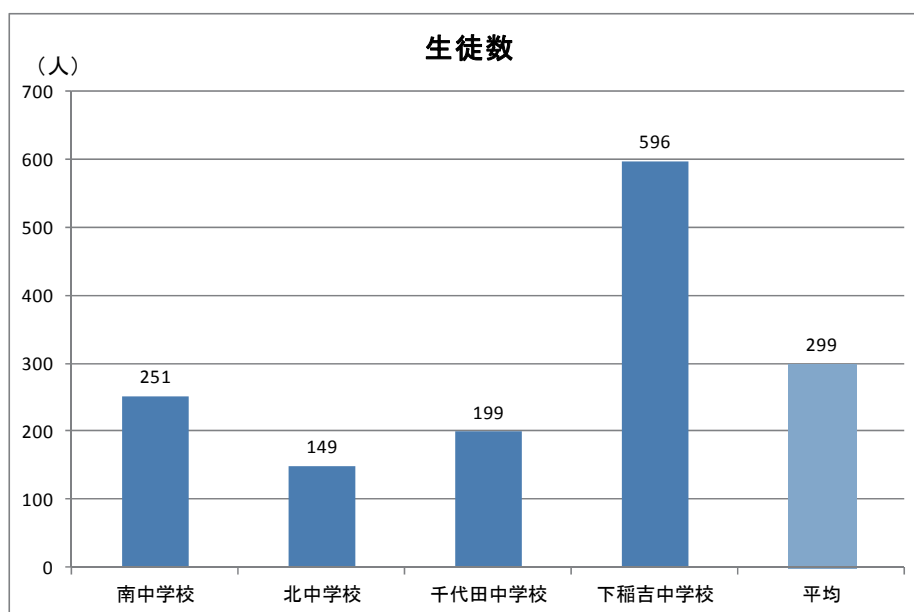
- 生徒数が多い下稲吉中学校は、普通教室が2倍から3倍の規模となっている。
- 体育館の規模には若干の差があり、千代田中学校は他の学校よりやや大きい。



(3) 利用状況

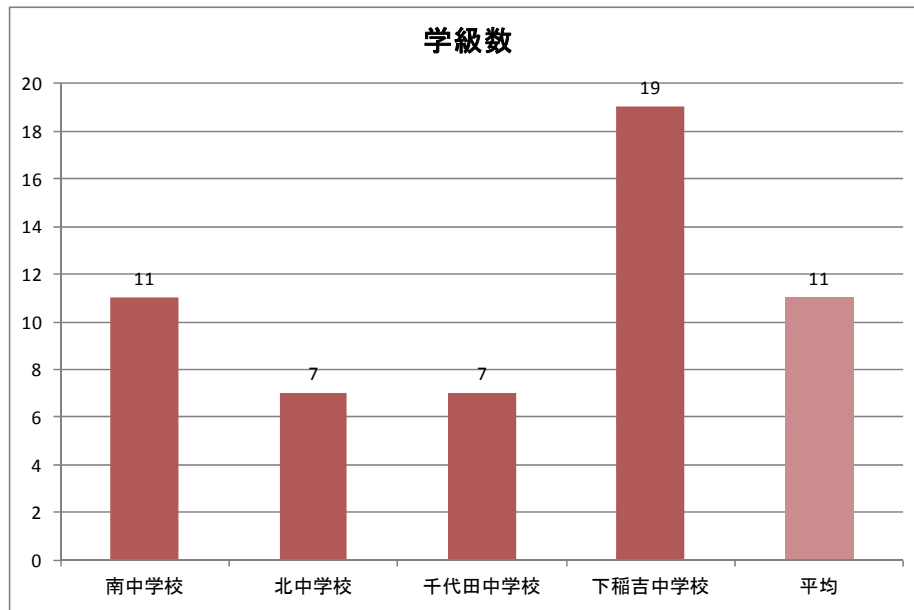
①生徒数

- 生徒数は平均 299 名であり、下稲吉中学校は 596 名であるが、その他は 149 人～251 人である。



②学級数

- 学級数は平均 11 学級である。7 学級から 19 学級と差があり、北中学校、千代田中学校、南中学校が小規模校、下稲吉中学校が大規模校となっている。



(4) 運営状況

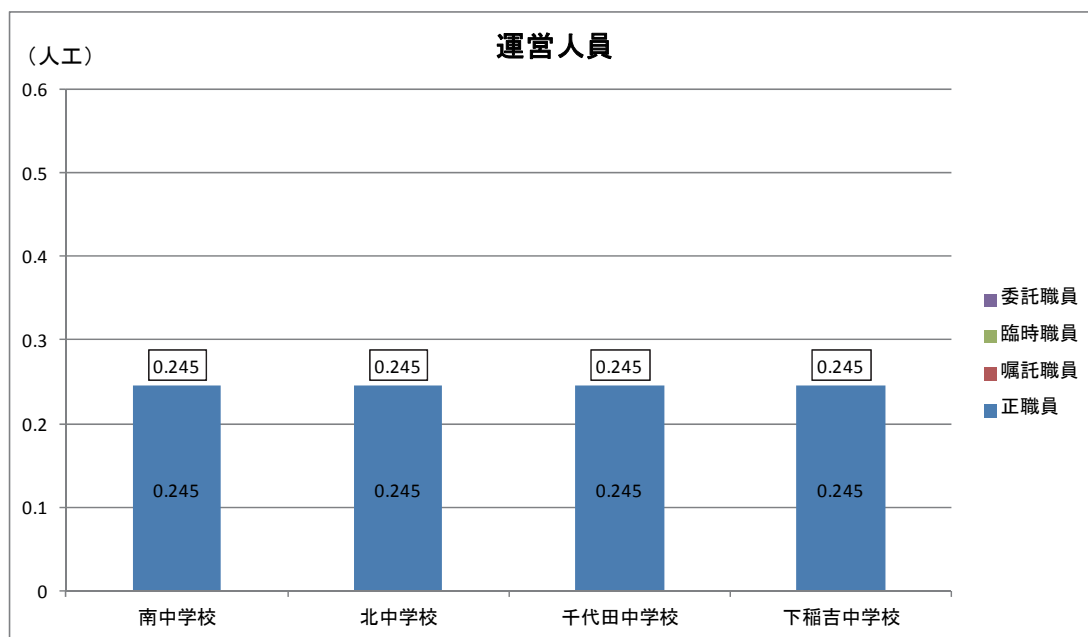
①運営状況

- 学校により運営日数に若干の差があるが、全ての学校で土日が休みで、8:30~17:15 までとなっている。

施設名	運営方法	年間運営日数	定休日		開始時間	終了時間
			土曜日	日曜日		
南中学校	直営	198日	●	●	8:30	17:15
北中学校	直営	197日	●	●	8:30	17:15
千代田中学校	直営	196日	●	●	8:30	17:15
下稲吉中学校	直営	197日	●	●	8:30	17:15

②運営人員

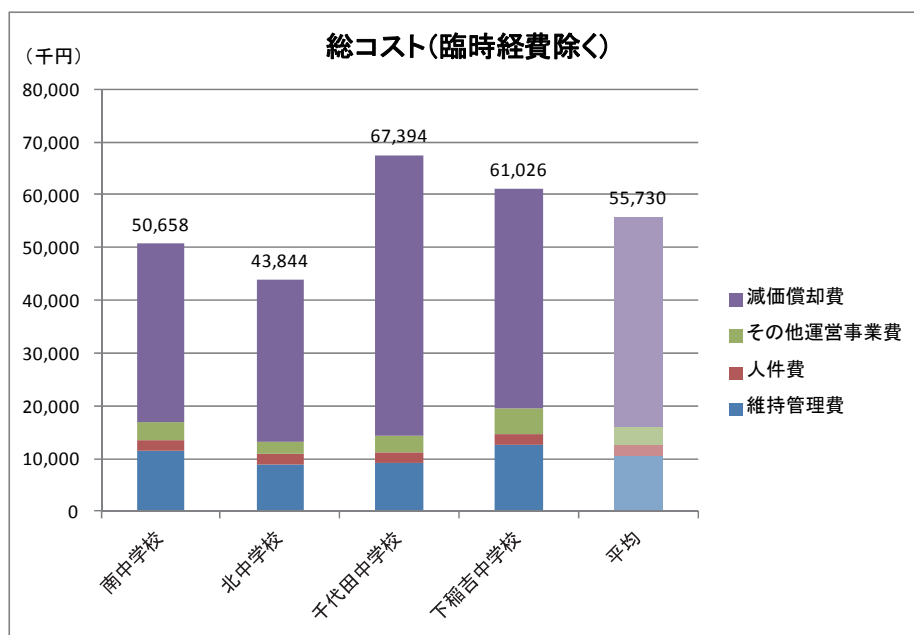
- 全て同じ人員数が充てられている。



(5) コスト状況

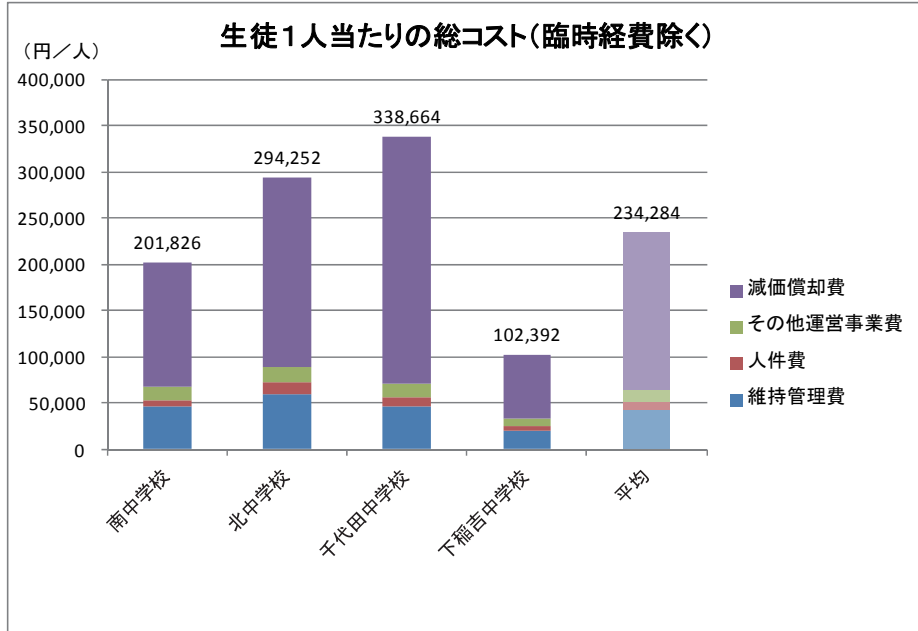
①総コスト（臨時経費除く）

- 中学校全体の総コストは 223 百万円である。
- 平均総コストは 55,730 千円で、減価償却費が大きく、それを除くコストは全体の 29%である。
- 減価償却費を除くと、各施設の総コストはあまり差がない。



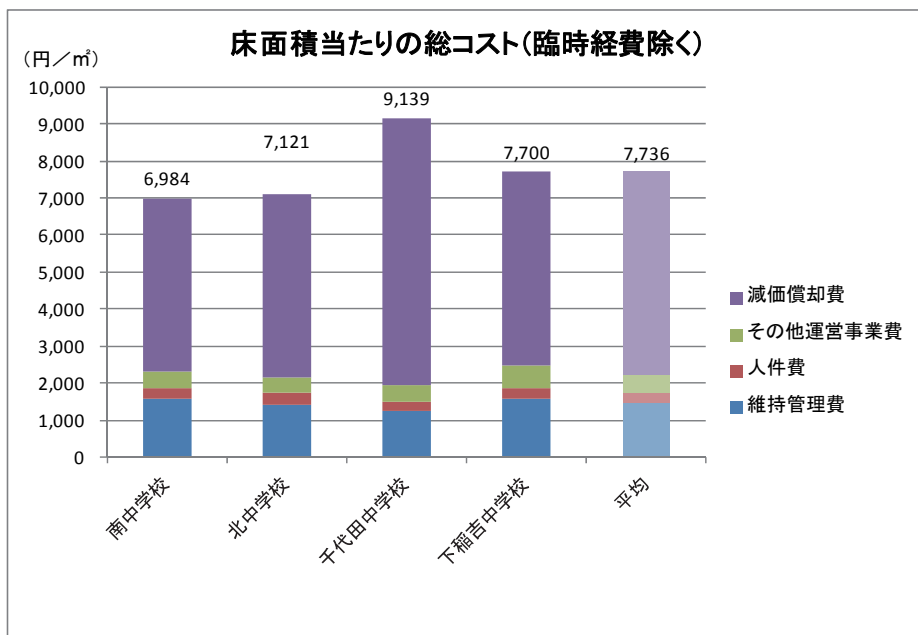
②生徒1人当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 生徒1人当たりの総コスト平均額は、234.3千円/人となっている。
- 最もコストが高いのが千代田中学校の338.7千円/人、最も低いのが下稲吉中学校の102.4千円/人となっており、生徒の多い下稲吉中学校のコストが低い結果となっている。



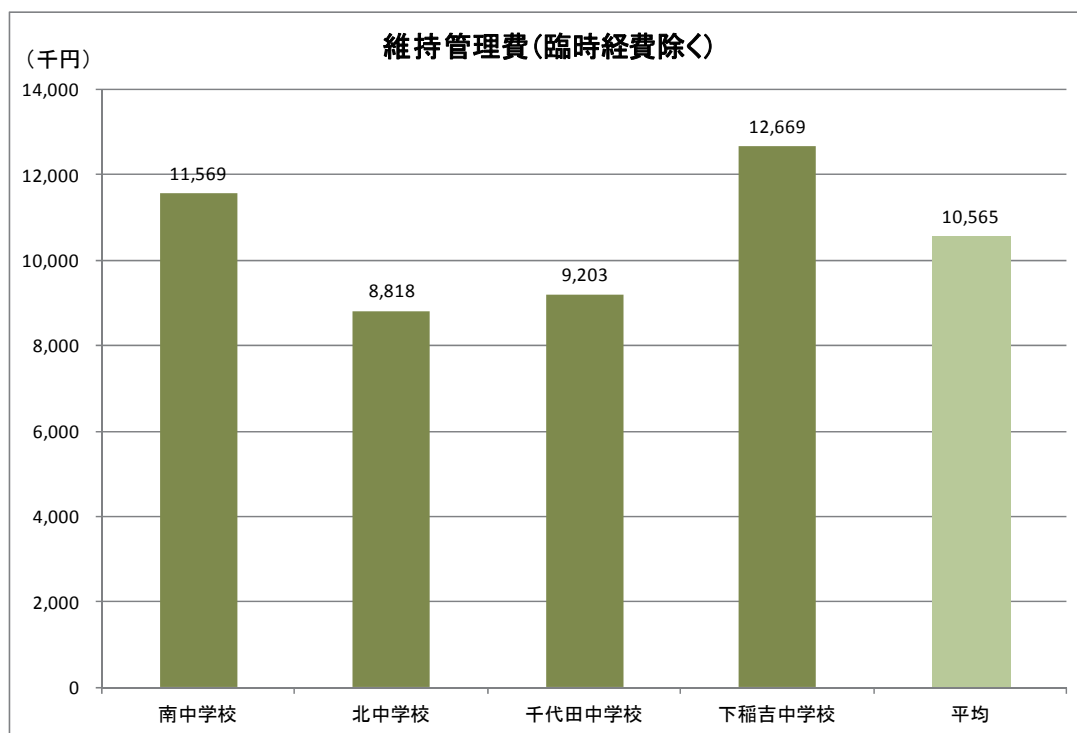
③床面積当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 床面積当たりの総コスト平均額は、7.7千円/m²である。
- 最も高いのは千代田中学校の9.1千円/m²、最も低いのは、南中学校の7.0千円/m²である。



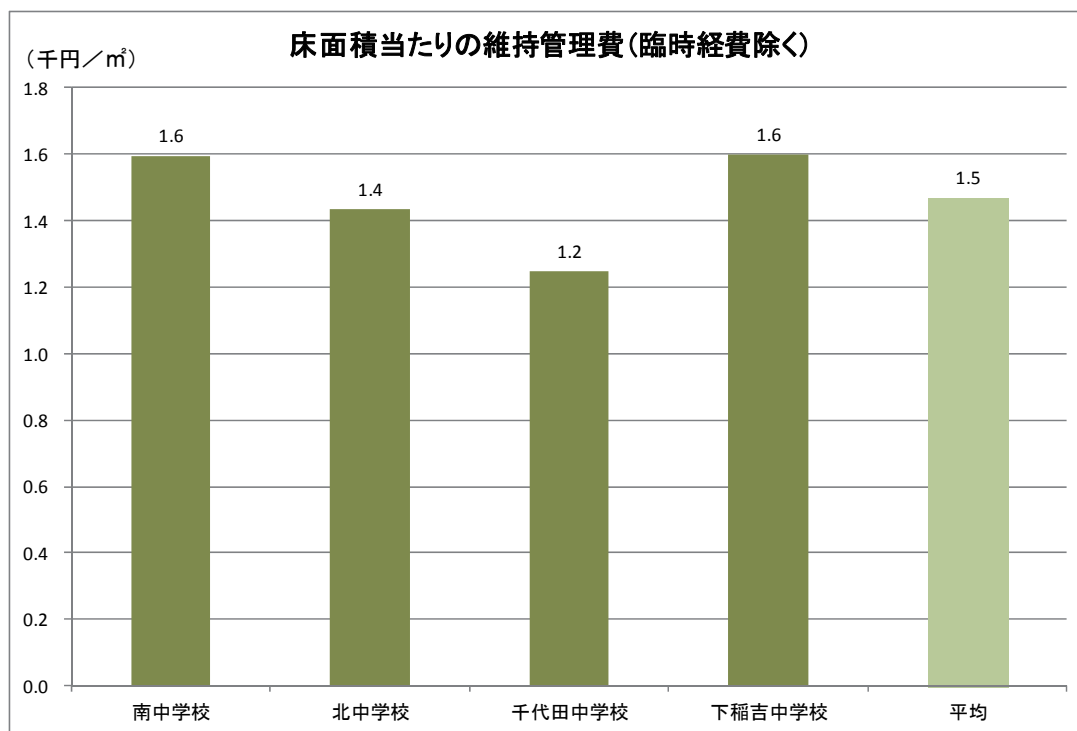
④維持管理費（臨時経費除く）

- 維持管理費は平均 10.6 百万円であり、最もコストが高いのが下稲吉中学校の 12.7 百万円、最も低いのが北中学校の 8.8 百万円である。



⑤床面積当たりの維持管理費（臨時経費除く）

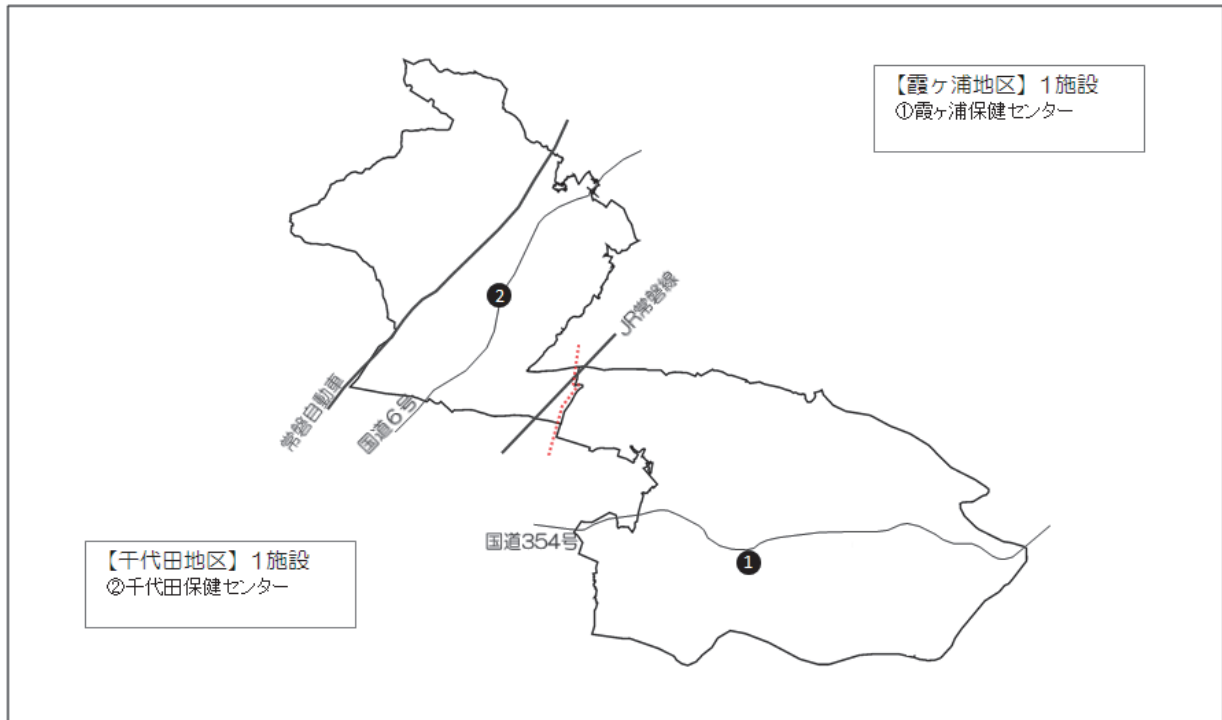
- 床面積当たりの維持管理費の平均は、1.5 千円/m²である。
- 床面積当たりでは、最も高いのが南中学校、下稲吉中学校の 1.6 千円/m²、最も低いのは千代田中学校の 1.2 千円/m²と施設による差は小さい。



(6) 現状と課題

- 生徒数、規模等が小学校により異なるが、現在、統廃合が進められているところである。
- 全施設が築30年を超える、あるいは築30年を迎える施設であるため、統廃合後の校舎として使用する際には、老朽化への対応が必要である。
- 中学校によって維持管理費に差がある。
- 統廃合によるスクールバスの運行等について検討を進めている。

5. 保健福祉系施設
5-1. 保健衛生施設



(1) 施設状況

- 保健センターは2施設あり、総延床面積は1,412.43㎡である。
- 霞ヶ浦保健センターは768.77㎡、千代田保健センターは643.66㎡であり、施設規模は同等である。両施設とも建物は市有であるが、土地は霞ヶ浦保健センターは市有、千代田保健センターは一部借上げである。

施設名	所在地	開設年	延床面積	敷地面積	所有面積	複合施設区分	建物保有状況	土地保有状況	駐車可能台数
霞ヶ浦保健センター	深谷3671番地2	S62	768.77	3,030.89	3,030.89	単独	所有	所有	76
千代田保健センター	上土田433番地2	S57	643.66	4,503.94	2,755.06	単独	所有	一部借上	40
合計			1,412.43	7,534.83	5,785.95				116

(2) 建物状況

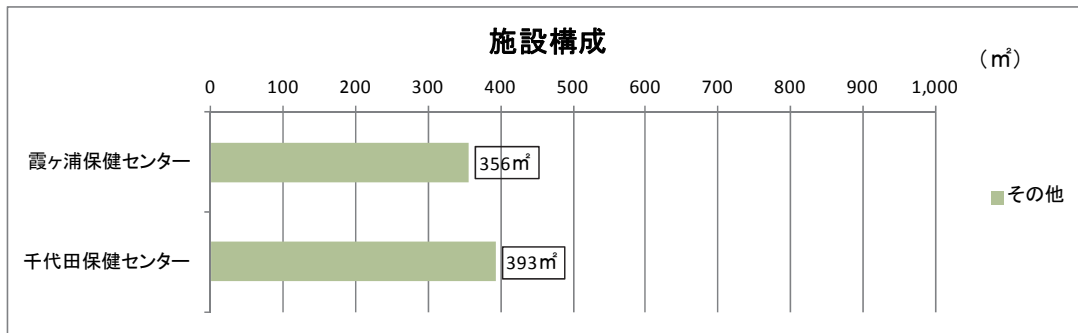
①建物状況

- 千代田保健センターは築31年、霞ヶ浦保健センターもまもなく築30年を迎えため、老朽化への対応が必要である。
- 構造は両施設ともRC造である。
- 機能改善は両施設とも対応状況は同じであり、バリアフリーでは、身障者用トイレ、車いす用スロープ、自動ドアは対応済である。
- 両施設とも環境対応は未実施である。

施設名	建物状況			耐震性		機能改善	機能改善(バリアフリー)					環境負荷低減		
	建築年	築年数	構造	耐震診断	耐震補強	機能改善(7人バス対策)	車いす用エレベーター	身障者用トイレ	車いす用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	自然エネルギー・太陽	環境対応設備
霞ヶ浦保健センター	S62	26	RC造	-	-	●	×	●	●	●	×	×	×	×
千代田保健センター	S57	31	RC造	-	-	●	×	●	●	●	×	×	×	×

②施設構成

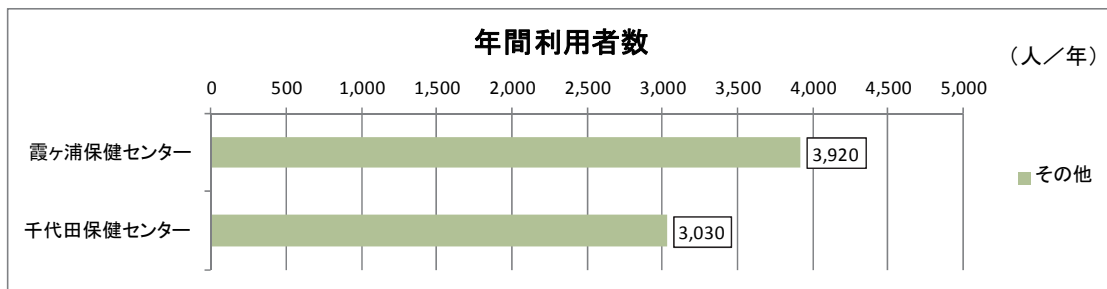
- 両施設ともその他（保健センター）のみ設置されている。



(3) 利用状況

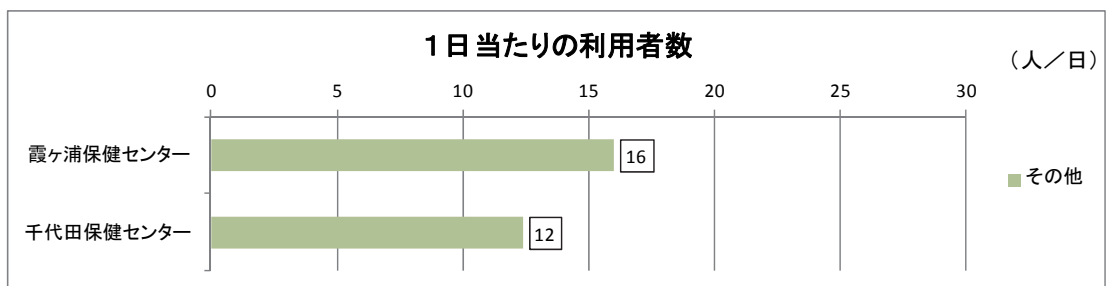
①年間利用者数

- 霞ヶ浦保健センターは年間 3,920 人、千代田保健センターは年間 3,030 人が利用している。



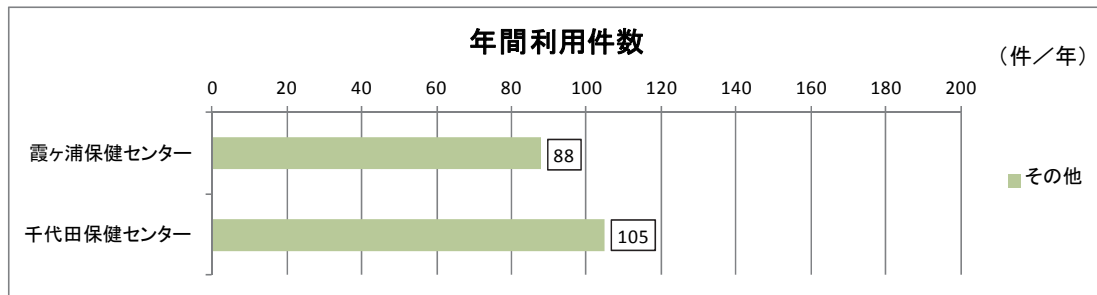
②1日当たりの利用者数

- 霞ヶ浦保健センターは1日当たり 16 人、千代田保健センターは1日当たり 12 人が利用している。



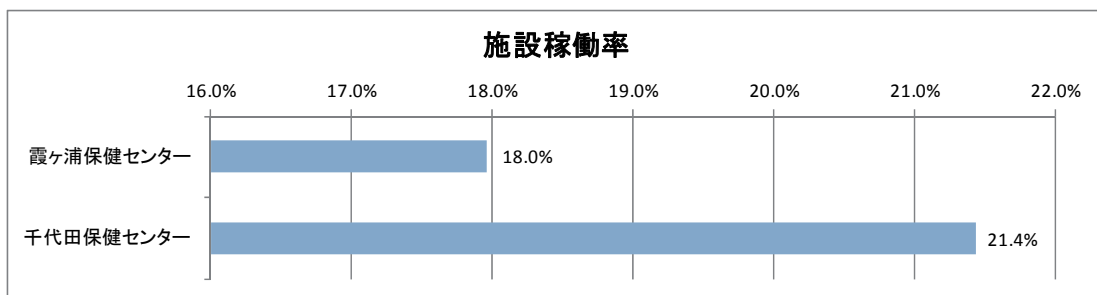
③年間利用件数

- 霞ヶ浦保健センターは年間 88 件、千代田保健センターは年間 105 件であり、利用者数は霞ヶ浦保健センターの方が多いが、利用件数は千代田保健センターが多くなっている。



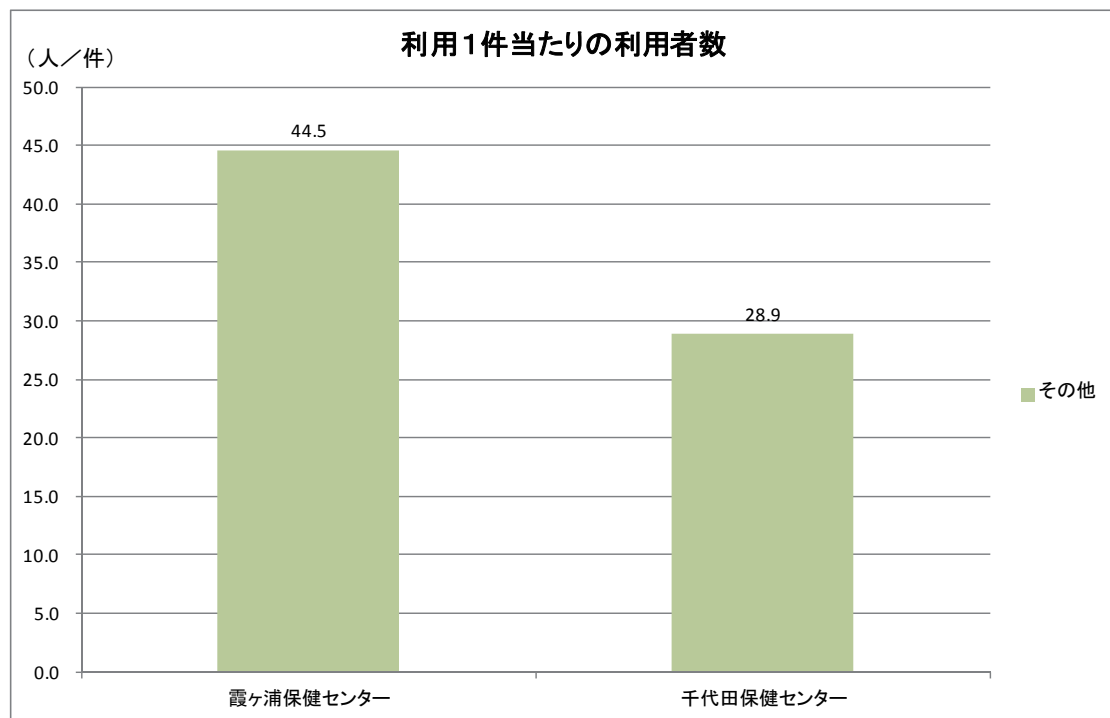
④施設稼働率

- 霞ヶ浦保健センターは 18.0%、千代田保健センターは 21.4%であり、千代田保健センターの方が 3.4 ポイント高くなっている。



⑤利用1件当たりの利用者数

- 霞ヶ浦保健センターは44.5人/件、千代田保健センターは28.9人/件であり、1件当たりの利用者数に差がある。



(4) 運営状況

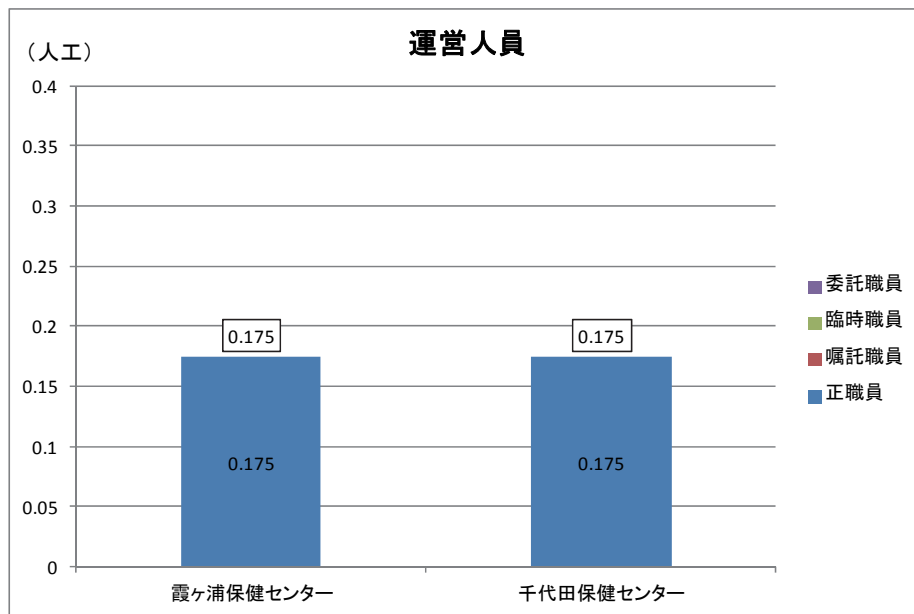
①運営状況

- 両施設で運営は統一されており、運営方法は直営、土・日曜定休、運営時間は8:30~17:15である。

施設名	運営方法	年間運営日数	定休日		開始時間	終了時間
			土曜日	日曜日		
霞ヶ浦保健センター	直営	245日	●	●	8:30	17:15
千代田保健センター	直営	245日	●	●	8:30	17:15

②運営人員

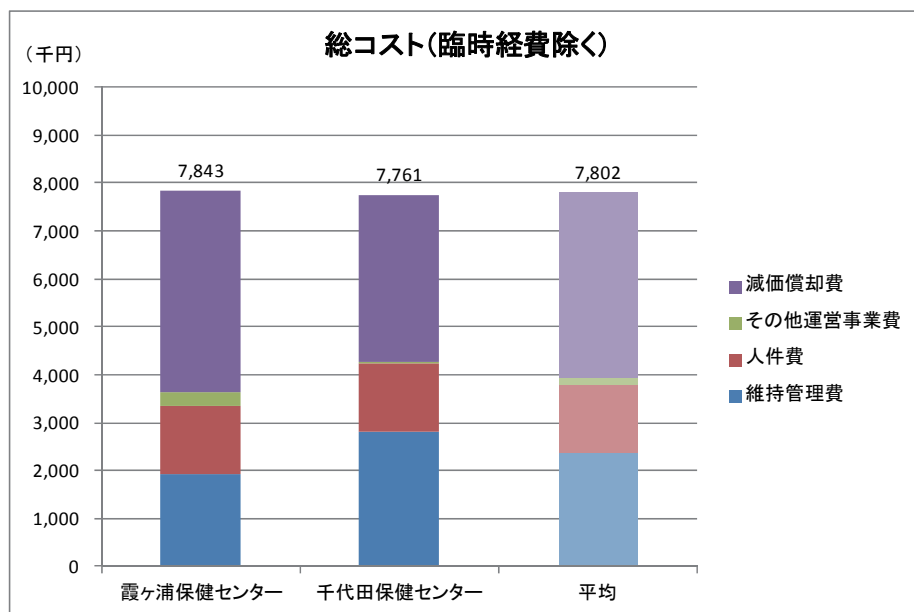
- 運営人員は両施設とも正職員 0.175 人工である。



(5) コスト状況

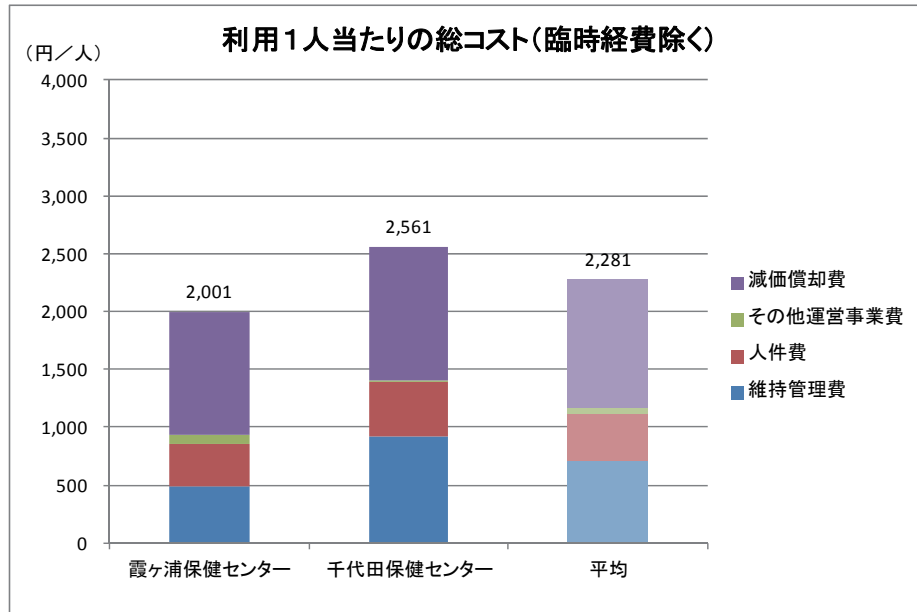
①総コスト（臨時経費除く）

- 保健センター全体の総コストは 16 百万円である。
- 保健センターの平均総コストは 7,802 千円であり、減価償却費の割合が大きい。
- 霞ヶ浦保健センターの方が高く 7,843 千円であるが、両施設のコストは同等である。



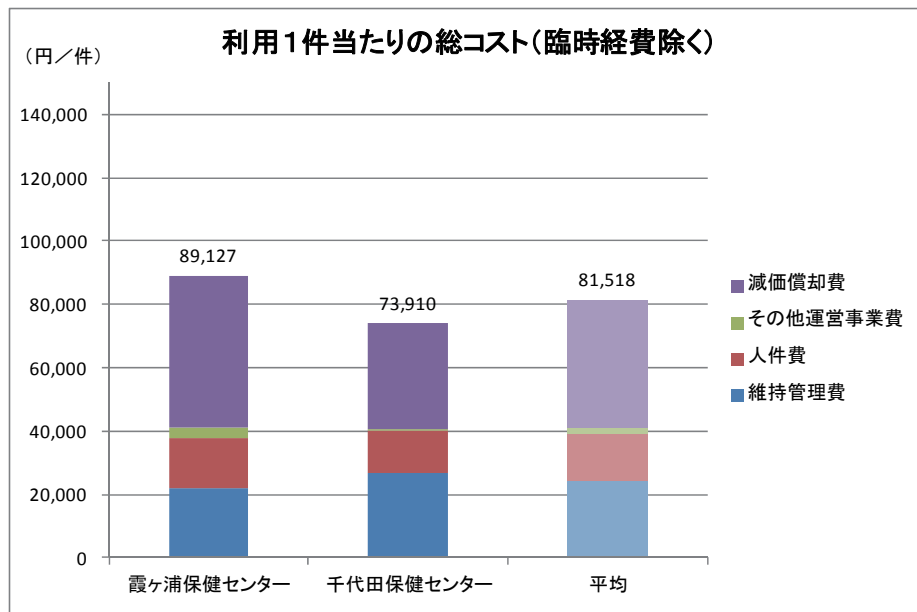
②利用1人当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 利用1人当たりの総コスト平均額は、2.3千円/人である。
- 千代田保健センターの方が高く2.6千円/人。霞ヶ浦保健センターは2.0千円/人である。



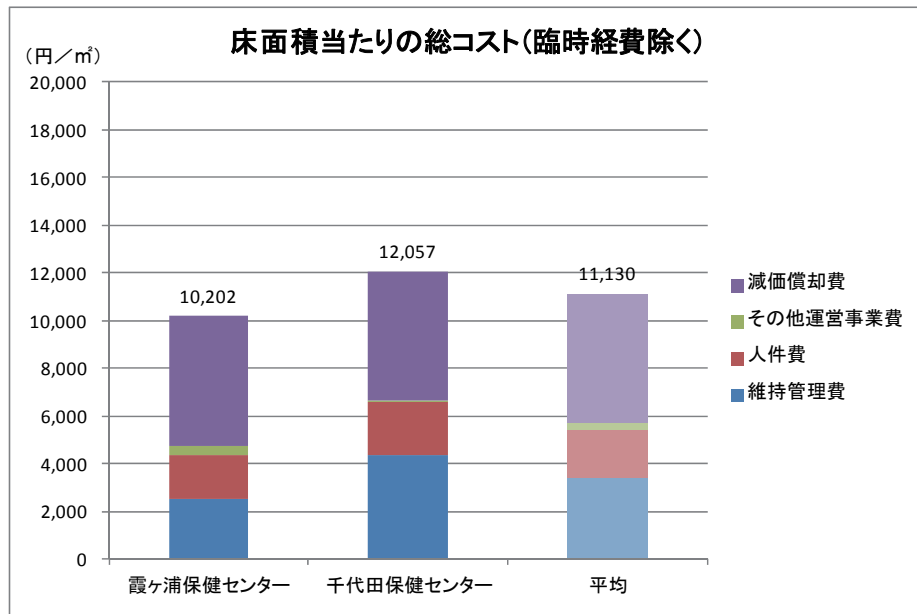
③利用1件当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 利用1件当たりの総コスト平均額は、81.5千円/件である。
- 霞ヶ浦保健センターの方が高く89.1千円/件。千代田保健センターは73.9千円/件である。



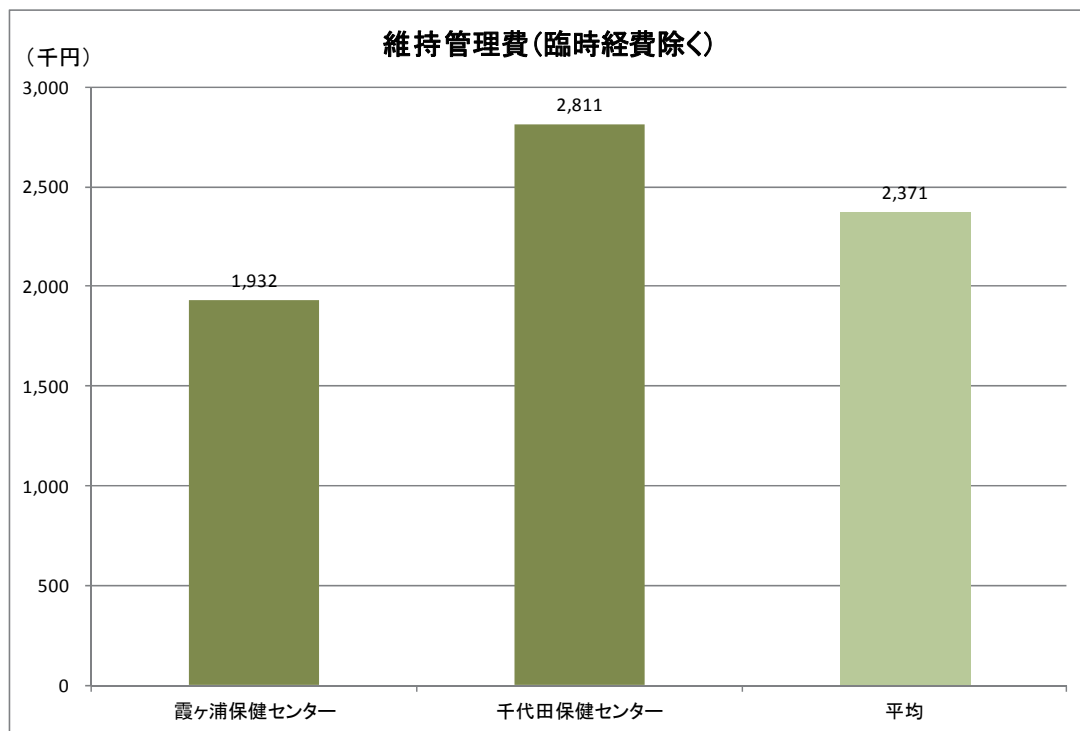
④床面積当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 床面積当たりの総コスト平均額は、11.1 千円／㎡である。
- 千代田保健センターの方が高く 12.1 千円／㎡、霞ヶ浦保健センターは 10.2 千円／㎡である。



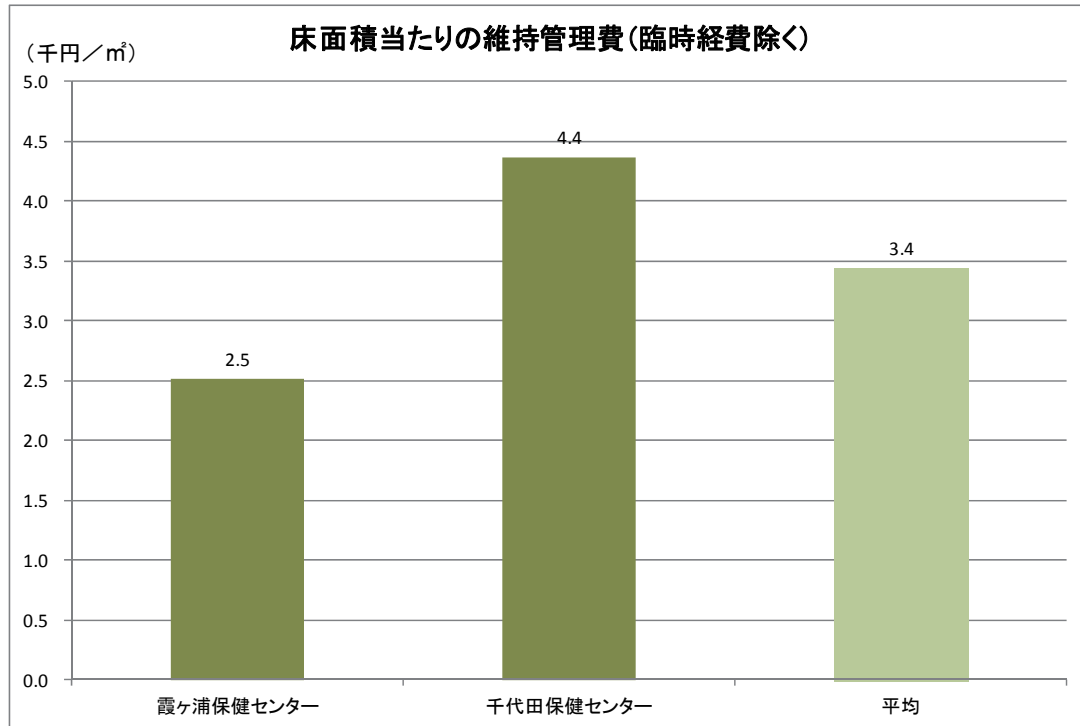
⑤維持管理費（臨時経費除く）

- 維持管理費の平均額は、2.4 百万円である。
- 千代田保健センターの方が高く 2.8 百万円である。



⑥床面積当たりの維持管理費（臨時経費除く）

- 床面積当たりの維持管理費の平均は、3.4 千円/㎡である。
- 千代田保健センターの方が高く 4.4 千円/㎡である。



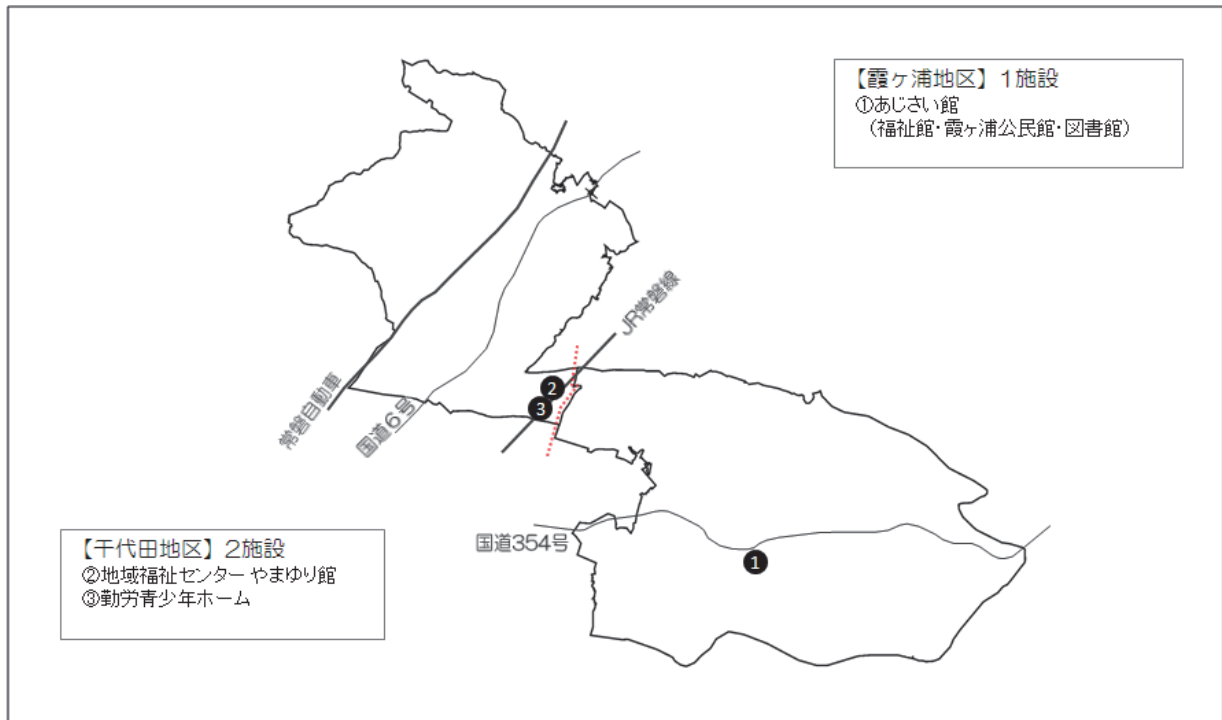
⑦総コストに対する収入の割合（臨時経費除く）

- 総コストに対する収入の割合は、平均で0.14%である。
- 千代田保健センターは0.28%であり、霞ヶ浦保健センターは収入はない。

(6) 現状と課題

- 築30年を超える、あるいはまもなく築30年を迎える施設であるため、老朽化への対応が必要である。
- 施設稼働率は低く、どちらも20%程度である。
- 両施設とも直営である。

5-2. 社会福祉施設



(1) 施設状況

- 社会福祉施設は3施設あり、総延床面積は3,878.40㎡である。
- あじさい館（福祉館）が最も大きく、勤労青少年ホームが最も小規模な施設である。
- あじさい館（福祉館）は複合施設、その他2施設は単独施設として整備されている。
- 建物は全て市有であるが、土地は地域福祉センターやまゆり館のみ市有、あじさい館（福祉館）は一部借上げ、勤労青少年ホームは借上げである。

施設名	所在地	開設年	延床面積	敷地面積	所有面積	複合施設区分	建物保有状況	土地保有状況	駐車可能台数
あじさい館(福祉館)	深谷3719番地1	H10	2,197.00	59,508.00	46,562.00	複合	所有	一部借上	148
地域福祉センターやまゆり館	下稲吉2423番地9	H20	1,024.50	6,636.30	6,636.30	単独	所有	所有	104
勤労青少年ホーム	稲吉二丁目6番25号	S58	656.90	2,000.00	0.00	単独	所有	借上	20
合計			3,878.40	68,144.30	53,198.30				272

(2) 建物状況

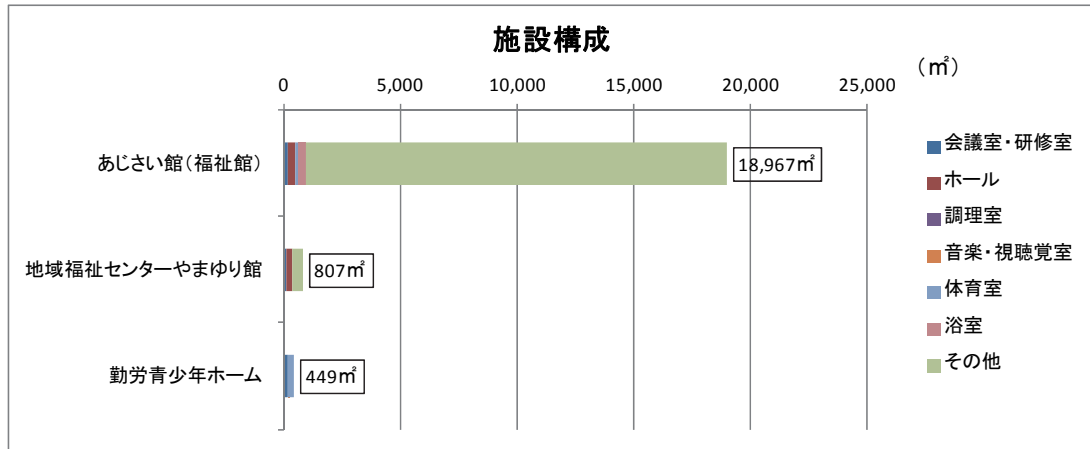
①建物状況

- 勤労青少年ホームは築30年であり、老朽化への対応が求められる。
- 施設は全てRC造である。
- 機能改善（バリアフリー）は施設によって異なり、あじさい館（福祉館）では点字ブロック以外の全項目が対応済みである。
- 地域福祉センターやまゆり館のみ環境負荷低減に対応している。

施設名	建物状況			耐震性		機能改善	機能改善(バリアフリー)					環境負荷低減		
	建築年	築年数	構造	耐震診断	耐震補強	機能改善(73バシ対象)	車いす用エレベータ	身障者用トイレ	車いす用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	自然採光・太陽	環境対応設備
あじさい館(福祉館)	H10	15	RC造	-	-	●	-	●	●	●	●	×	×	×
地域福祉センターやまゆり館	H20	5	RC造	-	-	●	-	●	-	●	×	●	▲	●
勤労青少年ホーム	S58	30	RC造	-	-	●	×	●	●	×	●	×	×	×

②施設構成

- その他の面積が大きく、あじさい館（福祉館）はコミュニティ広場（屋外）、地域福祉センターやまゆり館は子育てルームや健康づくりコーナー、足湯コーナーが設置されている。



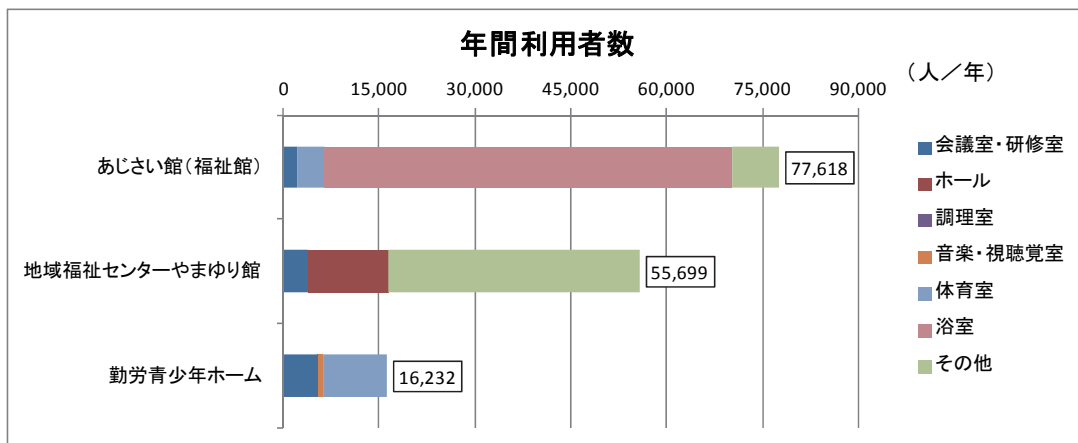
※あじさい館・体育室には軽運動室とトレーニング室の合計値を示す。

※あじさい館・その他はコミュニティ広場（屋外）であるため、(1)施設状況・延床面積には含まれていない。

(3) 利用状況

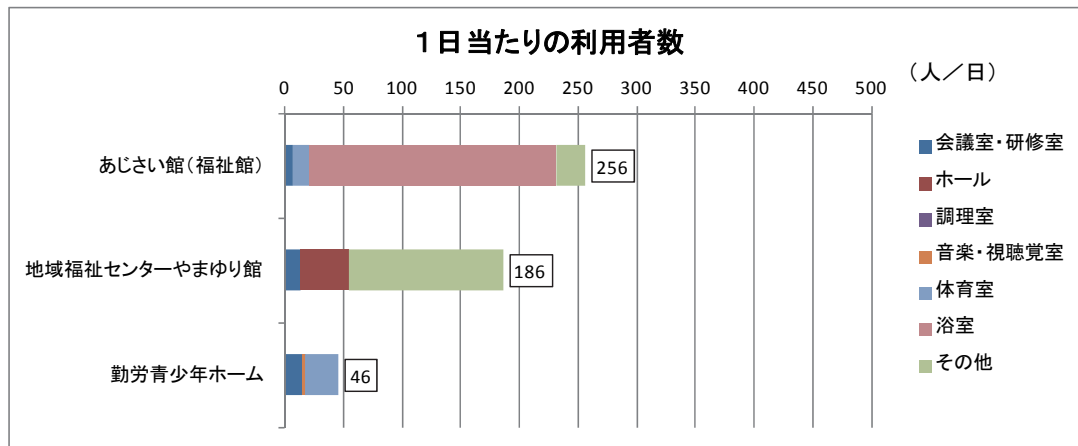
①年間利用者数

- 年間利用者数はあじさい館（福祉館）が最も多く 77,618 人であり、浴室の利用が最も多い。
- 地域福祉センターやまゆり館は 55,699 人であり、その他（子育てルーム、健康づくりコーナー、足湯コーナー）が多い。
- 勤労青少年ホームは 16,232 人であり、体育室の利用が最も多い。



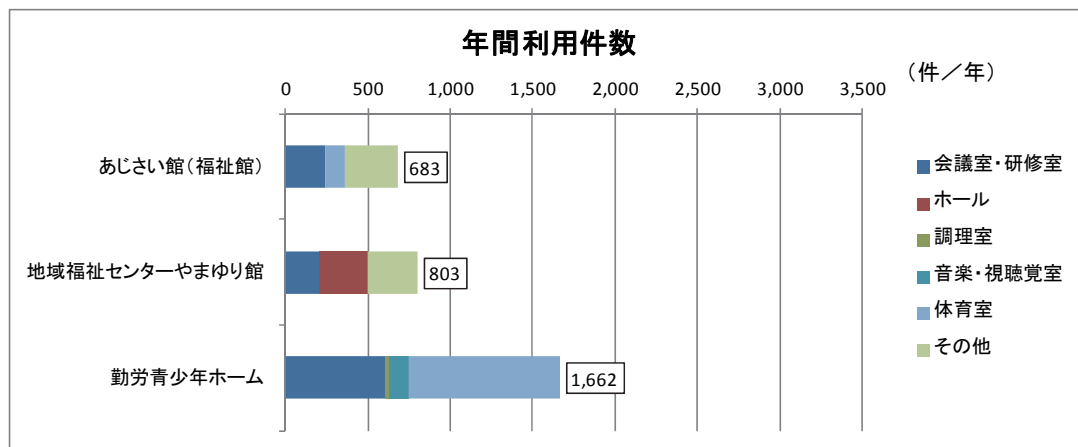
② 1日当たりの利用者数

- 1日当たりの利用者数はあじさい館（福祉館）が最も多く 256 人であり、地域福祉センターやまゆり館は 186 人である。
- 勤労青少年ホームが最も少なく、46 人である。



③年間利用件数

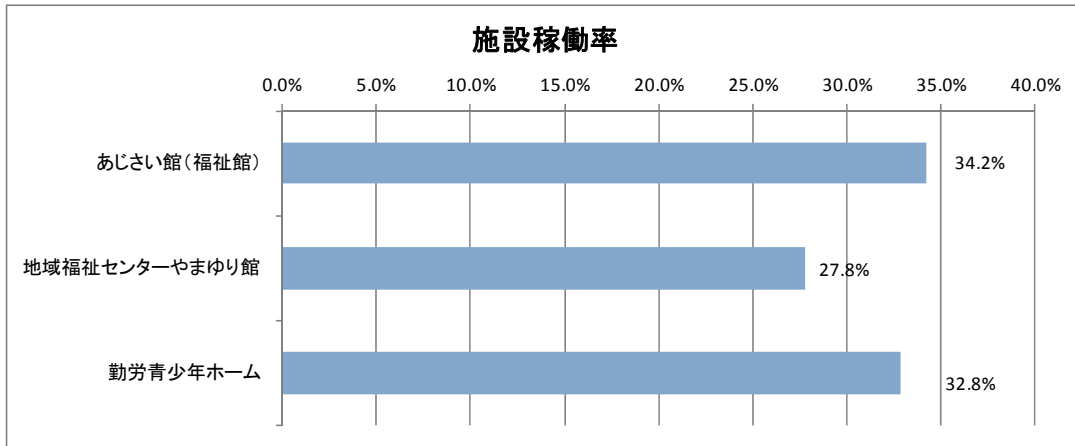
- 年間利用件数は勤労青少年ホームが最も多く 1,662 件である。



※あじさい館の浴室及びトレーニング室等は件数データなし。

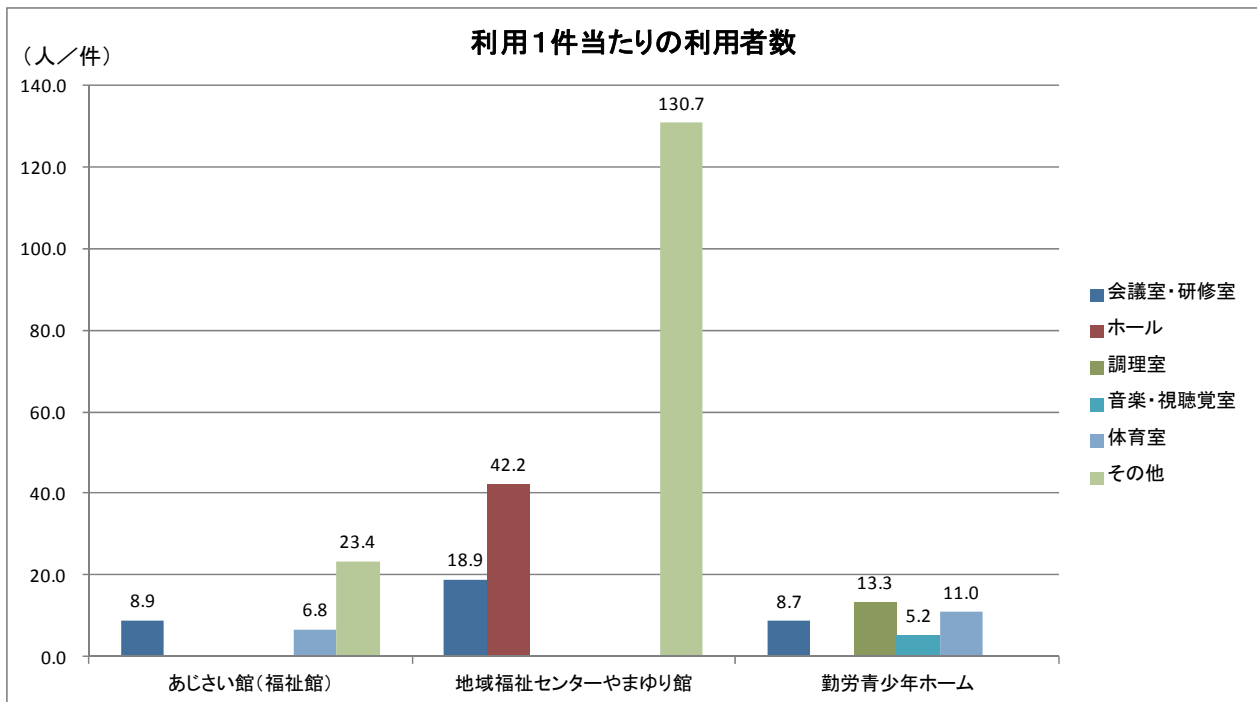
④施設稼働率

- あじさい館（福祉館）が最も高く 34.2%であり、地域福祉センターやまゆり館が最も低く 27.8%である。



⑤利用1件当たりの利用者数

- 地域福祉センターやまゆり館・その他（子育てルーム、健康づくりコーナー、足湯コーナー）が最も多い。
- 最も少ないのは、勤労青少年ホーム・音楽室であり、5.2/件である。



※あじさい館の会議室・研修室にはカラオケ利用（年間 17,587 人（曲））は含まない。

(4) 運営状況

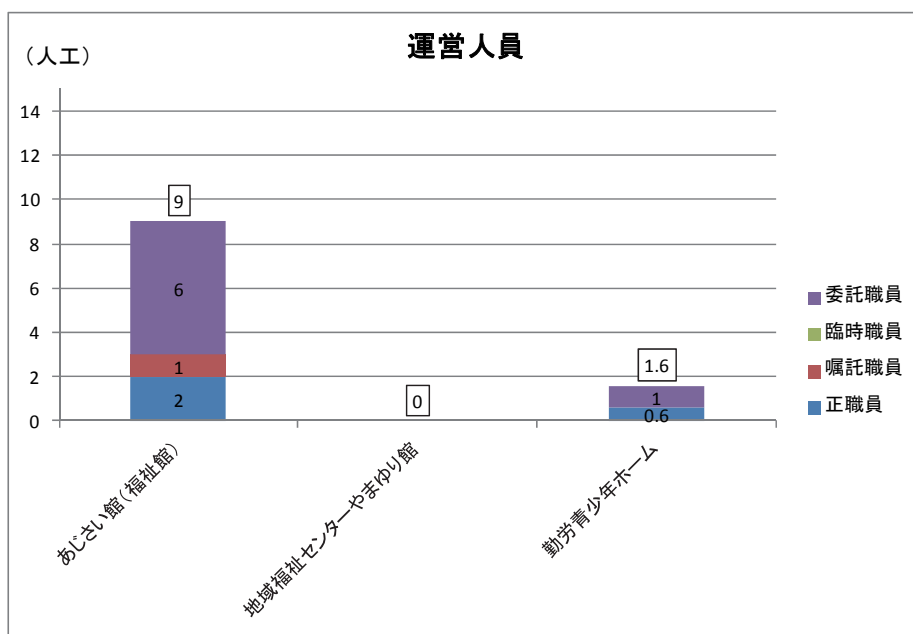
①運営状況

- 運営方法はあじさい館（福祉館）、勤労青少年ホームは直営、地域福祉センターやまゆり館は指定管理を導入している。
- あじさい館（福祉館）は月曜定休、地域福祉センターやまゆり館は日曜定休であり、子育てルームのみ土曜も定休としている。勤労青少年ホームは定休はない。
- あじさい館（福祉館）及び地域福祉センターやまゆり館は9：00～21：00、勤労青少年ホームは9：00～22：00まで開館している。

施設名	運営方法	年間運営日数	定休日			開始時間	終了時間
			月曜日	土曜日	日曜日		
あじさい館(福祉館)	直営	303日	●			9:00	21:00
地域福祉センターやまゆり館	指定管理(利用料金)	300日		■	●	9:30	21:00
勤労青少年ホーム	直営	351日				9:00	22:00

②運営人員

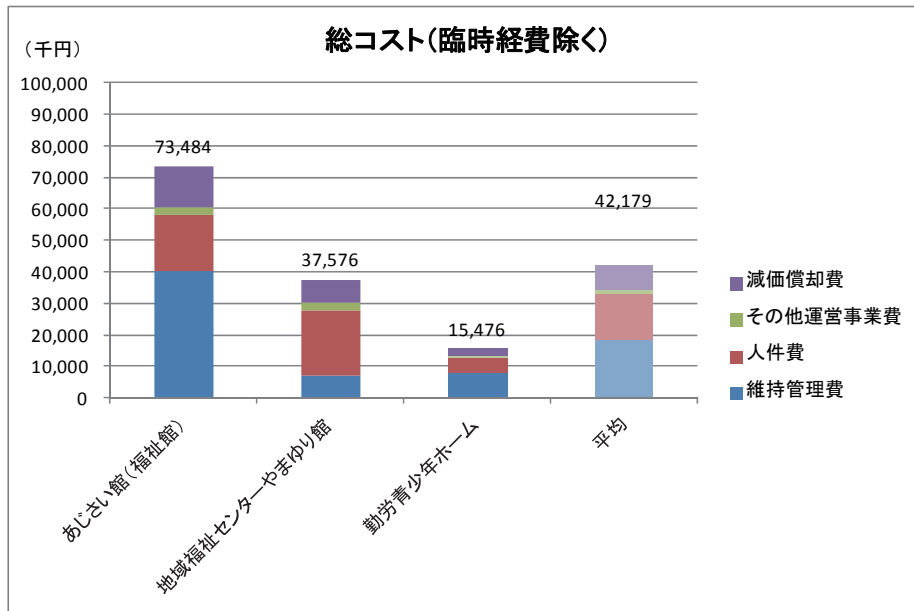
- あじさい館（福祉館）が最も多く9人工であり、内訳では委託職員が最も多く6人工である。
- 勤労青少年ホームでも委託職員が最も多く、1人工である。



(5) コスト状況

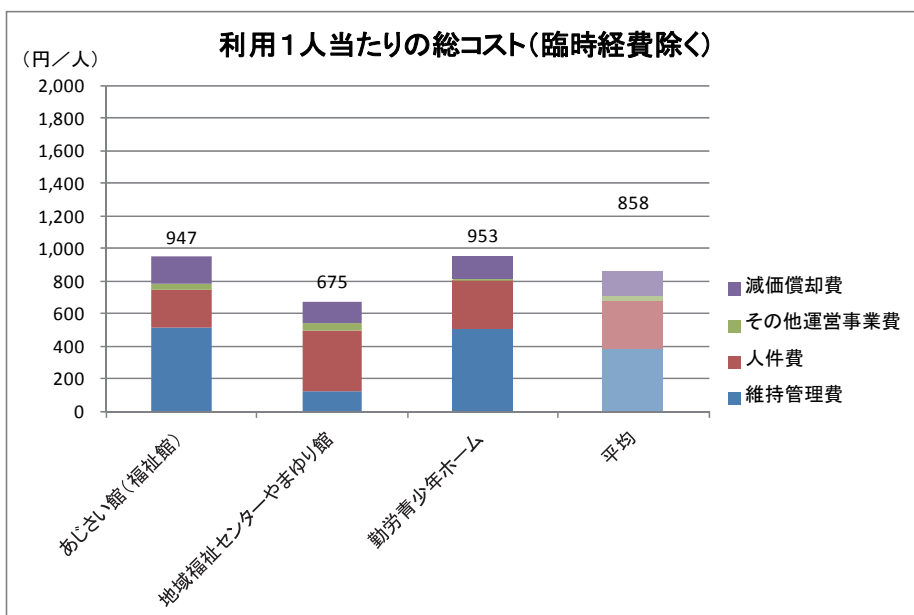
①総コスト（臨時経費除く）

- 社会福祉施設全体の総コストは、127 百万円である。
- 社会福祉施設全体の平均総コストは、42,179 千円である。
- あじさい館（福祉館）が最も高く 73,484 千円であり、勤労青少年ホームが最も低く 15,476 千円である。



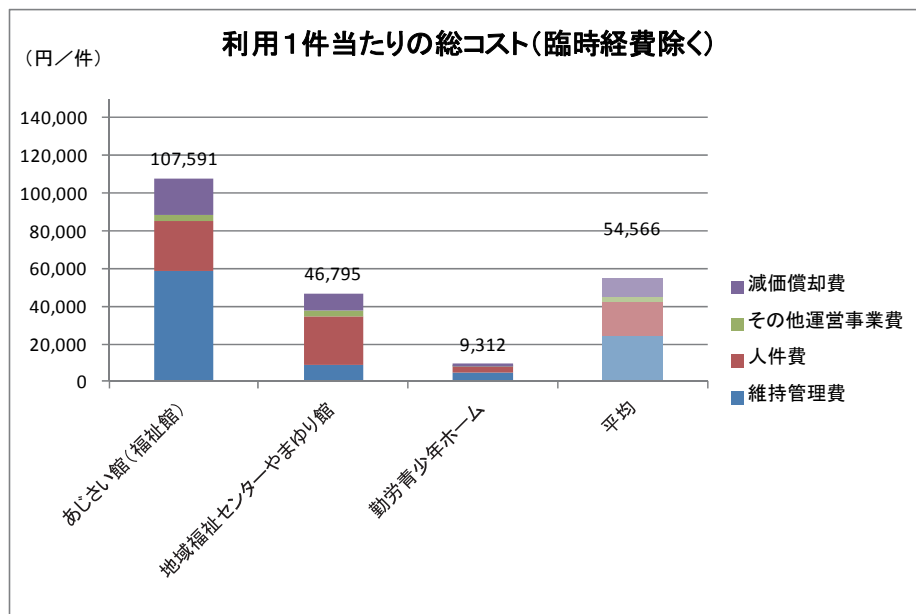
②利用1人当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 利用1人当たりの総コスト平均額は、858 円/人である。
- 最も高いのは勤労青少年ホームであり、953 円/人、最も低いのは地域福祉センターやまゆり館であり、675 円/人である。



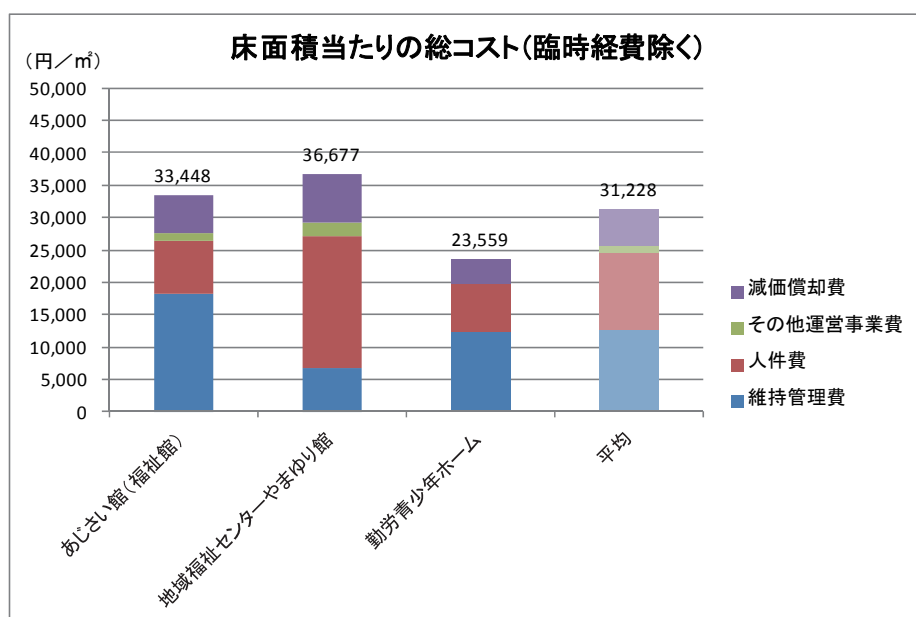
③利用1件当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 利用1件当たりの総コスト平均額は、54.6千円/件である。
- 最も高いのはあじさい館（福祉館）であり、107.6千円/件、最も低いのは勤労青少年ホームであり、9.3千円/人である。



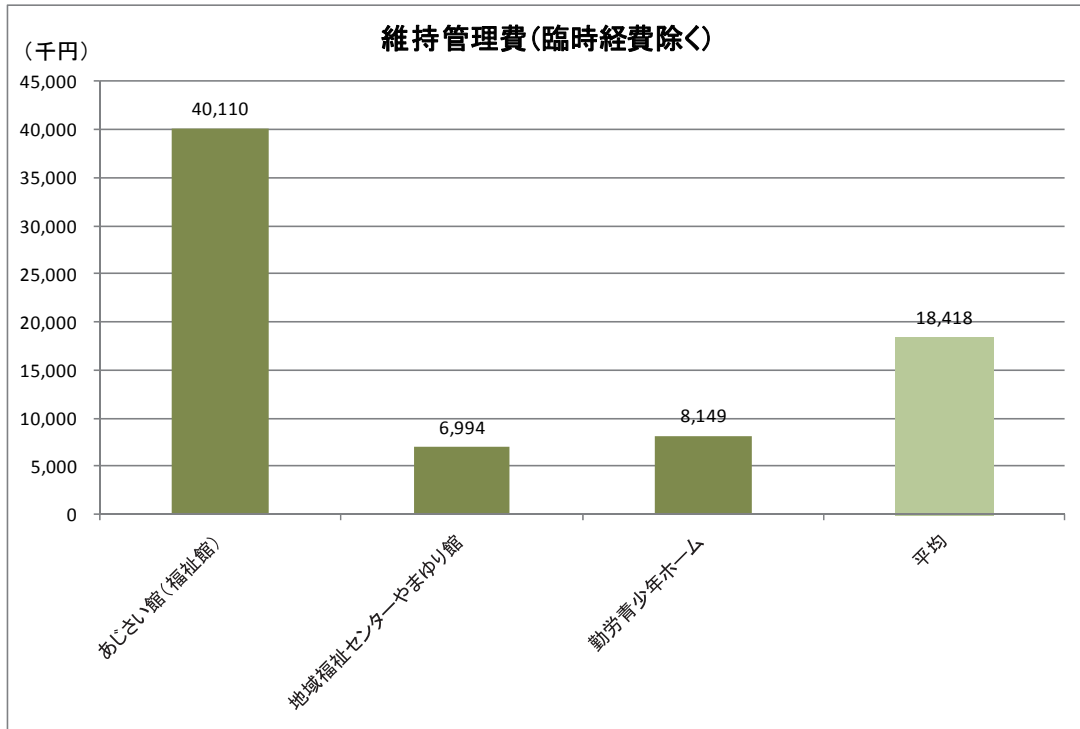
④床面積当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 床面積当たりの総コスト平均額は、31.2千円/m²である。
- 最も高いのは地域福祉センターやまゆり館であり、36.7千円/m²、最も低いのは勤労青少年ホームであり、23.6千円/m²である。



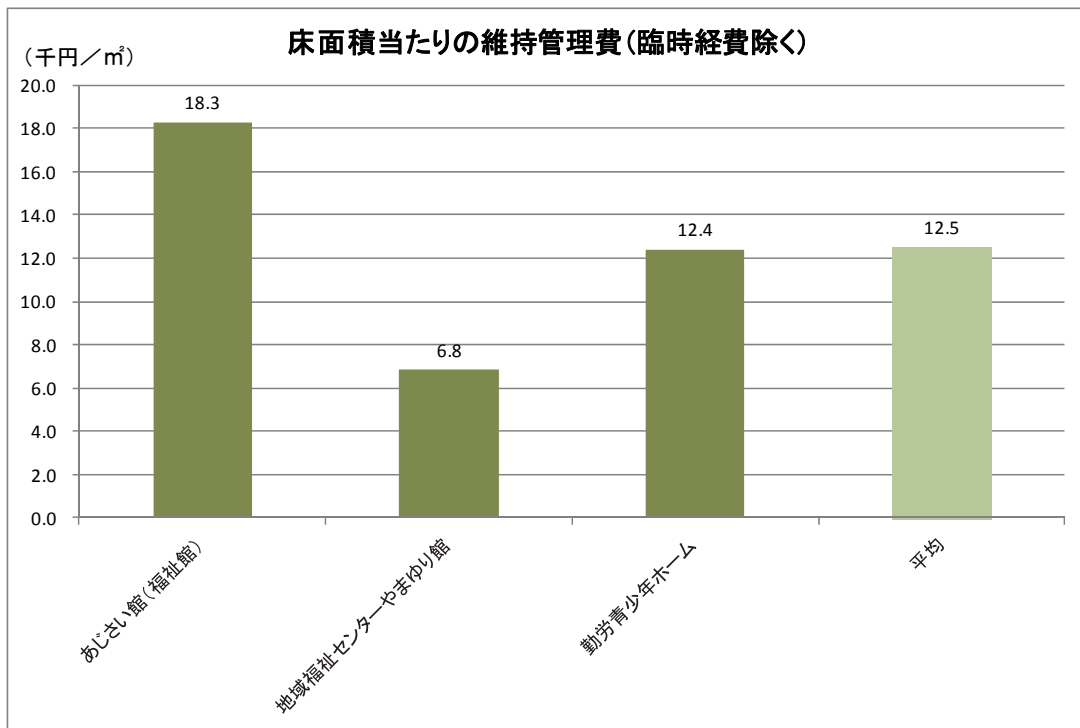
⑤維持管理費（臨時経費除く）

- 維持管理費の平均額は、18.4百万円である。
- 最も高いのはあじさい館（福祉館）であり、40.1百万円、最も低いのは地域福祉センターやまゆり館であり7.0百万円である。



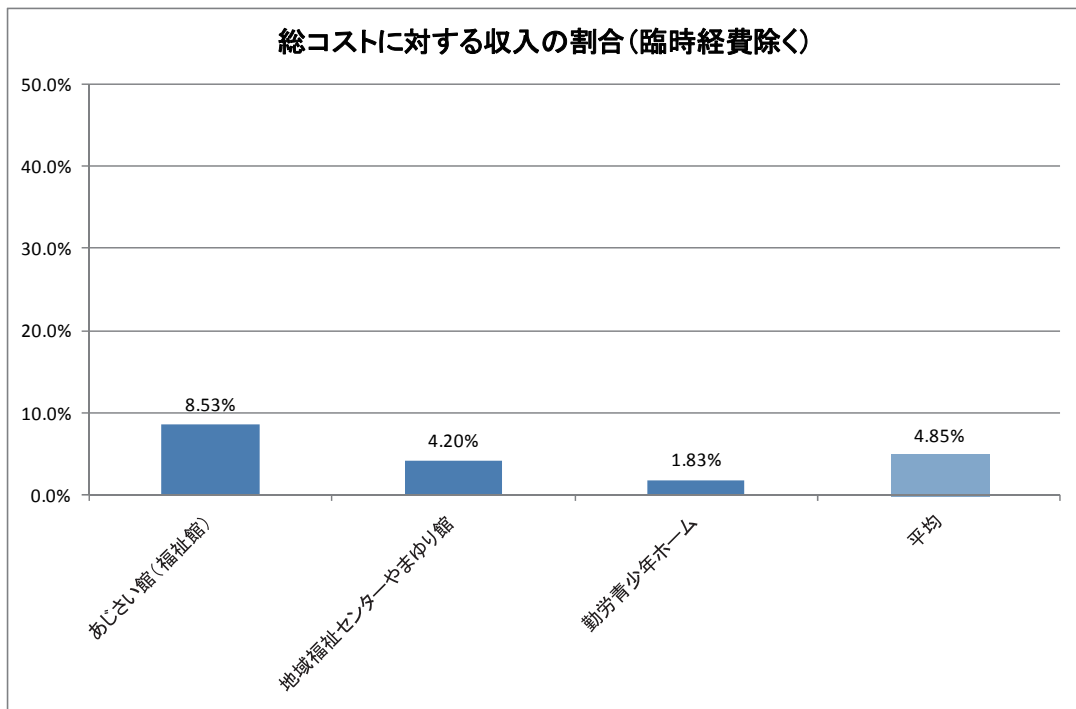
⑥床面積当たりの維持管理費（臨時経費除く）

- 床面積当たりの維持管理費の平均額は、12.5千円/m²である。
- 最も高いのはあじさい館（福祉館）であり、18.3千円/m²、最も低いのは地域福祉センターやまゆり館であり6.8千円/m²である。



⑦総コストに対する収入の割合（臨時経費除く）

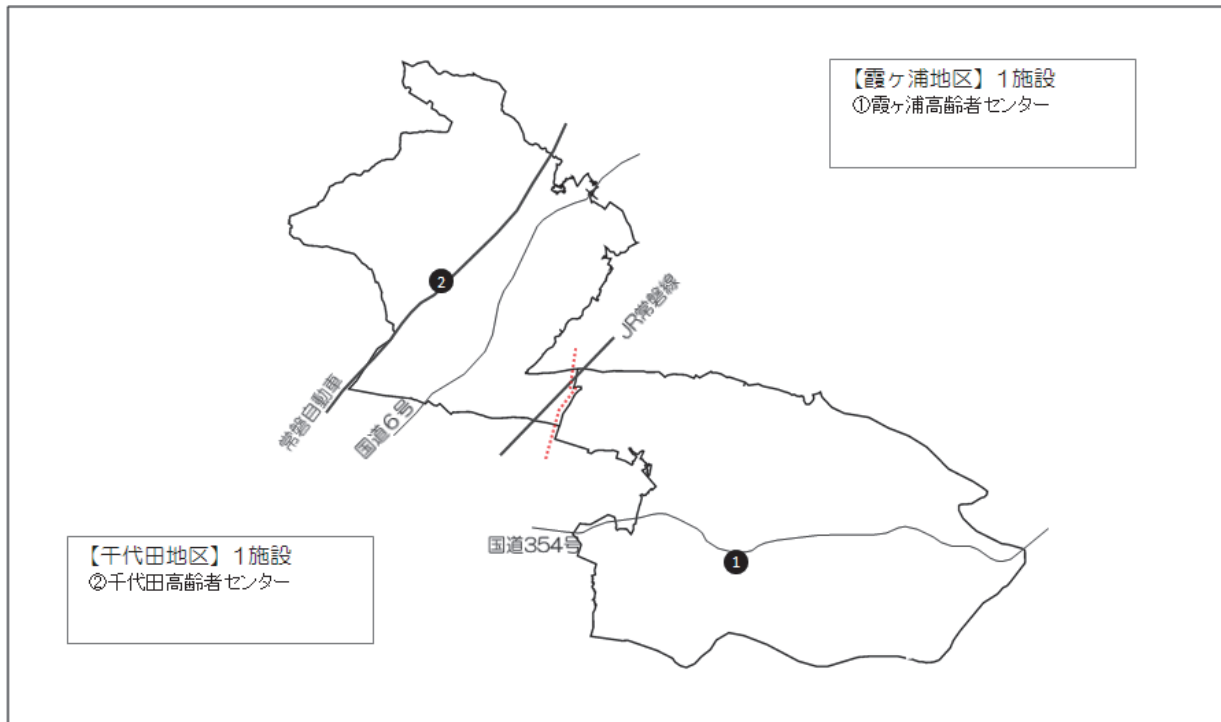
- 総コストに対する収入の割合は、平均で4.85%である。
- 最も高いのはあじさい館（福祉館）であり8.53%、勤労青少年ホームが最も低く1.83%である。



(6) 現状と課題

- 勤労青少年ホームは、築30年を超えるため、老朽化への対応が必要である。
- 稼働率はそれぞれ30%程度であるが、諸室によって利用者数は大きく異なっている。
- あじさい館、勤労青少年ホームは直営である。

5-3. 高齢者福祉施設



(1) 施設状況

- 高齢者センターは2施設あり、総延床面積は527.92㎡である。
- 千代田高齢者センターの方が広く、延床面積は340.75㎡、霞ヶ浦高齢者センターは187.17㎡である。
- 両施設とも建物は市有で単独施設である。
- 土地は、千代田高齢者センターは市有、霞ヶ浦高齢者センターは一部借上げである。

施設名	所在地	開設年	延床面積	敷地面積	所有面積	複合施設区分	建物保有状況	土地保有状況	駐車可能台数
霞ヶ浦高齢者センター	深谷3384番地1	S60	187.17	1,196.00	396.00	単独	所有	一部借上	0
千代田高齢者センター	中佐谷1205番地	H1	340.75	1,204.00	1,204.00	単独	所有	所有	0
合計			527.92	2,400.00	1,600.00				0

(2) 建物状況

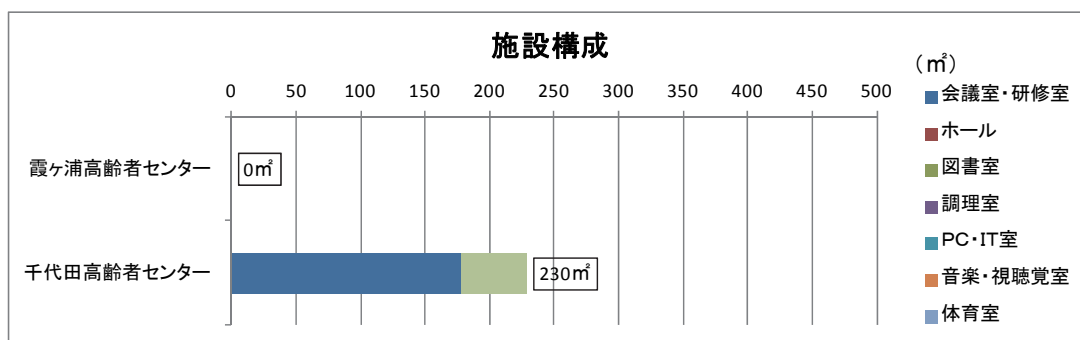
①建物状況

- 両施設とも築20年を経過しており、今後、老朽化への対応を検討する必要がある。
- 両施設とも木造である。
- 両施設において機能改善は対応済だが、環境負荷低減は未実施である。

施設名	建物状況			耐震性		機能改善	機能改善(バリアフリー)					環境負荷低減		
	建築年	築年数	構造	耐震診断	耐震補強	機能改善(7年以内対策)	車いす用エレベーター	身障者用トイレ	車いす用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロッカー	自然採光・太陽	環境対応設備
霞ヶ浦高齢者センター	S61	27	W造	-	-	●	-	●	●	-	●	x	x	x
千代田高齢者センター	H1	24	W造	-	-	●	-	●	●	-	●	x	x	x

②施設構成

- 千代田高齢者センターは、会議室・研修室、その他（和室）が設置されており、会議室・研修室が大部分を占めている。



※霞ヶ浦高齢者センター面積データなし

(3) 利用状況

- 高齢者センターとして設置され施設名称は残しているが、近年の利用は以下のとおり。
- 霞ヶ浦高齢者センターは、シルバー人材センター事務所として貸し付けており、一般利用はない。
- 千代田高齢者センターは、一部を備品倉庫として使用しているが、その他の利用はない。一般の利用は、かすみがうら祭の控室として年1回使用するのみである。

(4) 運営状況

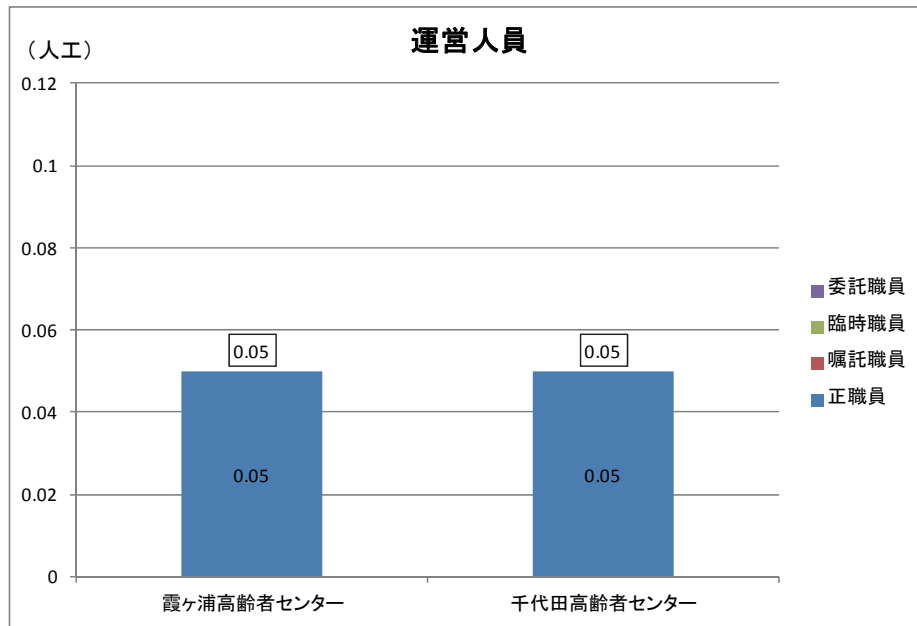
①運営状況

- 運営状況は両施設で統一されており、運営方法は直営、年間運営日数は243日、土・日曜定休、開館時間は9:00~17:00である。

施設名	運営方法	年間運営日数	定休日		開始時間	終了時間
			土曜日	日曜日		
霞ヶ浦高齢者センター	直営	243日	●	●	9:00	17:00
千代田高齢者センター	直営	243日	●	●	9:00	17:00

②運営人員

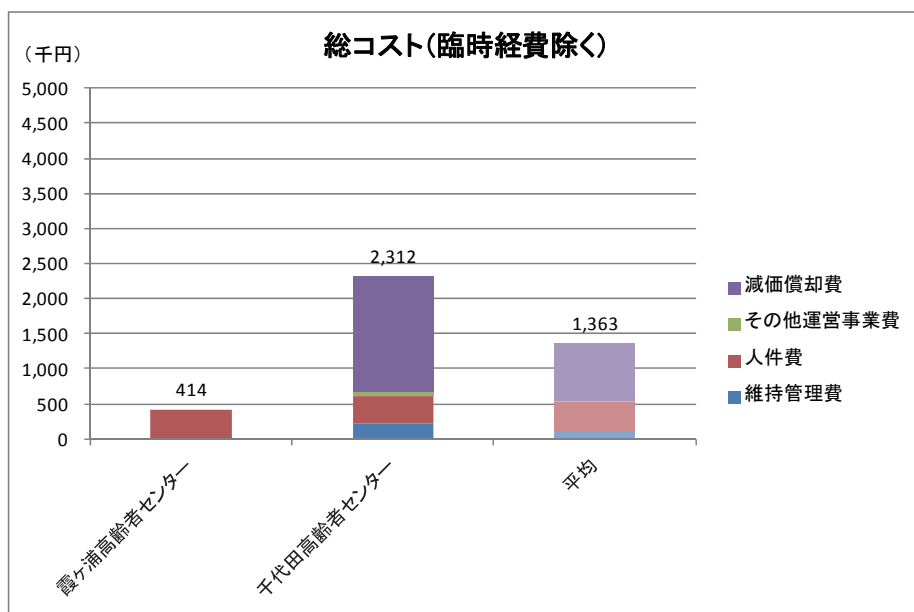
- 運営人員は両施設とも、正職員 0.05 人工である。



(5) コスト状況

①総コスト (臨時経費除く)

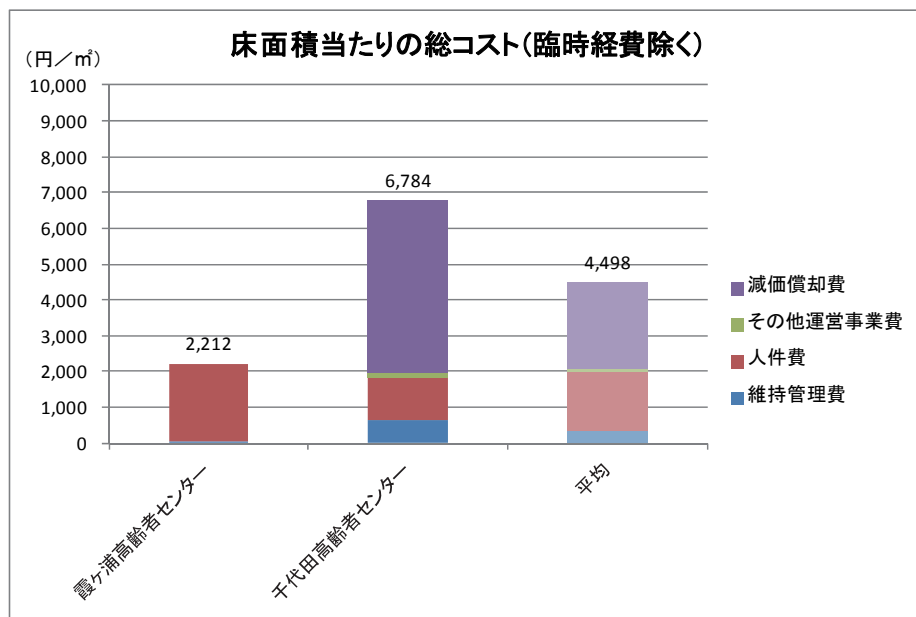
- 高齢者センターの総コストは、2,726 千円である。
- 高齢者センターの平均総コストは、1,363 千円である。
- 千代田高齢者センターの方が高く、減価償却費が多くを占める。



※霞ヶ浦高齢者センターの建物保険料以外の維持管理費はシルバー人材センターが負担

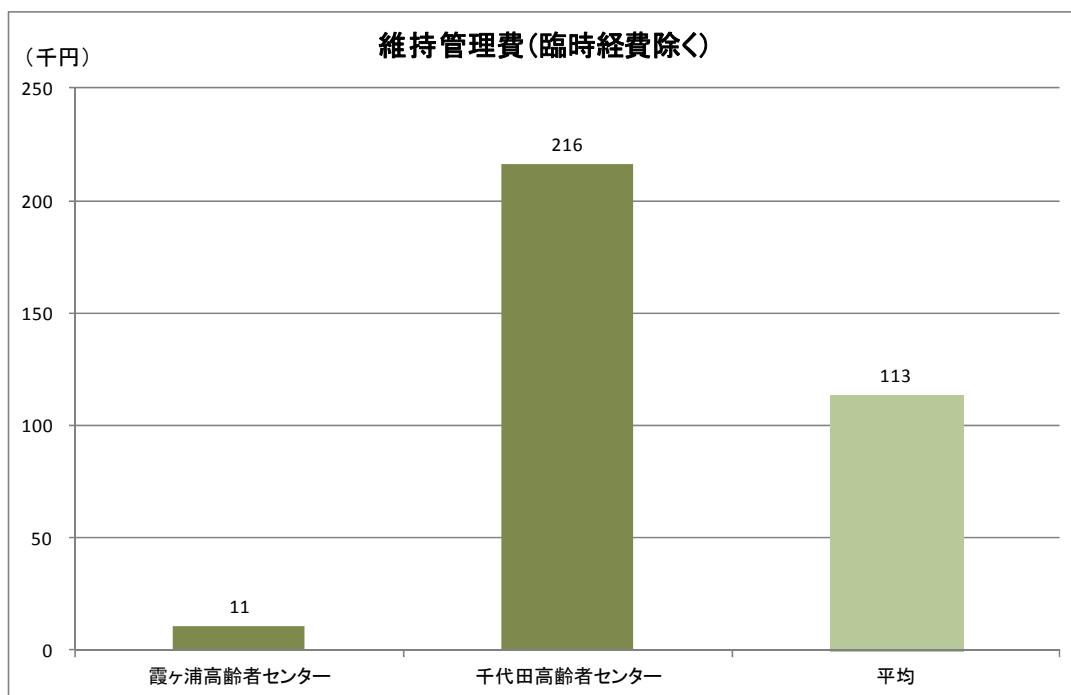
②床面積当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 床面積当たりの総コスト平均額は、4.5 千円/m²である。
- 千代田高齢者センターの方が高く、6.8 千円/m²である。



③維持管理費（臨時経費除く）

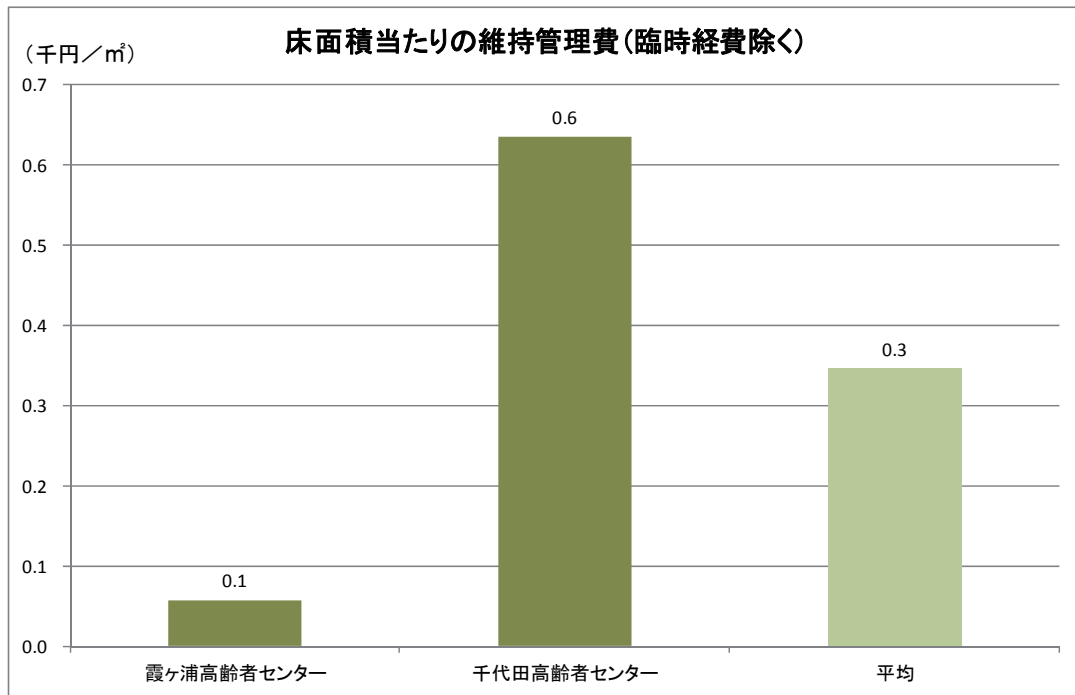
- 維持管理費の平均額は、113 千円である。
- 千代田高齢者センターの方が高く、216 千円である。



※霞ヶ浦高齢者センターの建物保険料以外の維持管理費はシルバー人材センターが負担

④床面積当たりの維持管理費（臨時経費除く）

- 床面積当たりの維持管理費の平均額は、0.3 千円/㎡である。
- 千代田高齢者センターの方が高く、0.6 千円/㎡である。

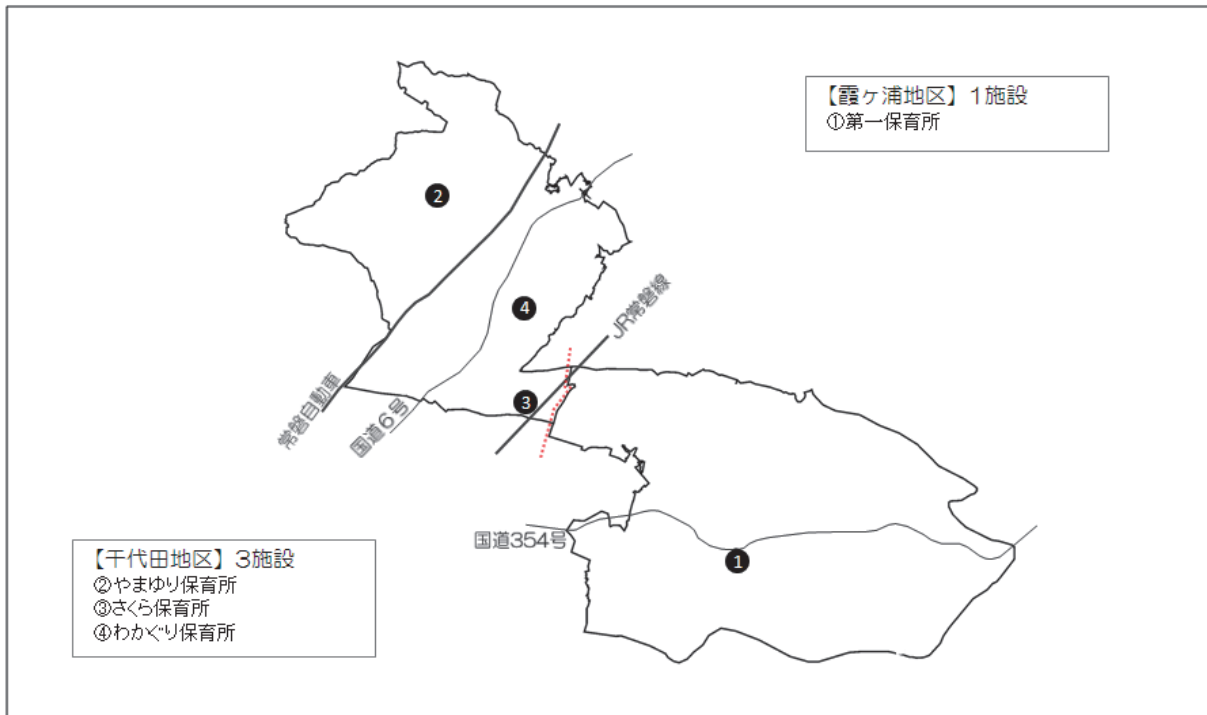


※霞ヶ浦高齢者センターの建物保険料以外の維持管理費はシルバー人材センターが負担

(6) 現状と課題

- 高齢者センターの施設名は残されているが、現状の利用は設置当初と異なっている。
- 両施設とも築30年が近いため、老朽化への対応が必要である。
- 2つの高齢者センターでは、減価償却費及び維持管理費の差が大きい。

5-4. 保育所



(1) 施設状況

- 延床面積では、やまゆり保育所が最も広く、第一保育所が最も小規模な施設である。
- 保育所の総延床面積は、5,478.45 m²である。
- 建物は全て市有だが、土地については、第一保育所が一部借上げ、さくら保育所は借上げである。

施設名	所在地	開設年	延床面積	敷地面積	所有面積	複合施設区分	建物保有状況	土地保有状況	駐車可能台数
第一保育所	深谷3667番地	S40	769.64	5,034.39	4,906.39	単独	所有	一部借上	100
やまゆり保育所	五反田298番地20	H9	2,047.87	12,713.00	12,713.00	単独	所有	所有	140
さくら保育所	稲吉三丁目6番10号	H5	1,399.23	5,250.39	0.00	単独	所有	借上	100
わかぐり保育所	下稲吉519番地2	H6	1,261.71	12,388.00	12,388.00	単独	所有	所有	150
合計			5,478.45	35,385.78	30,007.39				490

(2) 建物状況

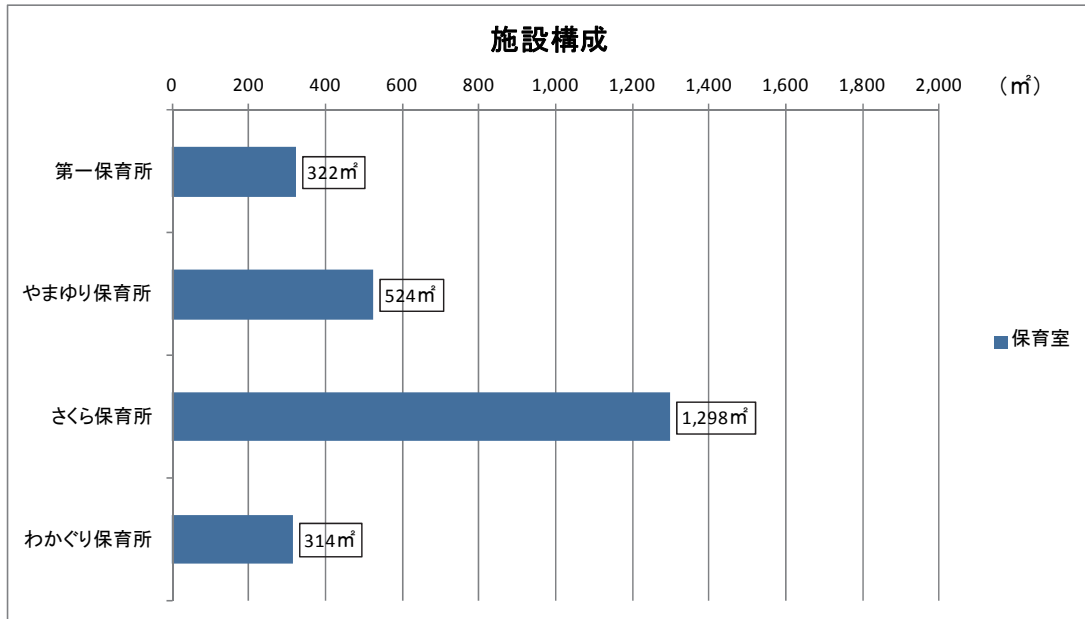
①建物状況

- 第一保育所が最も古く築年数は27年であり、最も新しいのはやまゆり保育所で築16年である。
- 構造は全てRC造である。
- 全ての施設が新耐震基準により整備されている。
- 機能改善は、全ての施設で対応不要である。
- 環境対応については、全施設において未実施の状況である。

施設名	建物状況			耐震性		機能改善	機能改善(バリアフリー)					環境負荷低減		
	建築年	築年数	構造	耐震診断	耐震補強	機能改善(7/26基準対策)	車いす用エレベータ	身障者用トイレ	車いす用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	自然エネルギー・太陽	環境対応設備
第一保育所	S61	27	RC造	-	-	●	-	-	-	-	●	-	×	×
やまゆり保育所	H9	16	RC造	-	-	●	-	-	-	-	●	-	×	×
さくら保育所	H5	20	RC造	-	-	●	-	-	-	-	●	-	×	×
わかぐり保育所	H6	19	RC造	-	-	●	-	-	-	-	●	-	×	×

②施設構成

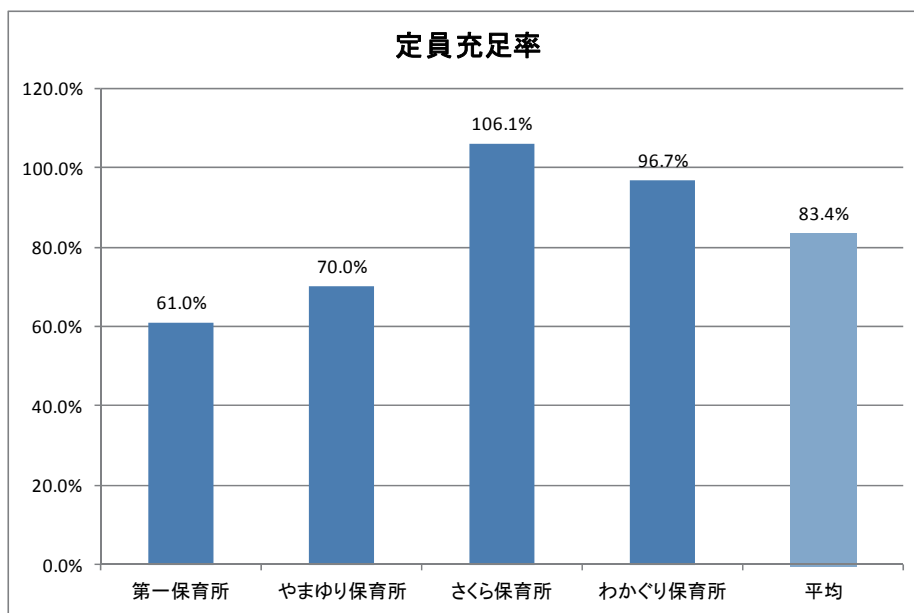
- 保育室の面積は、さくら保育所が最も広く、次いでやまゆり保育所、第一保育所となっている。
- 保育室が最も小さいのは、わかぐり保育所となっている。



(3) 利用状況

①定員充足率

- 保育所定員充足率の平均は 83.4%である。
- さくら保育所、わかぐり保育所では、定員充足率が 100%程度であり、さくら保育所では、100%を超えている。
- 一方、第一保育所とやまゆり保育所では、市の平均定員充足率を下回り、最も定員充足率が低いのは、第一保育所で 61.0%となっている。



※平成 25 年 3 月 1 日現在

(4) 運営状況

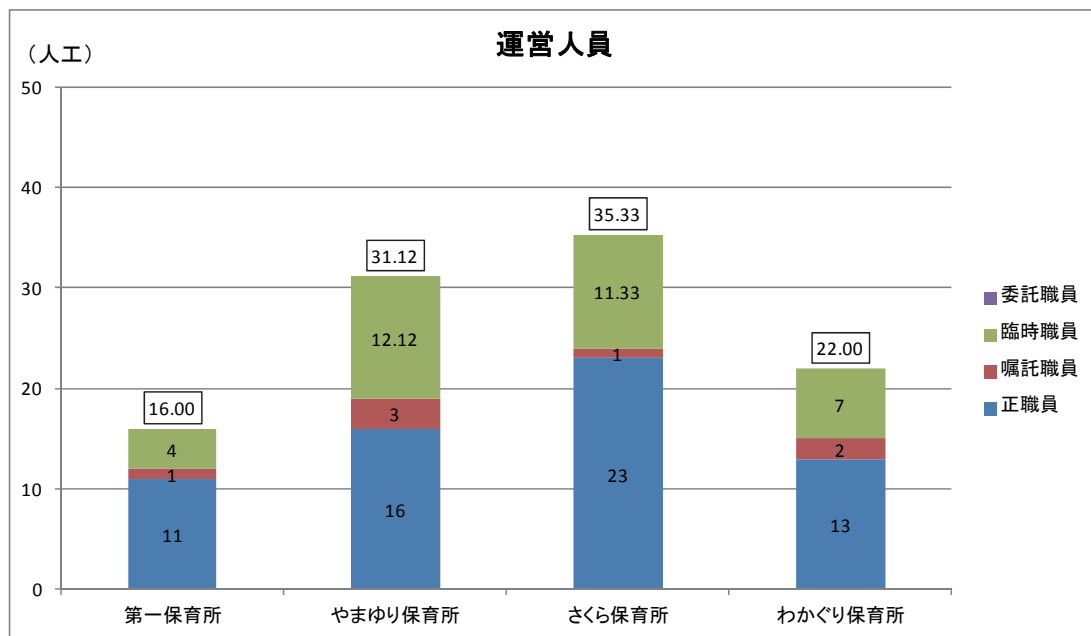
①運営状況

- 運営方法は直営、日曜定休、開所時間は7:00~19:00である。

施設名	運営方法	年間運営日数	定休日		開始時間	終了時間
			日曜日	日曜日		
第一保育所	直営	293日	●		7:00	19:00
やまゆり保育所	直営	290日	●		7:00	19:00
さくら保育所	直営	293日	●		7:00	19:00
わかぐり保育所	直営	293日	●		7:00	19:00

②運営人員

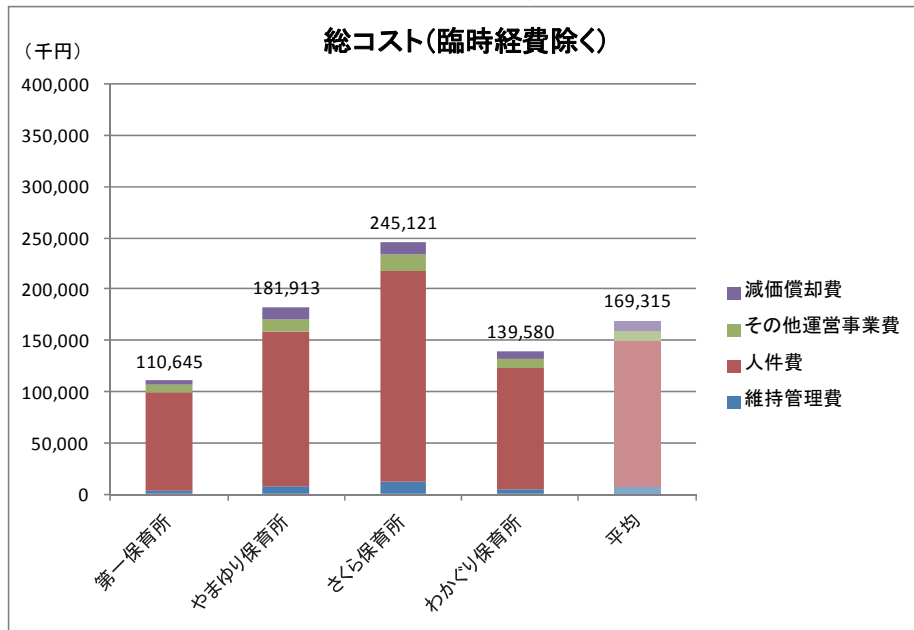
- 運営人員はさくら保育所が最も多く 35.33 人工であり、次いで、やまゆり保育所となっている。
- 最も少ないのは、第一保育所で 16.00 人工である。



(5) コスト状況

①総コスト（臨時経費除く）

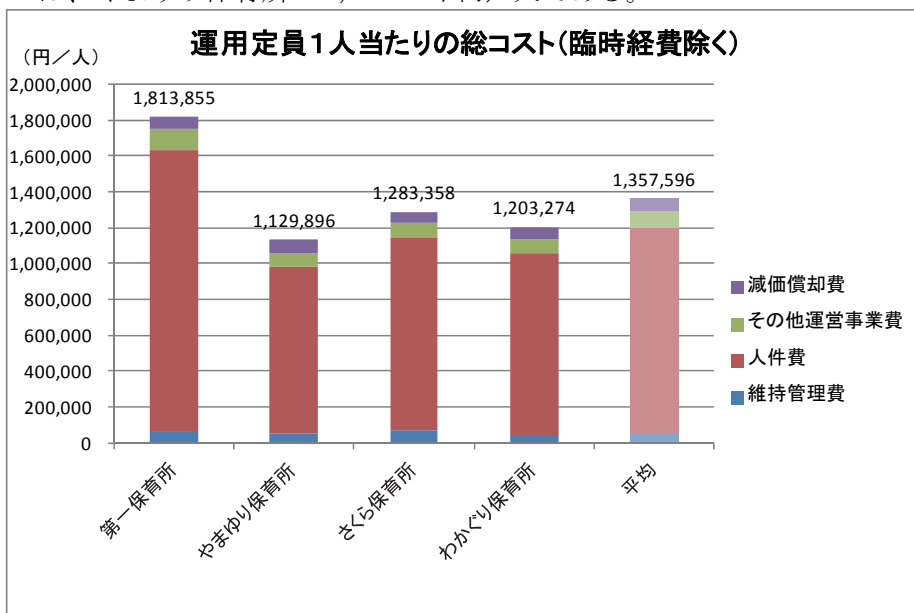
- 保育所全体の総コストは 677 百万円である。
- 保育所全施設の合計で、保育所の平均総コストは、169,315 千円である。
- 全ての施設において、人件費の割合が大半を占めている。
- さくら保育所が最も高く、総コストは 245,121 千円となり、次いで、やまゆり保育所が 181,913 千円となる。
- 最も総コストが低いのは、第一保育所であり、110,645 千円となる。



※保育園バス・公用車に係るコストは除外

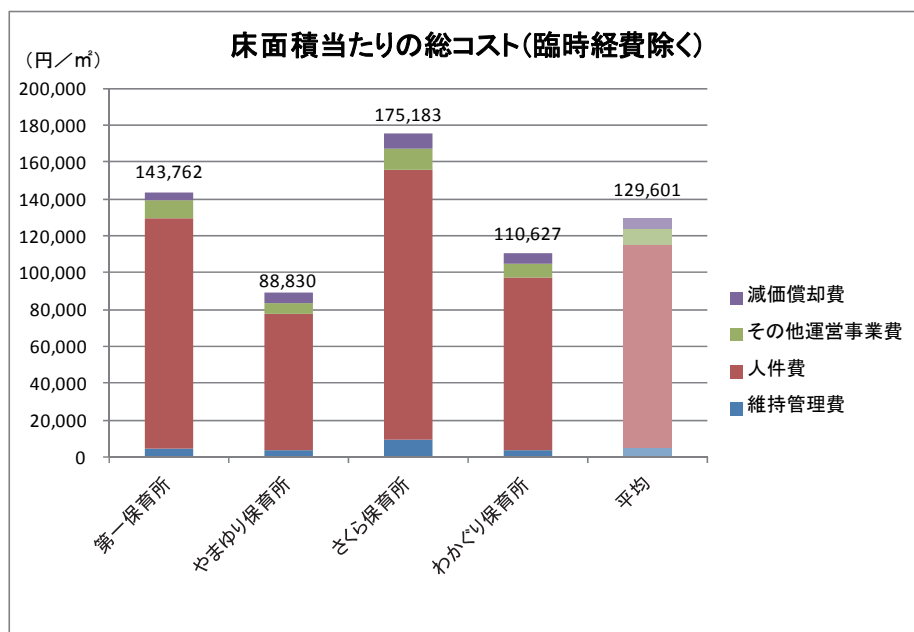
②運用定員1人当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 運用定員1人当たりの総コスト平均額は 1,357.6 千円/人である。
- 全ての施設において、総コストの大半を人件費が占めている。
- 最も高いのは、第一保育所であり、1,813.9 千円/人であり、次いで、さくら保育所が 1,283.4 千円/人となる。
- 最も低いのは、やまゆり保育所の 1,129.9 千円/人である。



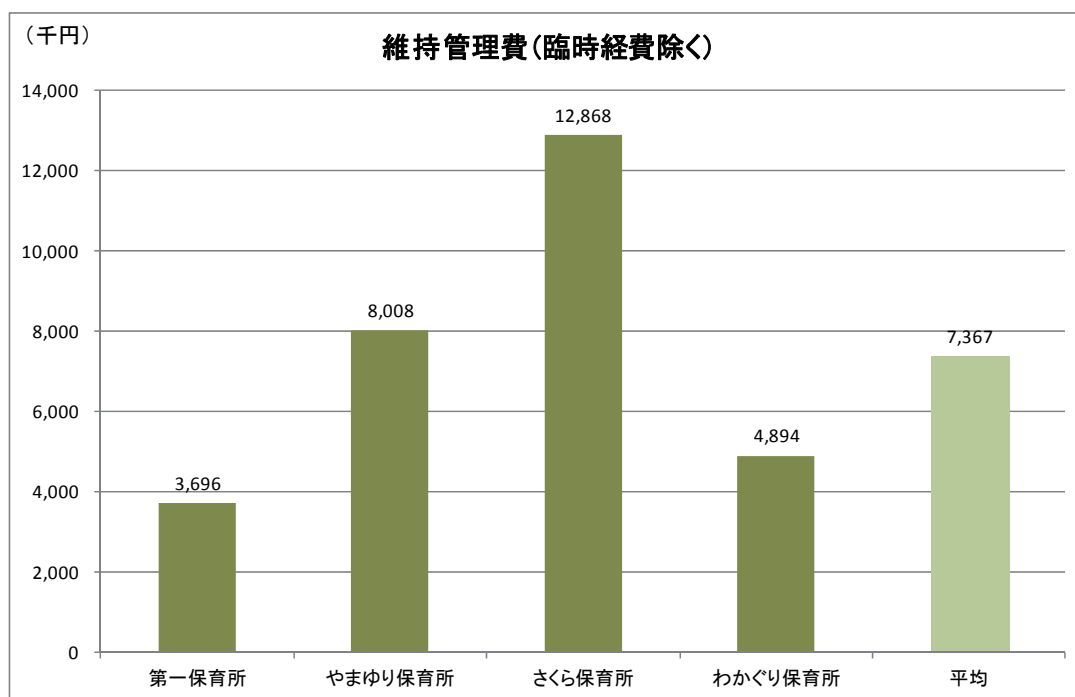
③床面積当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 床面積当たりの総コスト平均額は129.6千円/m²である。
- 最も高いのはさくら保育所175.2千円/m²、次いで高いのは第一保育所で143.8千円/m²である。
- 最も低いのは、やまゆり保育所であり、88.8千円/m²である。



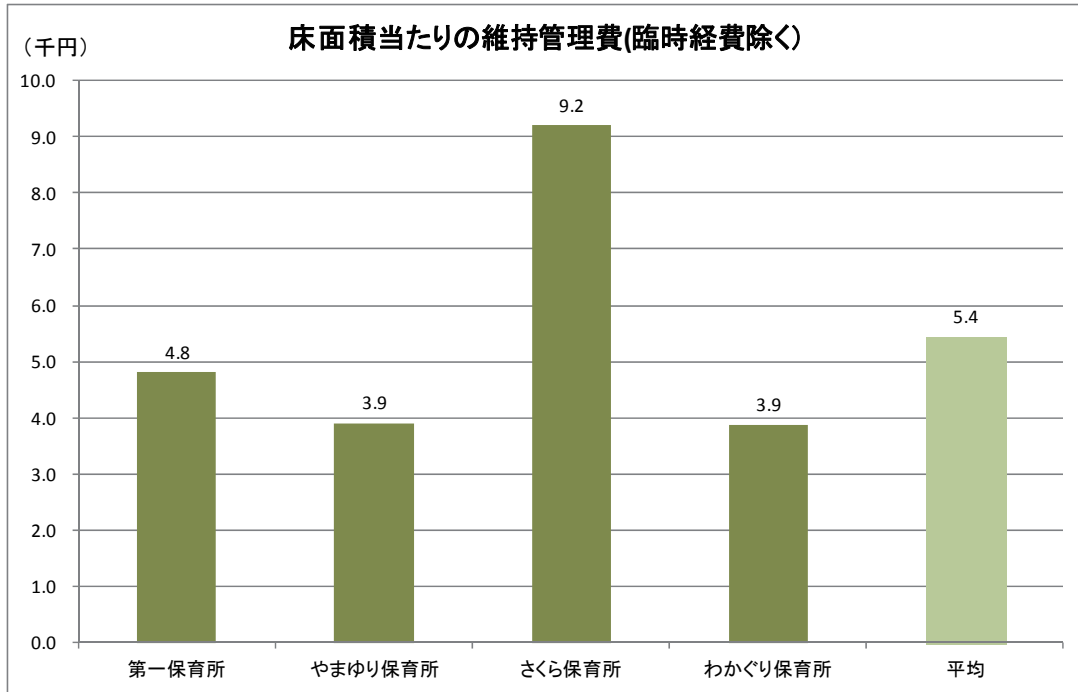
④維持管理費（臨時経費除く）

- 維持管理費の平均額は、7,367千円である。
- さくら保育所が最も高く12,868千円、次いでやまゆり保育所が高く8,008千円である。
- 最も低い施設は、第一保育所であり、3,696千円である。



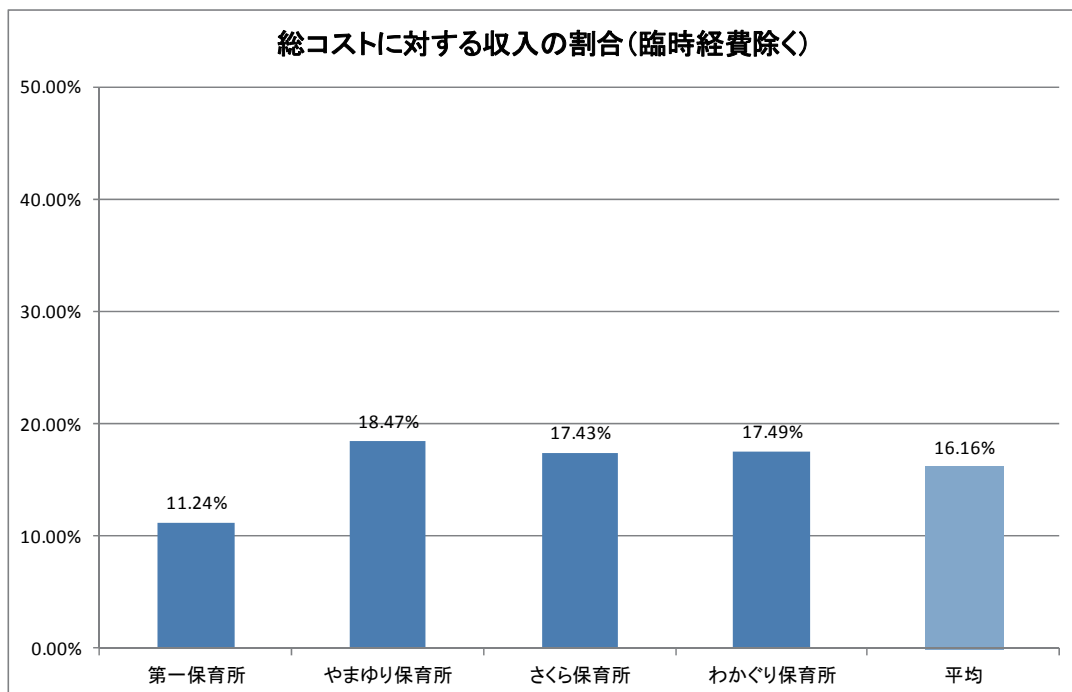
⑤床面積当たりの維持管理費（臨時経費除く）

- 床面積当たりの維持管理費の平均は、5.4 千円/m²である。
- 最も高いのはさくら保育所で9.2 千円/m²、次いで第一保育所が高く、4.8 千円/m²である。
- 最も低いのは、やまゆり保育所とわかぐり保育所であり、3.9 千円/m²となる。



⑥総コストに対する収入の割合（臨時経費除く）

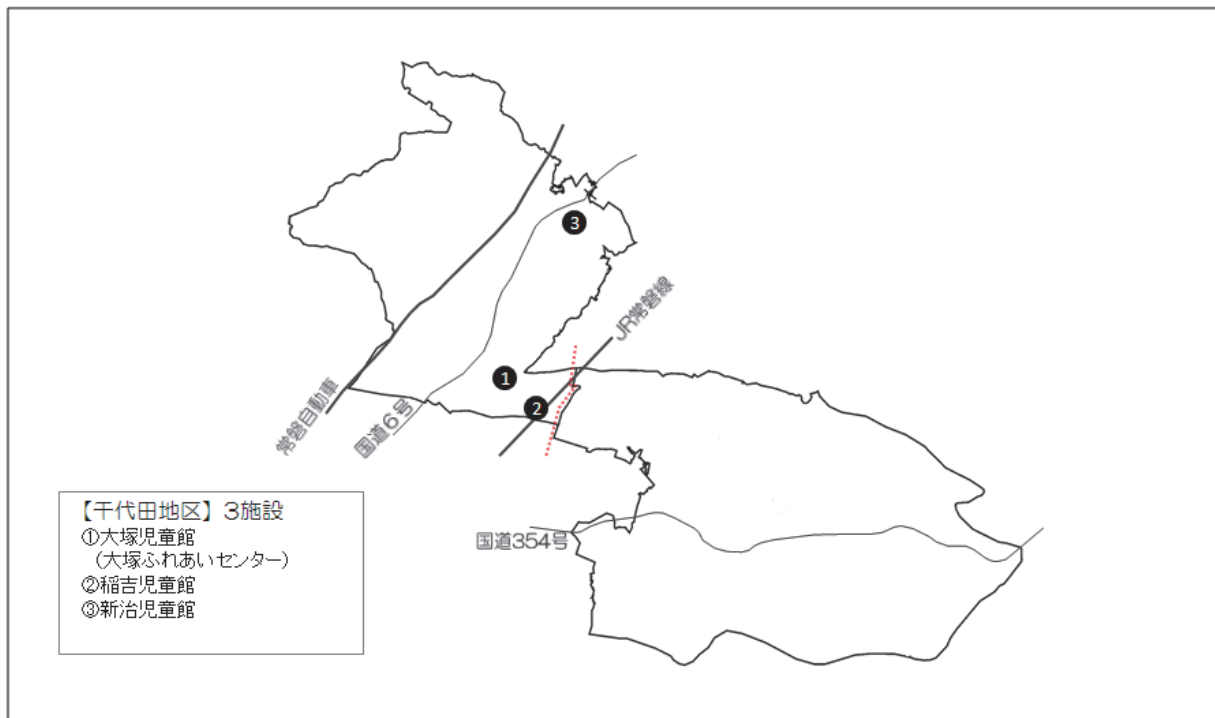
- 総コストに対する収入の割合は、平均で16.16%である。
- 最も高いのは、やまゆり保育所で18.47%、次いでわかぐり保育所、さくら保育所となっている。
- 最も低いのは、第一保育所で11.24%となり、唯一平均を下回っている。



(6) 現状と課題

- 合併後に適切な保育サービスを提供するため、霞ヶ浦地区に民間保育所2施設が整備されたことから、1施設を残し、5施設を廃止した。千代田地区については、合併前に施設統廃合を実施し、3施設を設置している。第一保育所はまもなく築30年を迎えるため、今後、老朽化対策が必要となる。
- 「市立保育所民営化移行計画」に基づきその設置運営方法について検討を進めている。
- 施設間での利用状況にバラつきが見られ、定員充足率が100%程度である施設と、70%に満たない施設とで二極化している。
- 総コストの大半を人件費が占め、他の用途に比べて、総コストが大幅に高くなっている。
- 総コストに対する収入の割合において、差が生じている。

5-5. 児童館



(1) 施設状況

- 児童館は3施設あり、総延床面積は、828.31㎡である。
- 延床面積では新治児童館が最も広く、稲吉児童館が最も小規模な施設である。
- 大塚児童館は大塚ふれあいセンターとの複合施設として整備されている。
- 建物は全て市有だが、土地は稲吉児童館が一部借上げである。

施設名	所在地	開設年	延床面積	敷地面積	所有面積	複合施設区分	建物保有状況	土地保有状況	駐車可能台数
大塚児童館	下稲吉1868番地22 (2階)	H8	298.59	1,255.08	1,255.08	複合	所有	所有	9
稲吉児童館	稲吉二丁目6番5号	S60	229.24	607.00	496.00	単独	所有	一部借上	0
新治児童館	西野寺51番地1	H18	300.48	856.86	856.86	単独	所有	所有	7
合計			828.31	2,718.94	2,607.94				16

(2) 建物状況

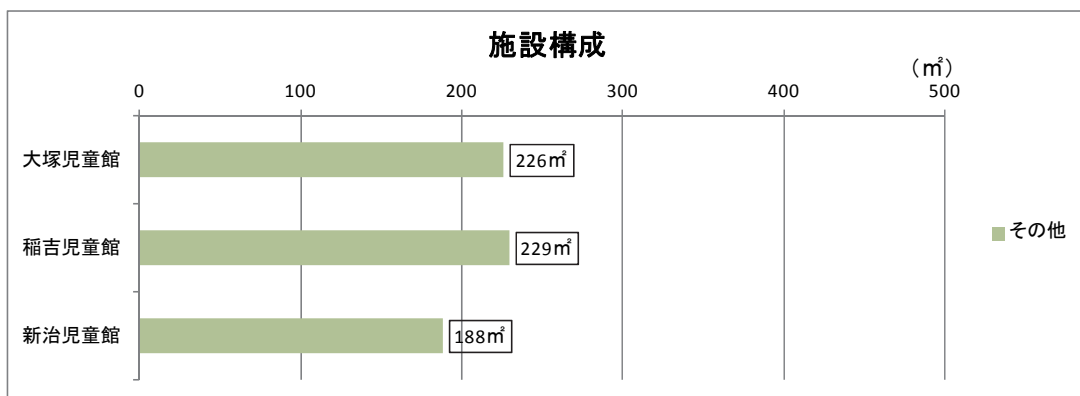
①建物状況

- ・ 稲吉児童館が最も古く築年数は28年であり、今後は老朽化への対応が必要とされる。最も新しいのは新治児童館で築7年である。
- ・ 構造は、稲吉児童館が木造、新治児童館が鉄骨造、大塚児童館がRC造である。
- ・ 全ての施設が新耐震基準により整備されている。
- ・ 機能改善（バリアフリー）は、新治児童館では対応されているが、大塚児童館、稲吉児童館では未実施である。
- ・ 環境対応については、全施設において未実施の状況である。

施設名	建物状況			耐震性		機能改善	機能改善(バリアフリー)					環境負荷低減		
	建築年	築年数	構造	耐震診断	耐震補強	機能改善(72ヘリ対策)	車いす用エレベータ	身障者用トイレ	車いす用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	自然エネルギー・太陽	環境対応設備
大塚児童館	H8	17	RC造	-	-	●	-	×	-	-	-	-	×	×
稲吉児童館	S60	28	W造	-	-	●	-	×	-	-	-	-	×	×
新治児童館	H18	7	S造	-	-	●	-	●	-	-	-	-	×	×

②施設構成

- ・ 全ての児童館において、遊戯室や児童クラブ室が設置されている。

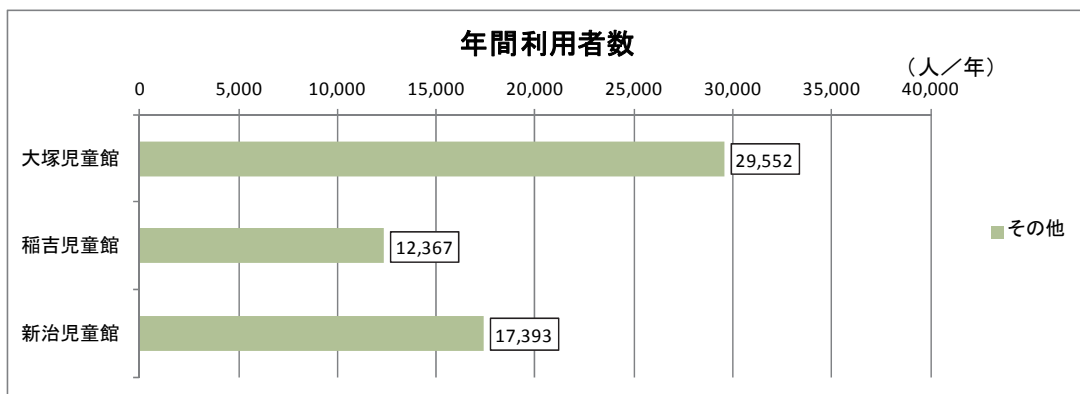


※その他
 大塚児童館：遊戯室・図書室・児童クラブ室
 稲吉児童館：遊戯室・集会室・図書室（児童クラブ室）・和室
 新治児童館：遊戯室・集会室・児童クラブ室

(3) 利用状況

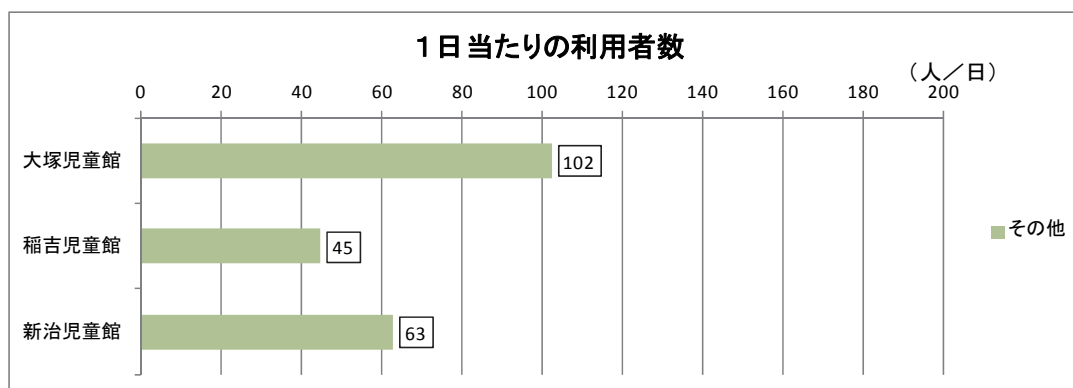
①年間利用者数

- ・ 大塚児童館の利用が最も多く年間29,552人であり、最も利用が少ないのは、稲吉児童館で年間12,367人である。



② 1日当たりの利用者数

- 大塚児童館は、1日当たり102人の利用があり、次いで新治児童館で63人となっている。
- 児童館では、稲吉児童館の1日当たりの利用が最も少なく、45人となっている。



(4) 運営状況

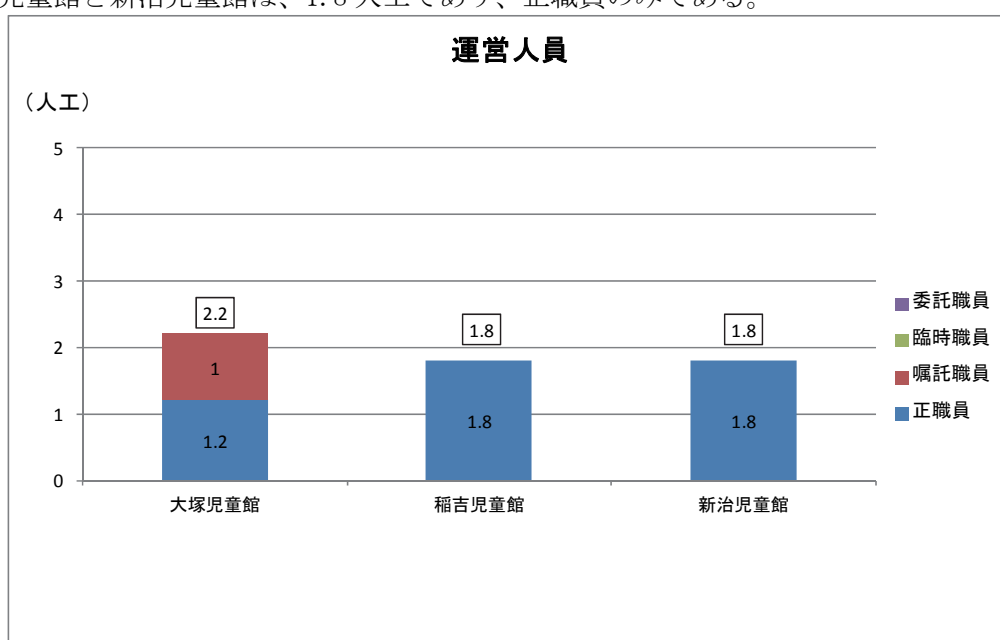
① 運営状況

- 運営方法は直営、定休日は土曜午後及び日曜終日、開館時間は8:30~18:00である。

施設名	運営方法	年間運営日数	定休日		開始時間	終了時間
			土曜日	日曜日		
大塚児童館	直営	289日	■	●	8:30	18:00
稲吉児童館	直営	277日	■	●	8:30	18:00
新治児童館	直営	277日	■	●	8:30	18:00

② 運営人員

- 運営人員は大塚児童館で最も多く2.2人工であり、嘱託職員がいる。
- 稲吉児童館と新治児童館は、1.8人工であり、正職員のみである。

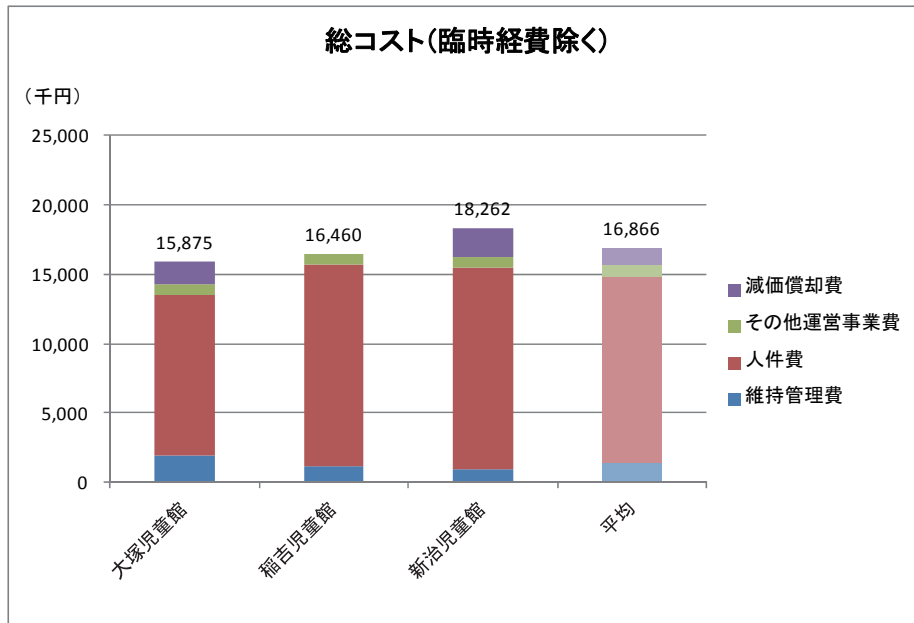


※放課後児童クラブに係る人工（臨時職員）は含んでいない。

(5) コスト状況

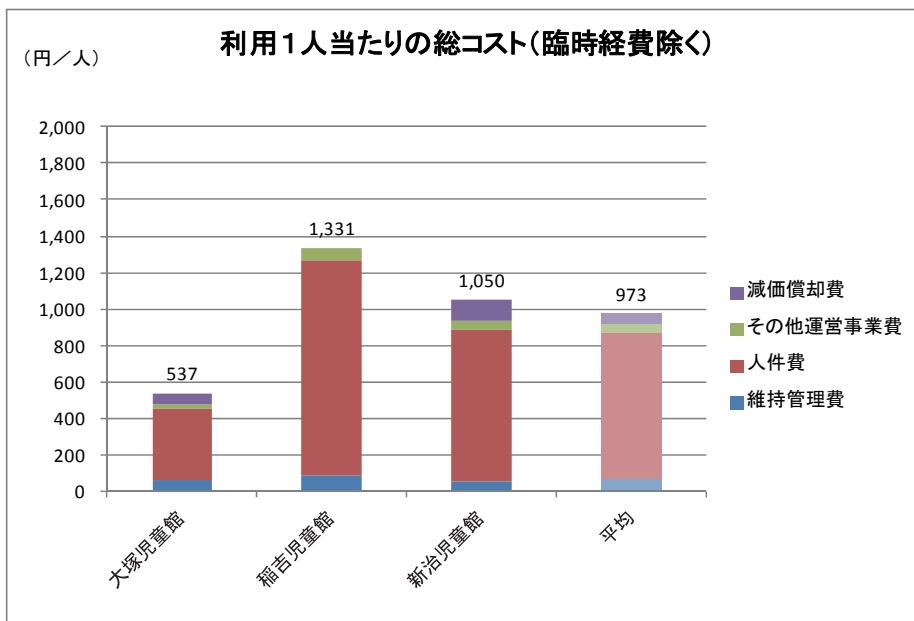
①総コスト（臨時経費除く）

- 児童館全体の総コストは 51 百万円である。
- 児童館の平均総コストは、16,866 千円である。
- 新治児童館が最も高く、18,262 千円であり、次いで稲吉児童館が高く 16,460 千円である。
- 最もコストが低いのは大塚児童館であり、総コストは 15,875 千円である。



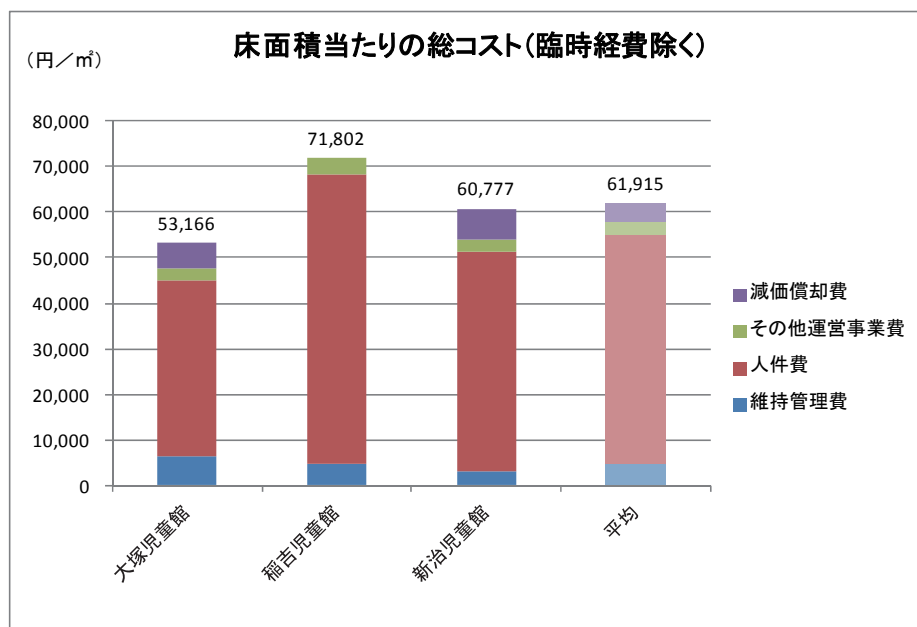
②利用1人当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 利用1人当たりの総コスト平均額は 973 円/人である。
- 全ての施設において、人件費の割合が大半を占めている。
- 最も高いのは、稲吉児童館であり、1,331 円/人であり、最も低いのは大塚児童館の 537 円/人である。



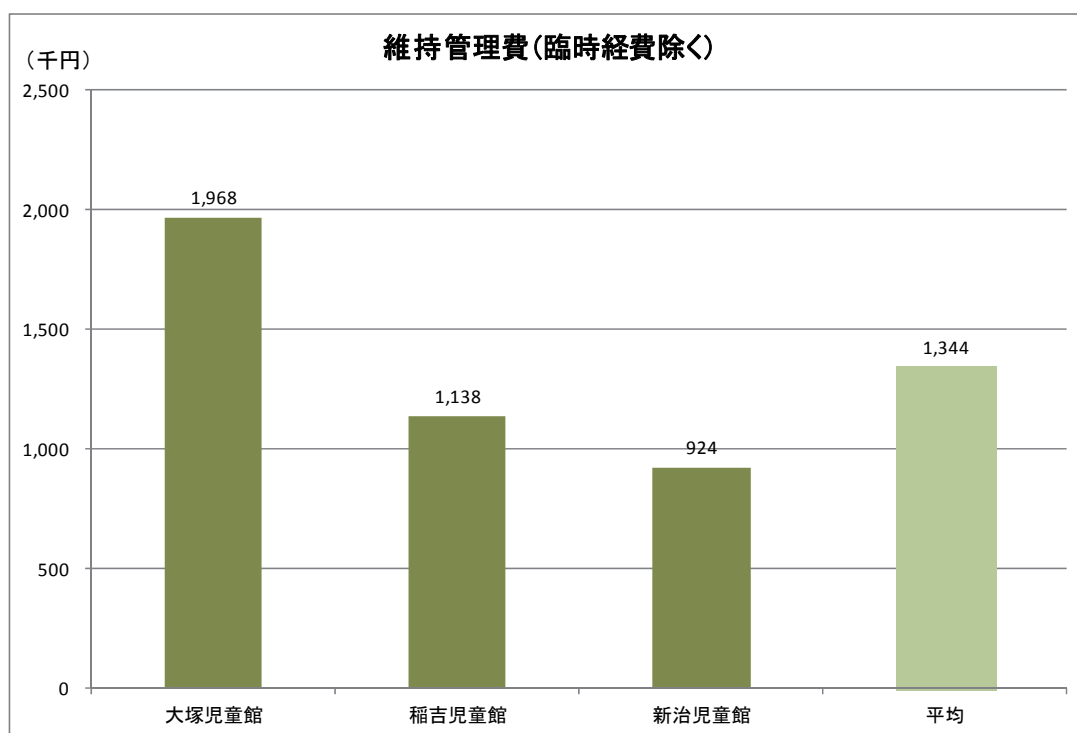
③床面積当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 床面積当たりの総コスト平均額は61.9千円/㎡である。
- 最も高いのは、稲吉児童館の71.8千円/㎡、次いで新治児童館で60.8千円/㎡である。
- 大塚児童館が最も低く、53.2千円/㎡である。



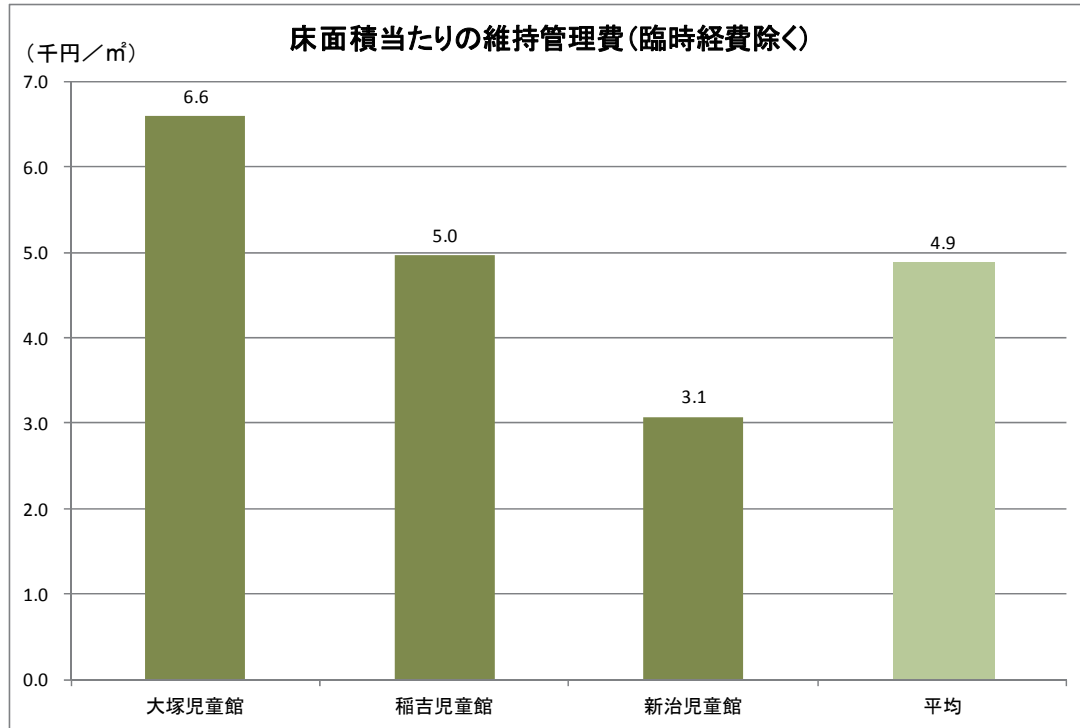
④維持管理費（臨時経費除く）

- 維持管理費の平均額は、1,344千円である。
- 大塚児童館が最も高く1,968千円である。
- 稲吉児童館は、1,138千円であり、新治児童館が最も低く、924千円となっている。



⑤床面積当たりの維持管理費（臨時経費除く）

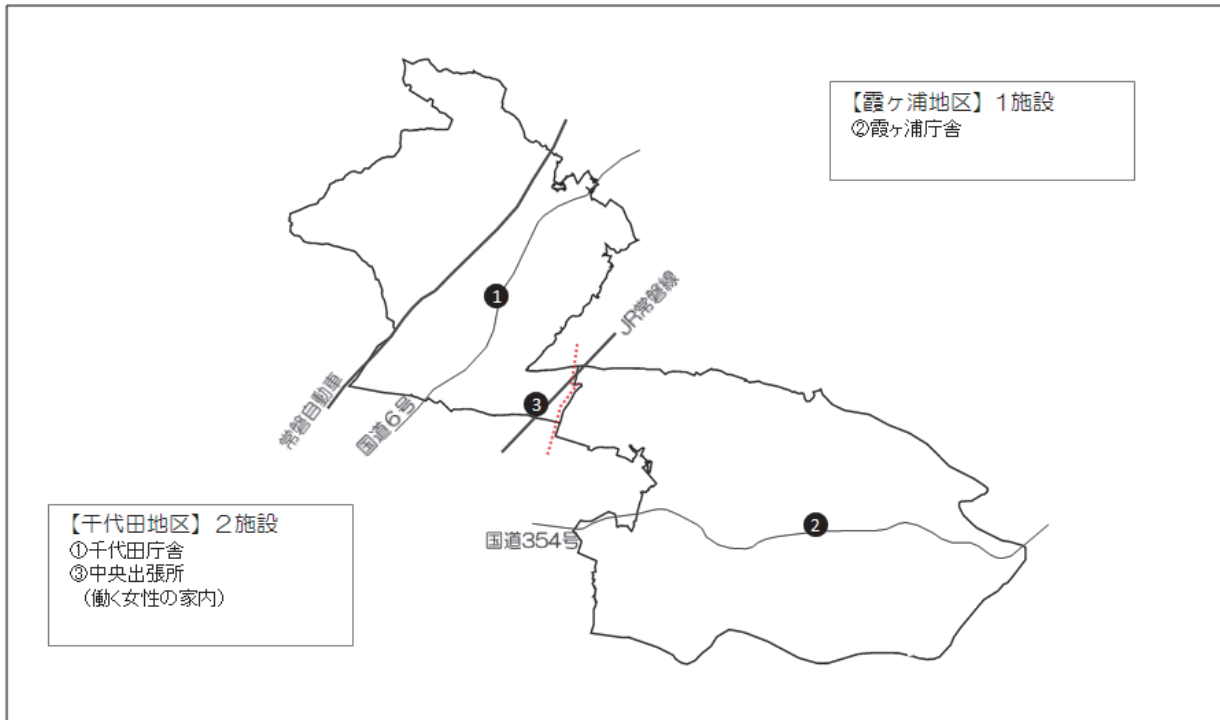
- 床面積当たりの維持管理費の平均は、4.9 千円/㎡である。
- 最も高いのは大塚児童館で 6.6 千円/㎡、次いで稲吉児童館が高く、5.0 千円/㎡である。
- 最も低いのは、新治児童館であり、3.1 千円/㎡である。



(6) 現状と課題

- 2施設は市の中央部に配置されており、施設の配置状況に偏りがある。特に、大塚児童館と稲吉児童館の2施設は、近接して配置されている。
- 稲吉児童館は、木造でまもなく築30年を迎えるため、今後は老朽化対策が必要となる。
- 複合施設となっている大塚児童館とその近隣に配置される稲吉児童館では、大塚児童館の半数以下の利用者数となっている。
- 利用者数が最も少ない稲吉児童館では、利用1人当たりの総コスト、延床面積当たりの総コストが最も高くなっている。
- 大塚児童館の維持管理費は、他の2施設の維持管理費の2倍程度となっており、床面積当たりの維持管理費も、大塚児童館が最も高い。

6. 行政系施設



6-1. 庁舎

(1) 施設状況

- ・ 庁舎の総延床面積は、8,329.43 m²である。
- ・ 2庁舎とも単独施設として整備されている。
- ・ 建物は全て市有だが、土地は千代田庁舎が一部借上げである。

施設名	所在地	開設年	延床面積	敷地面積	所有面積	複合施設区分	建物保有状況	土地保有状況	駐車可能台数
千代田庁舎	上土田461番地	S30	5,441.66	19,650.96	19,515.96	単独	所有	一部借上	73
霞ヶ浦庁舎	大和田562番地	S31	2,887.77	21,645.91	21,645.91	単独	所有	所有	70
合計			8,329.43	41,296.87	41,161.87				143

(2) 建物状況

①建物状況

- ・ 千代田庁舎は築39年であり、平成25年度に耐震補強とともに設備等の更新を実施したが、今後も老朽化への対応が求められる。
- ・ 構造は2庁舎ともRC造である。
- ・ 霞ヶ浦庁舎は築年数3年と新しく、耐震診断は不要である。
- ・ 機能改善は2庁舎とも実施済みである。
- ・ 環境対応については2庁舎とも実施済みである。

施設名	建物状況			耐震性		機能改善	機能改善(バリアフリー)						環境負荷低減	
	建築年	築年数	構造	耐震診断	耐震補強	機能改善(77歳以上対象)	車いす用エレベーター	身障者用トイレ	車いす用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	自然採光・太陽	環境対応設備
千代田庁舎	S49	39	RC造	実施済	実施済	●	●	●	●	●	●	●	●	●
霞ヶ浦庁舎	H22	3	RC造	-	-	●	-	●	●	●	●	●	●	●

(3) 運営状況

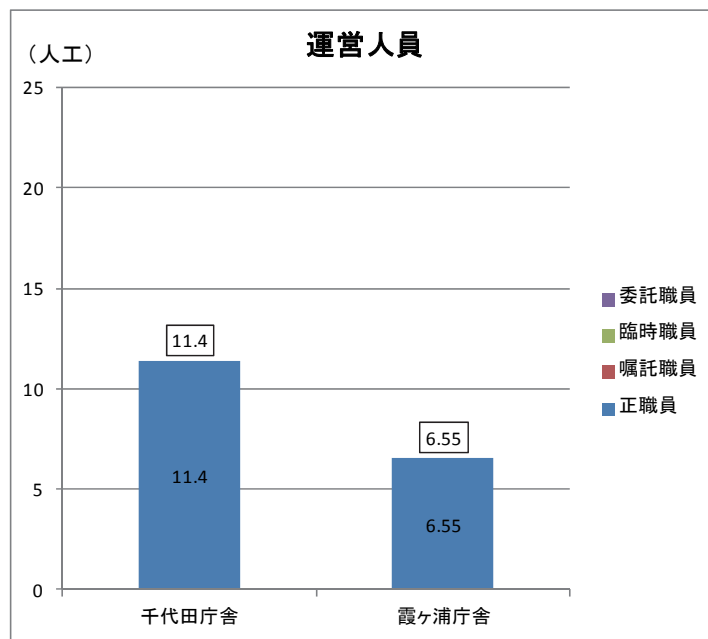
①運営状況

- 2庁舎とも直営、土曜・日曜・祝日定休、開庁時間は8:30~17:15である。

施設名	運営方法	年間運営日数	定休日		開始時間	終了時間
			土曜日	日曜日		
千代田庁舎	直営	245日	●	●	8:30	17:15
霞ヶ浦庁舎	直営	245日	●	●	8:30	17:15

②運営人員

- 運営人員は、千代田庁舎が11.4人工、霞ヶ浦庁舎が6.55人工である。

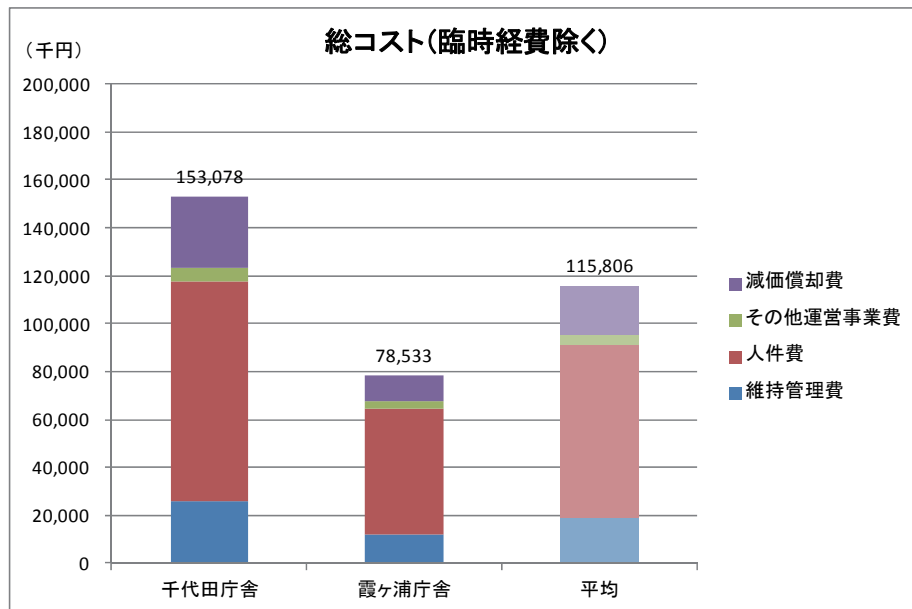


※運営人員には、庁舎の施設管理に係る人工以外に、窓口関連の人工を含んでいる。

(4) コスト状況

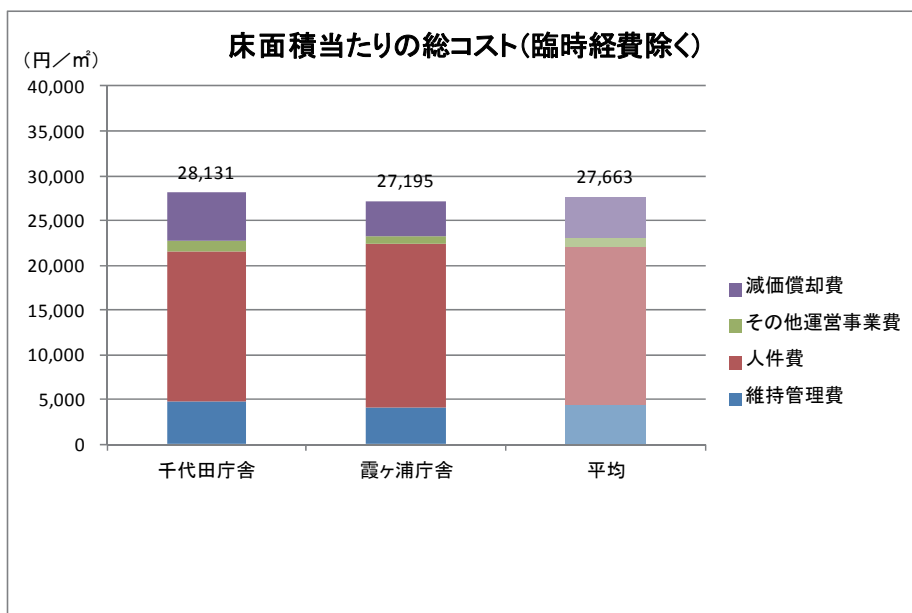
①総コスト（臨時経費除く）

- 庁舎の総コストは 232 百万円である。
- 庁舎の平均総コストは、115,806 千円で、人件費の割合が大きい。
- 千代田庁舎の総コストは 153,078 千円、霞ヶ浦庁舎は 78,533 千円である。



②床面積当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 床面積当たりの総コスト平均額は 27.7 千円/m²である。
- 千代田庁舎の床面積当たりの総コストは 28.1 千円/m²、霞ヶ浦庁舎は 27.2 千円/m²と同程度である。



③維持管理費（臨時経費除く）

- 維持管理費の平均額は18,669千円である。
- 千代田庁舎の維持管理費は25,547千円、霞ヶ浦庁舎は11,791千円である。

④床面積当たりの維持管理費（臨時経費除く）

- 床面積当たりの維持管理費の平均は、4.4千円/m²である。
- 千代田庁舎の床面積当たりの維持管理費は4.7千円/m²、霞ヶ浦庁舎は4.1千円/m²と同程度である。

⑤総コストに対する収入の割合（臨時経費除く）

- 総コストに対する収入の割合は、平均で5.93%である。
- 千代田庁舎の総コストに対する収入の割合は5.01%、霞ヶ浦庁舎は6.85%である。

(5) 現状と課題

- 千代田庁舎は、平成25年度に耐震補強等工事を実施したが、築30年を超えているため、老朽化への対応が必要である。
- 床面積当たりで見ると2施設のコストに大きな差はないが、総コストに対する収入の割合は、霞ヶ浦庁舎の方が高い状況である。

6-2. 出張所

(1) 施設状況

- 出張所は中央出張所1施設であり、延床面積は61.45 m²である。
- 働く女性の家内に併設されている。

施設名	所在地	開設年	延床面積	敷地面積	所有面積	複合施設区分	建物保有状況	土地保有状況	駐車可能台数
中央出張所	稲吉三丁目15番67号	H13	61.45	0.00	0.00	複合	所有	所有	49
合計			61.45	0.00	0.00				49

(2) 建物状況

①建物状況

- 築30年を迎えることから、今後、老朽化への対応が必要である。
- 構造はRC造である。
- バリアフリーは点字ブロックを除き対応済みである。
- 環境対応については未実施である。

施設名	建物状況			耐震性		機能改善	機能改善(バリアフリー)						環境負荷低減	
	建築年	築年数	構造	耐震診断	耐震補強	機能改善(バリアフリー)	車いす用エレベータ	身障者用トイレ	車いす用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	自然エネルギー・太陽	環境対応設備
中央出張所	S62	26	RC造	-	-	●	-	●	●	●	●	×	×	×

(3) 運営状況

①運営状況

- 運営方法は直営であり、土曜・日曜・祝日定休である。開所時間は8:30~17:15である。

施設名	運営方法	年間運営日数	定休日		開始時間	終了時間
			土曜日	日曜日		
中央出張所	直営	245日	●	●	8:30	17:15

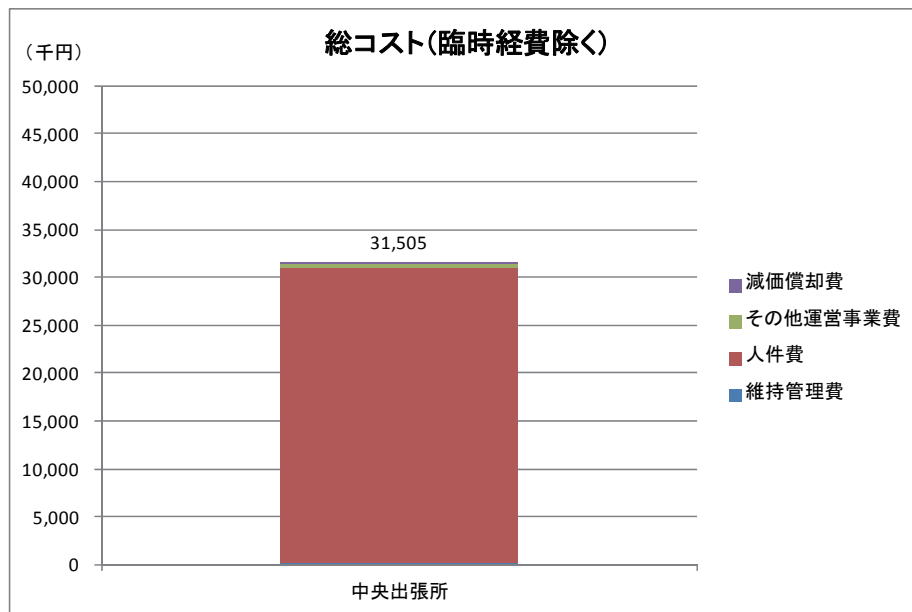
②運営人員

- 運営人員は全て正職員であり、3.83 人工である。

(4) コスト状況

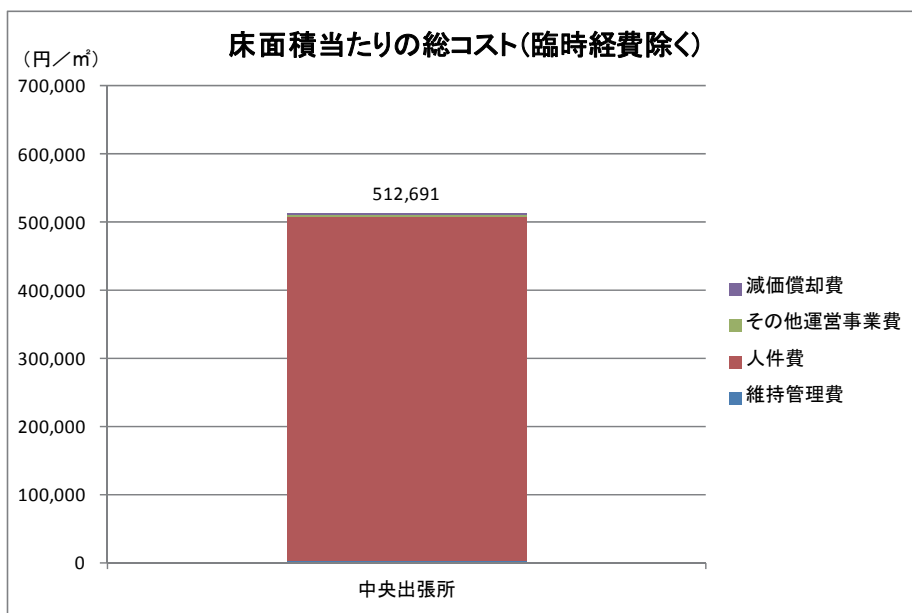
①総コスト（臨時経費除く）

- 総コストは 32 百万円であり、人件費の割合が大きい。



②床面積当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 床面積当たりの総コストは 512.7 千円/m²である。



③維持管理費（臨時経費除く）

- 維持管理費は211千円である。

④床面積当たりの維持管理費（臨時経費除く）

- 床面積当たりの維持管理費は3.4千円/m²である。

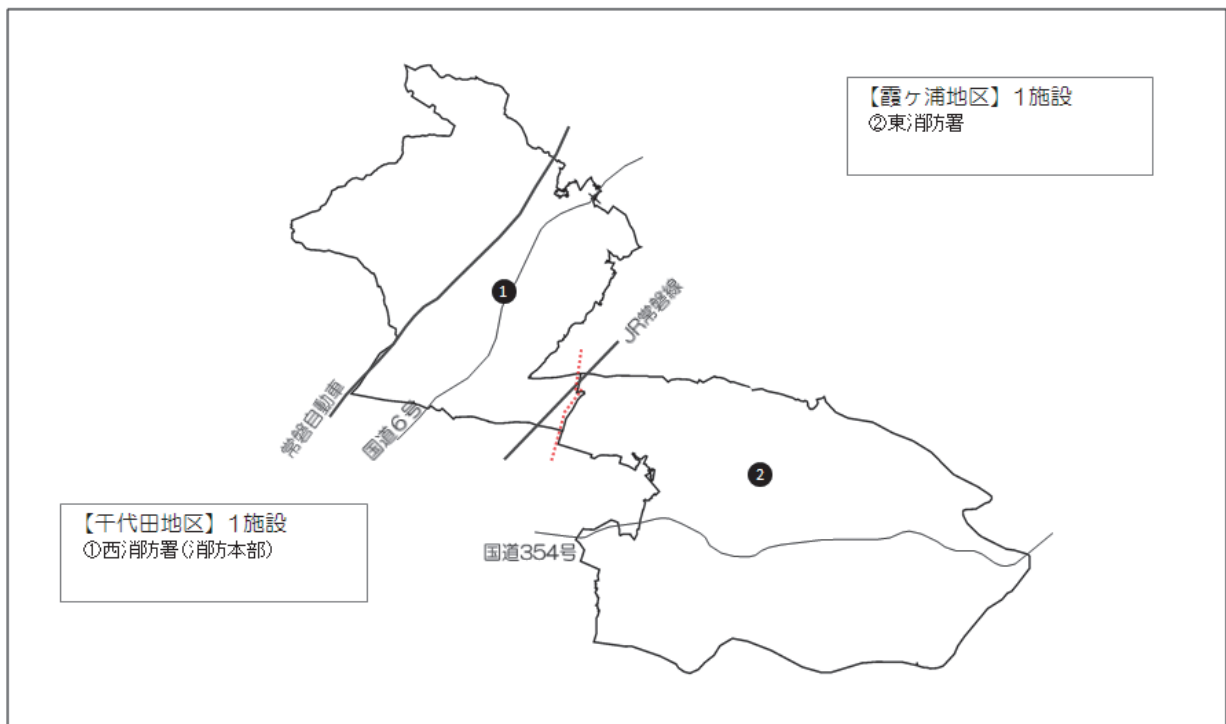
⑤総コストに対する収入の割合（臨時経費除く）

- 総コストに対する収入の割合は13.97%である。

(5) 現状と課題

- 築30年に近いため、老朽化への対応が必要である。(働く女性の家内)

6-3. 消防署



(1) 施設状況

- 消防署は2施設あり、総延床面積は、2,001.34 m²である。
- 両施設とも単独で整備されている。
- 建物は市有だが、土地は、消防本部（西消防署）では借上げ、東消防署では一部借上げとなっている。

施設名	所在地	開設年	延床面積	敷地面積	所有面積	複合施設区分	建物保有状況	土地保有状況	駐車可能台数
消防本部(西消防署)	上土田501番地	S52	1,377.52	4,990.00	0.00	単独	所有	借上	14
東消防署	穴倉2410番地6	S52	623.82	3,922.84	3,852.84	単独	所有	一部借上	20
合計			2,001.34	8,912.84	3,852.84				34

(2) 建物状況

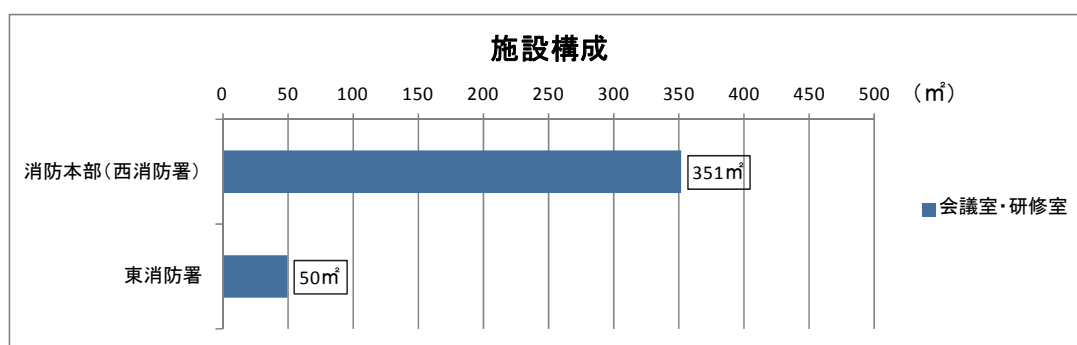
①建物状況

- 両施設とも築30年以上が経過しており、老朽化への対応が求められる。
- 構造は、両施設ともRC構造である。
- 消防本部（西消防署）では、耐震補強は不要であるが、東消防署では、未実施となっている。
- 機能改善は、両施設とも実施済みである。
- 環境対応については、消防本部（西消防署）で一部実施され、東消防署では未実施である。

施設名	建物状況			耐震性		機能改善	機能改善(バリアフリー)					環境負荷低減		
	建築年	築年数	構造	耐震診断	耐震補強	機能改善 (77% 対策)	車いす用 エレベータ	身障者用 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロッコ	自然採光・ 太陽	環境対応 設備
消防本部(西消防署)	S52	36	RC造	実施済	不要	●	-	-	-	-	●	-	×	●
東消防署	S54	34	RC造	実施済	未実施	●	-	-	-	-	-	-	×	×

②施設構成

- 消防本部（西消防署）では、会議室・研修室が351㎡、東消防署では、50㎡となっている。



(3) 運営状況

①運営状況

- 運営方法は直営である。

施設名	運営方法	年間運営 日数	開始時間	終了時間
消防本部(西消防署)	直営	365日	8:30	8:30
東消防署	直営	365日	8:30	8:30

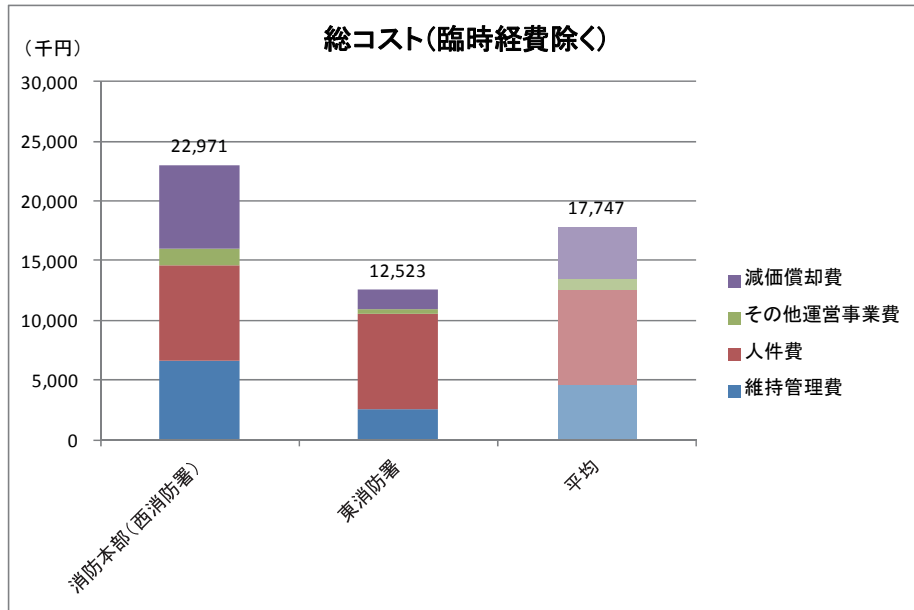
②運営人員

- 運営人員は両施設とも正職員1人工である。

(4) コスト状況

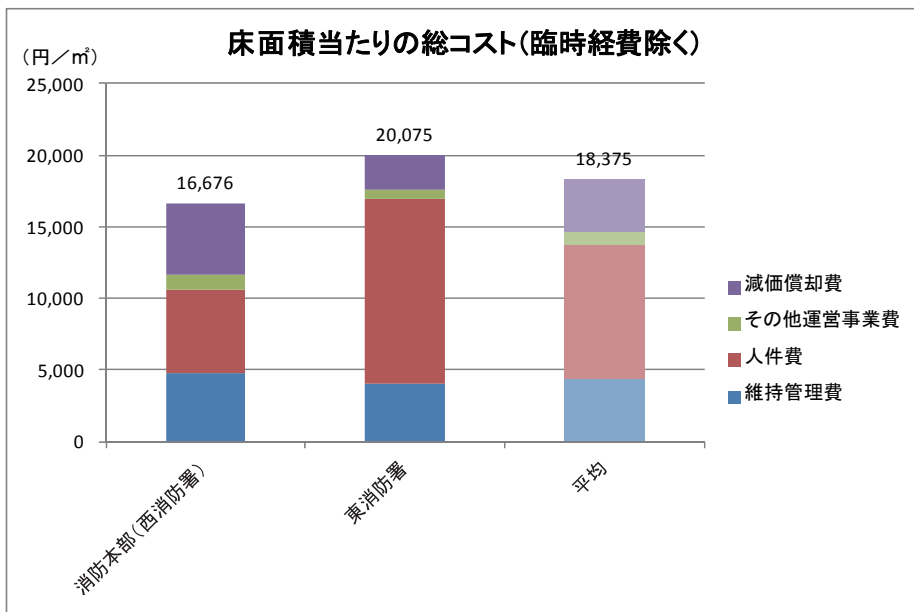
①総コスト（臨時経費除く）

- 消防署の総コストは35百万円である。
- 消防署の平均コストは、17,747千円である。
- 消防本部（西消防署）の総コストは、22,971千円、東消防署の総コストは、12,523千円である。



②床面積当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 消防署の平均コストは、18.4千円である。
- 消防本部（西消防署）の床面積当たりの総コストは16.7千円/m²、東消防署は20.1千円/m²と同程度である。



③維持管理費（臨時経費除く）

- 維持管理費の平均額は4,549千円である。
- 消防本部（西消防署）の維持管理費は6,594千円、東消防署は2,504千円である。

④床面積当たりの維持管理費（臨時経費除く）

- 床面積当たりの維持管理費の平均は、4.4千円/m²である。
- 消防本部（西消防署）の床面積当たりの維持管理費は4.8千円/m²、東消防署は4.0千円/m²である。

⑤総コストに対する収入の割合（臨時経費除く）

- 総コストに対する収入の割合は、平均で2.2%である。
- 消防本部（西消防署）の総コストに対する収入の割合は2.3%、東消防署は2.0%である。

(5) 現状と課題

- 両施設とも築30年を超えており、老朽化への対応が必要である。

6-4. 消防団詰所

(1) 施設状況

- 消防団詰所の総延床面積は、823.41 m²である。
- 消防団詰所の延床面積は、30～80 m²程度となっている。
- 全て単独施設として整備されている。
- 建物は全て市有だが、土地は借上げとなっている施設が過半数を占める。

施設名	所在地	開設年	延床面積	敷地面積	所有面積	複合施設区分	建物保有状況	土地保有状況	駐車可能台数
消防団詰所(5-1)	宍倉1658番地1	S62	57.96	0.00	0.00	単独	所有	所有	0
消防団詰所(5-2)	宍倉6114番地1	H5	74.52	0.00	0.00	単独	所有	借上	0
消防団詰所(6-1)	安食1074番地1	H1	58.09	0.00	0.00	単独	所有	所有	0
消防団詰所(6-2)	柏崎936番地1	H4	57.96	0.00	0.00	単独	所有	所有	0
消防団詰所(7-2)	坂4784番地	H2	57.96	0.00	0.00	単独	所有	その他	0
消防団詰所(7-1)	田伏1617番地1	H5	66.24	0.00	0.00	単独	所有	借上	0
消防団詰所(8-1)	牛渡2622番地1	H4	57.96	0.00	0.00	単独	所有	借上	0
消防団詰所(8-2)	牛渡4507番地1	S58	44.72	0.00	0.00	単独	所有	借上	0
消防団車庫(9-1)	深谷3660番地7	S60	34.78	0.00	0.00	単独	所有	所有	0
消防団詰所(9-2)	大和田187番地	S62	57.96	0.00	0.00	単独	所有	借上	0
消防団詰所(10-1)	加茂3331番地1	H7	41.41	0.00	0.00	単独	所有	借上	0
消防団詰所(10-2)	加茂5020番地1	H2	57.96	0.00	0.00	単独	所有	借上	0
消防団詰所(2-1)	五反田329番地1	H24	79.49	0.00	0.00	単独	所有	借上	0
消防団詰所(2-2)	中志第1322番地	H25	76.40	0.00	0.00	単独	所有	借上	0
合計			823.41	0.00	0.00				0

※千代田地区の消防団詰所等は地区所有のため除外。

(2) 建物状況

①建物状況

- 消防団詰所(8-2)は築30年、他施設でも築20年以上を経過している施設が大半を占めており、老朽化への対応が必要である。
- 構造は、1施設のみが鉄骨造となり、他は全て木造となる。
- 全ての施設が新耐震基準により整備されている。
- 機能改善は、実施済みである。(対応不要)
- 環境対応については、全施設において未実施の状況である。

施設名	建物状況			耐震性		機能改善	機能改善(バリアフリー)					環境負荷低減		
	建築年	築年数	構造	耐震診断	耐震補強	機能改善 (7/24対応)	車いす用 エレベーター	身障者用 トイレ	車いす用 入ロ-フ	自動ドア	手すり	点字ブロッコ	自然工材 キ-・太陽	環境対応 設備
消防団詰所(5-1)	S62	26	W造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
消防団詰所(5-2)	H5	20	W造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
消防団詰所(6-1)	H1	24	W造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
消防団詰所(6-2)	H4	21	W造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
消防団詰所(7-2)	H2	23	W造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
消防団詰所(7-1)	H5	20	W造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
消防団詰所(8-1)	H4	21	W造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
消防団詰所(8-2)	S58	30	W造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
消防団車庫(9-1)	S60	28	S造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
消防団詰所(9-2)	S62	26	W造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
消防団詰所(10-1)	H7	18	W造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
消防団詰所(10-2)	H2	23	W造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
消防団詰所(2-1)	H24	1	W造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
消防団詰所(2-2)	H25	0	W造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×

(3) 運営状況

①運営状況

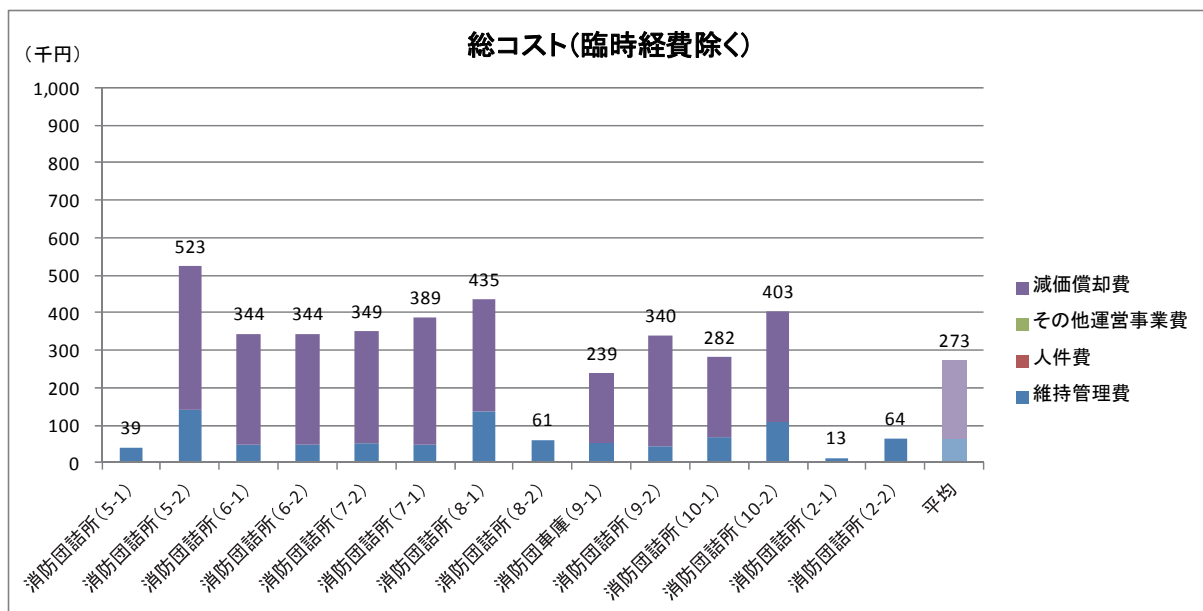
- 全施設が直営となっている。

施設名	運営方法
消防団詰所(5-1)	直営
消防団詰所(5-2)	直営
消防団詰所(6-1)	直営
消防団詰所(6-2)	直営
消防団詰所(7-2)	直営
消防団詰所(7-1)	直営
消防団詰所(8-1)	直営
消防団詰所(8-2)	直営
消防団車庫(9-1)	直営
消防団詰所(9-2)	直営
消防団詰所(10-1)	直営
消防団詰所(10-2)	直営
消防団詰所(2-1)	直営
消防団詰所(2-2)	直営

(4) コスト状況

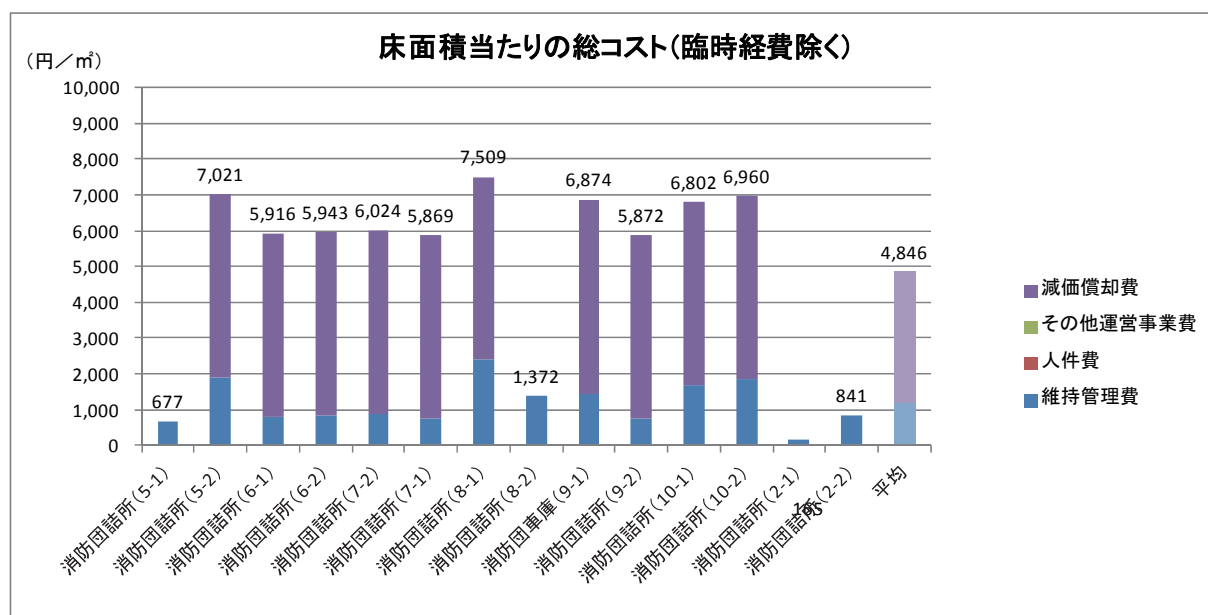
①総コスト（臨時経費除く）

- 消防団詰所全体の総コストは3,827千円である。
- 消防団詰所の平均総コストは、273千円である。
- 最も高い消防団詰所（5-2）で総コストは523千円となる。
- 減価償却費が占める割合が高くなっている。



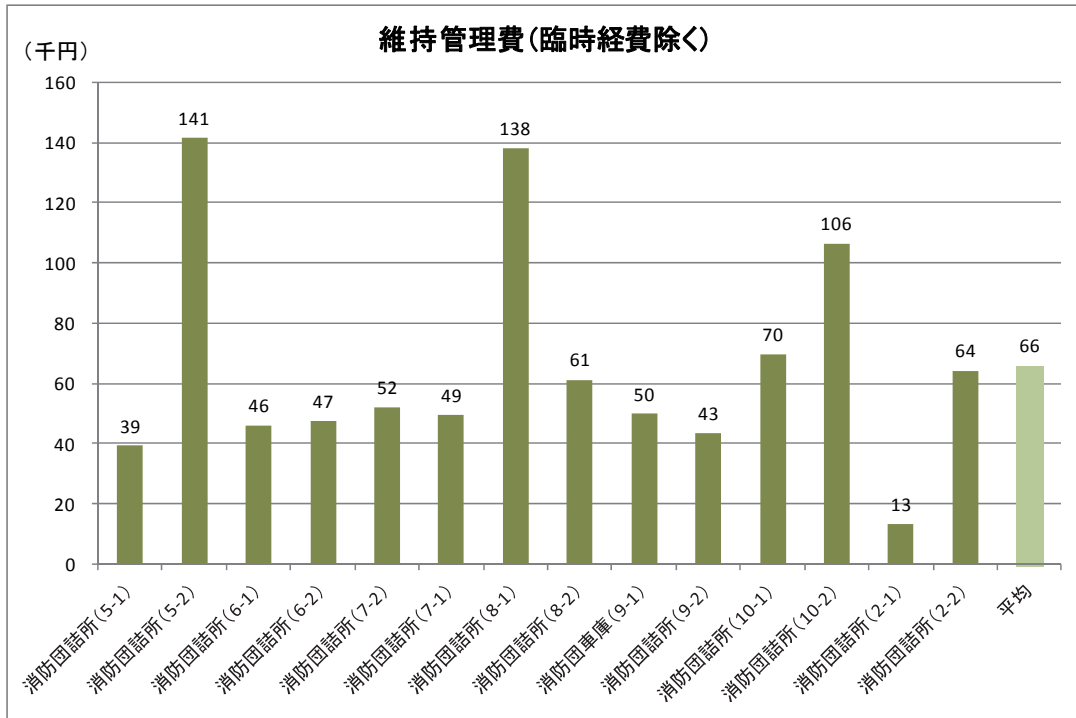
②床面積当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 床面積当たりの総コスト平均額は4,846円/m²である。
- 最も高い施設では、7,509円/m²となる。



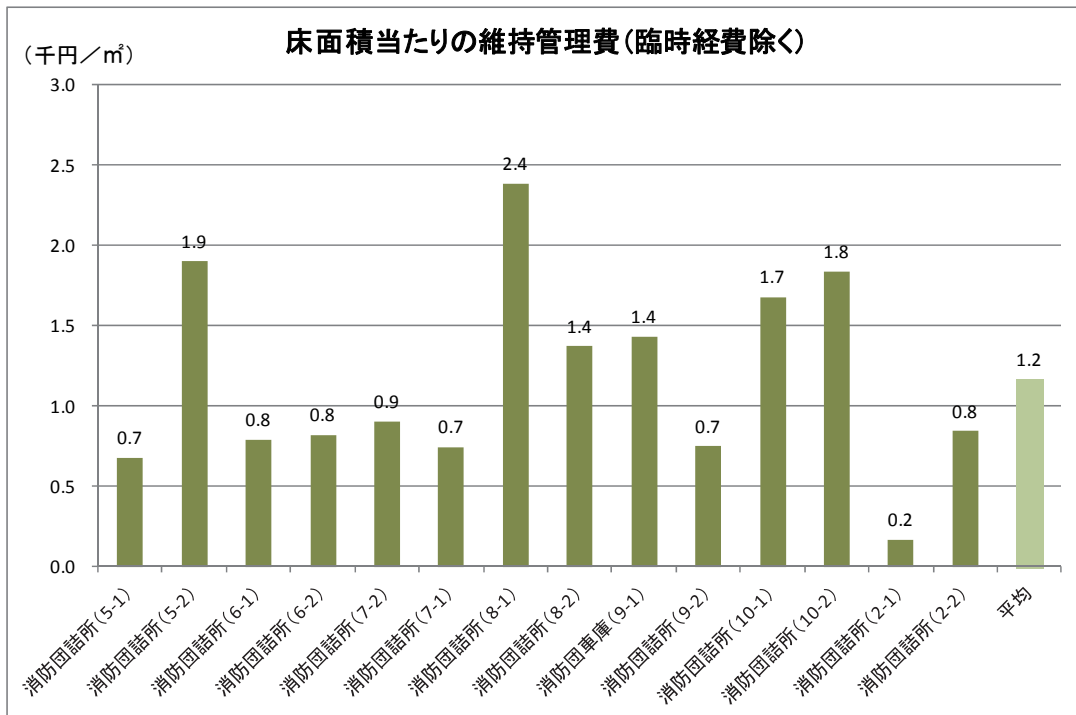
③維持管理費（臨時経費除く）

- 維持管理費の平均額は、66 千円である。
- 最も高い施設では 141 千円である。
- 平均額を上回っている施設が 4 施設あり、うち 3 施設で 100 千円以上となっている。



④床面積当たりの維持管理費（臨時経費除く）

- 床面積当たりの維持管理費の平均は、1.2 千円/m²である。
- 最も高い施設では、2.4 千円/m²である。

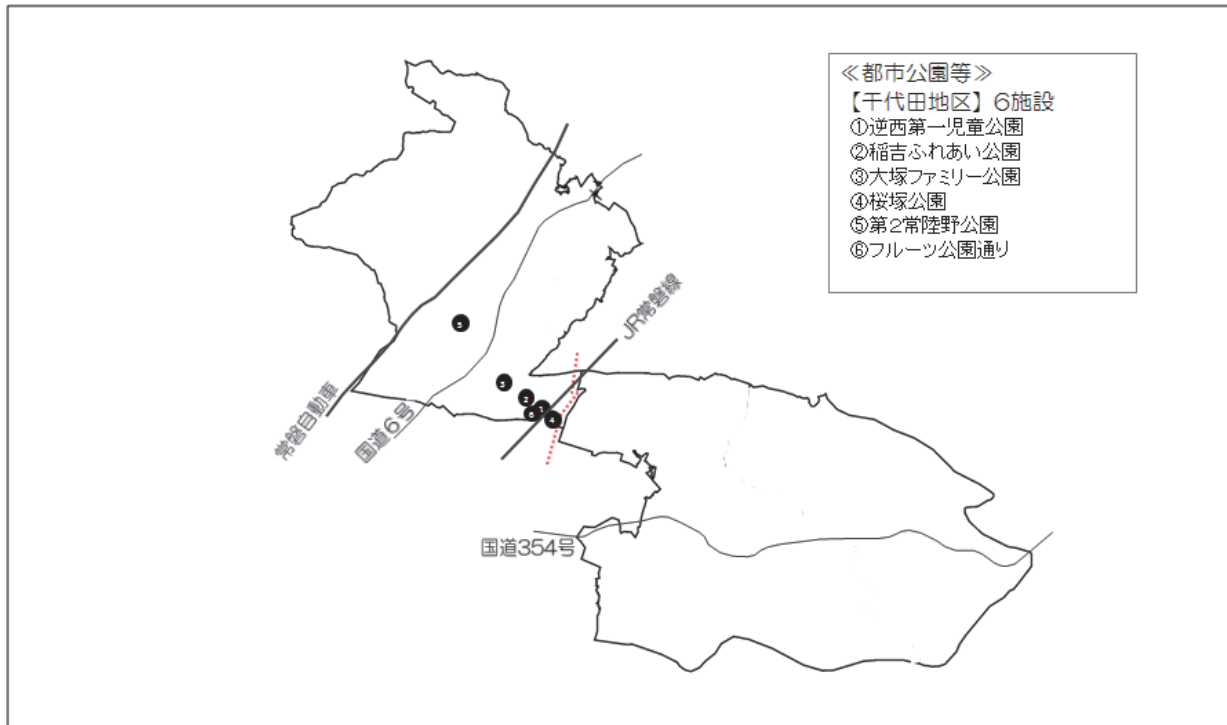


(5) 現状と課題

- 今後、築 30 年を迎える施設が多く、老朽化への対応が必要である。

7. 都市基盤系施設

7-1. 都市公園



(1) 施設状況

- 都市公園等は6施設あり、総延床面積は、97.54 m²であり、全ての施設において、小規模の建物（トイレ等）である。
- 全ての施設が単独施設として整備されている。
- 土地は、第2常陸野公園では一部借上げであり、逆西第一児童公園、大塚ファミリー公園では借上げとなる。

施設名	所在地	開設年	延床面積	敷地面積	所有面積	複合施設区分	建物保有状況	土地保有状況	駐車可能台数
逆西第一児童公園	稲吉二丁目2613番地364	S59	6.84	2,257.00	0.00	単独		借上	0
稲吉ふれあい公園	稲吉四丁目3683番地	H9	9.93	4,960.00	4,960.00	単独		所有	0
大塚ファミリー公園	下稲吉1873番地3	S62	6.84	5,084.00	0.00	単独		借上	0
桜塚公園	下稲吉2607番地72	H8	0.00	1,990.00	1,990.00	単独		所有	0
第2常陸野公園	中佐谷671番地1	S55	73.93	45,209.00	17,333.00	単独		一部借上	0
フルーツ公園通り	稲吉二丁目	H1	0.00	1,658.00	1,658.00	単独		所有	0
合計			97.54	61,158.00	25,941.00				0

(2) 建物状況

①建物状況

- 都市公園等に設置されている建物は、主にトイレであり小規模である。
- 逆西第一児童公園が最も古く、築年数は31年である。
- 構造は、逆西第一児童公園、大塚ファミリー公園ではコンクリートブロック造(以下、CB造)、稲吉ファミリー公園では木造、第2常陸野公園ではRC造である。
- 全ての施設が新耐震基準により整備されている。
- 機能改善は、全ての施設で対応されている。
- 環境対応については、全施設において未実施の状況である。
- 桜塚公園、フルーツ公園通りには、建物は設置されていない。

施設名	建物状況			耐震性		機能改善		機能改善(バリアフリー)					環境負荷低減	
	建築年	築年数	構造	耐震診断	耐震補強	機能改善(バースト対策)	車いす用エレベータ	身障者用トイレ	車いす用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	自然エネルギー・太陽設備	環境対応設備
逆西第一児童公園	S57	31	CB造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
稲吉ふれあい公園	H9	16	W造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
大塚ファミリー公園	S62	26	CB造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
桜塚公園													×	×
第2常陸野公園	H12	13	RC造	-	-	●	-	●	●	-	-	-	×	×
フルーツ公園通り													×	×

(3) 運営状況

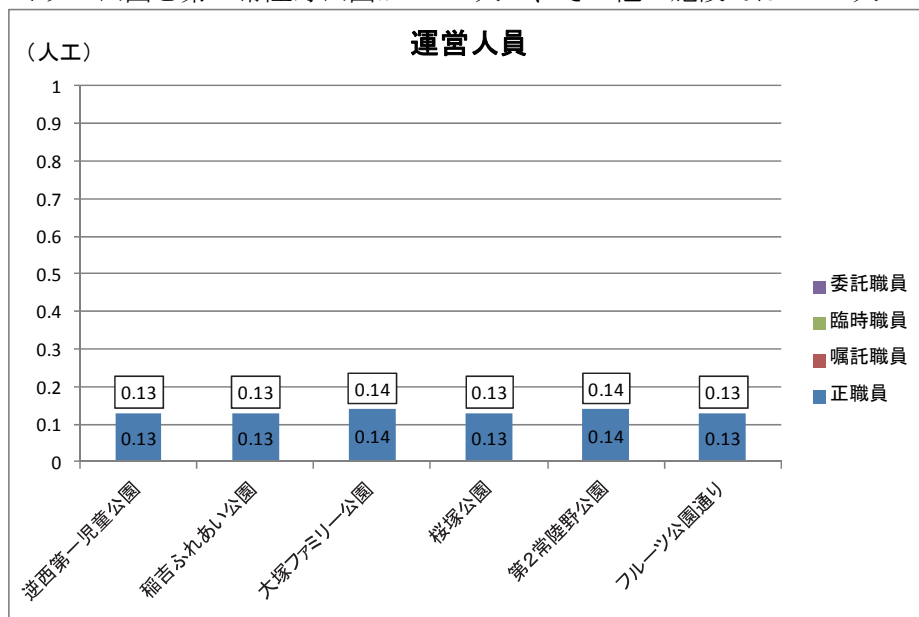
①運営状況

- 全施設が直営で運営されている。

施設名	運営方法
逆西第一児童公園	直営
稲吉ふれあい公園	直営
大塚ファミリー公園	直営
桜塚公園	直営
第2常陸野公園	直営
フルーツ公園通り	直営

②運営人員

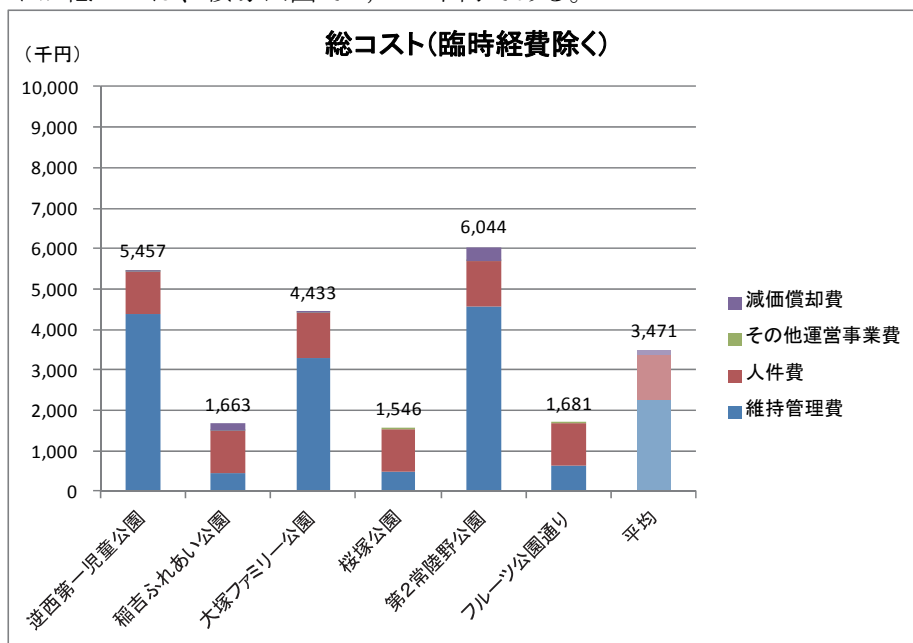
- 大塚ファミリー公園と第2常陸野公園が0.14人工、その他の施設では0.13人工である。



(4) コスト状況

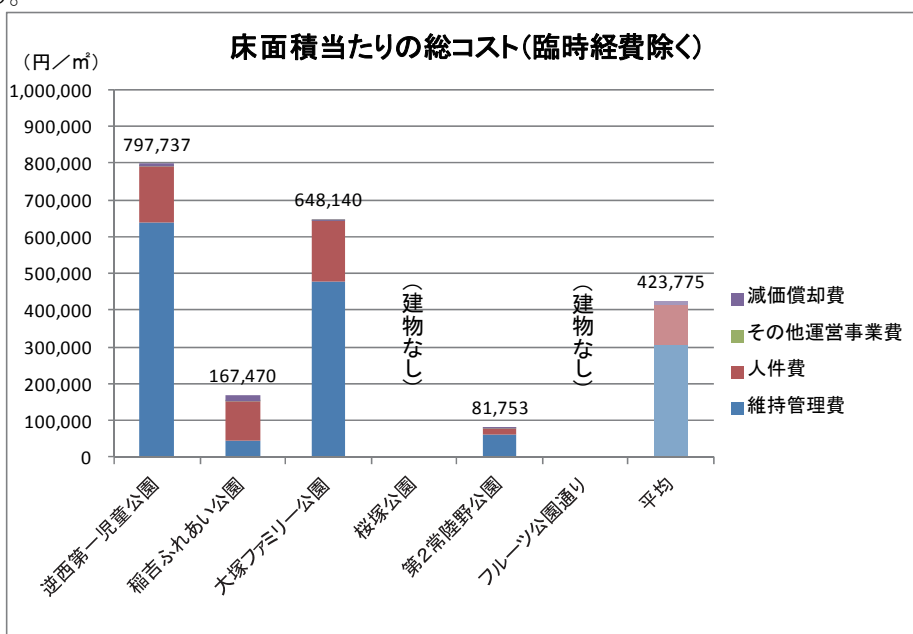
①総コスト（臨時経費除く）

- 都市公園全体の総コストは21百万円である。
- 都市公園の平均総コストは、3,471千円である。
- 第2常陸野公園で最も高く、総コストは6,044千円で、次いで逆西第一児童公園の5,457千円となる。
- 最もコストが低いのは、桜塚公園で1,546千円である。



②床面積当たりの総コスト（臨時経費除く）

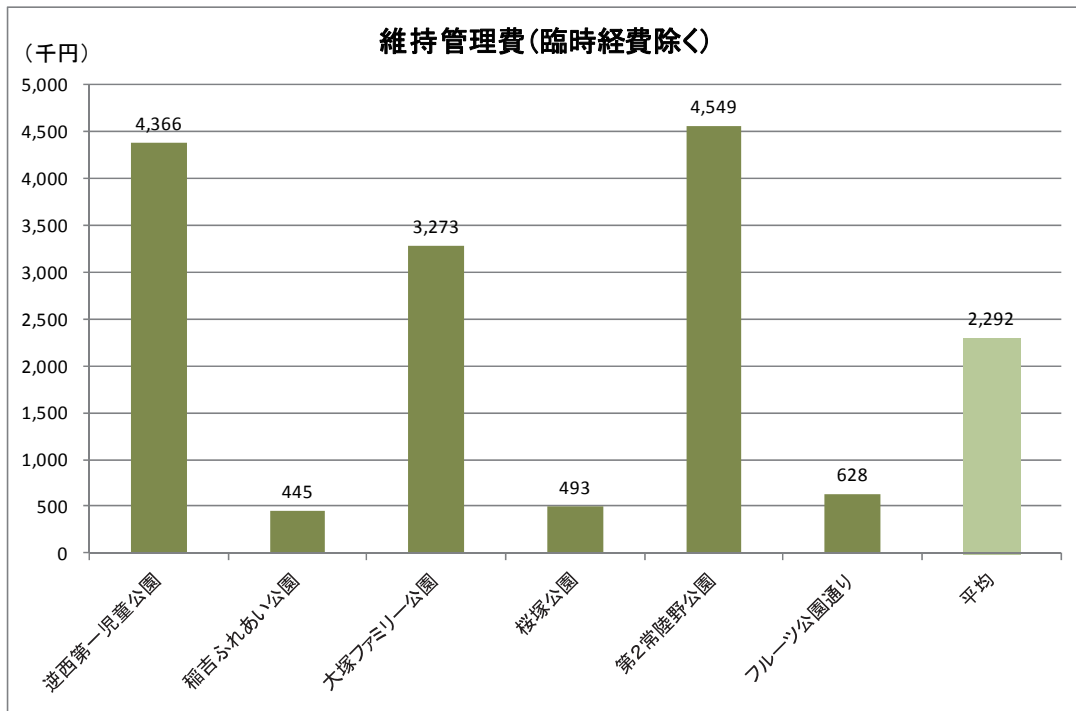
- 床面積当たりの総コスト平均額は423.8千円/m²である。
- 最も高いのは、逆西第一児童公園の797.7千円/m²、次いで大塚ファミリー公園で648.1千円/m²である。



※都市公園に設置されている建物は、小規模のトイレ等であるため、他の施設分類に比べて床面積当たりの総コストが高額になっている。

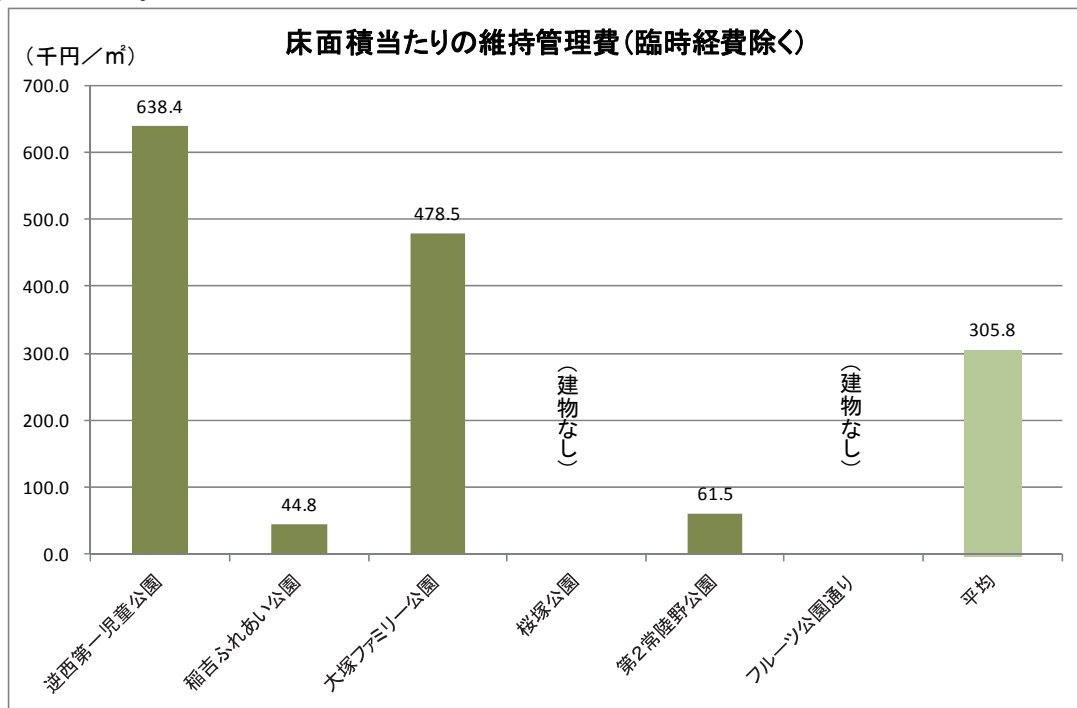
③維持管理費（臨時経費除く）

- 維持管理費の平均額は、2,292千円である。
- 第2常陸野公園が最も高く4,549千円であり、稲吉ふれあい公園が最も低く、445千円となっている。



④床面積当たりの維持管理費（臨時経費除く）

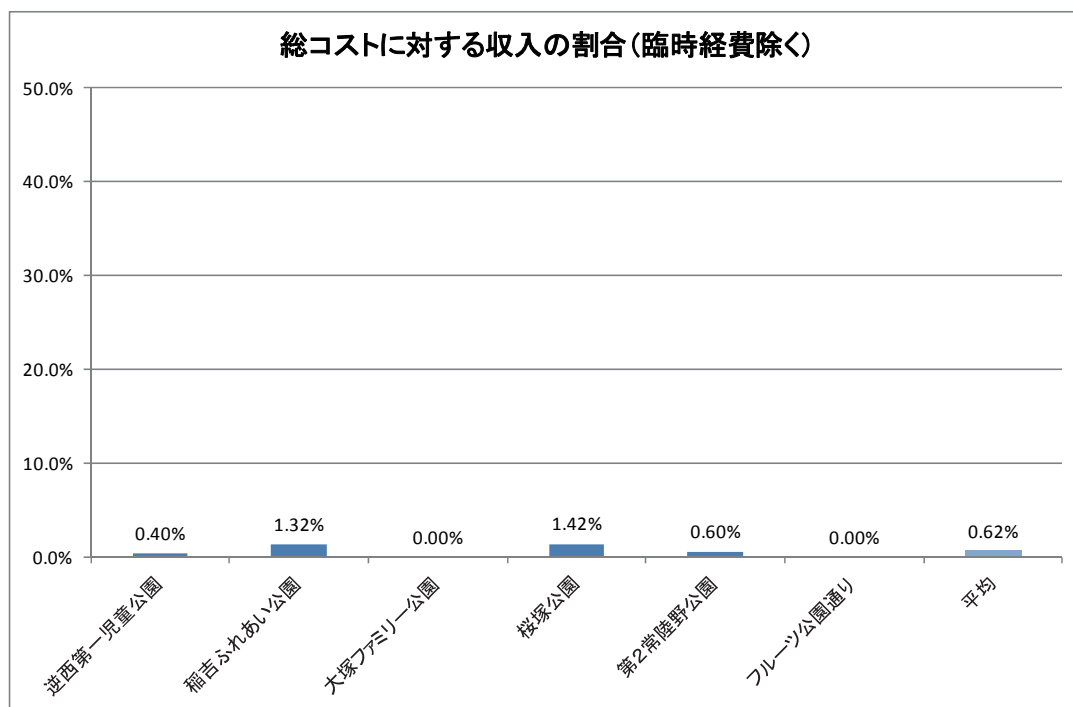
- 床面積当たりの維持管理費の平均は、305.8千円/m²である。
- 最も高いのは逆西第一児童公園で638.4千円/m²、次いで大塚ファミリー公園が高く、478.5千円/m²である。



※都市公園に設置されている建物は、小規模のトイレ等であるため、他の施設分類に比べて床面積当たりの維持管理費が高額になっている。

⑤総コストに対する収入の割合（臨時経費除く）

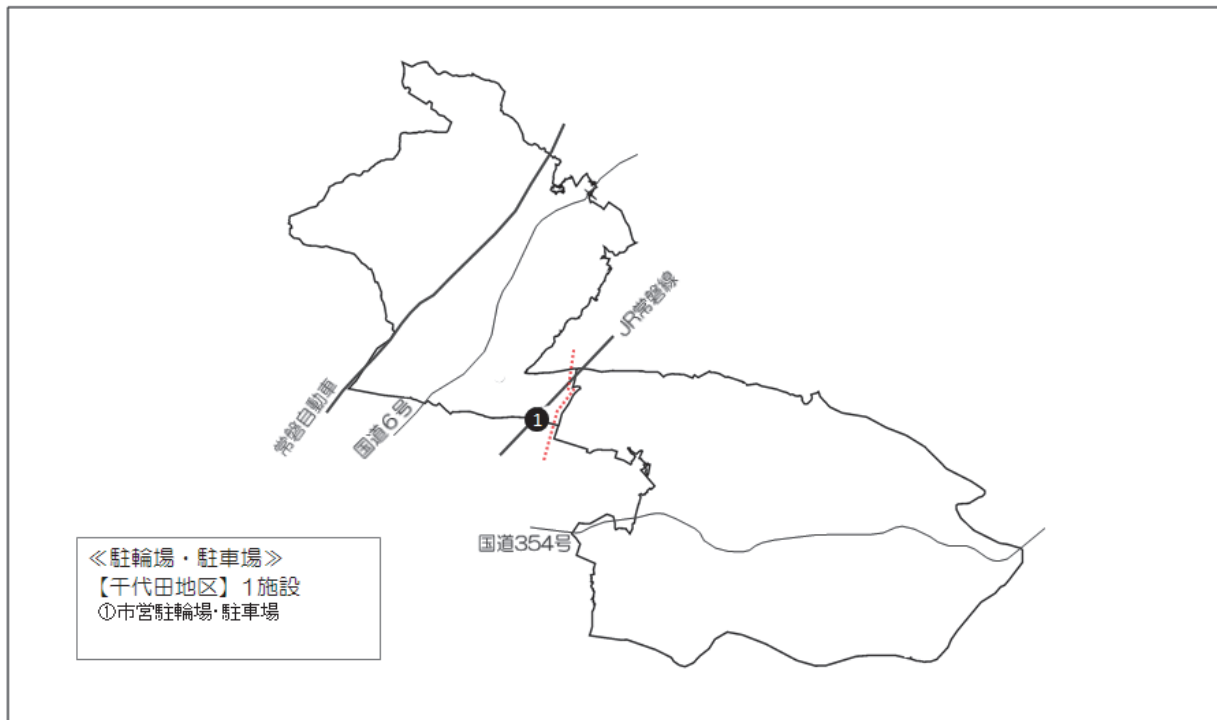
- 総コストに対する収入の割合は、平均で0.62%である。
- 桜塚公園で最も高く1.42%であり、次いで稲吉ふれあい公園の1.32%となっている。
- 大塚ファミリー公園とフルーツ公園通りでは、収入は発生していない。



(5) 現状と課題

- 今後、築30年を迎える施設が多く、老朽化への対応が必要である。
- 施設によってコストの差が大きくなっており、特に維持管理費が大きい。

7-2. 駐車場等



(1) 施設状況

- 市営駐輪場・駐車場は、1施設あり、総延床面積は、119.24㎡である。
- 建物、土地は市有で単独施設である。

施設名	所在地	開設年	延床面積	敷地面積	所有面積	複合施設区分	建物保有状況	土地保有状況	駐車可能台数
市営駐輪場・駐車場	稲吉二丁目2613番406	H7	119.24	1,872.00	1,872.00	単独	所有	所有	駐車場: 38台 駐輪場: 120台
合計			119.24	1,872.00	1,872.00				駐車場: 38台 駐輪場: 120台

(2) 建物状況

①建物状況

- 築年数は18年であり、新耐震基準により整備されている。
- 構造は鉄骨造である。
- 機能改善は対応されているが、環境対応については未実施の状況である。

施設名	建物状況			耐震性		機能改善	機能改善(バリアフリー)					環境負荷低減		
	建築年	築年数	構造	耐震診断	耐震補強	機能改善 (7/26 対応策)	車いす用 エレベーター	身障者用 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	自然エネルギー・太陽	環境対応 設備
市営駐輪場・駐車場	H7	18	S造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×

(3) 利用状況

①年間利用者数

- 年間利用者数は、780 人である。

②施設稼働率

- 駐車場 34.8%
- 駐輪場 61.2%

(4) 運営状況

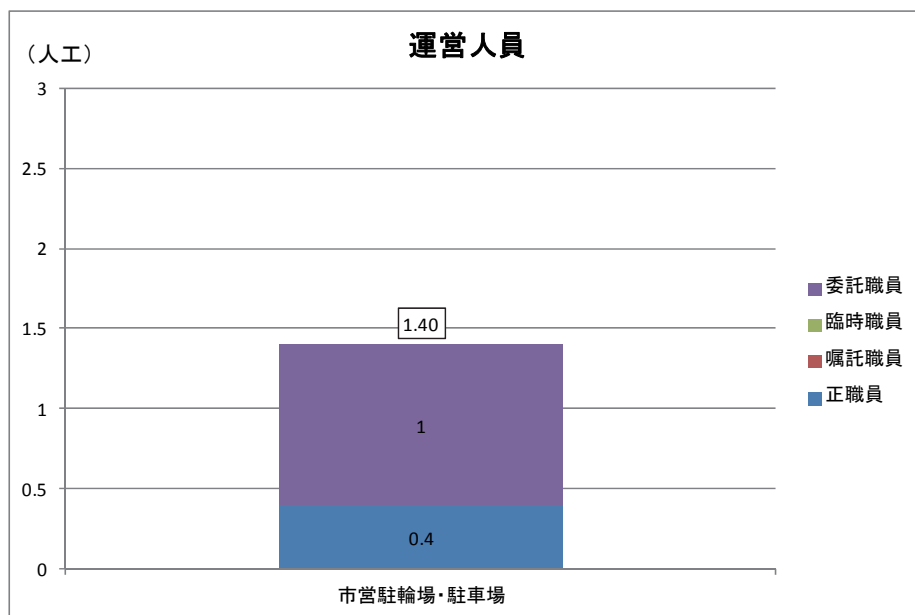
①運営状況

- 運営方法は直営で、年中無休で運営されている。

施設名	運営方法	年間運営日数
市営駐輪場・駐車場	直営	365日

②運営人員

- 運営人員は1.4 人工である。

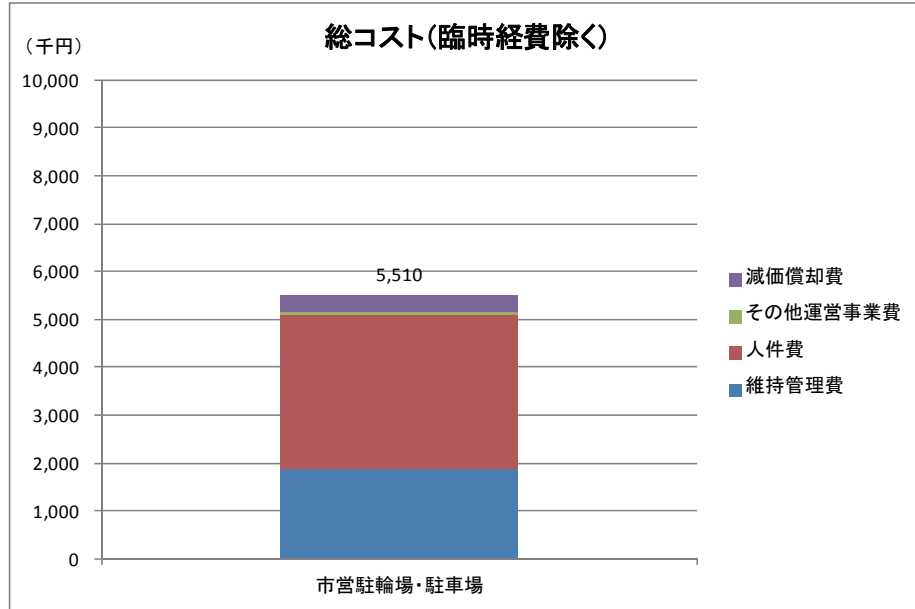


※委託職員：施設管理（6：00～9：00、18：00～21：00）

(5) コスト状況

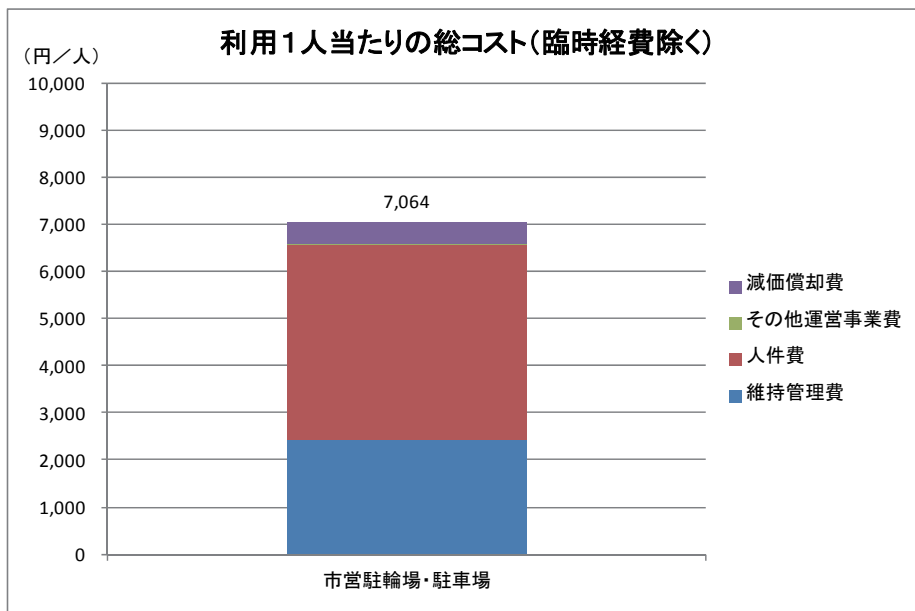
①総コスト（臨時経費除く）

- 総コストは5,510千円である。
- 人件費の占める割合が過半数を占める。



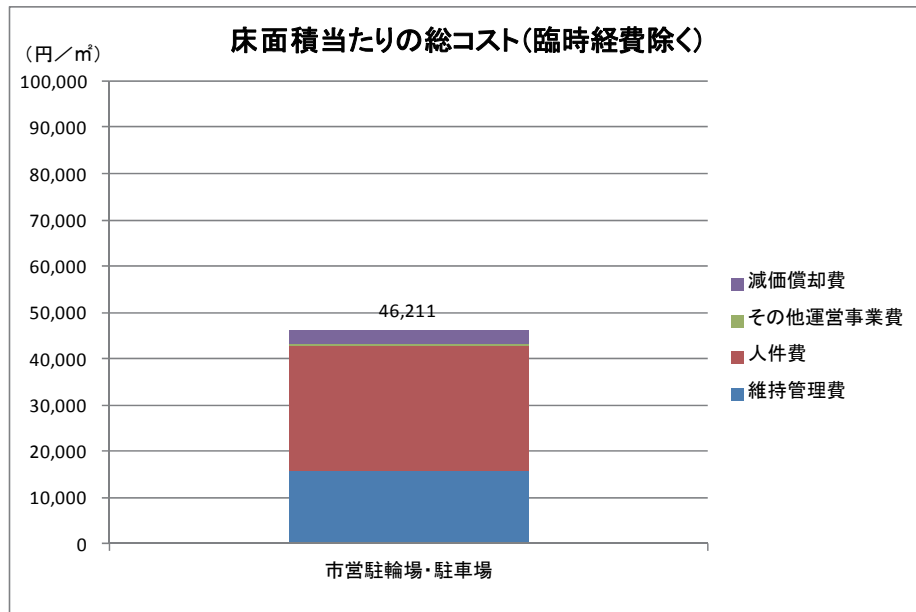
②利用1人当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 利用1人当たりの総コストは7,064円/人である。



③床面積当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 床面積当たりの総コストは、46,211 円/㎡である。



④維持管理費（臨時経費除く）

- 維持管理費は、1,885 千円である。

⑤床面積当たりの維持管理費（臨時経費除く）

- 床面積当たりの維持管理費は、15.8 千円/㎡である。

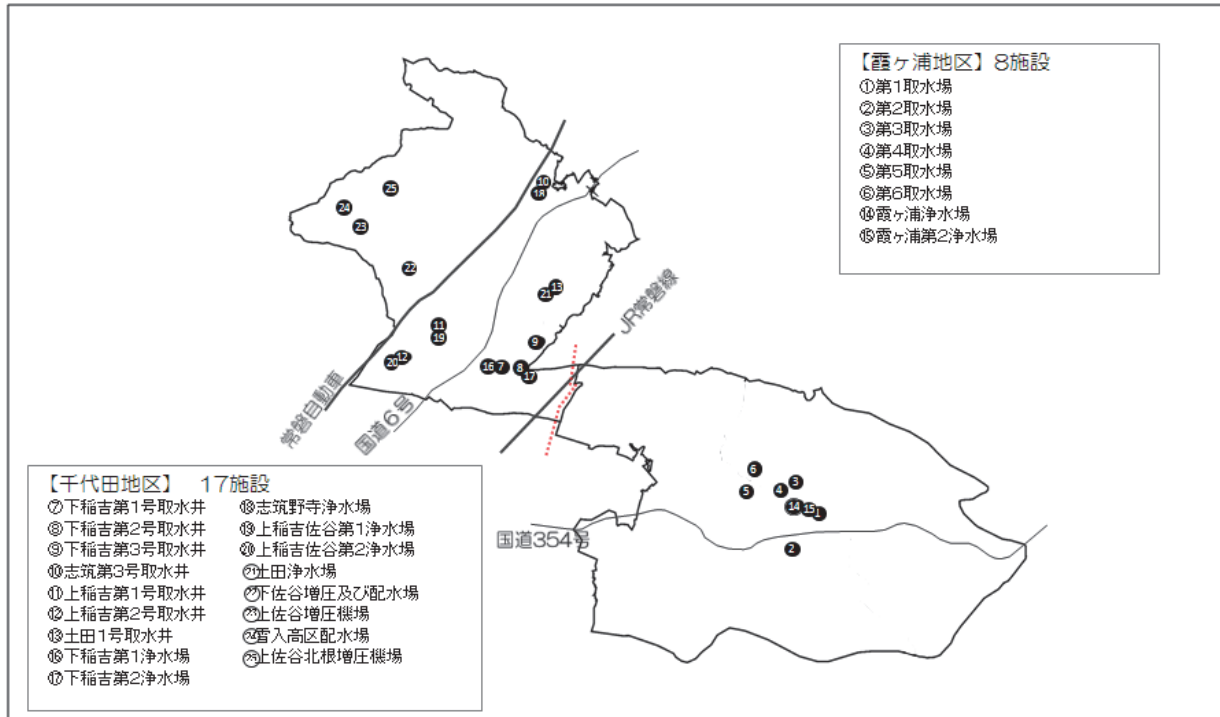
⑥総コストに対する収入の割合（臨時経費除く）

- 総コストに対する収入の割合は、平均で 46.60%である。

(6) 現状と課題

- 神立駅西口地区土地区画整理事業の実施に伴い、平成 26 年 3 月 31 日で閉鎖となる。

8. 上水道施設



(1) 施設状況

- 上水道施設は全部で取水場が13施設、浄・配水場が12施設あり、総延床面積は、1,992.31 m²である。
- 建物は全て市が所有しているが、土地は志筑野寺浄水場及び上稲吉佐谷第2浄水場は一部借上げ、第5取水場、下稲吉第3号取水井、志筑第3号取水井（志筑野寺浄水場内）、上稲吉第2号取水井（上稲吉佐谷第2浄水場）、下佐谷増圧及び配水場、雪入高区配水場、上佐谷北根増圧機場は借上げである。

施設名	所在地	延床面積	敷地面積	所有面積	複合施設区分	建物保有状況	土地保有状況
第1取水場(霞ヶ浦第2浄水場内)	西成井1928番地13	19.44			複合	所有	所有
第2取水場	大和田828番地2	22.74	248.76	248.76	単独	所有	所有
第3取水場	西成井1582番地2	5.60	33.00	33.00	単独	所有	所有
第4取水場	西成井1215番地2	5.60	26.00	26.00	単独	所有	所有
第5取水場	南根本32番地	22.74	70.00		単独	所有	借上
第6取水場	西成井2805番地4	31.35	147.32	147.32	単独	所有	所有
下稲吉第1号取水井	下稲吉1853番地3	7.82	52.38	52.38	単独	所有	所有
下稲吉第2号取水井(下稲吉第2浄水場内)	下稲吉2272番地2	0.00			複合	所有	所有
下稲吉第3号取水井	新治1769番地1	8.68	178.00		単独	所有	借上
志筑第3号取水井(志筑野寺浄水場内)	下志筑1537番地2	0.00			併設	所有	借上
上稲吉第1号取水井(上稲吉佐谷第1浄水場内)	上稲吉184番地3	4.00			併設	所有	所有
上稲吉第2号取水井(上稲吉佐谷第2浄水場)	上稲吉1236番地2	0.00			複合	所有	借上
土田1号取水井(土田浄水場内)	下稲吉204番地3	0.00			複合	所有	所有
霞ヶ浦浄水場(水道事務所含む)	西成井1941番地1	1,222.37	11,196.21	11,196.21	複合	所有	所有
霞ヶ浦第2浄水場	西成井1928番地13	79.68	1,953.00	1,953.00	複合	所有	所有
下稲吉第1浄水場	下稲吉1751番地2	34.96	1,069.09	1,069.09	単独	所有	所有
下稲吉第2浄水場	下稲吉2272番地2	129.05	3,956.00	3,956.00	併設	所有	所有
志筑野寺浄水場	下志筑1537番地2	92.70	2,299.00	999.00	併設	所有	一部借上
上稲吉佐谷第1浄水場	上稲吉184番地3	38.90	673.00	673.00	併設	所有	所有
上稲吉佐谷第2浄水場	上稲吉1236番地2	113.61	1,545.00	386.00	併設	所有	一部借上
土田浄水場	下稲吉204番地3	91.53	1,979.00	1,979.00	併設	所有	所有
下佐谷増圧及び配水場	下佐谷363番地	49.00	683.00		単独	所有	借上
上佐谷増圧機場	上佐谷2465番地4	12.54	136.00	136.00	単独	所有	所有
雪入高区配水場	雪入226番地1	0.00	228.00		単独	所有	借上
上佐谷北根増圧機場	上佐谷514番地2	0.00	200.00		単独	所有	借上
合計		1,992.31	26,672.76	22,854.76			

(2) 建物状況

①建物状況

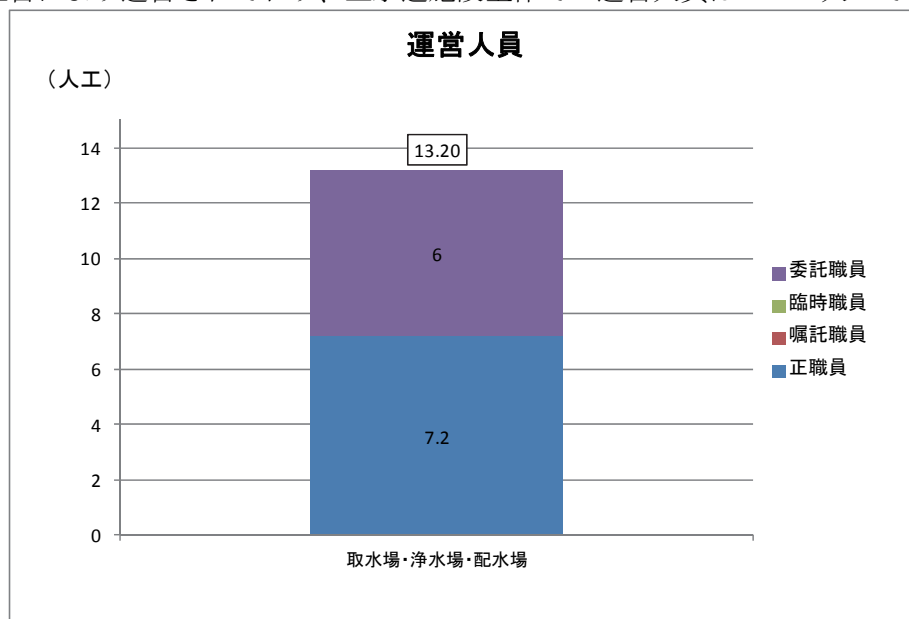
- 上稲吉第1浄水場が最も古く、築51年を経過している。
- 構造は、取水場では第6取水場のみRC造で他はCB造、浄水場では霞ヶ浦第2浄水場及び土田浄水場のみCB造でその他はRC造、増圧機場はいずれもCB造である。
- 上水道施設では、築40年を経過している施設も多く、老朽化への対応が必要となる。
- 環境対応は全施設において未実施である。

施設名	建物状況			機能改善	環境負荷低減	
	建築年	築年数	構造	機能改善 (7x24h対策)	自然エネルギー・太陽	環境対応設備
第1取水場(霞ヶ浦第2浄水場内)	S42	46	CB造	●	×	×
第2取水場	S60	28	CB造	●	×	×
第3取水場	S47	41	CB造	●	×	×
第4取水場	S52	36	CB造	●	×	×
第5取水場	H1	24	CB造	●	×	×
第6取水場	H16	9	RC造	●	×	×
下稲吉第1号取水井	S49	39	CB造	●	×	×
下稲吉第2号取水井(下稲吉第2浄水場内)				●	×	×
下稲吉第3号取水井	S57	31	CB造	●	×	×
志筑第3号取水井(志筑野寺浄水場内)				●	×	×
上稲吉第1号取水井(上稲吉佐谷第1浄水場内)	S37	51	CB造	●	×	×
上稲吉第2号取水井(上稲吉佐谷第2浄水場)				●	×	×
土田1号取水井(土田浄水場内)				●	×	×
霞ヶ浦浄水場(水道事務所含む)	S61	27	RC造	●	×	×
霞ヶ浦第2浄水場	S38	50	CB造	●	×	×
下稲吉第1浄水場	S45	43	RC造	●	×	×
下稲吉第2浄水場	S52	36	RC造	●	×	×
志筑野寺浄水場	S54	34	RC造	●	×	×
上稲吉佐谷第1浄水場	S37	51	RC造	●	×	×
上稲吉佐谷第2浄水場	S54	34	RC造	●	×	×
土田浄水場	S48	40	CB造	●	×	×
下佐谷増圧及び配水場	S55	33	CB造	●	×	×
上佐谷増圧機場	S55	33	CB造	●	×	×
雪入高区配水場				●	×	×
上佐谷北根増圧機場				●	×	×

※施設別の調査が困難であったことから、以降の分析項目については、上水道施設全体で整理する。

(3) 運営状況

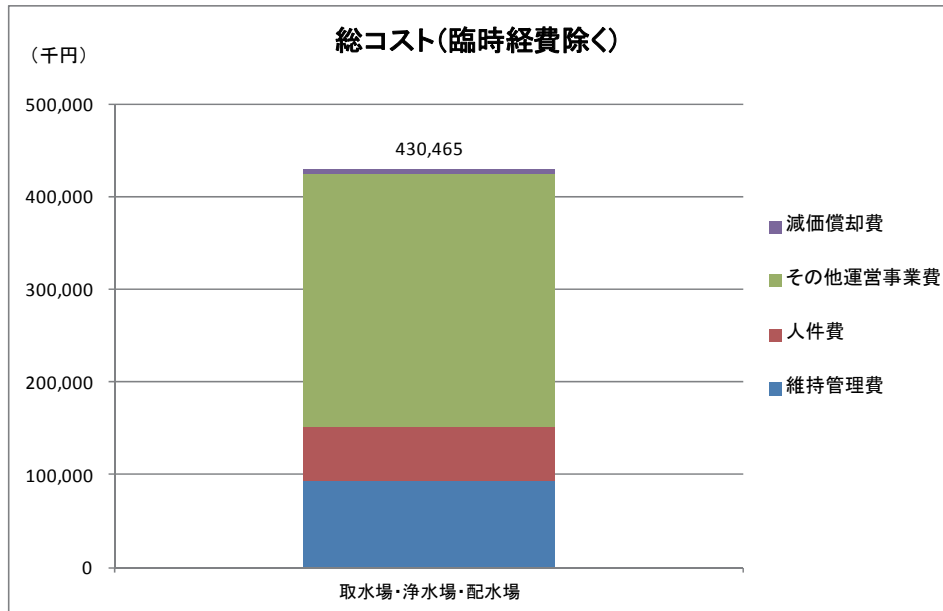
- 全施設が直営により運営されており、上水道施設全体での運営人員は13.20人工である。



(4) コスト状況

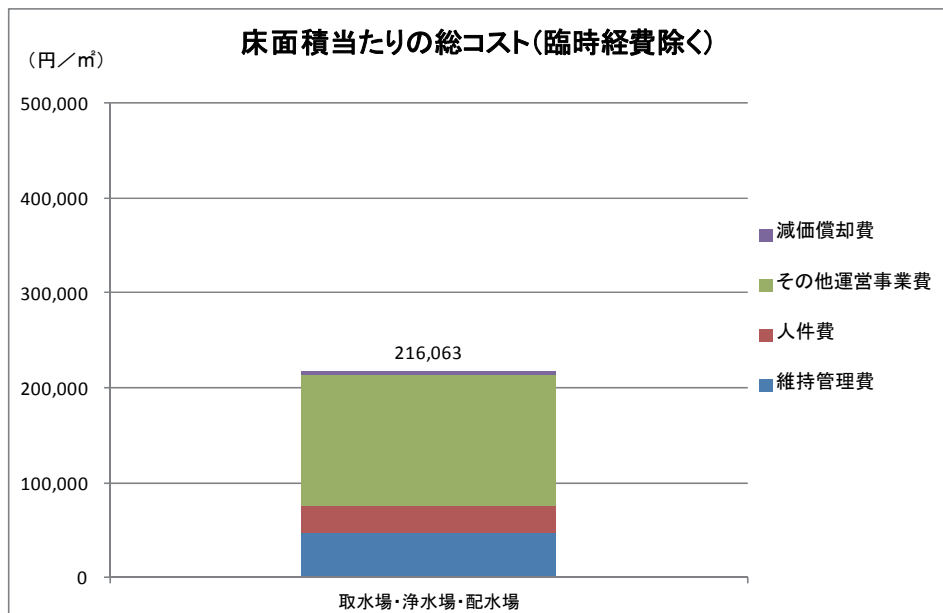
①総コスト（臨時経費除く）

- 上水道施設の総コストは、430 百万円である。
- その他運営事業費の割合が最も大きく、次いで維持管理費が大きい。



②床面積当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 床面積当たりにの総コストは、216.1 千円/m²である。



③維持管理費（臨時経費除く）

- 維持管理費は、93,206 千円である。

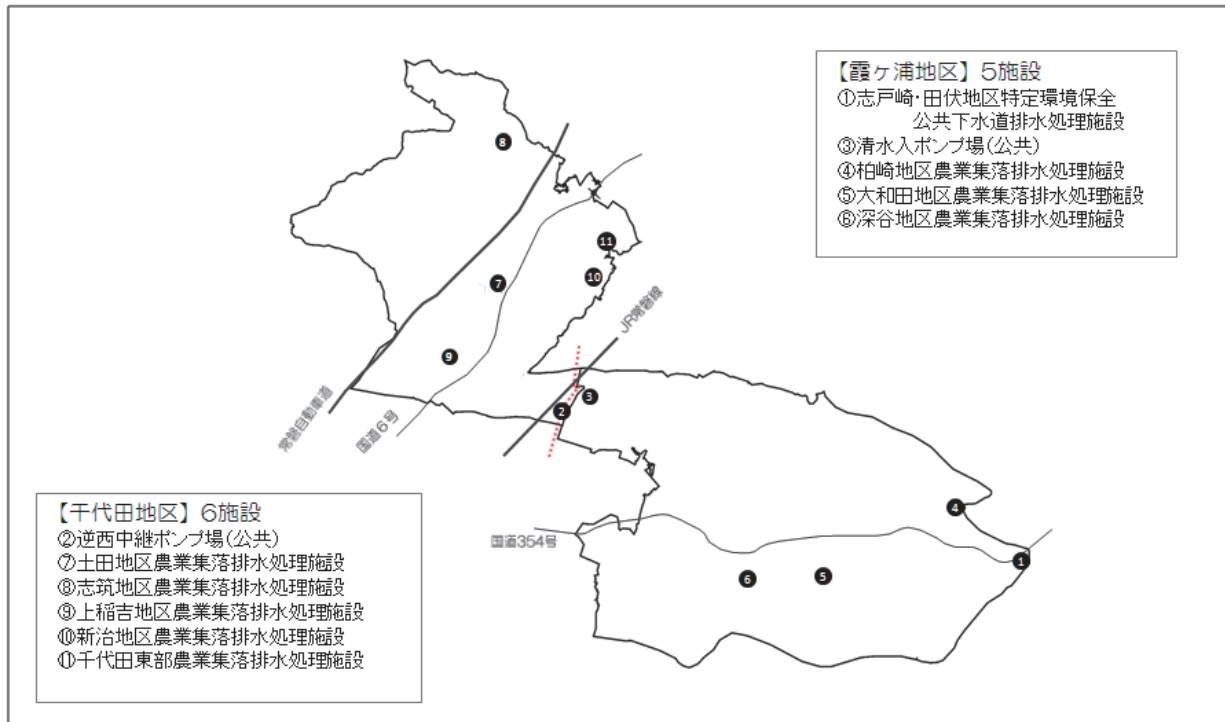
④床面積当たりの維持管理費（臨時経費除く）

- 床面積当たりの維持管理費は、46.8 千円／㎡である。

（5）現状と課題

- 築 40 年を超える施設もあり、老朽化への対応が必要である。

9. 下水道施設



(1) 施設状況

- 下水道施設の総延床面積は、5,369.21 m²である。
- 全て単独施設として整備されている。
- 建物、土地ともに全て市有である。
- 大和田地区農業集落排水処理施設が最も大規模な施設である。

施設名	所在地	開設年	延床面積	敷地面積	所有面積	複合施設区分	建物保有状況	土地保有状況	駐車可能台数
志戸崎・田伏地区特定環境保全公共下水道排水処理施設	田伏6662番地	H1	790.82	7,659.00	7,659.00	単独	所有	所有	15
逆西中継ポンプ場	下稲吉2607番地19	S63	156.84	300.00	300.00	単独	所有	所有	0
清水入ポンプ場	尖倉6129番地3	H10	61.48	172.00	172.00	単独	所有	所有	0
柏崎地区農業集落排水処理施設	柏崎1996番地	H5	674.00	2,571.00	2,571.00	単独	所有	所有	4
大和田地区農業集落排水処理施設	一の瀬253番地2	H7	970.46	2,093.57	2,093.57	単独	所有	所有	2
深谷地区農業集落排水処理施設	深谷3975番地6	H10	514.64	4,795.00	4,795.00	単独	所有	所有	20
土田地区農業集落排水処理施設	上土田50番地4	H2	343.63	991.02	991.02	単独	所有	所有	4
志筑地区農業集落排水処理施設	中志筑194番地1	H6	713.60	1,417.00	1,417.00	単独	所有	所有	3
上稲吉地区農業集落排水処理施設	上稲吉569番地3	H10	379.00	1,500.00	1,500.00	単独	所有	所有	15
新治地区農業集落排水処理施設	新治1861番地	H10	305.50	1,347.45	1,347.45	単独	所有	所有	6
千代田東部地区農業集落排水処理施設	東野寺1754番地2	H15	459.24	2,000.00	2,000.00	単独	所有	所有	10
合計			5,369.21	24,846.04	24,846.04				79

(2) 建物状況

①建物状況

- 志戸崎・田伏地区特定環境保全公共下水道排水処理施設、逆西中継ポンプ場が最も古く、築年数は25年である。
- 構造は、逆西中継ポンプ場、土田地区農業集落排水処理施設が鉄骨造、その他の施設はRC造である。
- 全ての施設が新耐震基準により整備されている。
- 機能改善は全ての施設で対応されている。(対応不要)
- 環境対応については、全施設において未実施の状況である。

施設名	建物状況			耐震性		機能改善	機能改善(バリアフリー)					環境負荷低減		
	建築年	築年数	構造	耐震診断	耐震補強	機能改善(72%対応)	車いす用エレベーター	身障者用トイレ	車いす用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	自然材料・カー・太陽	環境対応設備
志戸崎・田伏地区特定環境保全公共下水道排水処理施設	S63	25	RC造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
逆西中継ポンプ場	S63	25	S造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
清水入ポンプ場	H10	15	RC造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
柏崎地区農業集落排水処理施設	H5	20	RC造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
大和田地区農業集落排水処理施設	H7	18	RC造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
深谷地区農業集落排水処理施設	H10	15	RC造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
土田地区農業集落排水処理施設	H3	22	S造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
志筑地区農業集落排水処理施設	H6	19	RC造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
上稲吉地区農業集落排水処理施設	H10	15	RC造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
新治地区農業集落排水処理施設	H9	16	RC造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
千代田東部地区農業集落排水処理施設	H14	11	RC造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×

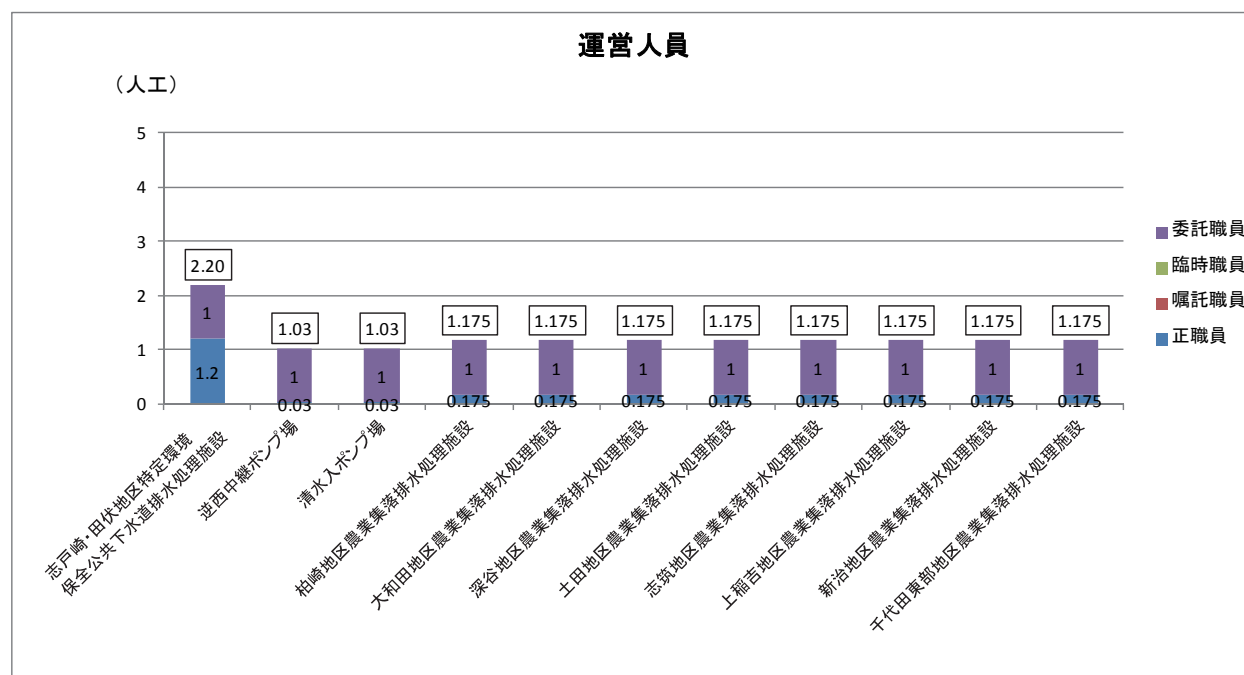
(3) 運営状況

①運営状況

- 全ての施設が包括委託によって運営されている。

②運営人員

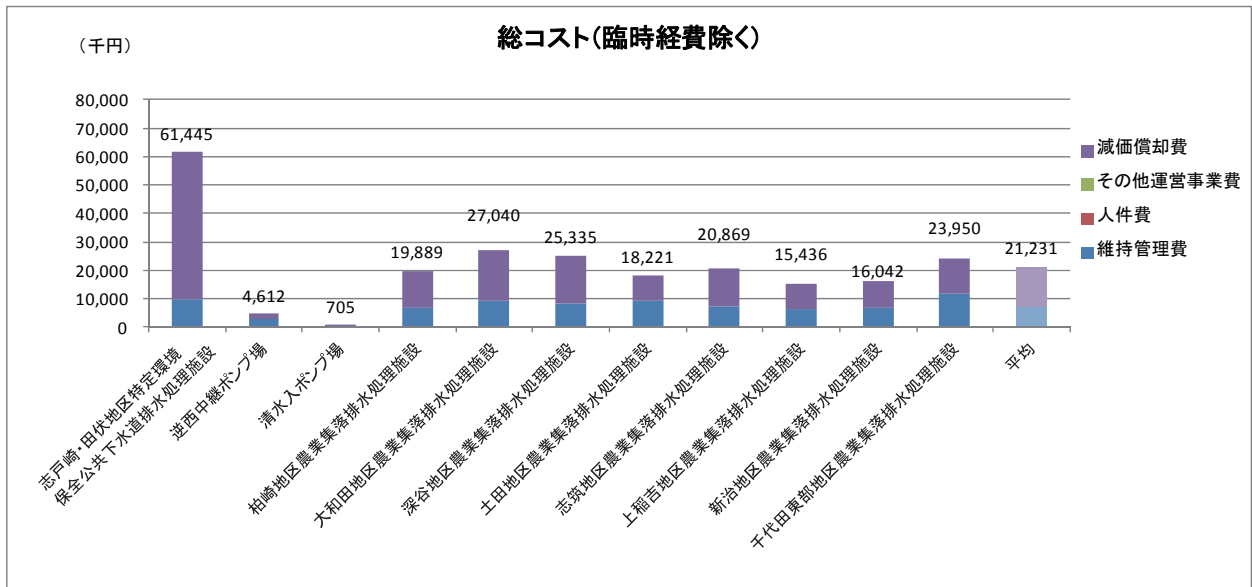
- 運営人員は志戸崎・田伏地区特定環境保全公共下水道排水処理施設が最も多く、2.20 人工となる。
- 逆西中継ポンプ場と清水入ポンプ場が最も少なく1.03 人工となる。



(4) コスト状況

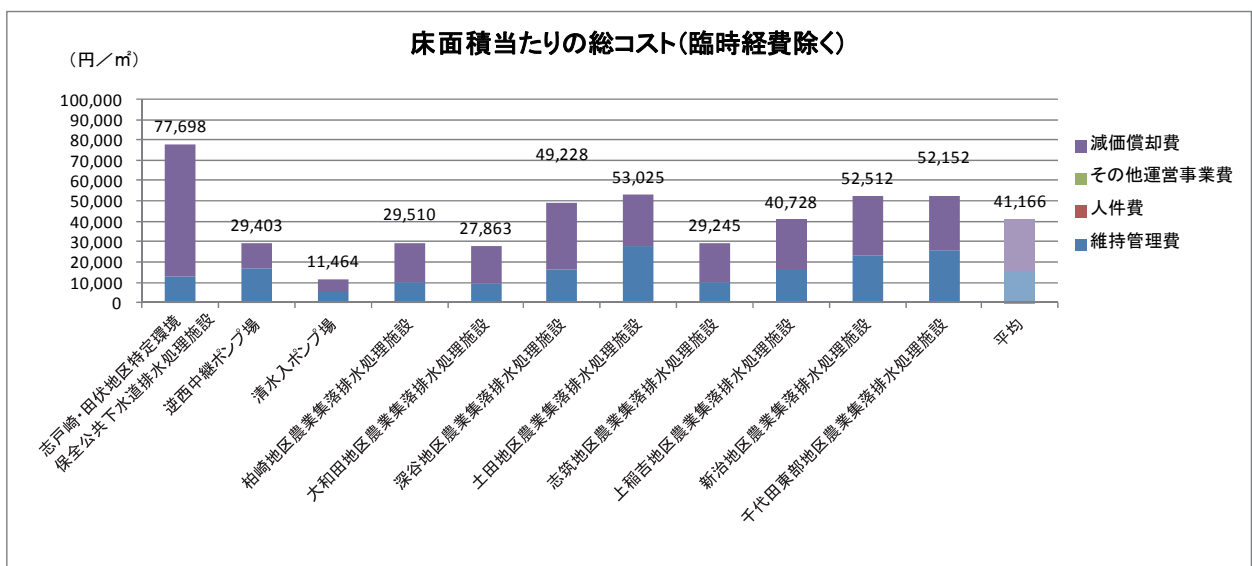
①総コスト（臨時経費除く）

- 下水道施設全体の総コストは、234 百万円である。
- 下水道施設の平均総コストは、21,231 千円である。
- 志戸崎・田伏地区特定環境保全公共下水道排水処理施設が最も高く、総コストは 61,445 千円となる。
- 最もコストが低いのは、清水入ポンプ場で、705 千円である。



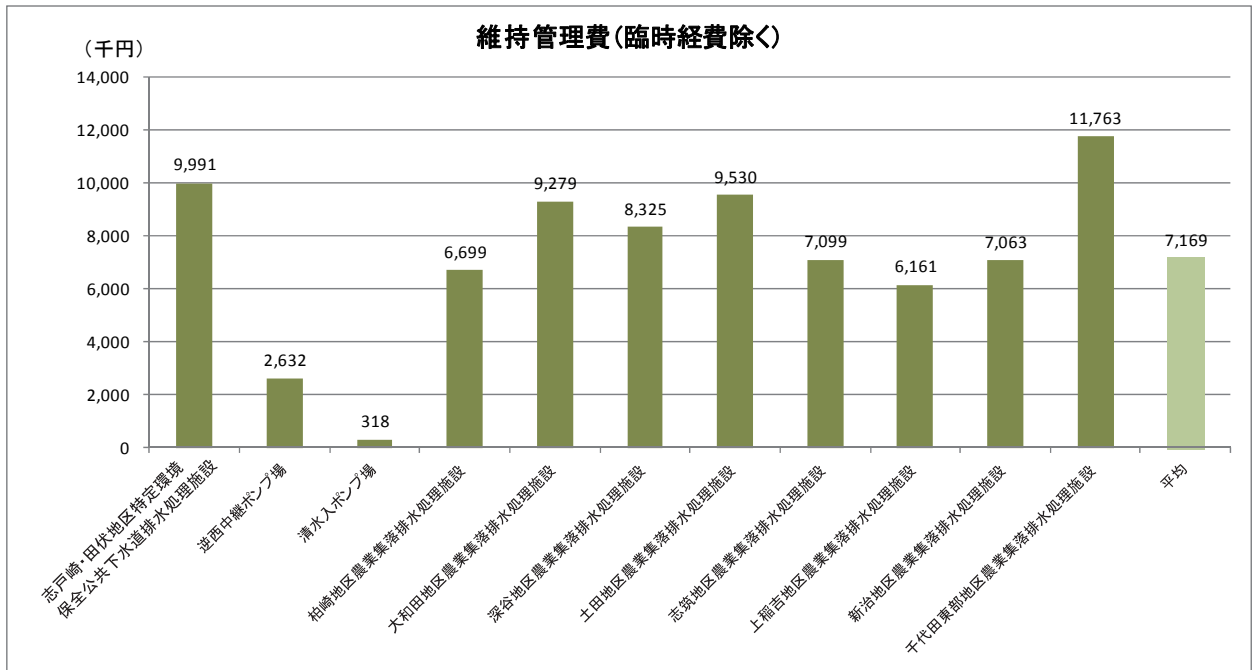
②床面積当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 床面積当たりの総コスト平均額は 41,166 円/m²である。
- 最も高いのは、志戸崎・田伏地区特定環境保全公共下水道排水処理施設の 77,698 円/m²である。
- 最も低いのは、清水入ポンプ場で、11,464 円/m²である。



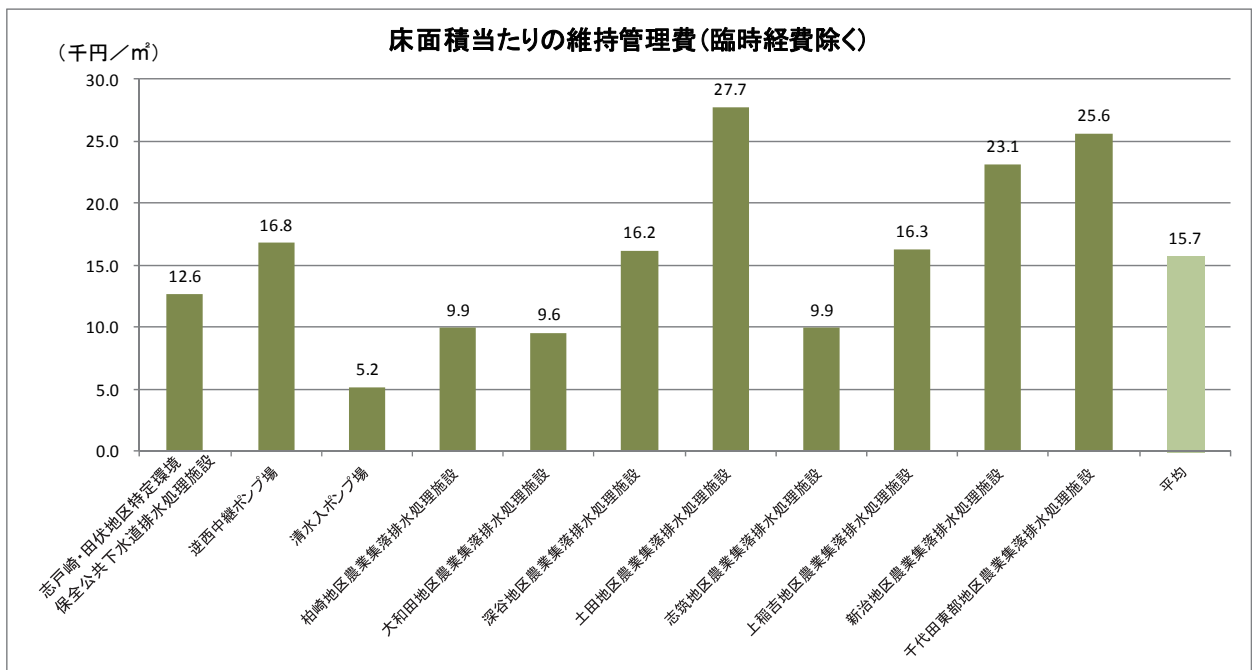
③維持管理費（臨時経費除く）

- 維持管理費の平均額は、7,169 千円である。
- 千代田東部地区農業集落排水処理施設が最も高く 11,763 千円となり、次いで志戸崎・田伏地区特定環境保全公共下水道排水処理施設で 9,991 千円である。
- 清水入ポンプ場が最も低く 318 千円となる。



④床面積当たりの維持管理費（臨時経費除く）

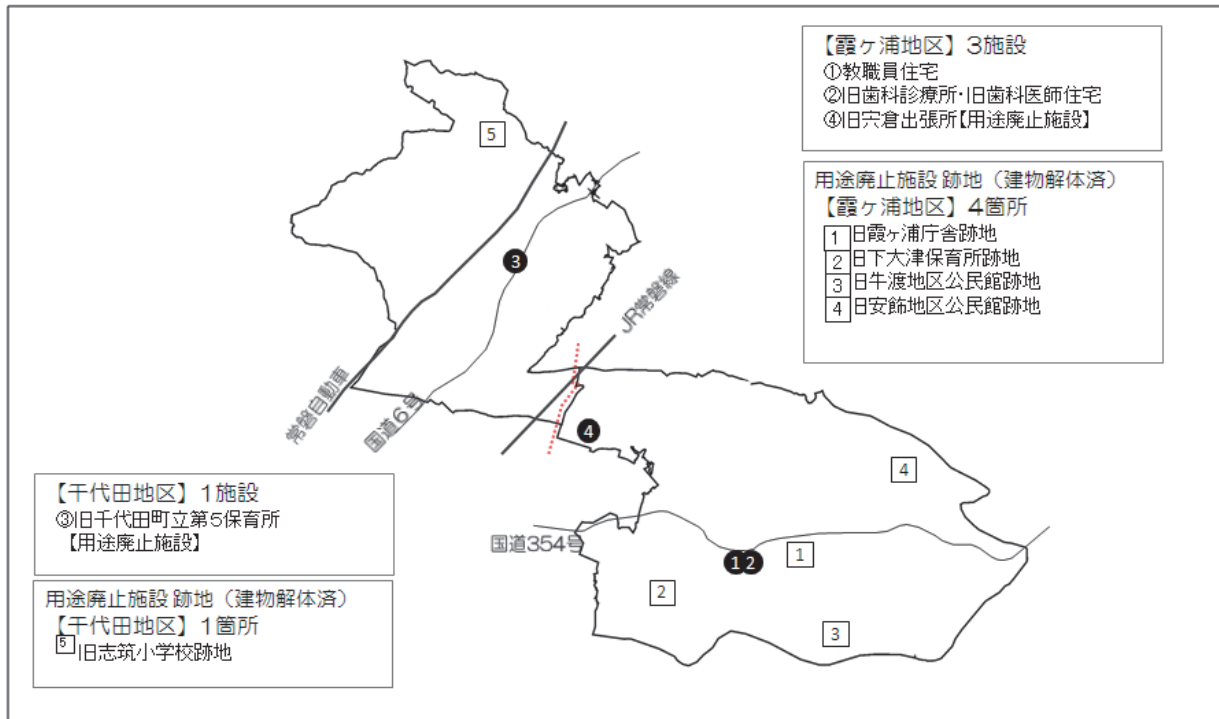
- 床面積当たりの維持管理費の平均は、15.7 千円/m²である。
- 最も高いのは土田地区農業集落排水処理施設で 27.7 千円/m²、次いで千代田東部地区農業集落排水処理施設が高く、25.6 千円/m²である。
- 最も低いのは、清水入ポンプ場であり、5.2 千円/m²である。



(5) 現状と課題

- 築30年近い施設が多くなっており、今後は老朽化への対応が必要である。
- 施設により減価償却費、維持管理費の差が大きくなっている。

10. その他施設



(1) 施設状況

- その他施設の総延床面積は、1,611.82 m²である。
- 延床面積では、旧千代田町立第5保育所が最も広く、旧穴倉出張所が最も小規模な施設である。
- 全て単独施設として整備されている。
- 建物は全て市有だが、土地については、旧千代田町立第5保育所は一部借上げ、旧穴倉出張所は借上げとなっている。

施設名	所在地	開設年	延床面積	敷地面積	所有面積	複合施設区分	建物保有状況	土地保有状況	駐車可能台数
教職員住宅	深谷3671番地3	S62	350.37	1,248.41	1,248.41	単独	所有	所有	6
旧歯科診療所	深谷3671番地8	S53	188.85	1,306.91	1,306.91	単独	所有	所有	0
旧千代田町立第5保育所	上土田415番地8	S52	534.07	3,409.98	3,156.98	単独	所有	一部借上	0
旧穴倉出張所	穴倉6396番地3	H3	67.08	654.00	0.00	単独	所有	借上	0
合計			1,140.37	6,619.30	5,712.30				6

(2) 建物状況

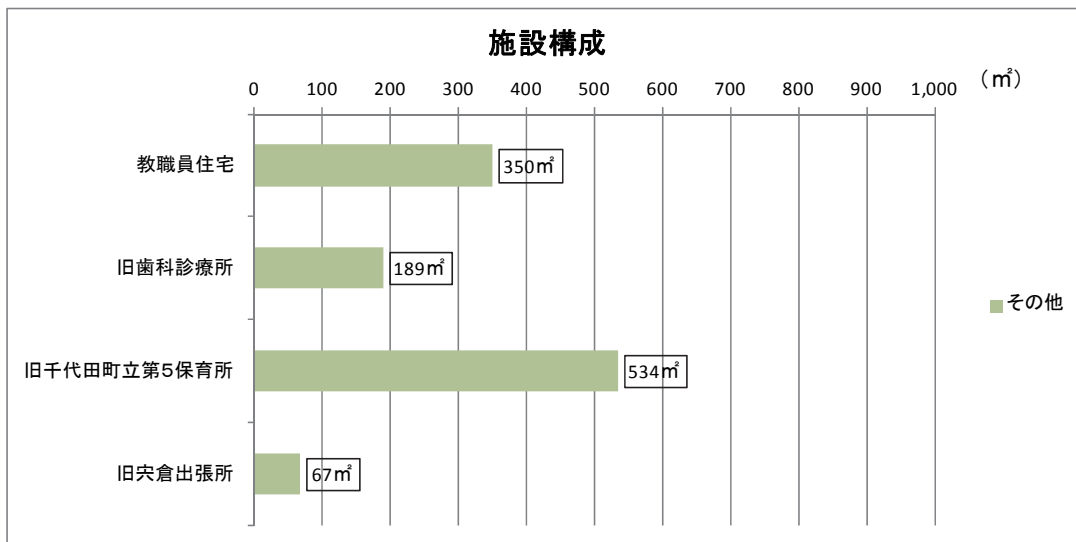
①建物状況

- 旧千代田町立第5保育所が最も古く築年数は36年であり、最も新しいのは旧宍倉出張所で築22年である。
- 構造は、教職員住宅のみRC造であり、その他の施設は木造である。
- 旧歯科診療所は、耐震診断が未実施であり、築年数から老朽化・耐震化への対応が必要と考えられる。
- 機能改善は、教職員住宅では対応されており、その他の施設では不要となっている。
- 環境対応は、全施設において未実施の状況である。

施設名	建物状況			耐震性		機能改善 (7/28法対策)	機能改善(バリアフリー)					環境負荷低減		
	建築年	築年数	構造	耐震診断	耐震補強		車いす用 エレベータ	身障者用 トイレ	車いす用 スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロッカー	自然エネルギー・太陽 設備	環境対応 設備
教職員住宅	S62	26	RC造	-	-	●	-	-	-	-	-	-	×	×
旧歯科診療所	S53	35	W造	未実施	未実施	●	-	-	-	-	-	-	×	×
旧千代田町立第5保育所	S52	36	W造	対象外		●	-	-	-	-	-	-	×	×
旧宍倉出張所	H3	22	W造	対象外		●	-	-	-	-	-	-	×	×

②施設構成

- 旧千代田町立第5保育所が最も大きく、次いで教職員住宅となっている。
- 旧宍倉出張所が最も小さい。



(3) 運営状況

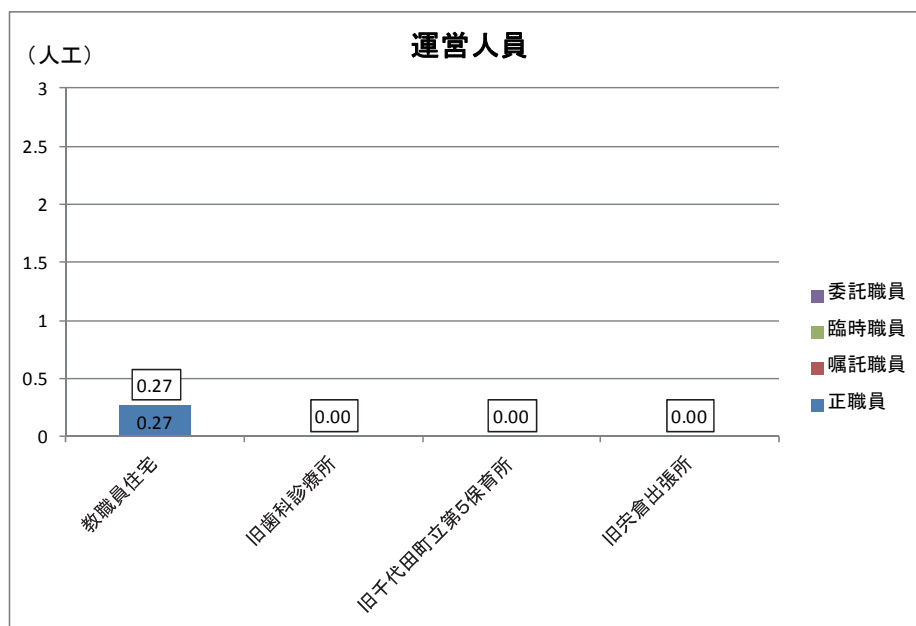
①運営状況

- 教職員住宅はの運営方法は直営となっている。

施設名	運営方法	年間運営 日数
教職員住宅	直営	365日
旧歯科診療所		
旧千代田町立第5保育所	—	—
旧宍倉出張所	—	—

②運営人員

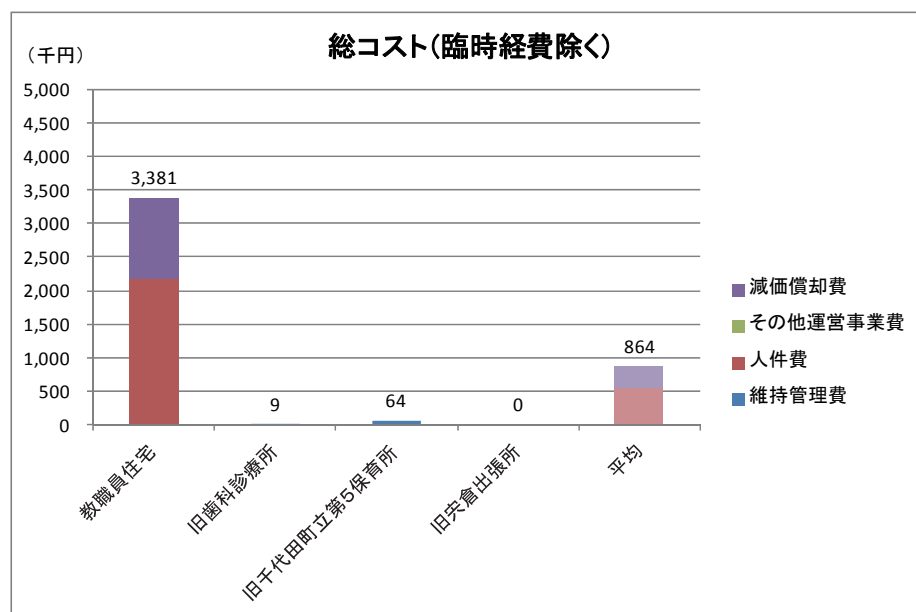
- 運営人員は教職員住宅で 0.27 人工である。



(4) コスト状況

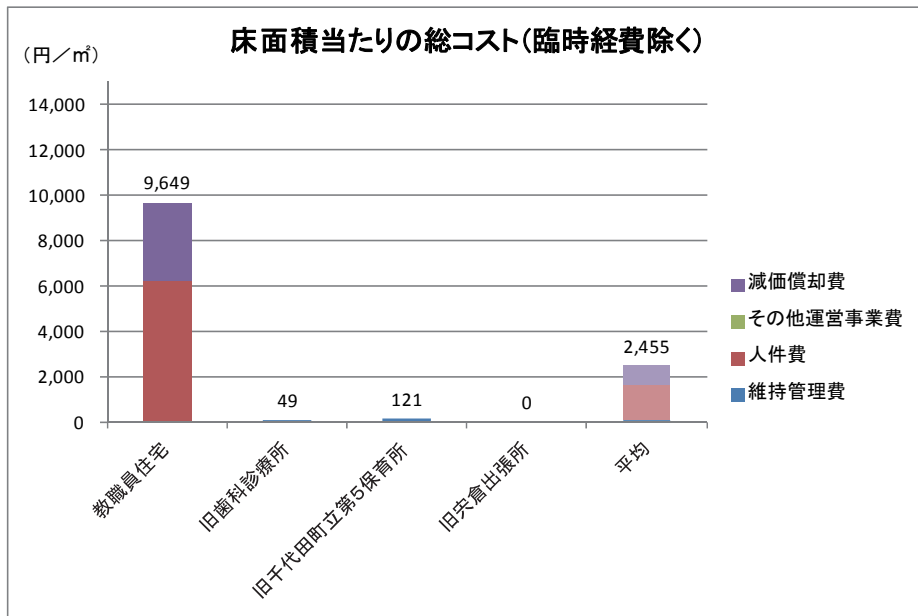
①総コスト（臨時経費除く）

- その他施設全体の総コストは 3,479 千円である。
- その他施設の平均総コストは、864 千円である。
- 教職員住宅が最も高く、総コストは 3,381 千円となり、次いで旧千代田町立第5保育所の 64 千円となる。



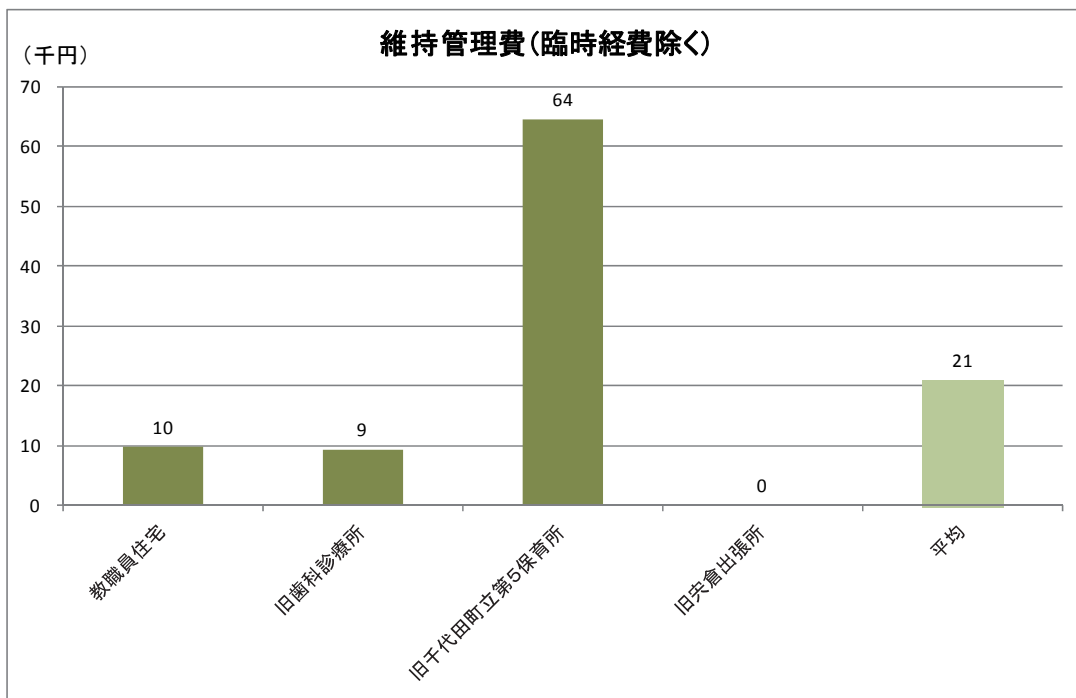
②床面積当たりの総コスト（臨時経費除く）

- 床面積当たりの総コスト平均額は2,455円/㎡である。
- 最も高いのは、教職員住宅の9,649円/㎡、次いで旧千代田町立第5保育所で121円/㎡である。



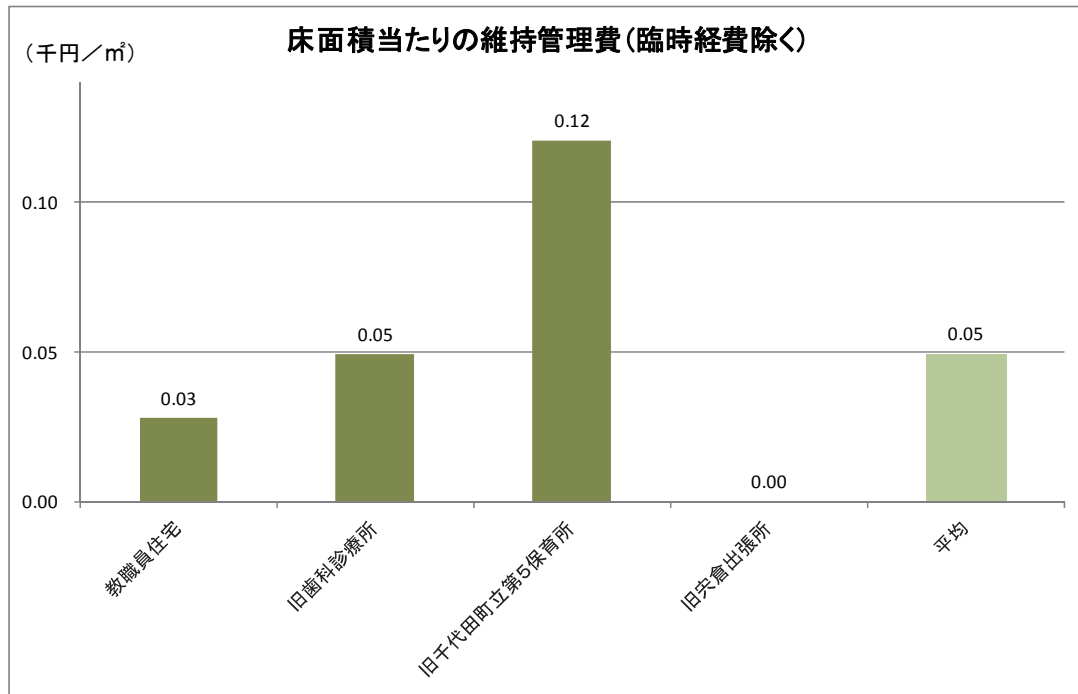
③維持管理費（臨時経費除く）

- 維持管理費の平均額は、21千円である。
- 旧千代田町立第5保育所が最も高く64千円であり、次いで教職員住宅の10千円となっている。



④床面積当たりの維持管理費（臨時経費除く）

- 床面積当たりの維持管理費の平均は、0.05 千円／㎡である。
- 最も高いのは旧千代田町立第5保育所で0.12 千円／㎡、次いで旧歯科診療所の0.05 千円／㎡である。



⑤総コストに対する収入の割合（臨時経費除く）

- 収入はない。

(5) 現状と課題

- 築30年を超える、あるいは築30年に近い施設が多くなっており、今後の利用によっては、老朽化への対応が必要である。
- 旧歯科診療所は、民間へ貸付していたが、平成25年11月に返還されている。
- 廃止施設の多くは、今後の利用方針が決まっていない状況である。